

感染症発生動向調査事業報告書

平成 2 9 年（2 0 1 7 年）



東京都福祉保健局

序

感染症発生動向調査事業は、感染症発生状況の把握・分析、情報提供による感染症の発生及びまん延防止を目的として行われており、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」に基づく事前対応型の感染症対策として位置づけられています。

東京都健康安全研究センターでは、所内に東京都感染症情報センターを設置し、一類感染症から五類感染症および新型インフルエンザ等のうち全症例の届出が義務付けられている疾患や、定点医療機関からの届出対象となる五類感染症等について、都内の発生状況や病原体の検出状況等を迅速に把握し、解析・評価を行ったうえで都民や医療機関等に情報提供を行っています。

さて、2017 年は四類感染症であるボツリヌス症の届け出が 2 件あり、いずれも乳児例でした。うち死亡例では、摂食した自宅のはちみつからボツリヌス菌が検出され、乳児ボツリヌス症の予防についての都民への情報提供の重要性が再確認されました。

また、近年増加を続けている性感染症である梅毒については、2017 年の届け出数は 1,788 件に達し、1999 年の調査開始以来の最多となりました。さらに、昨年 2003 年以来の最多数となった A 型肝炎について、都内での届け出は 2017 年も昨年と同じ 65 件でしたが、2017 年 6 月に WHO が、チリやアメリカ合衆国およびヨーロッパにおける性交渉を介した流行に関して注意喚起しており、都内における今後の発生状況には十分注意を払う必要があります。

本報告書は、東京都感染症予防検討委員会における 2017 年の感染症発生情報の評価や予防策の検討の結果をまとめたものです。各疾患の動向につきましては、「小児科・内科疾患（インフルエンザ）」と「基幹定点における疾患」は長岡常雄委員長に、「眼科疾患」は井上賢治委員に執筆をお願いしました。また、「一、二、三、四、五類感染症（全数届出）」及び「性感染症」につきましては当センターの疫学情報担当が、「病原体情報」につきましては同じく微生物部が担当しました。

末筆になりましたが、感染症発生動向調査事業にご協力くださいました東京都医師会、定点医療機関および保健所等の関係者の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

関係各位におかれましては、感染症対策の一助として本書を広くご活用くださいますようお願い申し上げます。

平成 30 年 7 月

東京都健康安全研究センター所長 大井 洋

目 次

第1章 東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告	3
1 発生動向調査の概略	
(1) 調査対象疾患	4
(2) 定点医療機関	4
表1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数	4
(3) 運営方法	4
(4) 情報発信	5
2 本年（2017年）の概況	
(1) 一～四類、五類（全数把握対象）	5
(2) 五類感染症（定点把握対象）	8
(3) 疑似症（法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）	10
表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（一～四類、五類全数）	11
表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（全数動物）	12
表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ定点・小児科定点）	13
表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）	14
表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点週報告分）	14
表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点月報告分）	15
表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（性感染症定点）	15
表2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（疑似症定点）	15
3 各疾患の動向	
(1) 一～四類、五類感染症（全数把握対象）	16
ア 一類感染症	16
イ 二類感染症	16
ウ 三類感染症	16
エ 四類感染症	21
オ 五類感染症（全数把握対象）	29
表3-1 一～四類、五類（全数把握）感染症 週別患者報告数	47
表3-2 一～四類、五類（全数把握）感染症 保健所別患者報告数	50
表3-3 一～四類、五類（全数把握）感染症 年齢階級別患者報告数	53
(2) 小児科・内科疾患	
ア インフルエンザ	56
イ R S ウイルス感染症	57
ウ 咽頭結膜熱	58

エ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59
オ	感染性胃腸炎	60
カ	水痘	61
キ	手足口病	62
ク	伝染性紅斑	63
ケ	突発性発しん	64
コ	百日咳	65
サ	ヘルパンギーナ	66
シ	流行性耳下腺炎	67
ス	不明発しん症	68
セ	川崎病	69
(3) 眼科疾患		
ア	急性出血性結膜炎	70
イ	流行性角結膜炎	71
(4) 基幹定点医療機関における週報告疾患		
ア	細菌性髄膜炎	72
イ	無菌性髄膜炎	73
ウ	マイコプラズマ肺炎	74
エ	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	75
オ	感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）	76
カ	インフルエンザ入院	77
(5) 基幹定点医療機関における月報告疾患		
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症	78
イ	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	79
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症	80
(6) 性感染症		
ア	性器クラミジア感染症	81
イ	性器ヘルペスウイルス感染症	82
ウ	尖圭コンジローマ	83
エ	淋菌感染症	84
オ	膣トリコモナス症	85
表 4-1	週別患者報告数	86
表 4-2	週別定点当たり患者報告数	88
表 5-1	保健所別患者報告数	90
表 5-2	保健所別定点当たり患者報告数	92
表 6	年齢階級別患者報告数	94
表 7-1	二次医療圏別患者報告数	95

表 7-2	二次医療圏別定点当たり患者報告数	96
表 8-1	月別患者報告数（基幹）	97
表 8-2	月別定点当たり患者報告数（基幹）	97
表 8-3	月別・性別患者報告数（基幹）	97
表 8-4	性別・年齢階級別患者報告数（基幹）	98
表 9-1	月別患者報告数（性感染症）	98
表 9-2	月別定点当たり患者報告数（性感染症）	98
表 9-3	月別・性別患者報告数（性感染症）	99
表 9-4	月別・性別定点当たり患者報告数（性感染症）	99
表 9-5	保健所別、二次医療圏別患者報告数（性感染症）	100
表 9-6	保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（性感染症）	101
表 9-7	年齢階級別患者報告数（性感染症）	102
表 10	検査結果別報告数（基幹）	102
表 11	疑似症サーベイランス報告数	103

第2章 東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・内科・基幹病原体定点医療機関からの搬入検体

ア	インフルエンザ	108
イ	RS ウイルス感染症	112
ウ	咽頭結膜熱	113
エ	感染性胃腸炎	114
オ	水痘、カ 手足口病	115
キ	伝染性紅斑	116
ク	突発性発しん、ケ ヘルパンギーナ	117
コ	流行性耳下腺炎	118
サ	不明発しん症、シ 川崎病	119
ス	無菌性髄膜炎	120

(2)	眼科定点からの搬入検体	120
(3)	性感染症（STI）定点からの搬入検体	121
(4)	積極的疫学調査により検出されたウイルス検査結果	121

2 細菌検査結果

(1)	四類感染症の病原体検索	124
(2)	五類感染症（全数把握対象）の病原体検索	124
(3)	五類感染症（定点把握対象）の病原体検索	125
(4)	性感染症（STI）定点からの搬入検体	126

第3章 資 料

1	東京都感染症発生動向調査定点医療機関名簿	133
2	東京都感染症予防検討委員会委員名簿	149
3	東京都感染症発生動向調査事業の流れ	150
	東京都感染症発生動向調査事業実施要綱	151
	別表1 感染症法に基づく感染症の分類	
1	一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症	160
2	五類感染症（全数把握）	161
3	新型インフルエンザ等感染症	162
4	五類感染症（定点把握）	162
5	疑似症	162
	別表2 五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期	163
	別表3 疑似症の調査単位と報告時期	163
	別記様式一覧表	164
	別記様式1	165
	別記様式2	166
	別記様式3	167
	別記様式4	168
	別記様式5	169
	別記様式6-1	170
	別記様式6-2	171
	別記様式7	172
	別記様式8	173
	保健所における麻しん対応調査票	174
	別記様式9	175
	別記様式10	176
	別記様式11	177
	別記様式12	178

第 1 章

東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告

2017 年

(2017 年 1 月 2 日～2017 年 12 月 31 日)

日本性感染症学会が「性感染症 診断・治療ガイドライン」で取り上げている性感染症は 17 疾患ですが、このうち A 型肝炎は感染症法による 4 類全数把握対象疾患に、後天性免疫不全症候群、梅毒、アメーバ赤痢、B 型肝炎や C 型肝炎を含むウイルス性肝炎（A 型・E 型を除く）の 4 疾患は 5 類全数把握対象疾患に、それに加えて性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症の 4 疾患は定点報告の対象疾患になっており、その動向をつかむことが出来ます。これらの報告からは、性感染症は決して減っているわけではなく、その中でも梅毒の増加が顕著となっています。

荒川創一らの研究でも、2012 年から 2016 年の 5 年間の全国の性感染症は梅毒、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症で増加傾向にあり、淋菌感染症、尖圭コンジローマは横ばいという結果が得られています。梅毒の増加は世界の先進国でも見られております。

梅毒の東京都の報告数は 2011 年から増加に転じ、2017 年の報告数は 1,788 人で、感染症法に基づく調査が始まって以来最も多くなっています。また性別では 2014 年から女性の割合が増加しており、男性は 20 歳代から 50 歳代で、女性は 20 歳代から 40 歳代で増加がみられています。性感染症全般において男性に比べて女性のり患年齢は早く、妊娠等に及ぼす影響が懸念されています。

一方、結核の報告数では高齢者の割合が増加を続け、新登録患者のうち 80 歳以上の患者が 4 割近くとなっております。また 20 歳代の年齢層では外国生まれの方が半数以上を占めており、特にここ数年はベトナムとネパール出身者の増加が顕著になっています。人口の高齢化と若い世代の国際化が影響していると思われます。

本年も報告書を取りまとめることが出来ました。調査事業にご協力いただきました定点医療機関の諸先生方と関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。またご指導いただきました東京都医師会の川上一恵理事、副委員長の岡部信彦、萩原温久の両先生を始めとする検討委員会の諸先生方、事務局の皆様に感謝申し上げます。

平成 30 年 7 月

東京都医師会感染症予防検討委員会
委員長 長岡常雄

1 発生動向調査の概略

(1) 調査対象疾患

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び「感染症発生動向調査事業実施要綱」に定められている全数把握対象疾患及び定点把握対象疾患に加え、厚生労働省令で定める二つの疑似症をサーベイランスの調査対象としている。また、東京都が独自に指定する調査対象疾患として、不明発しん症と川崎病を小児科疾患、膣トリコモナス症を性感染症に加えている。

(2) 定点医療機関

患者定点となる医療機関数は、小児科定点 264、内科定点 155、眼科定点 39、基幹定点 25、性感染症定点 55、疑似症単独定点 24 が設定され、このうち 70 医療機関が病原体定点を兼ねている。なお、小児科定点はインフルエンザ定点及び疑似症定点としての機能も果たし、内科定点は疑似症定点としての機能も果たしている。

表 1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数

(2017 年 12 月 31 日現在)

定 点 種 別 (疾患数)	患 者 定 点 数	病 原 体 定 点 数
小 児 科 定 点 (14)	264	26
内 科 定 点 (1)	155	15
眼 科 定 点 (2)	39	4
基 幹 定 点 (9)	25	21
性 感 染 症 定 点 (5)	55	4
疑 似 症 単 独 定 点 (2)	24	

(3) 運営方法

全数把握対象疾患は、診断後直ちに（五類感染症は 7 日以内、ただし侵襲性髄膜炎菌感染症、風しん及び麻疹は診断後直ちに）保健所に届出が行われるほか、小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾患（薬剤耐性菌による感染症）については月単位となっている。

週単位で報告される疾患については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者を、小児科、内科、眼科の各定点医療機関は年齢別の患者数、基幹定点医療機関は年齢及び検出病原体名を所定の調査票に記入し保健所に送付する。

月単位で報告される疾患については、性感染症定点医療機関は当該月の年齢別患者数、基幹定点医療機関は当該月の患者の年齢、検体採取部位を所定の調査票に記入し保健所に送付する。

疑似症サーベイランスでは、疑似症定点医療機関において報告基準を満たす患者が発生した場合に、症例分類、年齢、性別を、所定の調査票に記入し直ちに保健所に送付する（疑似症単独定点は、疑似症サーベイランスシステムへ直接入力する）。なお、発生がない場合であってもその旨週単位で報告する。

医療機関から届いた情報は、保健所が発生動向調査システム及び疑似症サーベイランスシステムに入力する。東京都健康安全研究センター疫学情報担当（基幹地方感染症情報センター）は、保健所か

らの情報を確認後、国へ送信する。

（４）情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果と共に、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページ（<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp>）で公開され、広く都民に情報還元が図られている。さらに都医ニュースの特定の感染症を取り上げ、週報に「感染症豆知識」として掲載している。

また、隔月第４木曜日を目途に開催される東京都感染症予防検討委員会において直近２か月分の情報について討議し、その情報は東京都医師会雑誌に「感染症だより」として掲載されている。

２ 本年（2017 年）の概況

（１）一～四類、五類（全数把握対象）

ア 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

イ 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）の届出はなかった。結核については別途「東京都における結核の概況」として報告する。

ウ 三類感染症

コレラ：2017 年は 2 人の届出があった。性別はすべて女性で推定感染地は国外であった。

細菌性赤痢：2017 年は 34 人の届出があった。菌種は *sonnei* 27 件、*flexneri* 6 件、*boydii* 1 件であった。推定感染地は国内 10 人、国外 24 人であった。国内感染と推定された 10 人のうち同性間性的接触によると推定される感染例が 2 例報告された。

腸管出血性大腸菌感染症：2017 年は 467 人の届出があり、過去 5 年間で最も多い届出数となった。症状別では患者 369 人、無症状病原体保有者 97 人、溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断されたものは 25 人であった。届出はほぼ 1 年を通して見られたが、特に梅雨期及び夏期の終わりに集団事例の発生に伴い増加した。症例の集積は、第 28～30 週に O26VT1 及び O 血清群不明 VT1 による保育園関連が 11 人、第 31～33 週に O157 VT1、O157 VT1・VT2、及び O157 毒素不明型による老人ホーム関連感染が 10 人報告された。血清型・毒素型は O157 VT2 が 204 件で最多であった。推定感染地は国内 448 人、国外 13 人であった。

腸チフス：2017 年は 8 人の届出があった。性別では男性 4 人、女性 4 人であった。推定感染地はすべて国外であった。ファージ型判明者の内訳は E1 が 3 人、UVS が 3 人、”28”が 1 人、”46”が 1 人、D2 が 1 人であった。

パラチフス：2017 年は 6 人の届出があった。性別は男性 5 人、女性 1 人であり、感染地はすべて国外で、ファージ型は”1”が 2 人、”2”が 1 人、RDNC (Reacted but did not conform) が 1 人、UT(Untypeable) が 1 人であった。

エ 四類感染症

E型肝炎：2017年は57人の届出があった。推定感染地は国内52人、国外5人であった。推定感染経路は経口感染が38人、不明が19人で、経口感染のうちレバーが4人、ジビエの喫食が3人、生ものの2人であった。

A型肝炎：2017年は65人の届出があり、2003年以来最多となった2016年と同じ届け出数となった。推定感染地は国内48人、国外13人、国内または国外4人であった。推定感染経路は、飲食物を介した経口感染45人、性的接触6人、経口感染又は性的接触3人、不明11人（うち1人は家族内感染）であり、経口感染の推定原因食品は魚介類が14人、肉類4人、貝類2人で、原因食不明は21人であった。

エキノコックス症：2017年は1人の届出があった。推定感染地は国外、感染経路は塵埃感染であった。

回歸熱：2017年は2人の届出があった。推定感染地はすべて国内（北海道）、感染経路は動物・蚊・昆虫等からであった。

コクシジオイデス症：2017年は1人の届出があった。推定感染地はすべて国外（米国）であった。

チクングニア熱：2017年は3人の届出があった。推定感染地はすべて国外で、推定感染国はフィリピン1人、インド1人、バングラデシュ1人であった。

つつが虫病：2017年は13人の届出があった。推定感染地は国内12人、国外1人で、推定感染地が都内は11人（多摩地区5人、島しょ地区5人、その他1人）であった。

デング熱：2017年は65人（デング出血熱はなし）の届出があった。血清型は33件報告されており、その内訳は1型8件、2型11件、3型10件、4型4件、1型及び3型1件であった。推定感染地はすべて国外であった。

日本紅斑熱：2017年は1人の届出があった。推定感染地は国内であった。

ボツリヌス症：2017年は乳児ボツリヌス症の届出が2人あり、そのうち1人は統計開始以来初めての死亡例となった。性別は2人とも男性で、推定感染地は国内だった。推定感染経路は1名は不明で、1名ははちみつの摂取が原因であった。

マラリア：2017年は27人の届出があった。推定感染地はすべて国外であった。

ライム病：2017年は1人の届出があった。推定感染地は国内（北海道）で、推定感染経路はマダニであった。

類鼻祖：2017年は1人の届出があった。推定感染地は国外（フィリピン）で、海でのシュノーケリングの活動歴があった。

レジオネラ症：2017年は159人の届出があった。病型は肺炎型147人、ポンティアック熱型10人、無症状病原体保有者2人であった。死亡例は1人であった。推定感染地は国内154人、国外4人、国外又は国内1人であった。推定感染経路は水系感染75人、塵埃感染3人、不明81人であった。公共浴場施設（温泉を含む）での感染と推定されたのは38人であった。

レプトスピラ症：2017年は9人の届出があった。推定感染地は国内7人、国外2人であった。

オ 五類感染症（全数把握対象）

アメーバ赤痢：219人の届出があった。腸管アメーバ症187人、腸管外アメーバ症22人、腸管及び腸管外アメーバ症10人であった。性別は男性194人、女性25人で、年齢階級別では10歳未満1人、20～29歳11人、30～39歳37人、40～49歳78人、50～59歳60人、60～69歳19人、70歳以

上 13 人であった。推定感染地は国内 175 人、国外 36 人、国内又は国外 8 人であり、推定感染経路は、性的接触 80 人、飲食物による経口感染 47 人、2 経路以上 1 人、不明 91 人であった。

ウイルス性肝炎（E 型肝炎及び A 型肝炎を除く）：67 人の届出があった。内訳は、B 型肝炎 60 人、C 型肝炎 6 人、サイトメガロウイルス（CMV）肝炎 1 人であった。B 型肝炎の推定感染地は国内 53 人、国外 6 人で、推定感染経路は性的接触 47 人、針等の鋭利なものの刺入による感染又は性的接触 1 人、不明 12 人であった。C 型肝炎の性別は男性 4 人、女性 2 人で、推定感染地はすべて国内、推定感染経路は性的接触 3 人（同性間）、針等の鋭利なものによる刺入 1 人、不明 2 人であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：212 人の届出があった。分離された菌種のうち *Enterobacter cloacae* が 90 件、*Enterobacter aerogenes* が 53 件、*Klebsiella pneumoniae* が 24 件、*Escherichia coli* が 6 件、*Citrobacter freundii* が 10 件、*Serratia marcescens* が 7 件、*Enterobacter asburiae* が 6 件、*Enterobacter sp.* が 5 件、*Klebsiella oxytoca* 4 件、*Enterobacter amnigenus*、*Providencia sp.*、*Proteus mirabilis* *Citrobacter* 属が各 1 件であった。2 菌種以上検出が 3 件あった。

急性脳炎：74 人の届出があった。年齢階級別では 10 歳未満が多く 56 人（うち 5 歳未満 45 人）だった。病原体はインフルエンザウイルス 17 件、ヒトヘルペスウイルス 10 件、ロタウイルス 4 件、大腸菌 4 件、RS ウイルス 3 件、単純ヘルペスウイルス 2 件、水痘・帯状疱疹ウイルス 2 件、エンテロウイルス、黄色ブドウ球菌、ヒトメタニューモウイルス各 1 件、2 菌種以上 2 件、不明 27 件であった。

クリプトスポリジウム症：2 人の届出があった。推定感染地はすべて国内であった。推定感染経路はすべて性的接触であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）：19 人の届出があった。孤発性プリオン病が 16 人（確実 2 人、ほぼ確実 13 人）であり、うち古典型 CJD が 15 人を占めた。また遺伝性プリオン病が 3 人あり、すべて家族性 CJD であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症：72 人の届出があり、過去 10 年で最も多い届出数となった。死亡例は 17 人（50～59 歳 3 人、60～69 歳 1 人、70 歳以上 13 人）報告された。推定感染経路は創傷感染 27 人、飛沫・飛沫核感染 5 人、創傷感染又は経口感染 1 人、不明 39 人であった。

後天性免疫不全症候群：464 人の届出があり、AIDS 患者 97 人、HIV 感染者 367 人（指標疾患以外の有症者 54 人、無症候性キャリア 313 人）であった。推定感染地は国内 375 人、国外 24 人、国内又は国外 13 人、不明 52 人であった。推定感染経路は性的接触 419 人（同性間 338 人、異性間 60 人、両性間 18 人、不明 3 人）、静注薬物使用 2 人、刺青 1 人、母子感染 1 人、2 経路以上 4 人、不明 37 人であった。

ジアルジア症：24 人の届出があった。推定感染地は国内 15 人、国外 8 人、国内又は国外（香港）1 人であった。推定感染経路は、経口感染 6 人、性的接触 9 人（同性間 7 人、異性間 2 人）、水系感染 2 人、同性間性的接触又は動物との接触 1 人、不明 6 人であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症：56 人届出があった。血清型は e 型 1 件、f 型 1 件、無莢膜型 1 件、型別不明 41 件、検査未実施 12 件であった。Hib ワクチン接種歴は、4 回接種が 2 人、3 回接種が 3 人、1 回接種が 2 人のほか、接種なし 14 人、不明 35 人であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症：3 人の届出があった。血清型 Y 群 2 件、不明 1 件であった。推定感染地はすべて国内で、ワクチン接種歴は、なし 1 人、不明 2 人であった。

侵襲性肺炎球菌感染症：390 人の届出があった。死亡例は 18 人報告された。ワクチン接種歴は 4 回接種 23 人、3 回接種 15 人、2 回接種 7 人、1 回接種 40 人、接種有かつ詳細不明 1 人、なし 185 人、不明 119 人であった。血清型は 104 人が判明した。

水痘（入院例）：55 人の届出があった。死亡例の報告はなかった。ワクチン接種歴は 2 回接種 3 人、1 回接種 15 人、なし 12 人、不明 25 人であった。

梅毒：1,788 人の届出があり、1999 年以来最多となった。早期顕症梅毒Ⅰ期 584 人、早期顕症梅毒Ⅱ期 700 人、晩期顕症梅毒 26 人、無症候 474 人、先天梅毒 4 人であった。20～49 歳の男性が全体の 52.9%を占めた一方で、20～29 歳においては 53.0%が女性であった。推定感染地は国内 1,750 人で、推定感染経路は性的接触 1,714 人、母子感染 4 人、静注薬物常用または針等の鋭利なものの刺入による感染 2 人、不明 68 人であった。

播種性クリプトコックス症：15 人の届出があった。推定感染国はすべて国内であった。推定感染原因は免疫不全 12 人、末期がん患者 1 人、不明 2 人であった。

破傷風：9 人の届出があった。推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は創傷感染 8 人、不明 1 人であった。破傷風含有ワクチン接種歴は、あり 3 人、なし 3 人、不明 3 人であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症：8 人の届出があった。菌種はすべて *Enterococcus faecium*、耐性遺伝子は vanA 1 人、vanB 4 人、不明 3 人であった。

風しん：届出は 22 人であった。検査診断例 17 人（うち PCR 陽性例は 5 例）、臨床診断例 5 人であった。性別は男性 15 人、女性 7 人で、推定感染地は国内 20 人、国外 1 人、国内又は国外 1 人であった。風しん含有ワクチン接種歴は、2 回接種 2 人、1 回接種 6 人、接種歴なし 2 人、不明 12 人であった。先天性風疹症候群はなかった。

麻疹：28 人の届出があった。検査診断例 19 人、臨床診断例 1 人、修飾麻疹 8 人で、肺炎の合併が 1 件報告された。脳炎の合併の報告はなかった。症例の集積は、第 12 週に首都圏での東北地方の自動車学校に関連した症例が 3 人（遺伝子型 D8）、第 15 週に首都圏内の空港利用者関連が 3 人（遺伝子型 D8）であった。推定感染地は国内 23 人、国外 5 人であった。国外感染例の推定感染国はインドネシア 2 人、タイ 1 人、ミャンマー 1 人、タイ又はカンボジア 1 人であった。麻疹含有ワクチン接種歴は、2 回接種 7 人、1 回接種 4 人、接種なし 2 人、不明 15 人であった。PCR 検査で麻疹ウイルス陽性が確認された例は 25 件あり、それらの遺伝子型別の内訳は D8 型 24 件（85.7%）、H1 型 1 人であった。また、A 型（ワクチン株のため届出対象外）2 件であった。

薬剤耐性アシネトバクター感染症：6 人の届出があった。推定感染原因は手術部位感染 1 人、医療器具関連感染（人工呼吸器 1 人）、その他 4 人（肺炎からの派生 1 人、不明 3 人）であった。

五類感染症のうち先天性風しん症候群（CRS）、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の届出はなかった。

（２）五類感染症（定点把握対象）

ア 小児科・内科疾患

2016 年と比較して定点当たり 10%以上報告数が減少した疾患は感染性胃腸炎、伝染性紅斑、百日咳、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎の 5 疾患であった。定点当たりの報告数が前年並みであった疾患はインフルエンザ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、突発性発しん、川崎病の 5 疾患であった。定点当たり前年比 10%以上増加した疾患は RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、手足口病、不明発しん症の 4 疾患であった。

[前年比減少疾患]

感染性胃腸炎：2017 年の報告数は 84,981 人、定点当たり 326.63 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.77 であった。

伝染性紅斑：2017 年の報告数は 1,311 人、定点当たり 5.04 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.53 であった。

百日咳：2017 年の報告数は 113 人、定点当たり 0.44 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.63 であった。

ヘルパンギーナ：2017 年の報告数は 6,812 人、定点当たり 26.54 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.52 であった。

流行性耳下腺炎：2017 年の報告数は 2,903 人、定点当たり 11.16 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.34 であった。

[前年並みであった疾患]

インフルエンザ：2017 年の報告数は 129,813 人、定点当たり 314.14 人であった。定点当たりの当年/前年比は 1.04 であった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎：2017 年の報告数は 30,664 人、定点当たり 117.71 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.98 であった。

水痘：2017 年の報告数は 5,135 人、定点当たり 19.73 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.92 であった。

突発性発しん：2017 年の報告数は 7,056 人、定点当たり 27.13 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.97 であった。

川崎病：2017 年の報告数は 205 人、定点当たり 0.79 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.99 であった。

[前年比増加疾患]

RS ウイルス感染症：2017 年の報告数は 8,838 人、定点当たり 34.47 人であった。定点当たりの当年/前年比は 1.27 であった。

咽頭結膜熱：2017 年の報告数は 7,322 人、定点当たり 28.21 人であった。定点当たりの当年/前年比は 1.46 であった。

手足口病：2017 年の報告数は 33,056 人、定点当たり 129.10 人であった。定点当たりの当年/前年比は 4.79 であった。

不明発しん症：2017 年の報告数は 1,101 人、定点当たり 4.25 人であった。定点当たりの当年/前年比は 1.12 であった。

イ 眼科疾患

急性出血性結膜炎：報告数は 12 人、定点当たり 0.31 人だった。過去 10 年間の定点あたり報告数は序々に減少し、2017 年は 2016 年（定点当たり 0.28 人）とほぼ同等だった。

流行性角結膜炎：報告数は 1,219 人、定点当たり 31.48 人だった。過去 3 年間は定点当たり 30 人を超えて多い報告だった。

ウ 基幹定点における週報告疾患

細菌性髄膜炎：2017 年の報告数は 41 人、定点当たり 1.64 人であった。定点当たりの当年/前年比は 1.24 であった。

無菌性髄膜炎：2017 年の報告数は 39 人、定点当たり 1.56 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.51 であった。

マイコプラズマ肺炎：2017 年の報告数は 237 人、定点当たり 9.48 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.23 であった。

クラミジア肺炎（オウム病を除く）：2017 年の報告数は 46 人、定点当たり 1.84 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.92 であった。

感染性胃腸炎（ロタウイルスによるもの）：2017 年の報告数は 235 人、定点当たり 9.40 人であった。当年/前年比は 2.18 であった。

インフルエンザ入院：2017 年の報告数は 902 人、定点当たり 36.08 人であった。定点当たりの当年/前年比は 1.39 であった。

エ 基幹定点における月報告疾患

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：2017 年の報告数は 881 人、定点当たり 35.24 人であった。定点当たりの当年/前年比は 1.02 であった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：2017 年の報告数は 105 人、定点当たり 4.20 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.76 であった。

薬剤耐性緑膿菌感染症：2017 年の報告数は 3 人、定点当たり 0.12 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.14 であった。

オ 性感染症

性器クラミジア感染症：報告数は 2,294 人であり、そのうち男性は 1,300 人、定点当たり 23.67 人（前年比 0.84）、女性は 994 人、定点当たり 18.1 人（前年比 0.86）であった。

性器ヘルペスウイルス感染症：報告数は 1,279 人であった。男性 911 人、定点当たり 16.59 人（前年比 0.96）、女性 368 人、定点当たり 6.7 人（前年比 0.85）で、2006 年以降男性に多い状況が続いている。

尖圭コンジローマ：報告数は 1,021 人であった。男性 692 人、定点当たり 12.59 人（前年比 0.68）、女性 329 人、定点当たり 5.99 人（前年比 1.08）で、男性が多い。

淋菌感染症：報告数は 1,109 人であった。男性 825 人、定点当たり 15.02 人（前年比 0.69）、女性 284 人、定点当たり 5.17 人（前年比 0.86）で、男性は女性のおおよそ 3 倍の報告数となった。

膣トリコモナス症：報告数は 110 人であり、男性 2 人、定点当たり 0.04 人（前年比 0.50）、女性 108 人、定点当たり 1.97 人（前年比 0.96）であった。

（３）疑似症（法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）

摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）は 26 人、発熱及び発しん又は水疱は 3 人報告があった。

表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数

(一～四類、五類全数)

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	1	-	-	-	-	-	-
	結核	3,022	2,874	2,671	2,533	2,306	2,340	集計中
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 ^{*10}	/	/	/	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1) ^{*1}	-	-	-	-	-	-	-
三類	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*7}	/	/	-	-	-	-	-
	コレラ	3	-	-	3	1	2	2
	細菌性赤痢	86	75	36	41	53	40	34
	腸管出血性大腸菌感染症	257	258	382	362	335	452	467
	腸チフス	6	13	23	27	14	18	8
	パラチフス	9	11	20	8	9	8	6
四類	E型肝炎	9	21	32	27	39	37	57
	ウエストナイル熱	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎	27	35	19	38	39	65	65
	エキノкокクス症	2	1	-	-	1	-	1
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-
	オウム病	3	-	2	3	-	2	-
	オムスク出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	回帰熱	-	1	-	-	-	-	2
	キャサナル森林病	-	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	3	-	-	-	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	2	1	4	-	2	2	1
	サル痘	-	-	-	-	-	-	-
	ジカウイルス感染症 ^{*11}	/	/	/	/	/	3	-
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*4}	/	/	-	-	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱 ^{*2}	-	3	4	5	7	4	3
	つつが虫病	13	19	12	18	14	7	13
	デング熱	27	56	66	163	92	90	65
	東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	1	-	-	-	1	-	1
	日本脳炎	1	-	-	-	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	4	2	1	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-
	ボツリヌス症	-	-	-	-	-	1	2
	マラリア	27	24	12	27	16	18	27
	野兔病	-	-	-	-	-	-	-

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
四 類	ライム病	3	－	7	2	2	－	1
	リッサウイルス感染症	－	－	－	－	－	－	－
	リフトバレー熱	－	－	－	－	－	－	－
	類鼻疽	－	－	1	－	1	－	1
	レジオネラ症	72	60	80	107	153	143	159
	レプトスピラ症	5	6	6	6	10	7	9
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－	－	－	－	－
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	178	198	187	229	205	222	219
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	40	60	72	48	53	69	67
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 *8				56	236	190	212
	急性脳炎	19	33	46	52	47	85	74
	クリプトスポリジウム症	2	2	7	82	3	2	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	13	18	19	17	24	16	19
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	30	23	37	41	62	65	72
	後天性免疫不全症候群	409	461	469	512	435	464	464
	ジアルジア症	13	16	22	15	19	17	24
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 *5			12	22	29	46	56
	侵襲性髄膜炎菌感染症 *5			11	9	8	5	3
	侵襲性肺炎球菌感染症 *5			124	225	323	356	390
	水痘 (入院例) *8				11	55	56	55
	髄膜炎菌性髄膜炎 *6	2	－	－				
	先天性風しん症候群	－	－	13	3	－	－	－
	梅毒	248	297	419	507	1,044	1,673	1,788
	播種性クリプトコックス症 *8				4	11	20	15
	破傷風	8	5	4	10	2	4	9
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	－	－	－	－	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	6	10	8	6	2	2	8
	風しん *3	32	672	3445	99	33	19	22
	麻しん *3	178	84	69	94	10	22	28
	薬剤耐性アシネトバクター感染症 *9				3	13	1	6

*1 2008年5月12日より追加指定。

*2 2011年2月1日より追加指定。

*3 2008年1月1日より五類(定点把握対象)から五類(全数把握対象)に変更。

*4 2013年3月4日より追加指定。

*5 2013年4月1日より髄膜炎菌性髄膜炎に替わり指定。

*6 2003年11月5日より四類(全数把握対象)から五類(全数把握対象)に変更となった後、2013年4月1日より届出対象から除外。

*7 2013年4月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更。

*8 2014年9月19日より追加指定。

*9 2011年2月1日より五類(定点把握対象)に追加指定、2014年9月19日に五類(全数把握対象)に変更。

*10 2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更。

病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。

*11 2016年2月15日より追加指定。

表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患畜報告数 (全数動物)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
エボラ出血熱のサル	－	－	－	－	－	－	－
マールブルグ病のサル	－	－	－	－	－	－	－
ペストのプレーリードッグ	－	－	－	－	－	－	－
重症急性呼吸器症候群のイタチアナグマ	－	－	－	－	－	－	－
重症急性呼吸器症候群のタヌキ	－	－	－	－	－	－	－
重症急性呼吸器症候群のハクビシン	－	－	－	－	－	－	－
結核のサル	－	－	－	－	－	－	－
中東呼吸器症候群のラクダ *1				－	－	－	－
鳥インフルエンザ(H5N1又はH7N9)の鳥類	－	－	－	－	－	－	－
細菌性赤痢のサル	－	－	－	－	－	－	－
ウエストナイル熱の鳥類	－	－	－	－	－	－	－
エキノコックス症の犬	－	－	－	－	－	－	－

*1 2014年7月26日より追加指定

表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(インフルエンザ定点・小児科定点)

上段:年間報告数

下段:定点当たり

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
小児科定点数	150	150	150	264	264	264	264	264	264	264
インフルエンザ定点数	290	290	290	419	419	419	419	419	419	419
インフルエンザ	23,059	142,140	12,614	99,940	135,064	75,328	152,421	59,435	125,207	129,813
	80.47	495.53	43.97	240.03	323.29	181.11	367.55	145.11	302.31	314.14
RSウイルス感染症 *1	1,722	845	2,153	3,628	6,349	6,058	6,183	7,197	7,021	8,838
	11.71	5.73	14.52	13.94	24.51	23.48	23.70	27.82	27.06	34.47
咽頭結膜熱	2,927	1,339	1,979	4,936	5,510	6,184	5,607	5,385	5,026	7,322
	19.86	9.07	13.37	18.95	21.20	23.89	21.54	20.77	19.38	28.21
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	13,925	10,058	11,231	25,487	25,224	24,801	27,581	35,039	31,211	30,664
	93.97	68.03	75.80	97.66	96.60	95.29	105.60	134.57	120.13	117.71
感染性胃腸炎	58,681	37,599	63,372	95,910	118,967	102,987	84,091	91,052	110,239	84,981
	395.92	254.50	427.41	367.56	455.28	395.81	322.84	350.13	423.72	326.63
水 痘	8,682	7,079	9,472	15,679	12,995	11,452	10,314	6,765	5,541	5,135
	58.68	47.94	63.93	60.11	49.75	44.22	39.69	26.04	21.34	19.73
手足口病	4,487	3,426	6,257	24,786	5,411	29,320	6,089	32,599	6,993	33,056
	30.60	23.36	42.52	95.84	20.90	114.72	23.44	126.39	26.97	129.10
伝染性紅斑	1,168	1,558	2,929	6,317	1,626	1,608	5,069	10,174	2,485	1,311
	7.90	10.54	19.79	24.23	6.23	6.19	19.44	39.08	9.57	5.04
突発性発しん	4,944	4,463	4,397	8,447	8,547	8,299	8,120	7,816	7,231	7,056
	33.49	30.24	29.74	32.44	32.85	32.00	31.18	30.10	27.87	27.13
百日咳	278	225	506	450	286	91	158	300	181	113
	1.88	1.53	3.42	1.73	1.10	0.35	0.61	1.15	0.70	0.44
ヘルパンギーナ	6,470	2,574	8,400	14,431	13,548	8,480	15,874	7,200	13,094	6,812
	44.08	17.63	57.06	55.78	52.28	33.06	61.25	27.91	50.69	26.54
流行性耳下腺炎	3,662	5,175	5,154	4,488	3,089	2,549	3,003	4,883	8,526	2,903
	24.83	35.05	34.87	17.23	11.88	9.83	11.57	18.83	32.88	11.16
不明発しん症 *2	734	657	622	1,506	1,400	1,094	1,158	1,312	983	1,101
	4.98	4.48	4.21	5.78	5.40	4.24	4.45	5.06	3.79	4.25
川崎病 *2	109	71	89	217	177	221	180	199	208	205
	0.73	0.48	0.60	0.83	0.68	0.85	0.69	0.77	0.80	0.79

*1 2003年45週より実施

*2 東京都独自疾患

表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(眼科定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
定点数	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39
急性出血性結膜炎	64	53	74	31	19	17	13	14	11	12
	1.66	1.37	1.91	0.84	0.50	0.45	0.34	0.36	0.28	0.31
流行性角結膜炎	865	703	951	842	1,140	891	913	1,256	1,201	1,219
	22.41	18.28	24.60	22.73	30.01	23.68	23.79	32.49	31.03	31.48

表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点週報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
定点数	24	24	25	25	25	25	25	25	25	25
細菌性髄膜炎	24	24	18	52	42	48	22	38	33	41
	1.01	1.02	0.76	2.14	1.68	1.93	0.88	1.52	1.32	1.64
無菌性髄膜炎	34	28	38	96	121	126	102	73	77	39
	1.42	1.17	1.61	3.91	4.86	5.06	4.09	2.92	3.08	1.56
マイコプラズマ肺炎	298	305	416	1,143	1,067	514	234	770	1,047	237
	12.53	12.93	17.76	46.78	42.84	20.66	9.37	30.85	41.88	9.48
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	25	46	20	18	14	40	21	59	50	46
	1.05	1.96	0.85	0.74	0.56	1.60	0.84	2.36	2.00	1.84
感染性胃腸炎 ^{*1} (ロタウイルスによる)						22	134	99	108	235
						0.88	5.36	3.96	4.32	9.40
インフルエンザ入院 ^{*2}				12	610	518	735	486	649	902
				0.48	24.40	20.89	29.40	19.44	25.96	36.08

*1 2013年42週より実施

*2 2011年36週より実施

表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点月報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
定点数	24	24	25	25	25	25	25	25	25	25
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1,606 66.92	1,290 54.44	1,312 55.36	1,136 46.67	1,074 43.25	918 37.26	908 36.44	877 35.21	867 34.68	881 35.24
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	554 23.08	552 23.30	635 26.77	596 24.55	440 17.72	467 18.94	186 7.47	158 6.36	138 5.52	105 4.20
薬剤耐性緑膿菌感染症	26 1.08	22 0.93	26 1.10	37 1.52	24 0.97	32 1.29	21 0.84	28 1.12	22 0.88	3 0.12
薬剤耐性アシネト* バクテリア感染症				0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00			

* 2011年2月より2014年9月18日まで実施。

表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(性感染症定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
定点数	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
性器クラミジア感染症	2,605 47.51	2,295 42.51	2,376 44.07	2,426 44.37	2,315 42.64	2,286 42.46	2,427 44.90	2,678 49.09	2,712 49.39	2,294 41.77
性器ヘルペスウイルス感染症	946 17.25	954 17.69	1,194 22.15	1,236 22.60	1,311 24.17	1,216 22.60	1,298 24.00	1,329 24.36	1,400 25.49	1,279 23.29
尖圭コンジローマ	926 16.88	727 13.47	842 15.62	837 15.31	877 16.17	959 17.84	986 18.22	1,237 22.68	1,321 24.06	1,021 18.58
淋菌感染症	1,096 19.99	950 17.61	1,067 19.81	1,212 22.15	1,035 19.09	1,070 19.87	1,259 23.31	1,394 25.55	1,528 27.82	1,109 20.20
膣トリコモナス症 *	169 3.08	138 2.55	150 2.78	136 2.49	129 2.38	113 2.10	127 2.36	151 2.77	117 2.13	110 2.00
梅毒様疾患 *	82 1.50	94 1.74	83 1.54	117 2.14	120 2.21	136 2.53	135 2.50	221 4.05		

* 東京都独自疾患、梅毒様疾患は2015年末で終了

表2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(疑似症定点)

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
定点数	315	315	315	443	443	443	443	443	443	443
発熱及び呼吸器症状 *	11	147	20	9	10	38	147	126	49	26
発熱及び発しん・水疱 *	8	6	9	4	15	16	20	21	5	3

* 2008年7月より実施

(1) 一～四類、五類感染症（全数把握対象）、指定感染症

一類感染症（エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱）は届出がなかった。

① 結核

結核の発生動向は別途、「東京都における結核の概況」で報告する。

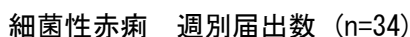
急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）は届出がなかった。

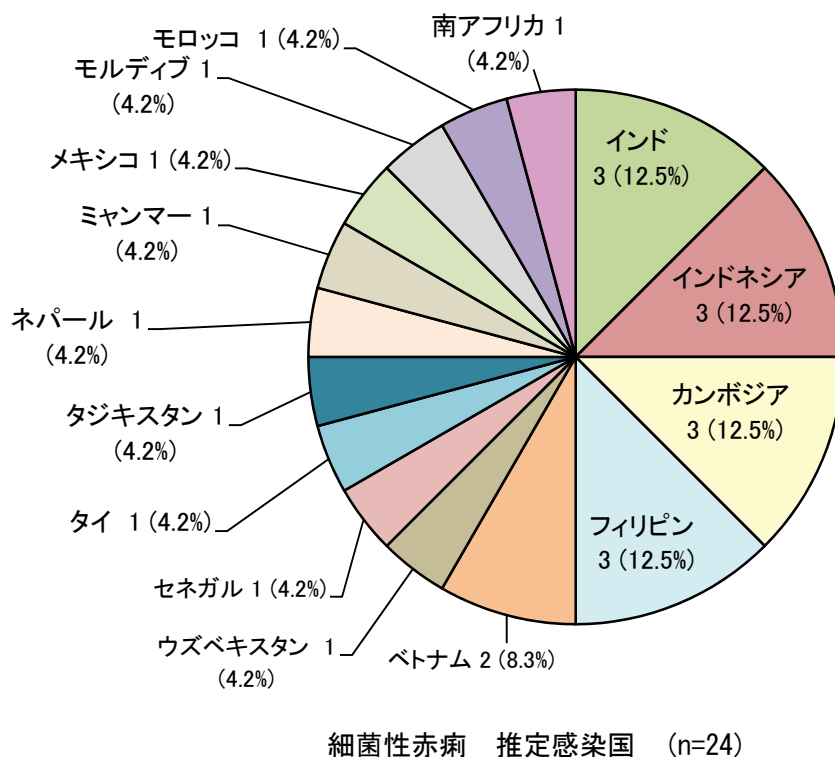
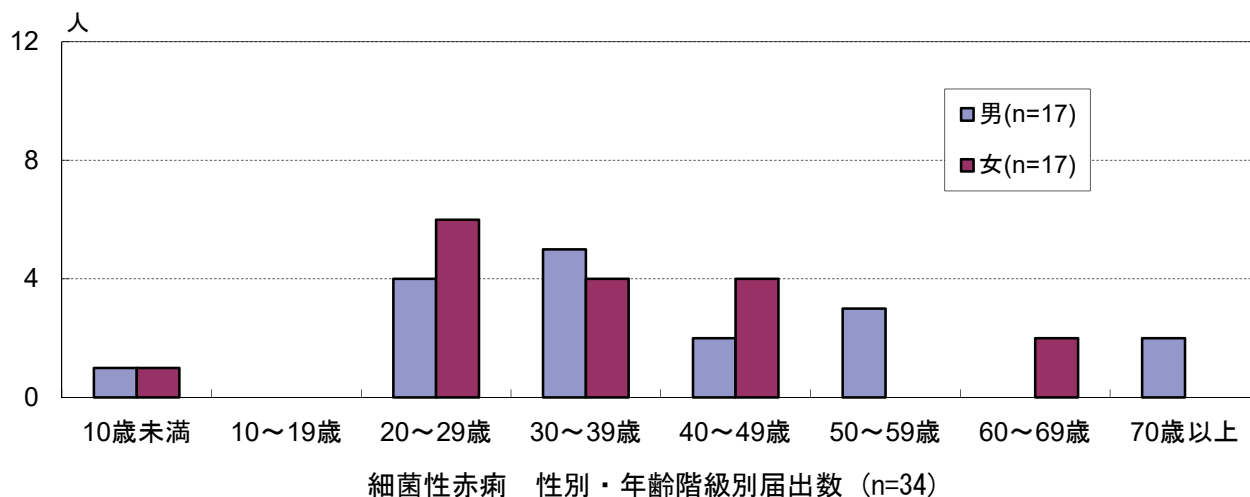
① コレラ

2017 年は 2 人の届出があった。性別はすべて女性で、年齢階級別は 20～29 歳 1 人、40～49 歳 1 人であった。菌型は O1 エルトール小川型が 1 人、O1 小川型が 1 人であった。推定感染地はフィリピンが 1 人、インドが 1 人であった。

2017 年は 34 人の届出があった。菌種は *sonnei* 27 件、*flexneri* 6 件、*boydii* 1 件であった。性別は男性 17 人、女性 17 人で、年齢階級別では 10 歳未満 2 人、20～29 歳 10 人、30～39 歳 9 人、40～49 歳 6 人、50～59 歳 3 人、60～69 歳 2 人、70～79 歳 2 人であった。

推定感染地は国内 10 人、国外 24 人であった。国内感染と推定された 10 人のうち同性間性的接触によると推定される感染例が 2 例報告された。国外感染例の推定感染国は円グラフに掲げる通りであった。



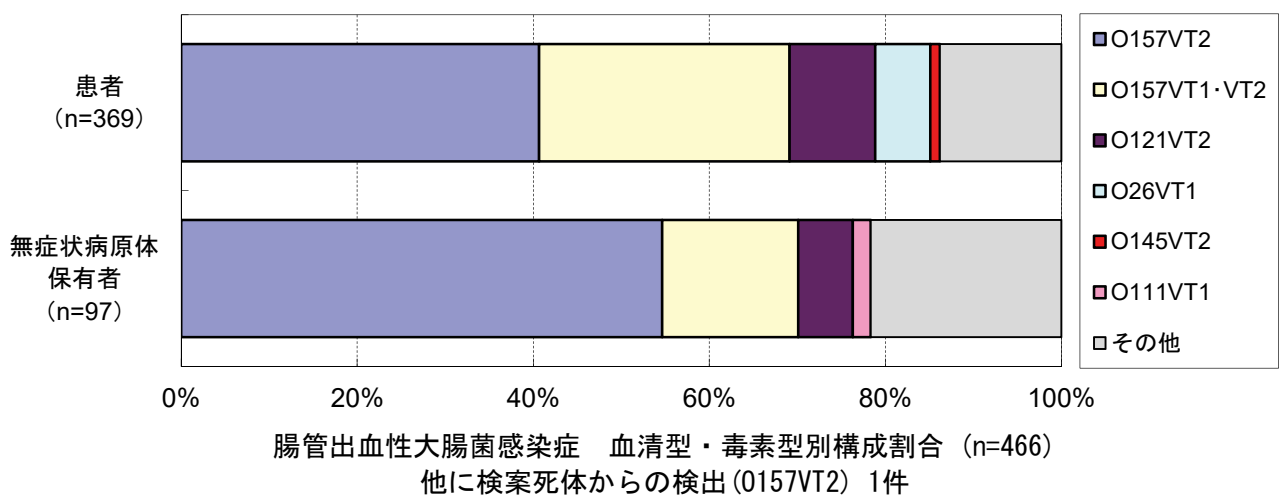
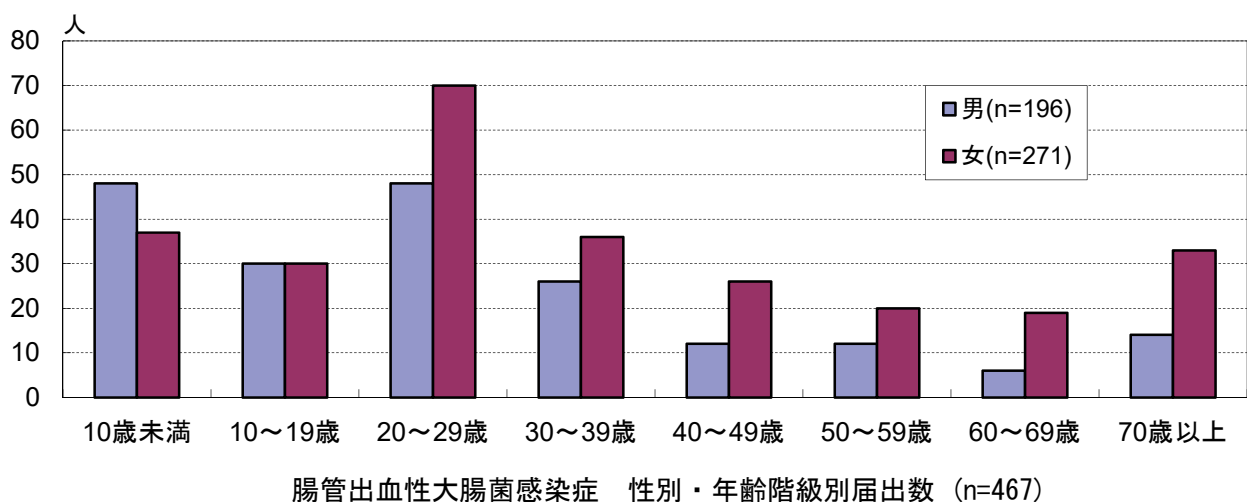
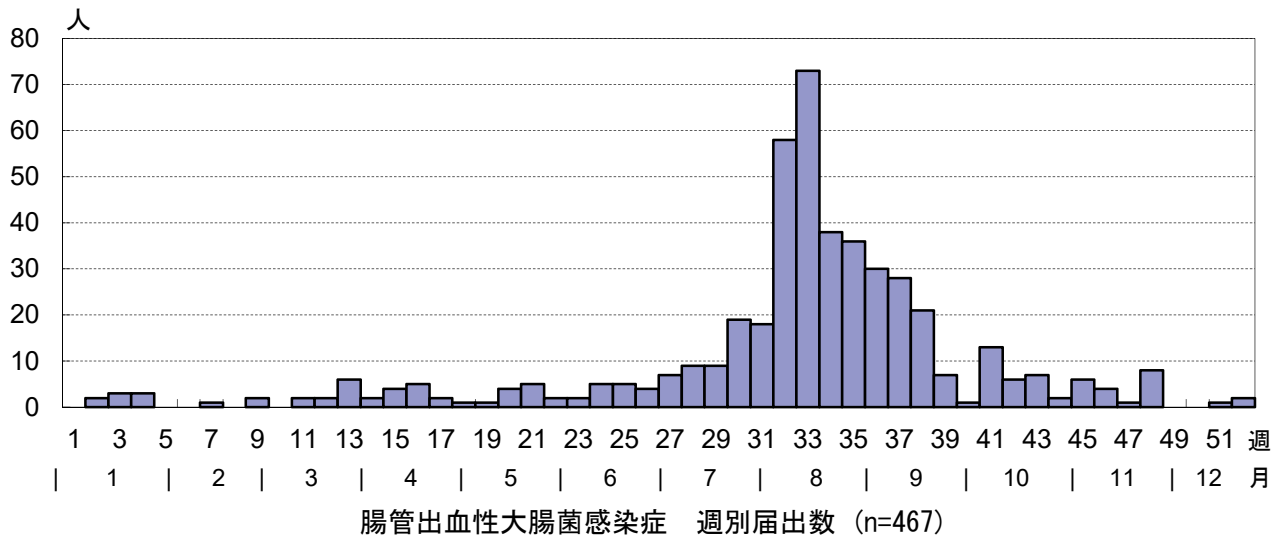


③ 腸管出血性大腸菌感染症

2017年は467人の届出があり、過去5年間で最も多い届出数となった。症状別では患者369人、無症状病原体保有者97人、検案死体からの検出が1人あった。死亡例は検案死体からの検出事例を含めて3人あった。届出はほぼ1年を通して見られたが、特に梅雨期及び晩夏期に集団事例の発生に伴い増加した。性別は男性196人、女性271人で、年齢階級別では10歳未満85人（うち5歳未満41人）、10～19歳60人、20～29歳118人、30～39歳62人、40～49歳38人、50～59歳32人、60～69歳25人、70歳以上47人であった。血清型・毒素型はO157VT2が204件で最多であった。推定感染地は国内448人、国外13人（韓国3人、フィリピン2人、エジプト2人、インドネシア1人、カンボジア1人、ロシア1人、ウガンダ1人、キューバ又はカナダ1人、渡航先不明1人）、国内または国外6人（ベトナム1人、インドネシア1人、米国1人、モロッコ1人、渡航先不明2人）であった。

症例の集積は、第 28～30 週に O26VT1 による保育園関連が 11 人、第 31～33 週に O157VT1 及び O157 VT1・VT2 及び O157 毒素型不明による老人ホーム関連が 10 人あった。

溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断されたものは 25 人であった。



腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別届出数 (n=467)

血清型	毒素型	件数	血清型	毒素型	件数
O26	VT1	42	O115	VT1	1
	VT1・VT2	4	O121	VT2	4
	不明	2	O128	VT2	1
O55	VT1	1	O145	VT2	1
O70	VT2	1*	O157	VT1	10
O91	VT1	2		VT2	204
	VT2	1		VT1・VT2	120
	VT1・VT2	3		不明	23
O103	VT1	6	O165	不明	1
O109	VT2	1*	不明	VT1	8
O111	VT1	2		VT2	7
	VT1・VT2	7		VT1・VT2	2
	不明	1	不明	不明	13

* 他の血清型・毒素型との重複感染例を含む

溶血性尿毒症症候群発症例 (n=25)

受理日	性別	年齢	血清型・毒素型	推定感染地	推定感染経路等
3/17	女	8	血清型不明・VT2	国内	
6/29	女	3	O157VT1・VT2	国内	卵の喫食
7/15	男	2	血清型・毒素型不明	国外(ロシア)	
8/3	男	5	O157VT2	国内	
8/4	女	56	血清型・毒素型不明	国内	自宅での調理
8/7	女	3	O157・毒素型不明	国内	
8/7	女	3	血清型・毒素型不明	国内	
8/8	女	16	O157VT2	国内	外食多く特定困難
8/9	女	20	O157VT1・VT2	国内	レバ刺し又はハンバーグの喫食
8/10	女	70	O157VT2	国内	
8/14	女	6	O157VT1・VT2	国内	
8/17	女	82	O157・毒素型不明	国内	
8/22	男	3	O157VT2	国内	
8/22	女	5	血清型・毒素型不明	国内	下痢の母と接触
8/22	女	7	血清型・毒素型不明	国内	
8/23	女	91	O157VT2	国内	
8/23	女	31	血清型・毒素型不明	国内	豚肉、マグロ、イカ、タコの喫食
8/25	男	14	血清型・毒素型不明	国内	
8/30	女	66	O157・毒素型不明	国内	
8/30	男	5	血清型・毒素型不明	国内	
9/1	女	22	血清型・毒素型不明	国内	

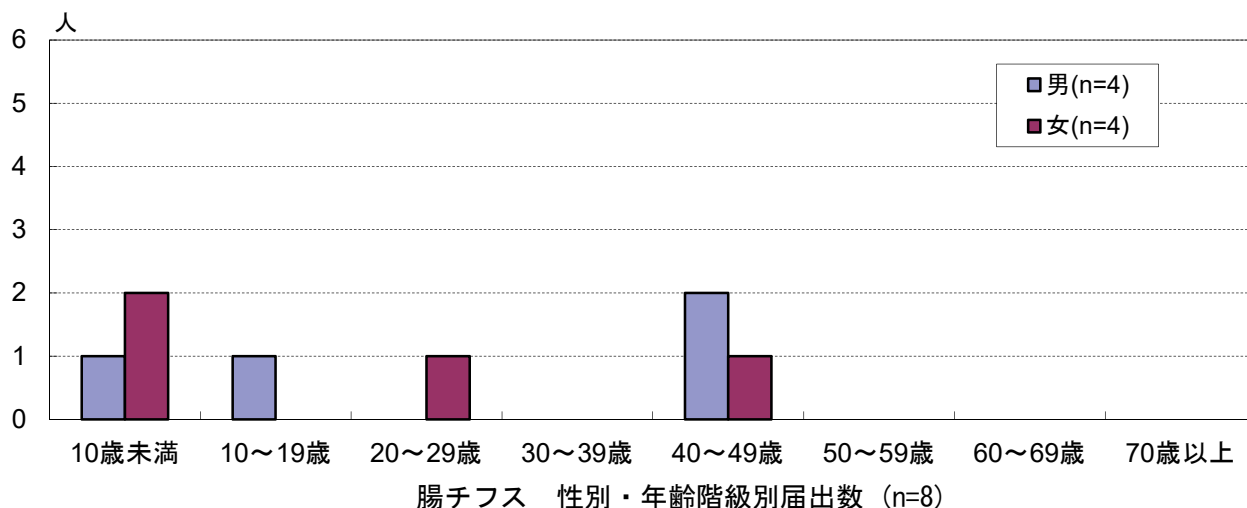
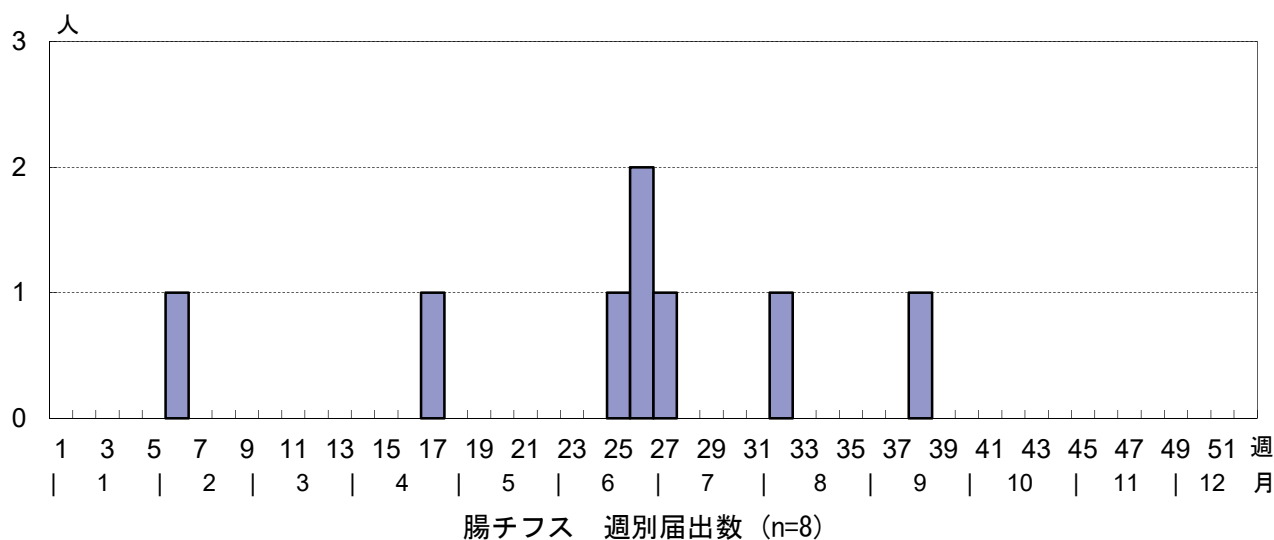
9/1	女	56	血清型・毒素型不明	国内
9/21	女	2	O109、O70・VT2	国内
10/30	男	5	血清型・毒素型不明	国内
11/20	男	0	O157VT2	国内

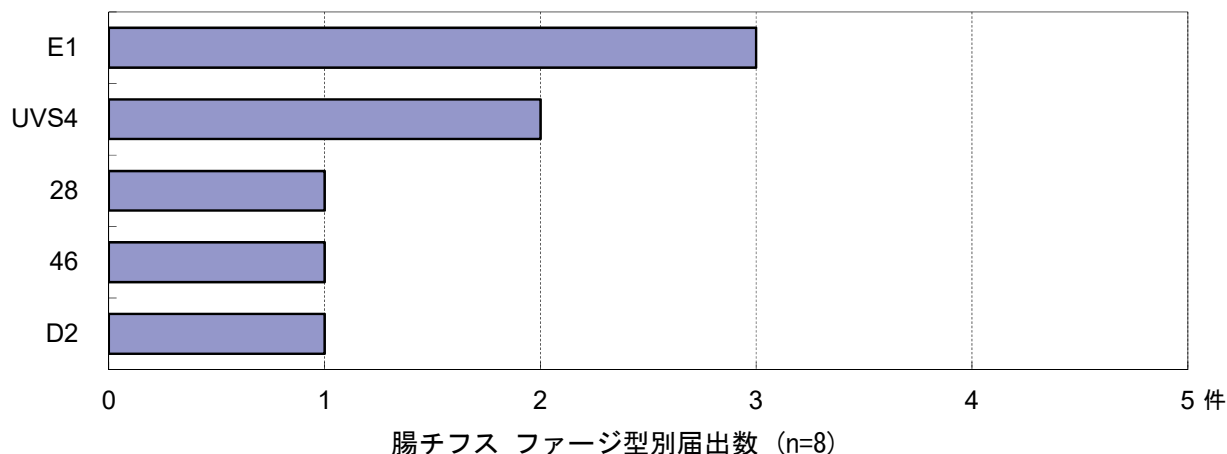
④ 腸チフス

2017年は8人の届出があった。性別では男性4人、女性4人、年齢階級別では10歳未満3人、10～19歳1人、20～29歳1人、40～49歳3人であった。

ファージ型の内訳はE1が3人、UVS4が2人、28が1人、46が1人、D2が1人であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染国はパキスタン3人、インドネシア2人のほか、ミャンマー、メキシコ、インド又はベトナム各1人であった。





⑤ パラチフス

2017年は6人の届出があった。性別は男性5人、女性1人であり、年齢階級別では20～29歳1人、30～39歳2人、40～49歳3人であった。

ファージ型判明者の内訳は1が2人、2が1人、RDNC (Reacted but did not conform) が1人、UT (Untypeable) 1人であった。

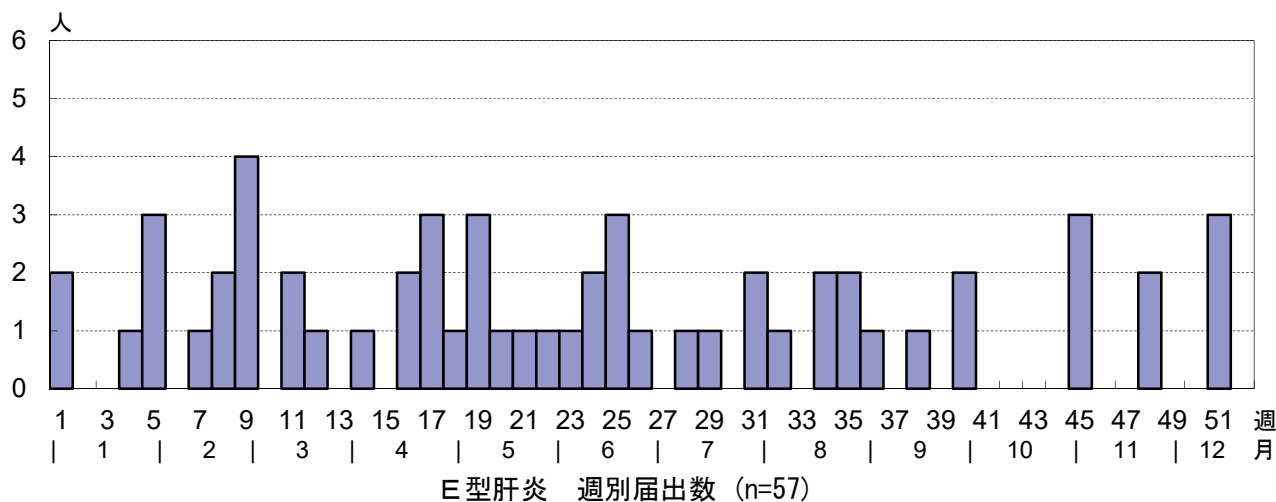
推定感染地はすべて国外で、推定感染国はインドネシア2人、カンボジア2人、ミャンマー1人、インド1人であった。

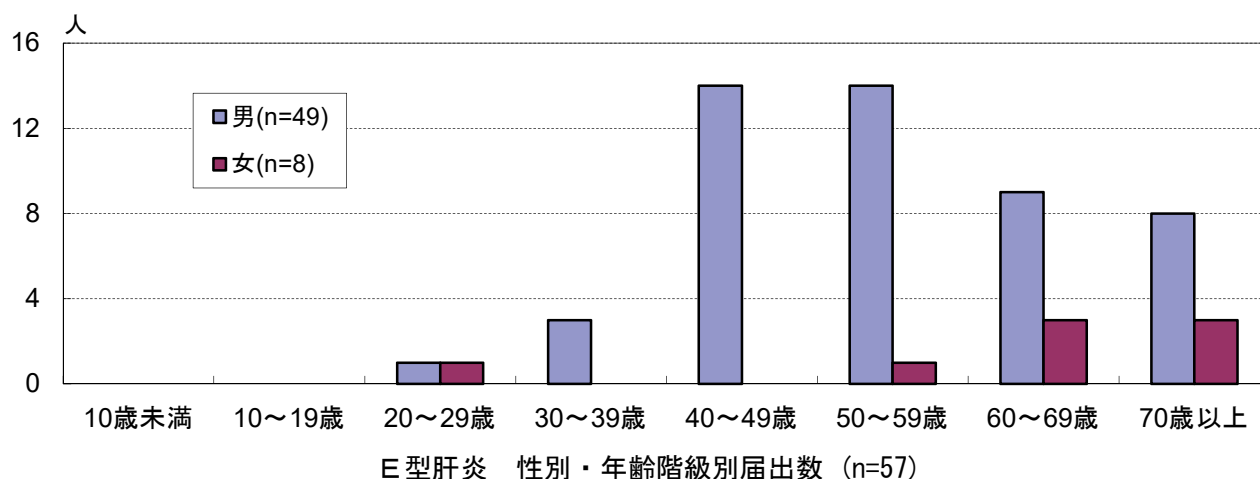
エ 四類感染症

① E型肝炎

2017年は57人の届出があった。性別は男性49人、女性8人で、年齢階級別では20～29歳2人、30～39歳3人、40～49歳14人、50～59歳15人、60～69歳12人、70歳以上11人であった。

推定感染地は国内52人、中国1人、韓国1人、中国又は台湾1人、中国又はフィリピン1人、国内又は米国（ハワイ）1人であった。推定感染経路は経口感染が38人、不明が19人で、経口感染のうちレバー喫食が4人（全員豚レバー）、ジビエ関係喫食3人（鹿肉1人、猪肉1人、内容不明1人）、生もの摂取2人（鳥と豚の刺身1人、牛と豚1人）、鳩の頭喫食1人、豚肉喫食1人、豚サラミ喫食1人であった。



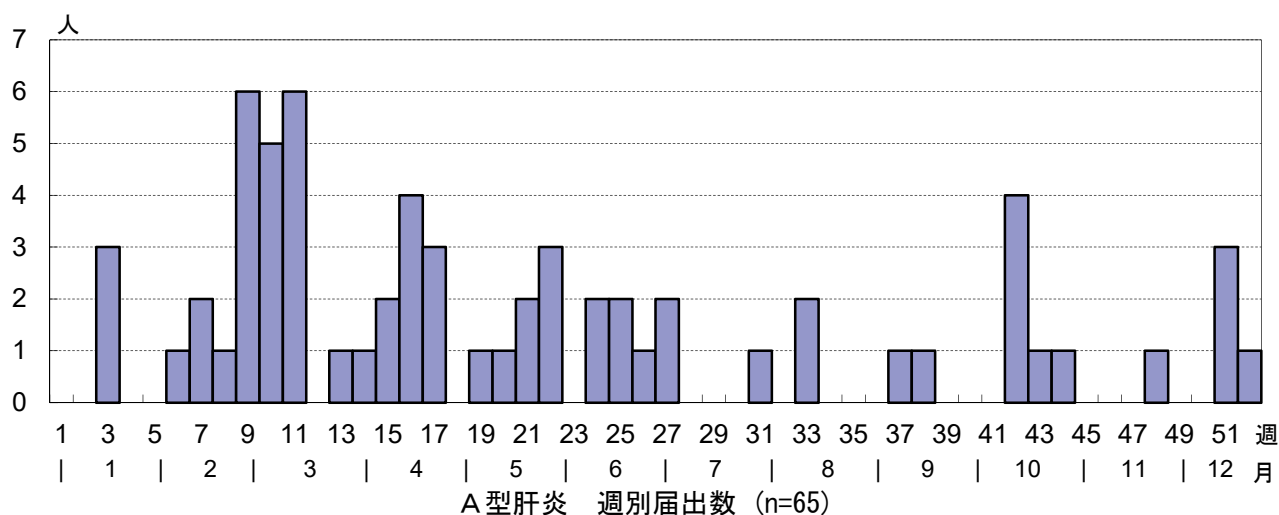


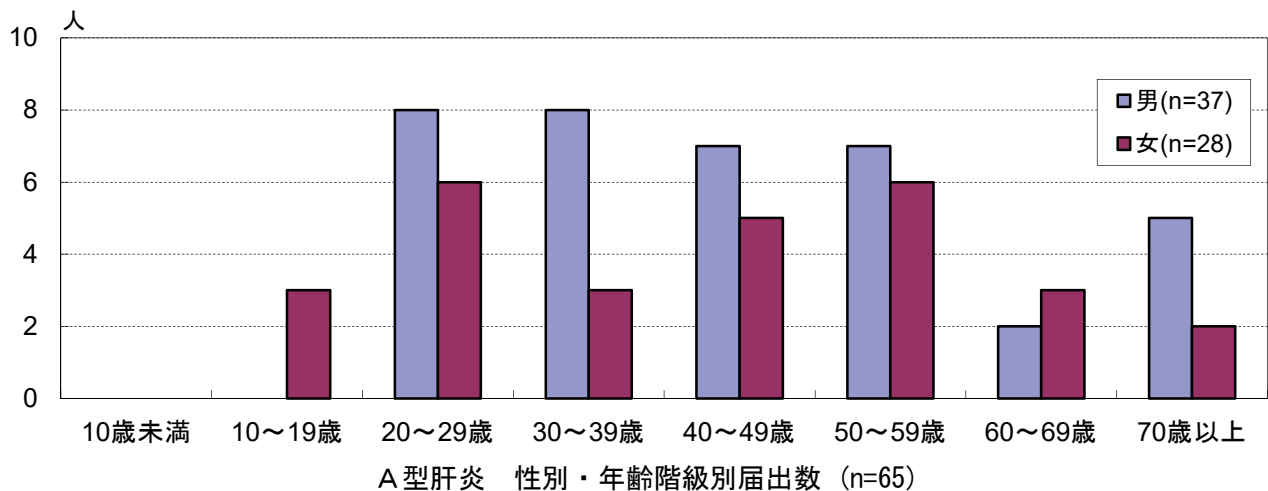
② A型肝炎

2017年は65人の届出があった。性別は男性37人、女性28人で、年齢階級別では10～19歳3人、20～29歳14人、30～39歳11人、40～49歳12人、50～59歳13人、60～69歳5人、70歳以上7人であった。

推定感染地は国内48人、国外13人、国内または国外4人（韓国1人、タイ1人、ベトナム1人、スペイン1人）であった。国外感染と推定された13人の推定感染国はフィリピン2人、モロッコ2人、タイ、インドネシア、カンボジア、ネパール、台湾、ドイツ、スペイン、南アフリカ各1人、中国又は香港1人であった。

推定感染経路は、飲食物を介した経口感染45人、性的接触6人、経口感染又は性的接触3人、不明11人（うち1人は性的接触感染者からの家族内感染）であり、経口感染45人の推定原因食品は魚介類が14人（うちカキ5人、他の貝類6人）、肉類4人、肉類と貝類2人、不明飲食物2人、生水1人、ココナッツジュース1人、不明21人であった。





③ エキノコックス症

2017年は1人の届出があった。性別は男性、年齢階級別は30歳代であった。推定感染地は国内（北海道に在住歴あり）、感染経路は不明であった。

④ 回帰熱

2017年は2012年以来となる2人の届出があった。性別は男性1人、女性1人であり、年齢階級別は30～39歳1人、60～69歳1人であった。推定感染地は国内（共に北海道）、感染経路は共に動物・蚊・昆虫等からの感染（うち1人はマダニ）であった。

⑤ コクシジオイデス症

2017年は1人の届出があった。性別は男性、年齢階級別は40歳代であった。推定感染地は国外（米国）であった。推定感染経路は塵埃感染であった。

⑥ チクングニア熱

2017年は3人の届出があった。性別はすべて男性で、年齢階級別は30～39歳1人、40～49歳1人、60～69歳1人であった。推定感染地はすべて国外で、推定感染国はフィリピン1人、インド1人、バングラディシュ1人であった。

⑦ つつが虫病

2017年は13人の届出があった。性別は男性10人、女性3人であった。年齢階級別は10～19歳1人、20～29歳1人、30～39歳1人、40～49歳2人、50～59歳1人、60～69歳3人、70歳以上4人であった。

推定感染地は国内12人、国外1人で、国内の推定感染地は東京都11人（多摩地区5人、島しょ地区5人、不明1人）、広島県1人で、国外はラオス1人であった。

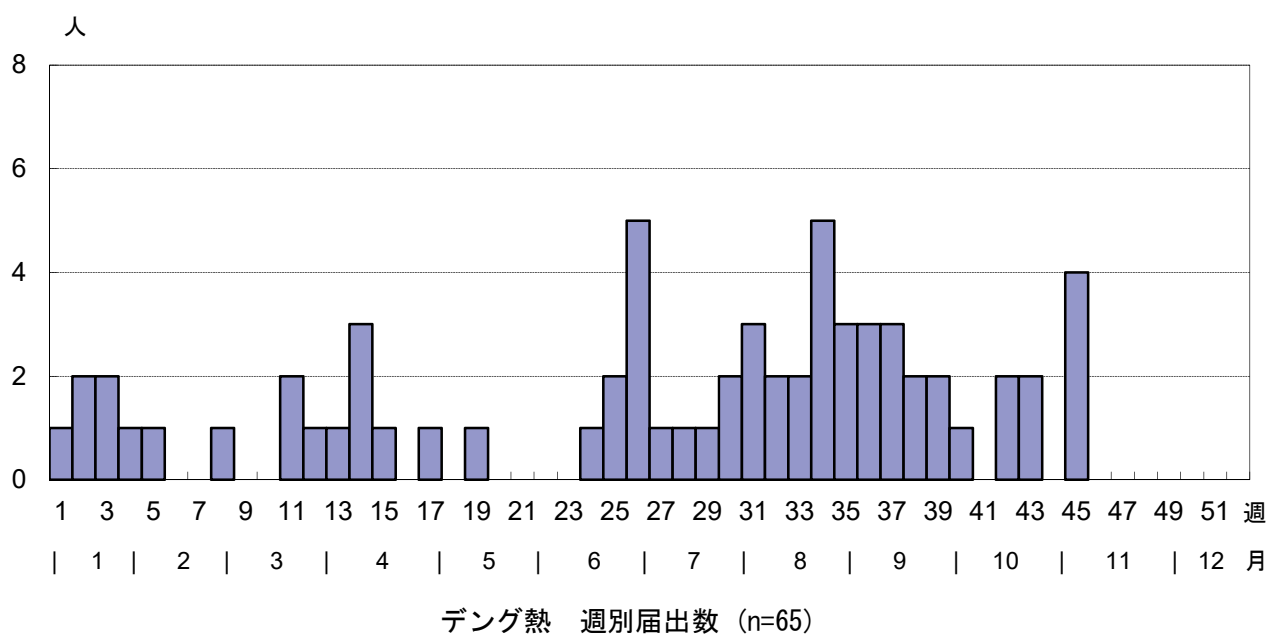
つつが虫病届出例 (n=13)

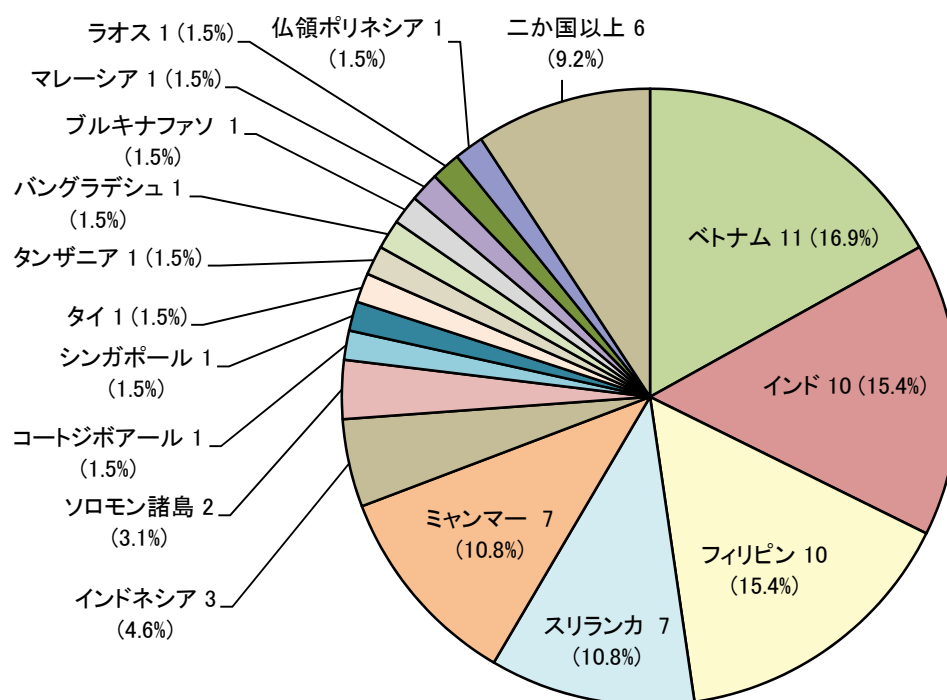
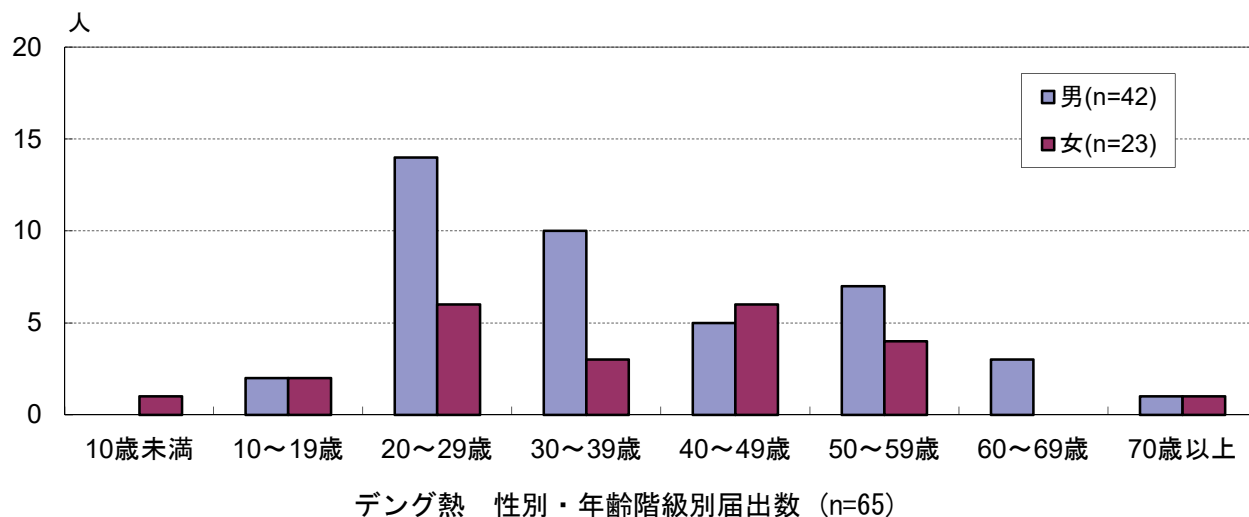
受理日	性別	年齢	推定感染地	野外地への旅行、立入り歴等
1/10	女	52	国内	土壌内
2/3	女	44	ラオス	
7/31	女	29	国内	
11/2	男	68	国内	
11/9	男	77	国内	
11/30	男	63	国内	
12/1	男	73	国内	
12/14	男	36	国内	猫のマダニ
12/15	男	49	国内	
12/19	男	77	国内	畑仕事
12/25	男	68	国内	
12/26	男	18	国内	猫のマダニ
12/27	男	76	国内	

⑧ デング熱

2017 年は 65 人の届出があった。デング出血熱の届出はなかった。性別は男性 42 人、女性 23 人、年齢階級別は 10 歳未満 1 人、10～19 歳 4 人、20～29 歳 20 人、30～39 歳 13 人、40～49 歳 11 人、50～59 歳 11 人、60～69 歳 3 人、70 歳以上 2 人であった。血清型は 33 件報告されており、その内訳は 1 型 8 件、2 型 11 件、3 型 10 件、4 型 4 件であった。

推定感染地はすべて国外であった。





⑨ 日本紅斑熱

2017 年は 1 人の届出があった。性別は男性、年齢階級別は 40 歳代であった。推定感染地は国内であった。推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

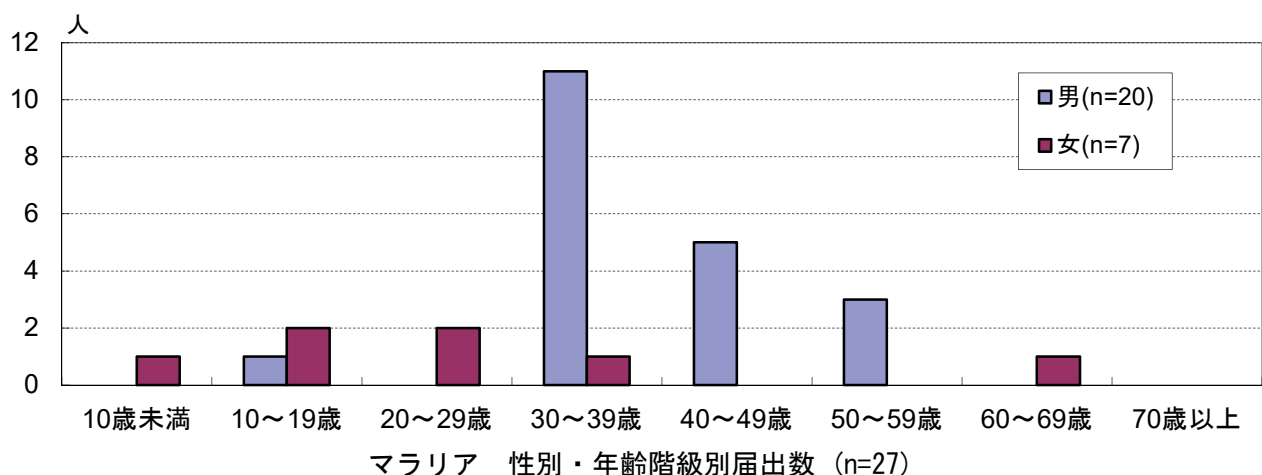
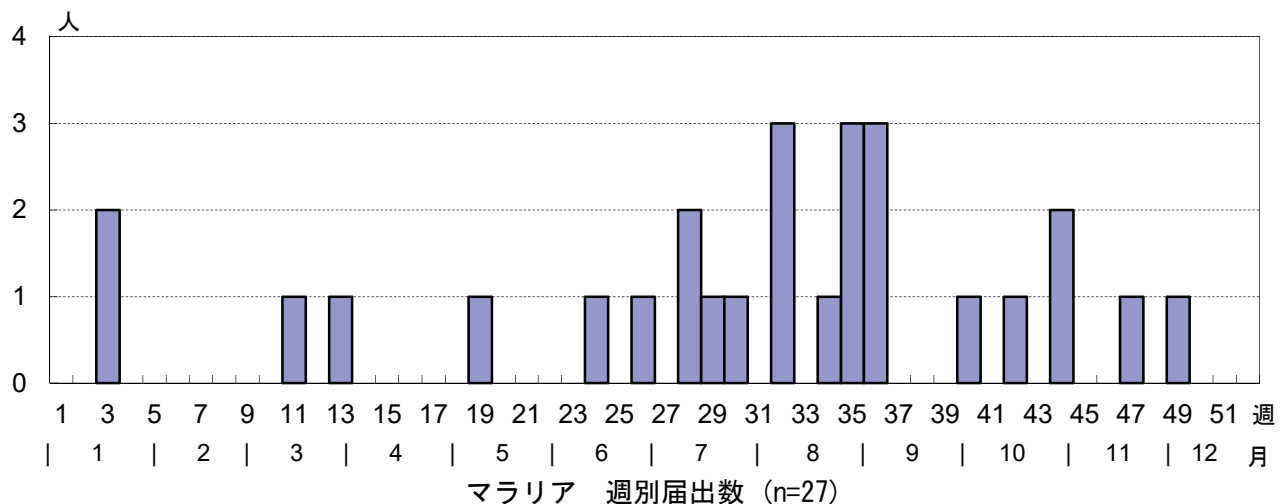
⑩ ボツリヌス症

2017 年は 2 人の届出があった。性別はすべて男性で、年齢階級別はすべて 10 歳未満 (0 歳児) であり、うち 1 人は死亡した。病型はすべて乳児型、毒素はすべて A 型であった。推定感染地は国内であった。推定感染経路は経口感染 1 人、他 1 人は不明であった。死亡事例は生後 5 か月の男児ではちみつを摂取しており、患者の便および自宅にあったはちみつからボツリヌス菌が検出された。1986 年の統

計開始以来死亡例は初めてであった。

⑪ マラリア

2017 年は 27 人の届出があった。熱帯熱マラリア 18 人、卵形マラリア 2 人、三日熱マラリア 3 人、四日熱マラリア 1 人、不明 3 人であった。性別は男性 20 人、女性 7 人、年齢階級別は 10 歳未満 1 人、10～19 歳 3 人、20～29 歳 2 人、30～39 歳 12 人、40～49 歳 5 人、50～59 歳 3 人、60～69 歳 1 人であった。類型は患者 26 人、無症状病原体保有者 1 人であった。推定感染地はすべて国外であった。



マラリア 病型別推定感染国 (n=27)

病型	人数	推定感染国	人数
熱帯熱	18	ガーナ	5
		ナイジェリア	4
		シエラレオネ	3
		コンゴ共和国、ギニア、ウガンダ、カメルーン、インドネシア、マラウイ	各 1
卵形	2	カメルーン、コートジボワール	各 1

三日熱	3	韓国、パプアニューギニア、ブラジル又はチリ又はペルー	各 1
四日熱	1	カメルーン	
不明	3	インドネシア	2
		ギニア	1
合計	27		27

⑫ ライム病

2017 年は 1 人の届出があった。性別は女性、年齢階級別は 70 歳以上であった。推定感染地は国内（北海道）であった。推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染（マダニ）であった。

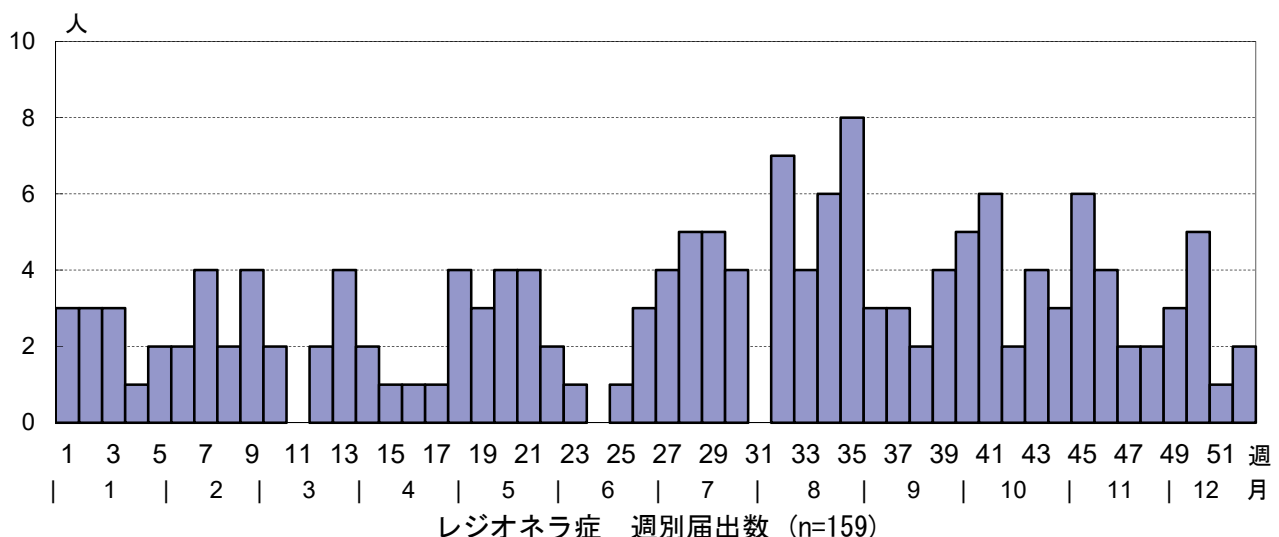
⑬ 類鼻疽

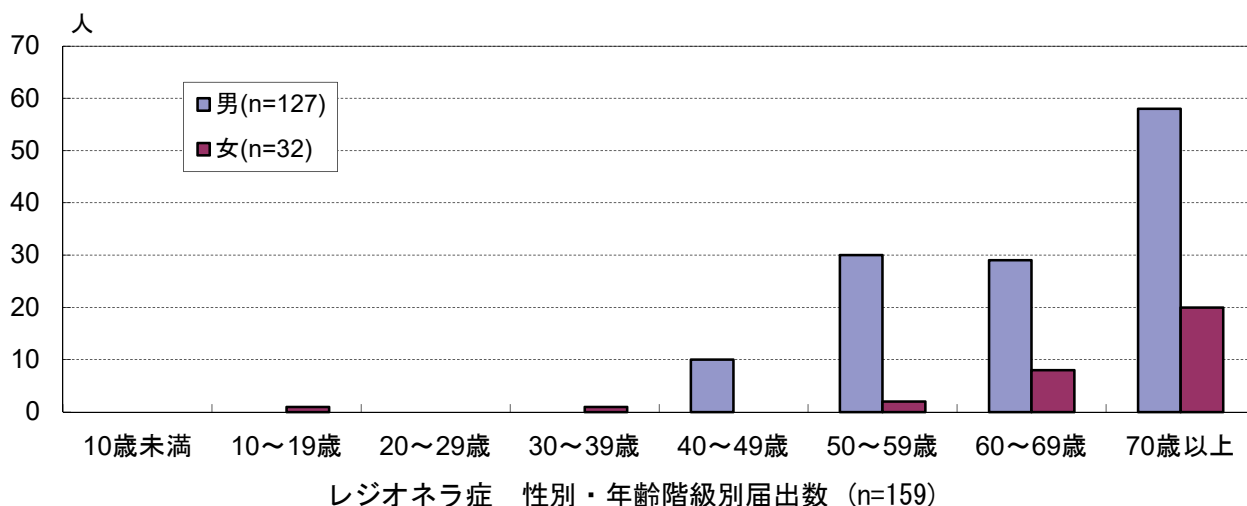
2017 年は 1 人の届出があった。性別は男性、年齢階級別は 50 歳代であった。推定感染地は国外（フィリピン）であった。推定感染経路は水系感染（海でのシュノーケリング）であった。

⑭ レジオネラ症

2017 年は 159 人の届出があった。病型は肺炎型 147 人、ポンティアック熱型 10 人、無症状病原体保有者 2 人であった。死亡例は 1 人であった。性別は男性 127 人、女性 32 人、年齢階級別は 10～19 歳 1 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 10 人、50～59 歳 32 人、60～69 歳 37 人、70 歳以上 78 人であった。

推定感染地は国内 154 人、国外 4 人（中国、インドネシア、中国又は台湾、中国又は北朝鮮各 1 人）、国内又は国外 1 人であった。推定感染経路は水系感染 75 人、塵埃感染 3 人、不明 81 人であった。水系感染のうち、公共浴場施設（温泉を含む）での感染と推定されたのは 38 人であった。





⑮ レプトスピラ症

2017 年は 9 人の届出があった。性別は男性 8 人、女性 1 人、年齢階級別は 20～29 歳 3 人、30～39 歳 1 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 1 人、70 歳以上 2 人であった。推定感染地は国内 7 人、国外 2 人であった。

レプトスピラ症届出例 (n=9)

受理日	性別	年齢	推定感染地	推定感染経路、接触場所、滞在歴
2/6	男	30	米国 (グアム)	山中の河川
7/14	男	69	国内	ネズミ
7/14	男	74	国内	ネズミ
9/6	女	24	国内	西表島
9/6	男	73	タイ	河川
9/14	男	53	国内	西表島でのレジャー
10/10	男	22	国内	西表島での河川
10/20	男	20	国内	西表島での河川
11/3	男	54	国内	不明

⑯ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、キャサヌル森林病、Q 熱、狂犬病、サル痘、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス族 SFTS ウイルスであるものに限る。）、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く）、ニパウイルス感染症、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、野兔病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、ロッキー山紅斑熱

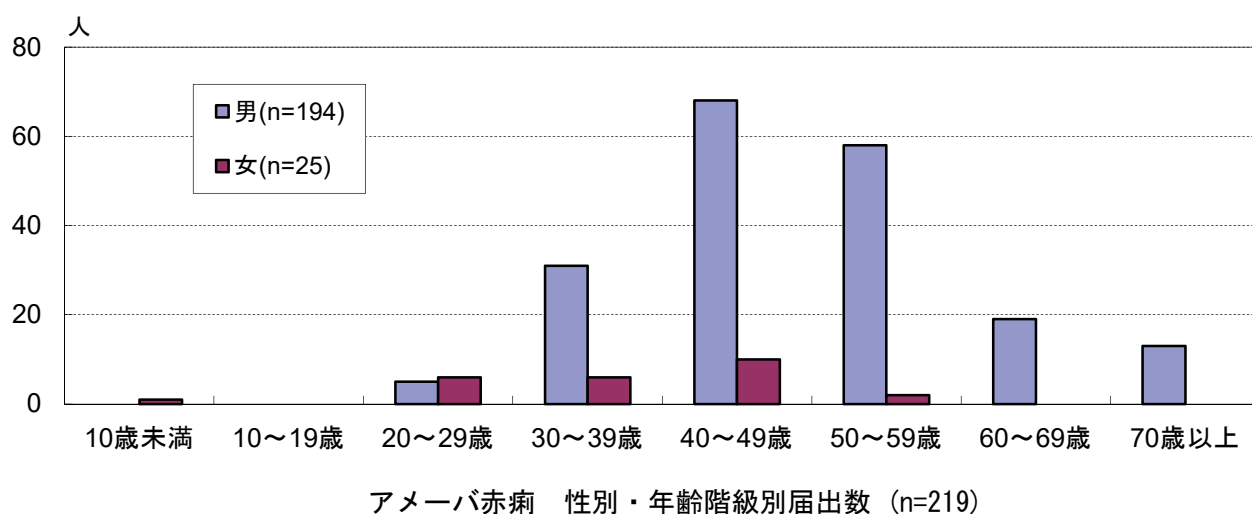
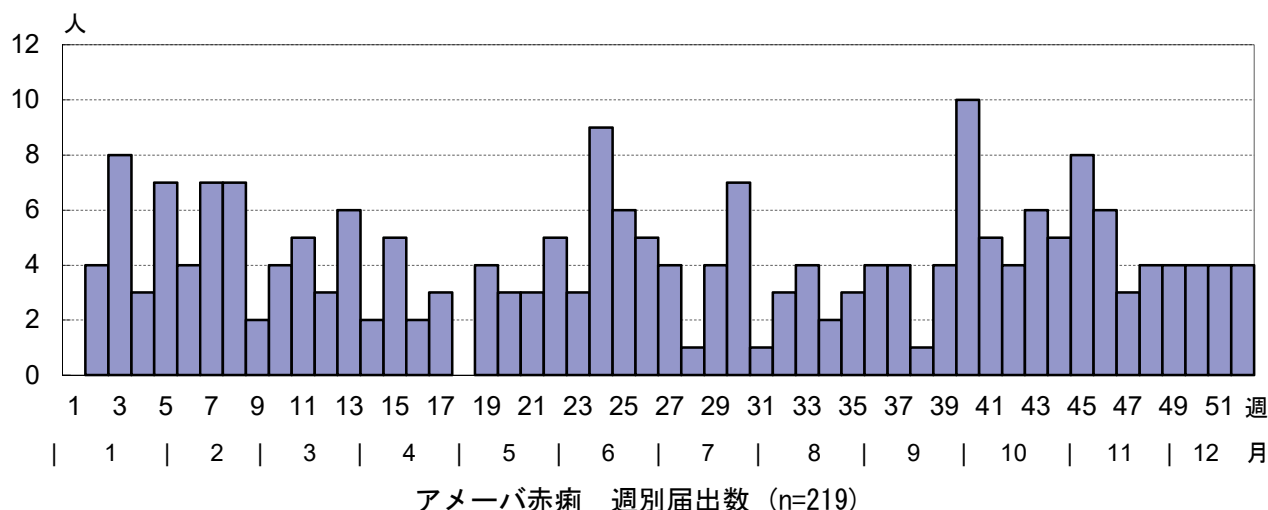
オ 五類感染症（全数把握対象）

① アメーバ赤痢

2017 年は 219 人の届出があった。腸管アメーバ症 187 人、腸管外アメーバ症 22 人、腸管及び腸管外アメーバ症 10 人であった。性別は男性 194 人、女性 25 人で、年齢階級別では 10 歳未満 1 人、20～29 歳 11 人、30～39 歳 37 人、40～49 歳 78 人、50～59 歳 60 人、60～69 歳 19 人、70 歳以上 13 人であった。

推定感染地は国内 175 人、国外 36 人、国内又は国外 8 人であり、国外感染例 36 人を推定感染地域別にみると、東南アジア 19 人、東アジア 7 人、南アジア 3 人、アフリカ 2 人、ヨーロッパ 1 人、2 地域以上 3 人、渡航先不明 1 人であった。渡航先不明の人を除く推定感染国はタイ 5 人、インドネシア 4 人、中国 4 人、インド 3 人、台湾 2 人、マレーシア 2 人、フィリピン、ベトナム、シンガポール、エジプト、南アフリカ、東南アジア（国名不明）各 1 人のほか、タイ又はインドネシア 2 人、タイ又はベトナム又はインドネシア、中国又はシンガポール又は香港、タイ又はフィリピン、タイ又は台湾、中国又は台湾、スペイン又はイタリア、米国（ハワイ）又はオーストラリア各 1 人であった。

推定感染経路は、性的接触 80 人（同性間 35 人、異性間 38 人、両性間 1 人、性別不明 6 人）、飲食物による経口感染 47 人、2 経路以上 1 人、不明 91 人であった。



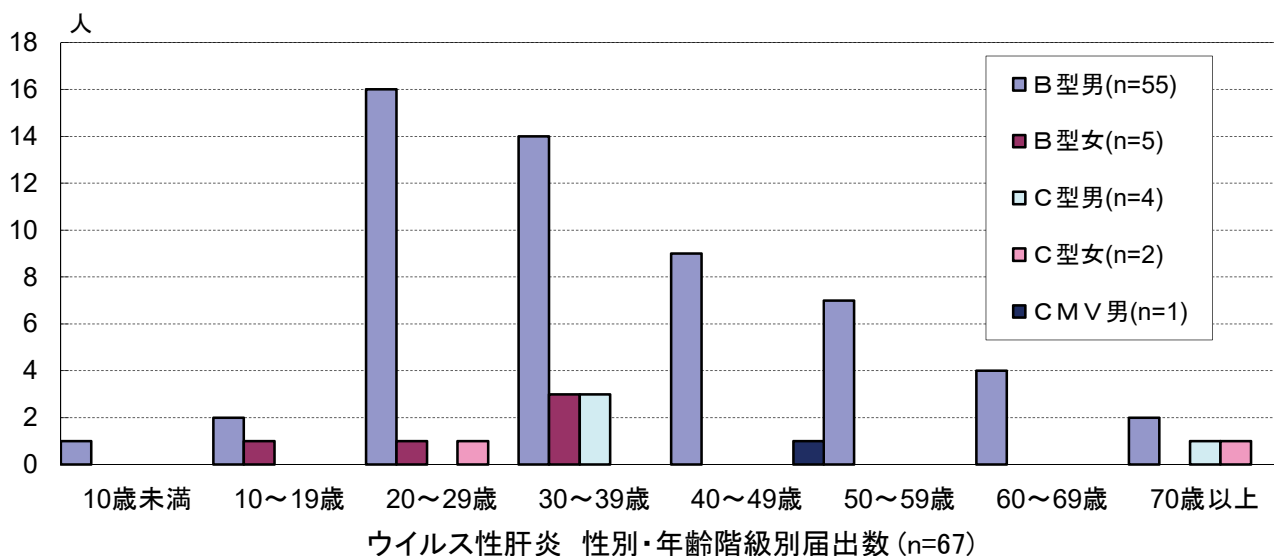
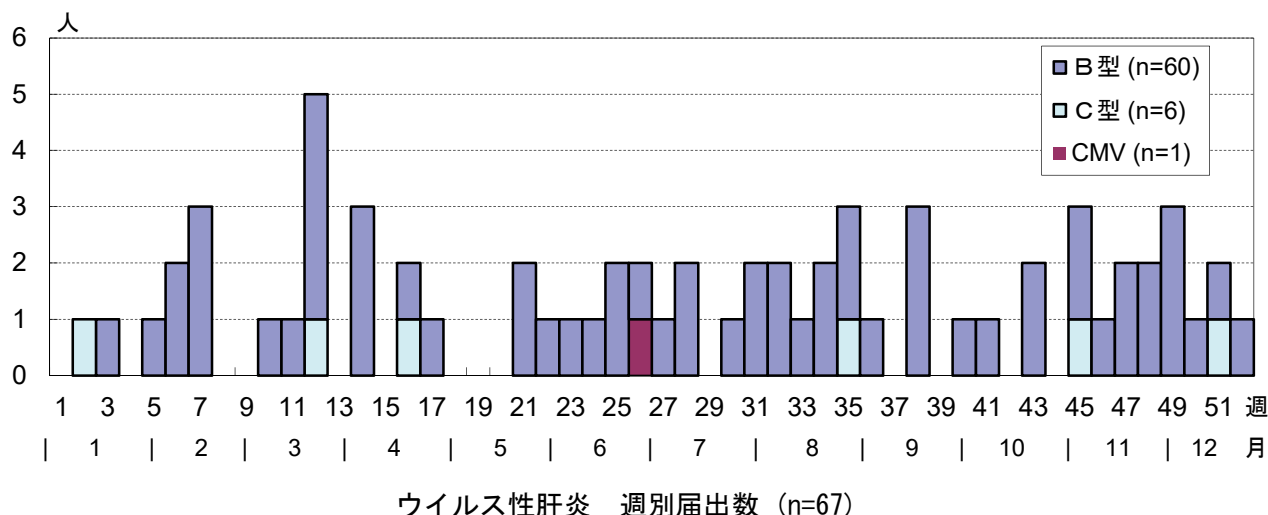
② ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）

2017年は67人の届出があった。内訳は、B型肝炎60人、C型肝炎6人、サイトメガロウイルス（CMV）肝炎1人であった。

B型肝炎60人の届出のうち男性は55人、女性は5人で、年齢階級別では10歳未満1人、10～19歳3人、20～29歳17人、30～39歳17人、40～49歳9人、50～59歳7人、60～69歳4人、70歳以上2人であった。推定感染地は国内53人、国外6人（中国2人、韓国、ミャンマー、ドイツ各1人、中国又はアメリカ1人）、国内又は国外1人で、推定感染経路は性的接触47人（同性間14人、異性間26人、両性間2人、性別不明5人）、針等の鋭利なものの刺入による感染又は性的接触異性間1人、不明12人であった。

C型肝炎6人の届出のうち男性は4人、女性は2人で、年齢は20～29歳1人、30～39歳3人、70歳以上2人であった。推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は性的接触3人（すべて同性間）、針等の鋭利なものの刺入による感染1人、不明2人であった。

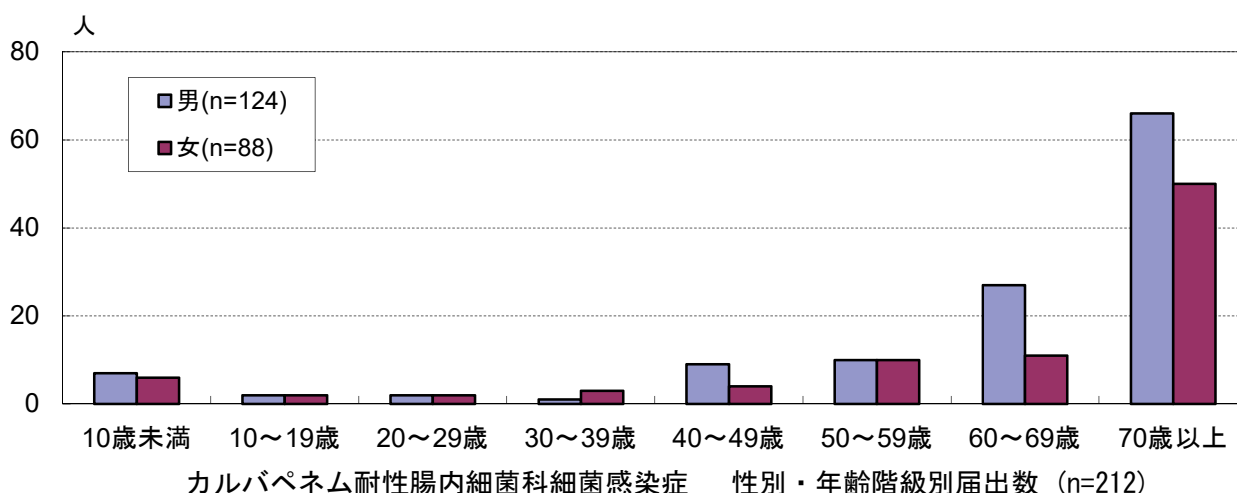
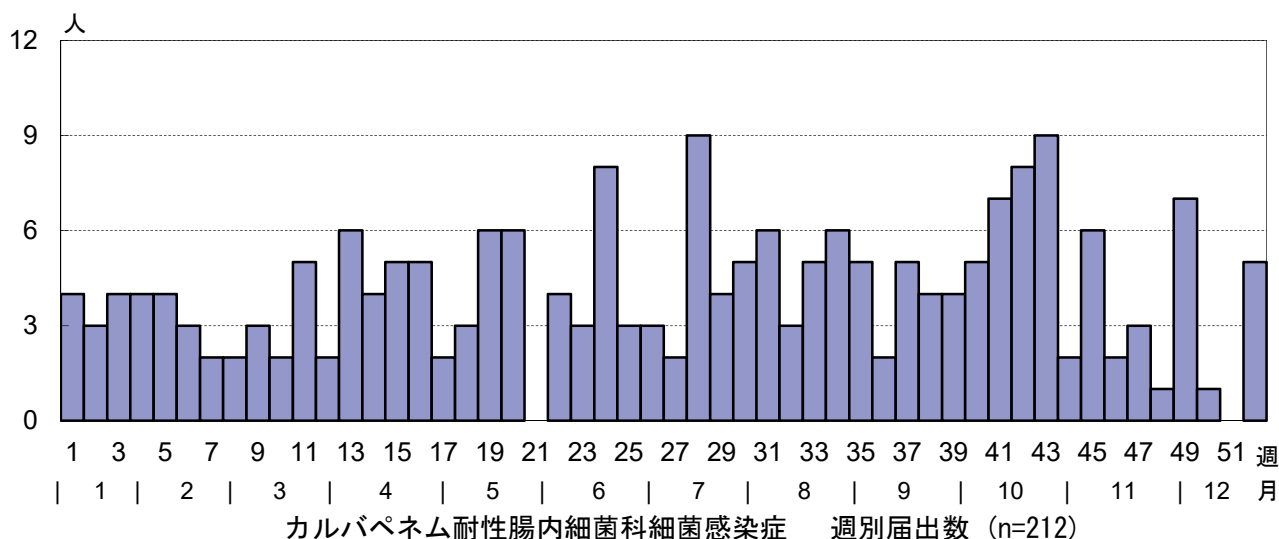
サイトメガロウイルス（CMV）肝炎の1人は男性、40歳代、推定感染地は国内、感染経路は不明（小児期に感染確立の可能性あり）であった。



③ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

2017 年は 212 人の届出があった。性別は男性 124 人、女性 88 人で、年齢階級別では 10 歳未満 13 人（うち 5 歳未満 11 人）、10～19 歳 4 人、20～29 歳 4 人、30～39 歳 4 人、40～49 歳 13 人、50～59 歳 20 人、60～69 歳 38 人、70 歳以上 116 人であった。死亡例は 8 人（60～69 歳 1 人、70 歳以上 7 人）が報告された。推定感染地は国内 209 人、国外 2 人（タイ、インド各 1 人）、国内または国外（中国）1 人であった。

分離された菌種のうち *Enterobacter cloacae* が 90 件、*Enterobacter aerogenes* が 53 件、*Klebsiella pneumoniae* が 24 件、*Citrobacter freundii* が 10 件、*Serratia marcescens* が 7 件、*Enterobacter asburiae* が 6 件、*Escherichia coli* が 6 件、*Enterobacter sp.* が 5 件、*Klebsiella oxytoca* が 4 件、*Enterobacter amnigenus*、*Providencia sp.*、*Proteus mirabilis*、*Citrobacter* 属が各 1 件、2 菌種以上が 3 件（*Enterobacter cloacae* 及び *Enterobacter aerogenes*、*Klebsiella pneumoniae* 及び *Escherichia coli*、*Klebsiella pneumoniae* 及び *Enterobacter asburiae* 各 1 件）であった。

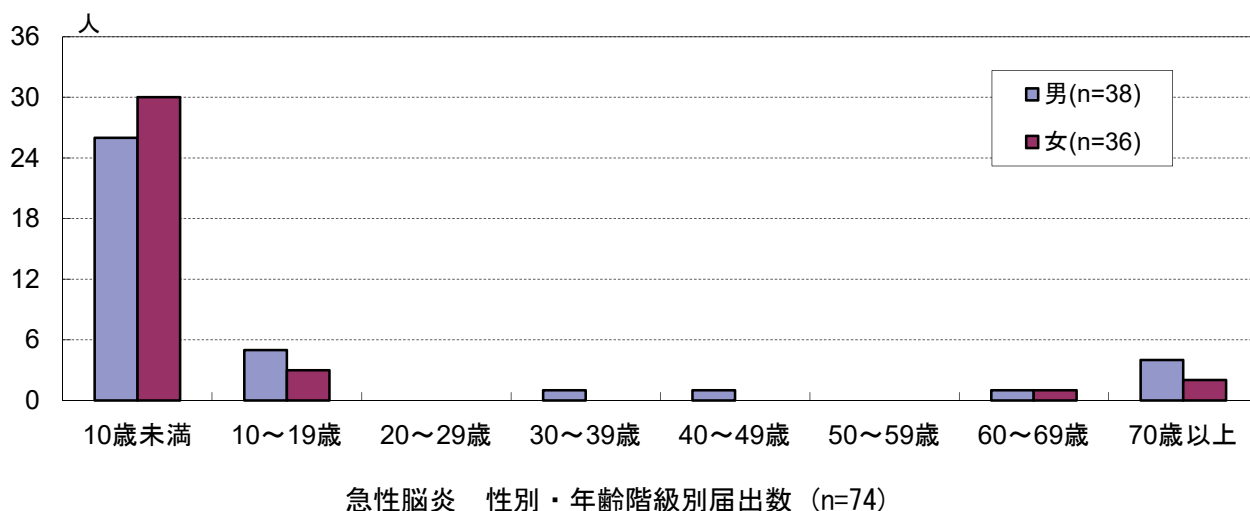
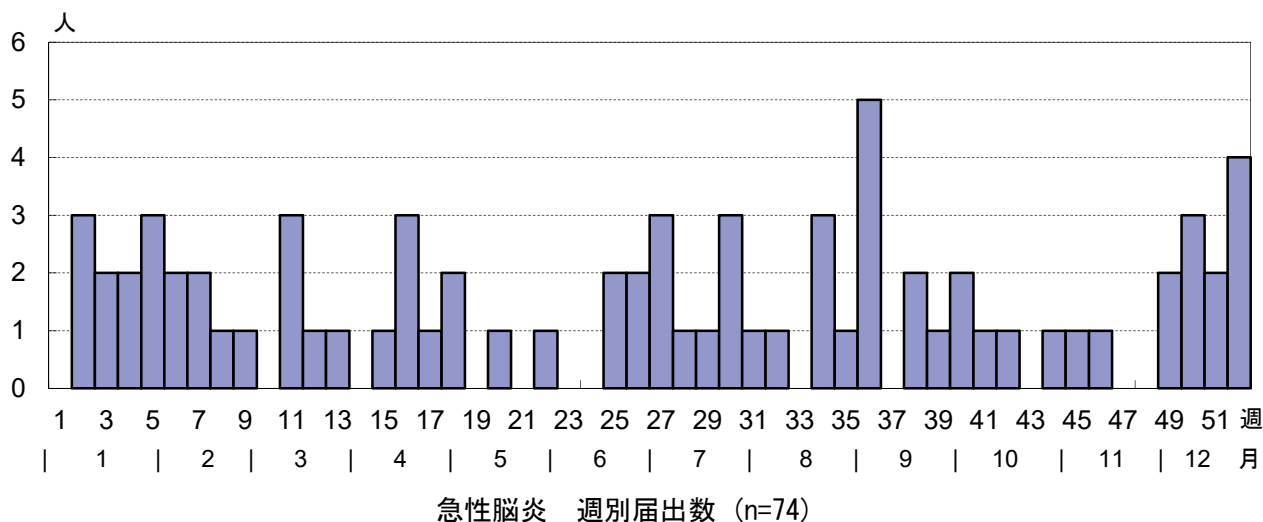


④ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

2017 年は 74 人の届出があった。性別は男性 38 人、女性 36 人で、年齢階級別では 10 歳未満 56 人（うち 5 歳未満 45 人）、10～19 歳 8 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 1 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 6

人、推定感染地は国内 73 人、国外 1 人（フィリピン）であった。

病原体はインフルエンザウイルス 17 件、ヒトヘルペスウイルス 10 件、ロタウイルス 4 件、大腸菌 4 件、RS ウイルス 3 件、単純ヘルペスウイルス 2 件、水痘・帯状疱疹ウイルス 2 件、エンテロウイルス、黄色ブドウ球菌、ヒトメタニューモウイルス各 1 件、ノロウイルス及びロタウイルス、ロタウイルス及び肺炎球菌各 1 件、不明 27 件であった。



⑤ クリプトスポリジウム症

2017 年は 2 人の届出があった。性別はすべて男性で、年齢階級別は 30～39 歳 1 人、50～59 歳 1 人であった。推定感染地はすべて国内であった。推定感染経路はすべて性的接触であった。

⑥ クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD)

2017 年は 19 人の届出があった。性別は男性 8 人、女性 11 人で、年齢階級別では 40～49 歳 1 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 4 人、70 歳以上 12 人であった。

孤発性プリオン病が 16 人（確実 2 人、ほぼ確実 13 人、疑い 1 人）であり、うち古典型 CJD が 15 人を占めた。また遺伝性プリオン病が 3 人あり、すべて家族性 CJD であった。

孤発性プリオン病 16 人の症状のうち、進行性認知症が 16 人すべてに認められたほか、ミオクローヌス 15 人、記憶障害 11 人、無動性無言状態 9 人、精神・知能障害 8 人、錐体路症状 7 人、錐体外路

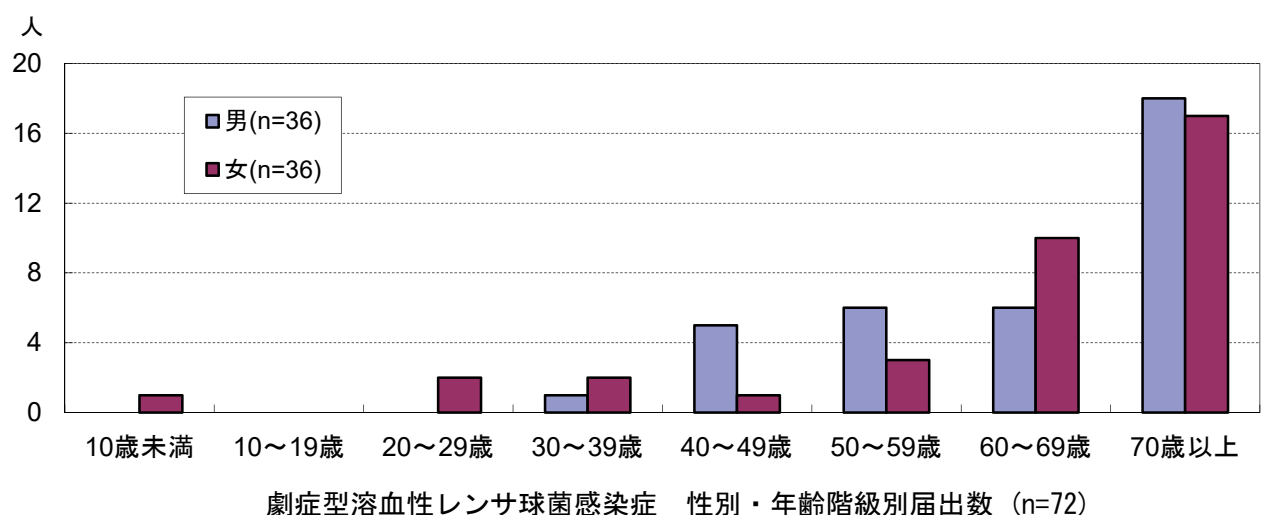
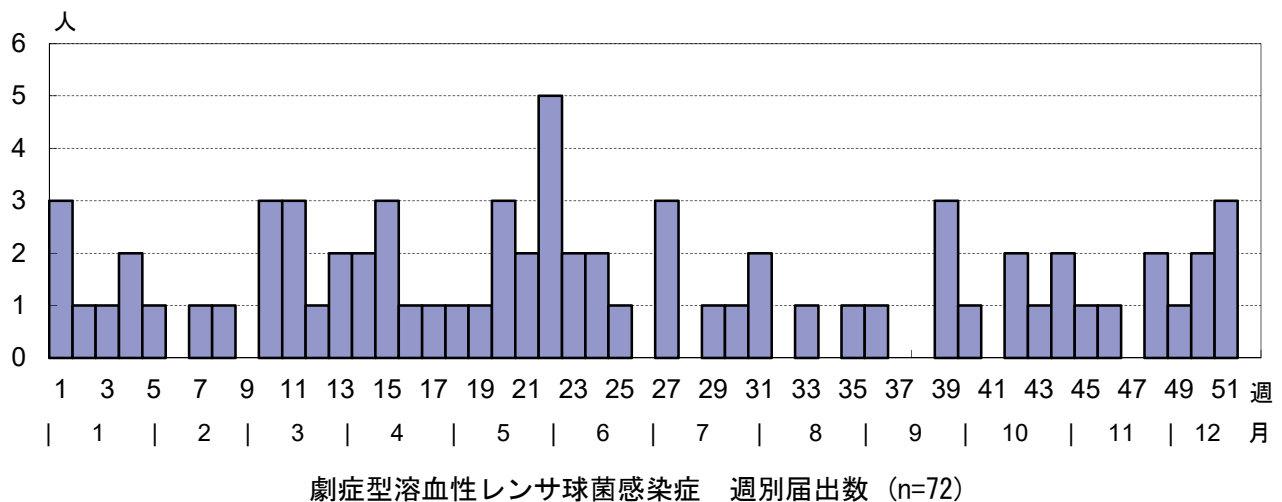
症状 6 人、視覚異常 6 人、小脳症状 5 人、筋強剛 3 人、臨床的に頑固な不眠 2 人、異常感覚、眼球運動障害各 1 人が認められた。

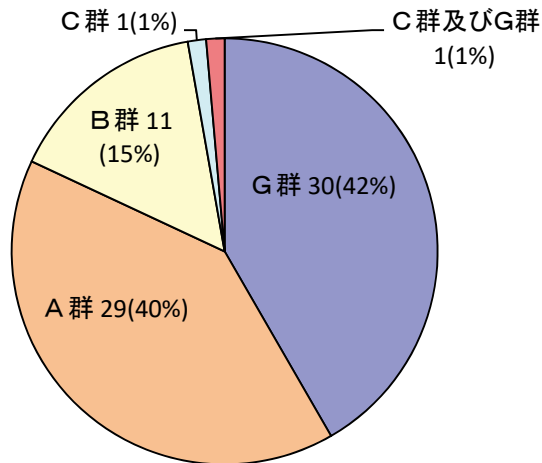
遺伝性プリオン病 3 人の症状のうち、進行性認知症が 3 人すべてに認められたほか、記憶障害、精神・知能障害 2 人、錐体路症状、錐体外路症状、筋強剛各 1 人が認められた。

⑦ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2017 年は 72 人の届出があり、過去 10 年で最も多い届出数となった。性別は男性 36 人、女性 36 人で、年齢階級別では 10 歳未満 1 人（すべて 5 歳未満）、20～29 歳 2 人、30～39 歳 3 人、40～49 歳 6 人、50～59 歳 9 人、60～69 歳 16 人、70 歳以上 35 人であった。死亡例は 17 人（50～59 歳 3 人、60～69 歳 1 人、70 歳以上 13 人）報告された。

また、推定感染地は国内 71 人、国外 1 人（カナダ 1 人）であった。推定感染経路は創傷感染 27 人、飛沫・飛沫核感染 5 人、創傷感染又は輸血の可能性 1 人、不明 39 人であった。





劇症型溶血性レンサ球菌感染症 血清群別割合 (n=72)

⑧ 後天性免疫不全症候群

2017 年は 464 人の届出があり、AIDS 患者 97 人、HIV 感染者 367 人（指標疾患以外の有症者 54 人、無症候性キャリア 313 人）であった。

AIDS 患者 97 人の内訳は男性 87 人、女性 10 人で、年齢階級別では 10 歳未満 1 人（すべて 5 歳未満）、20～29 歳 9 人、30～39 歳 32 人、40～49 歳 26 人、50～59 歳 14 人、60～69 歳 14 人、70 歳以上 1 人であった。

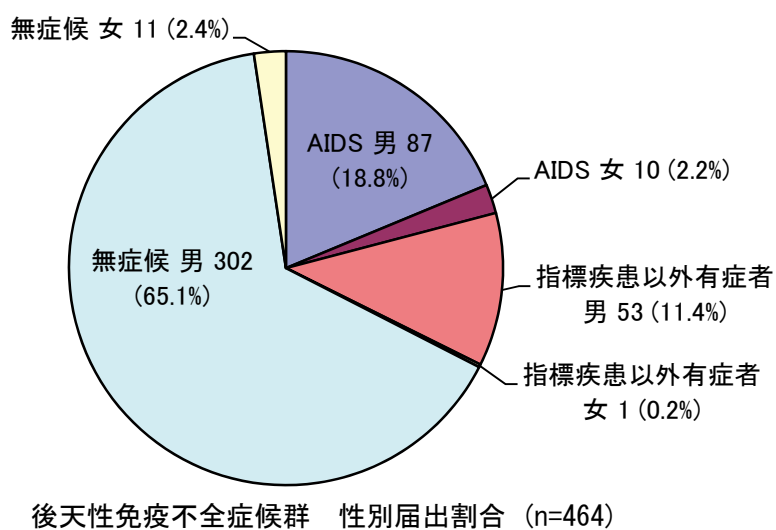
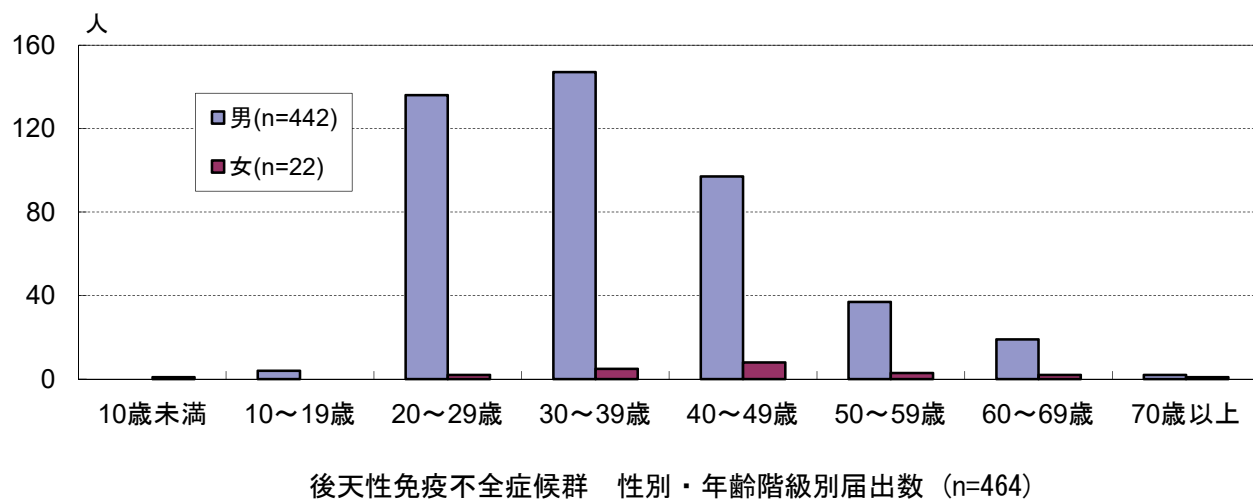
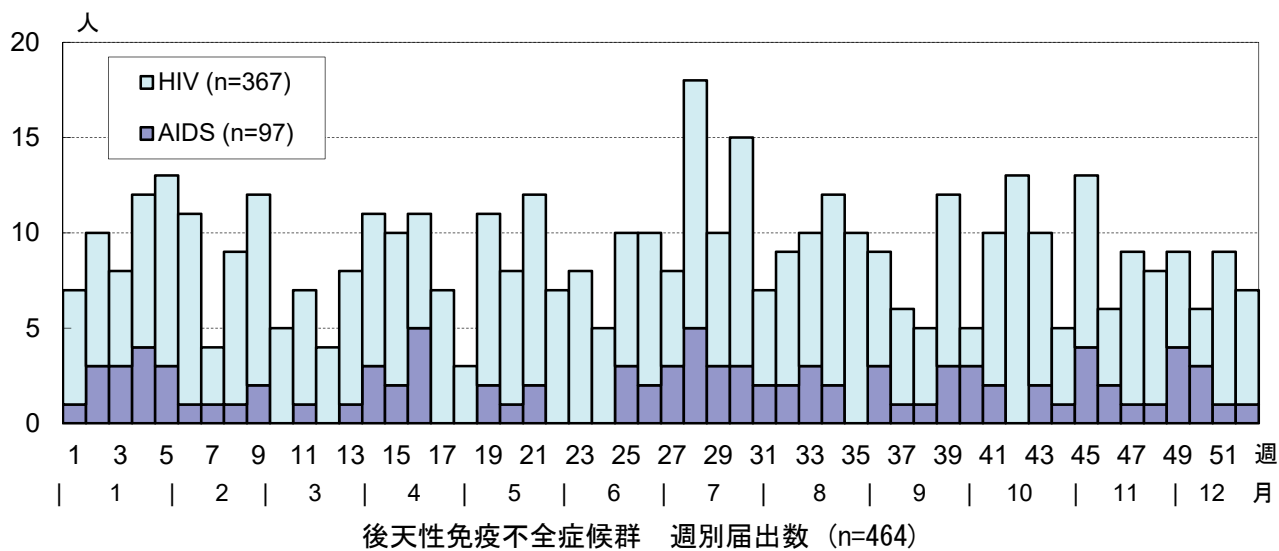
HIV 感染者のうち指標疾患以外の有症者の 54 人内訳は男性 53 人、女性 1 人で、年齢階級別では 20～29 歳 17 人、30～39 歳 16 人、40～49 歳 13 人、50～59 歳 6 人、60～69 歳 1 人、70 歳以上 1 人であった。

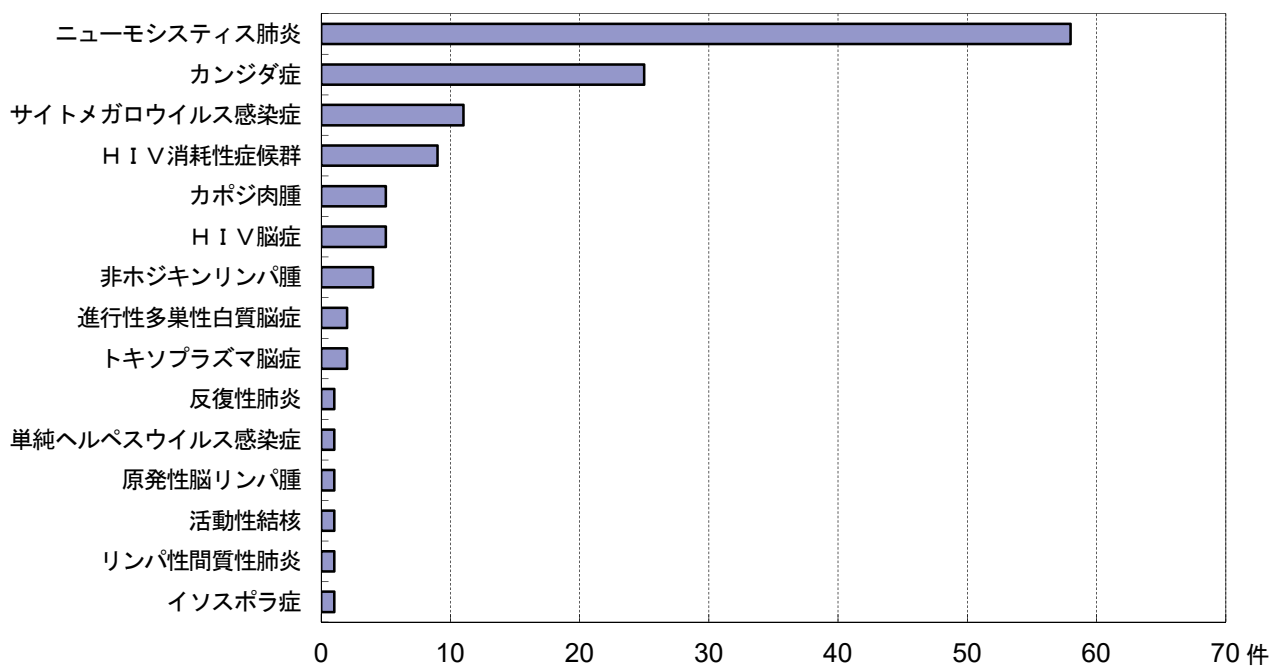
HIV 感染者のうち無症候性キャリアの 313 人の内訳は男性 302 人、女性 11 人で、年齢階級別では 10～19 歳 4 人、20～29 歳 112 人、30～39 歳 104 人、40～49 歳 66 人、50～59 歳 20 人、60～69 歳 6 人、70 歳以上 1 人であった。

推定感染地は国内 375 人、国外 24 人、国内又は国外 13 人、不明 52 人であった。国外感染例 24 人の推定感染地域は、東南アジア 10 人、東アジア 7 人、ヨーロッパ 3 人、南アジア 1 人、2 地域以上 1 人、不明 2 人であった。推定感染国別に見ると、中国 6 人、タイ 4 人、ベトナム 2 人、インドネシア 2 人、ミャンマー 2 人、ネパール、香港、イギリス、イタリア、ジョージア、ミャンマー又は中国又は米国各 1 人、渡航先不明 2 人であった。

推定感染経路は性的接触 419 人（同性間 338 人、異性間 60 人、両性間 18 人、不明 3 人）、静注薬物使用 2 人、刺青 1 人、母子感染 1 人、2 経路以上 4 人（同性間性的接触又は静注薬物使用 2 人、同性間性的接触又は輸血 1 人、同性間性的接触又はカミソリ共有 1 人）、不明 37 人であった。

母子感染者は 5 歳未満の AIDS 患者で推定感染地は国外であり両親ともに HIV 罹患者であった。





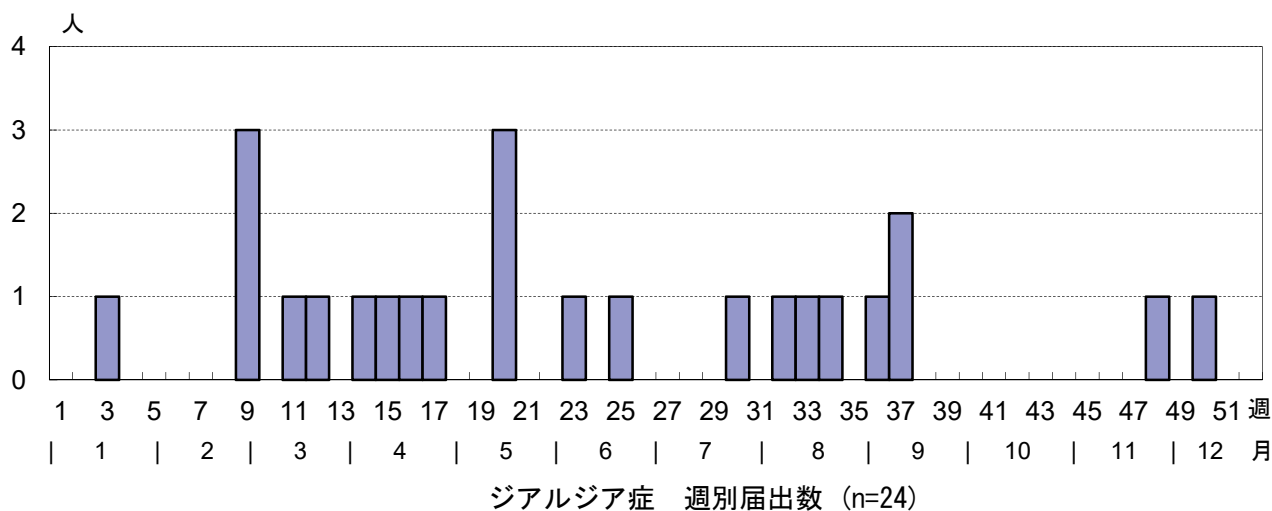
AIDSと診断した指標疾患（n=97、重複あり）

⑨ ジアルジア症

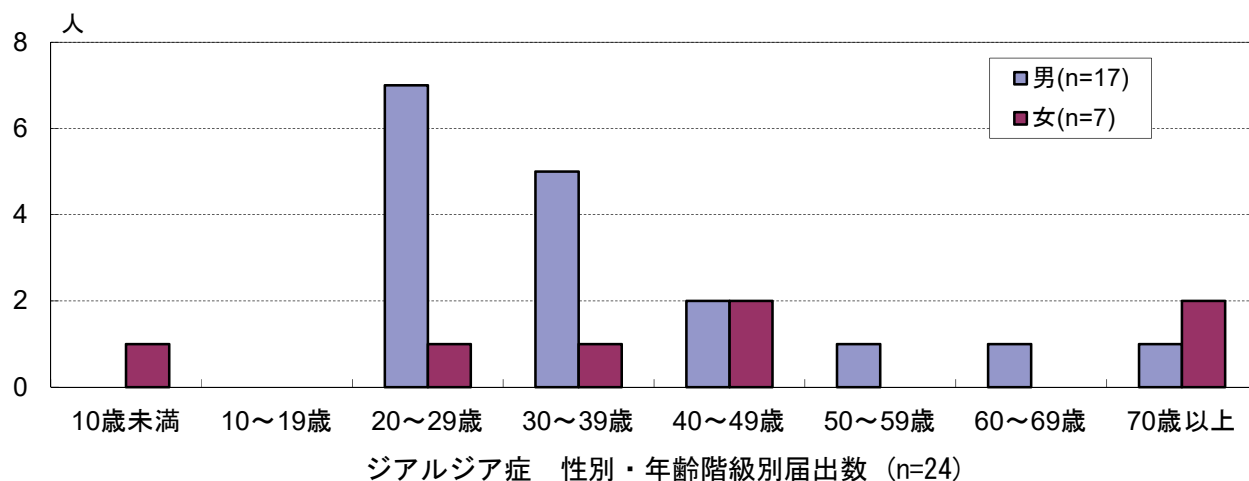
2017年は24人の届出があった。性別は男性17人、女性7人で、年齢階級別では10歳未満1人（すべて5歳未満）、20～29歳8人、30～39歳6人、40～49歳4人、50～59歳1人、60～69歳1人、70歳以上3人であった。

推定感染地は国内15人、国外8人、国内又は国外（香港）1人であった。国外感染例8人を推定感染国別に見ると、インド4人、中国、エジプト、ジンバブエ、インド又はタイ各1人であった。

推定感染経路は、経口感染6人、性的接触9人（同性間7人、異性間2人）、水系感染2人、同性間性的接触又はペットショップでの動物との接触1人、不明6人であった。



ジアルジア症 週別届出数（n=24）

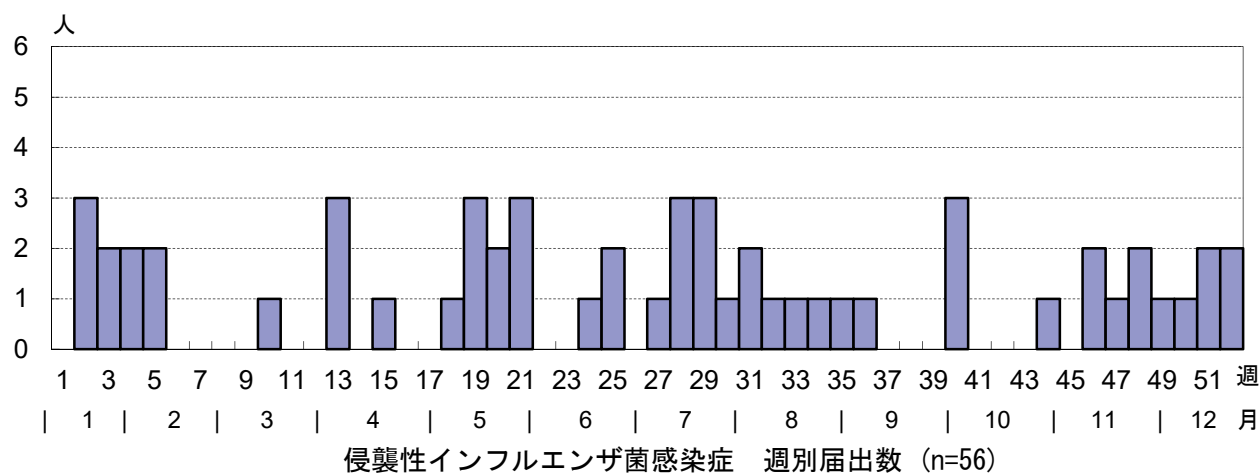


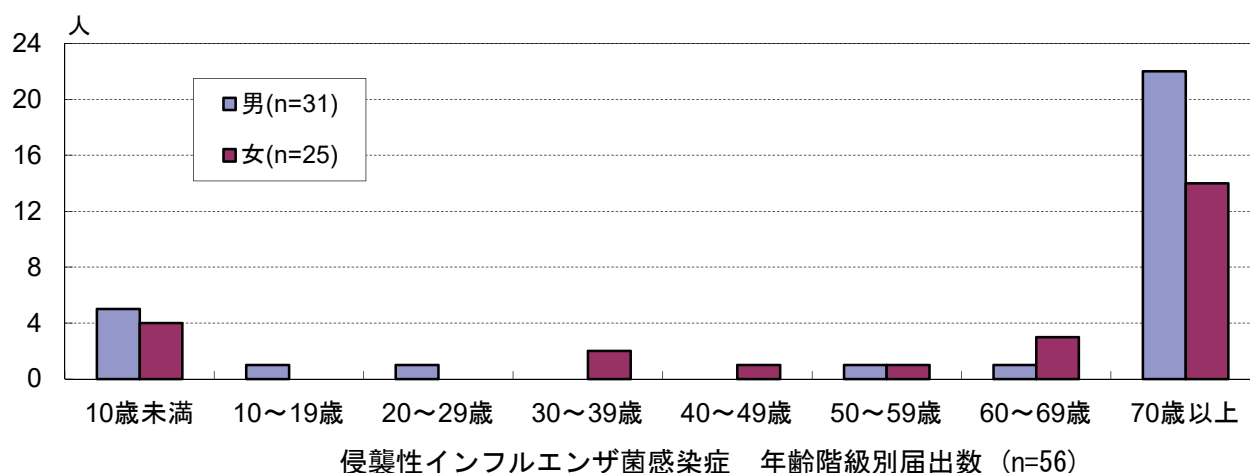
⑩ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2017年は56人の届出があった。性別は男性31人、女性25人で、年齢階級別では10歳未満9人（うち5歳未満7人）、10～19歳1人、20～29歳1人、30～39歳2人、40～49歳1人、50～59歳2人、60～69歳4人、70歳以上36人で、死亡例は5人報告された。

血清型e型1人、f型1人、無莢膜型1人、型別不明41人、検査未実施12人であった。

推定感染地はすべて国内であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染18人、接触感染（施設内感染の疑い）1人、飛沫・飛沫核感染又は気道感染1人、不明36人であった。Hibワクチン接種歴は4回接種が2人、3回接種が3人、1回接種が2人（いずれも10歳未満）のほか、接種なし14人、不明35人であった。





⑪ 侵襲性髄膜炎菌感染症

2017 年は 3 人の届出があった。性別は男性 2 人、女性 1 人であった。年齢階級別では 20～29 歳 1 人、60～69 歳 1 人、70 歳以上 1 人であった。

血清群は Y 群 2 人、不明 1 人であった。

推定感染地はすべて国内で、感染経路はすべて不明であった。ワクチン接種歴は、なし 1 人、不明 2 人であった。

⑫ 侵襲性肺炎球菌感染症

2017 年は 390 人の届出があった。性別は男性 233 人、女性 157 人であった。年齢階級別では 10 歳未満 50 人（うち 5 歳未満 39 人）、10～19 歳 3 人、20～29 歳 5 人、30～39 歳 22 人、40～49 歳 32 人、50～59 歳 27 人、60～69 歳 78 人、70 歳以上 173 人で、死亡例は 18 人報告された。

推定感染地は国内 383 人、国外 4 人（中国、スリランカ、スペイン、タイ又はベトナム各 1 人）、国内又は国外 3 人（バーレーン 1 人、渡航先不明 2 人）であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 141 人、接触感染 7 人、飛沫・飛沫核感染又は不明 1 人、不明 241 人であった。

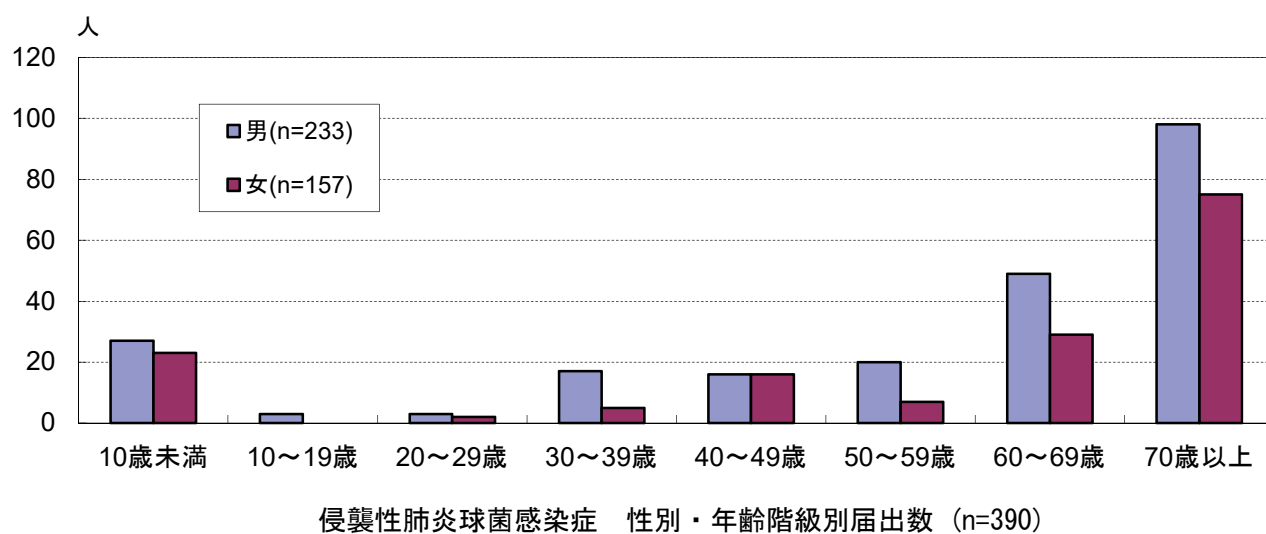
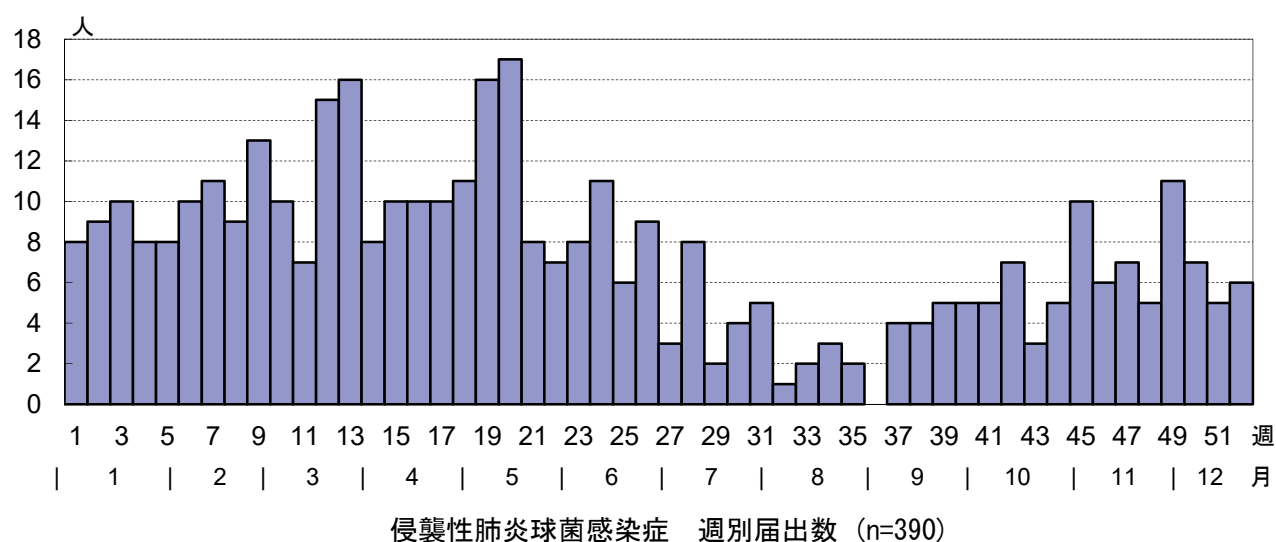
ワクチン接種歴は 4 回接種 18 人、3 回接種 14 人、2 回接種 5 人、1 回接種 12 人、価数不明かつ 1 回以上接種歴有 37 人、なし 185 人、不明 119 人であった。届出のうち、血清型が判明したのは 104 人であった。

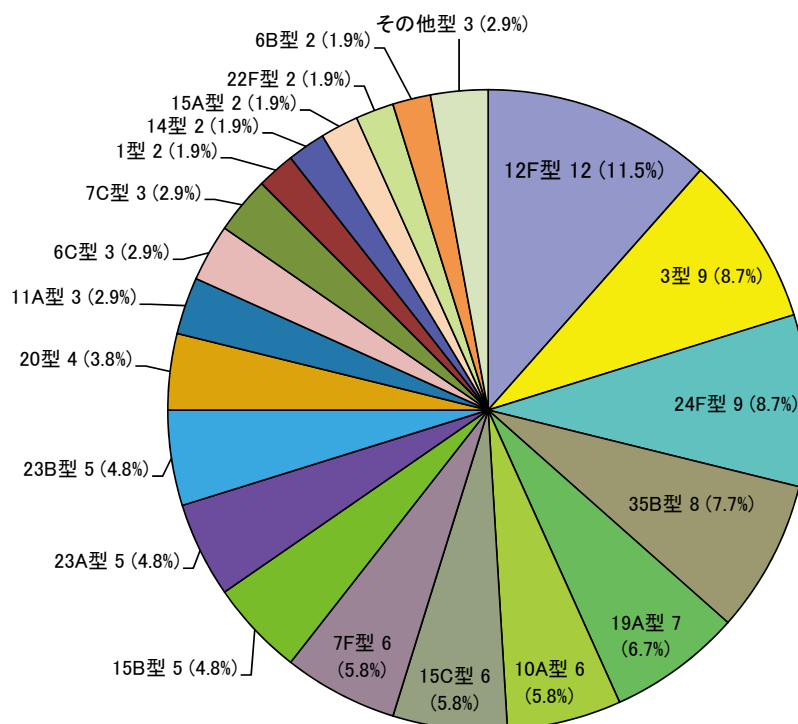
年齢階級別・種類別ワクチン接種歴 (n=390)

	7 価		7 価 3 回		13 価			10 価
	4 回	1 回	13 価 1 回	4 回	3 回	2 回	1 回	3 回
5 歳未満		1	1	11	13	2	1	1
5～9 歳	6							
10～64 歳								
65 歳以上								
合 計	6	1	1	11	13	2	1	1

(表の続き)

年齢階級別・種類別ワクチン接種歴 (n=390)						
	23 価		価数不明 接種歴有	なし	不明	合計
	2 回	1 回				
5 歳未満			7		2	39
5～9 歳			4	1		11
10～64 歳		1		88	33	122
65 歳以上	3	9	26	96	84	218
合 計	3	10	37	185	119	390



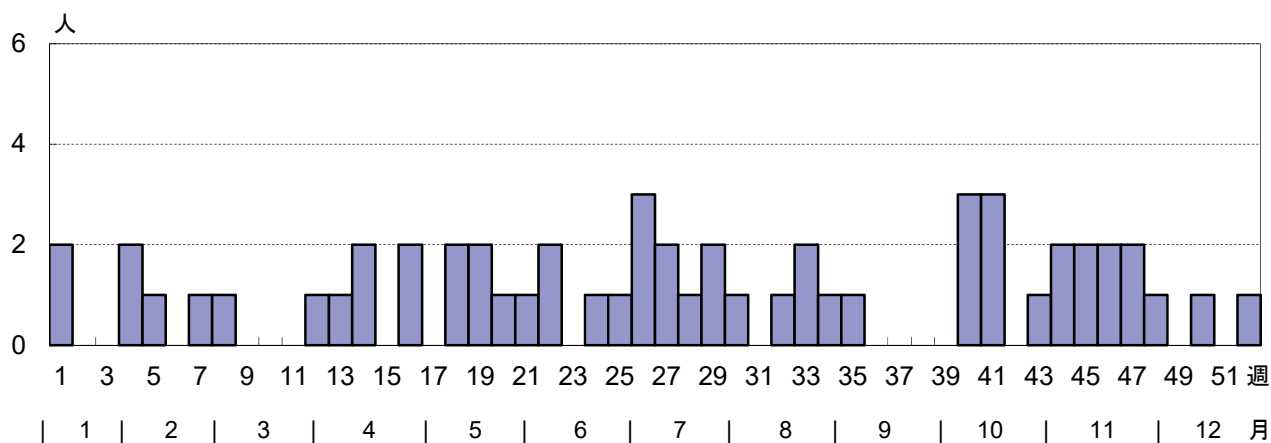


侵襲性肺炎球菌感染症 血清型 (n=104)

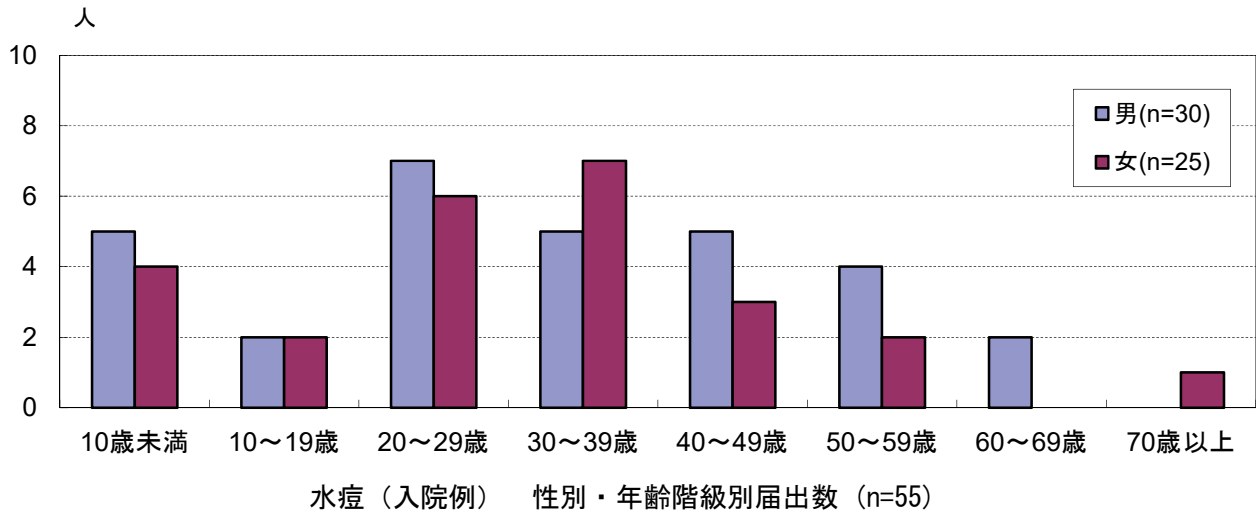
⑬ 水痘（入院例）

2017 年は 55 人の届出があった。性別は男性 30 人、女性 25 人で、年齢階級別では 10 歳未満 9 人、10～19 歳 4 人、20～29 歳 13 人、30～39 歳 12 人、40～49 歳 8 人、50～59 歳 6 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 1 人であった。死亡例の報告はなかった。

推定感染地は国内 53 人、国外（ドイツ）1 人、国内又は国外（米国）1 人で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 22 人、接触感染 3 人、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 4 人、院内感染 1 人、免疫不全 1 人、不明 24 人であった。ワクチン接種歴は 2 回接種 3 人、1 回接種 15 人、なし 12 人、不明 25 人であった。



水痘（入院例） 週別届出数 (n=55)



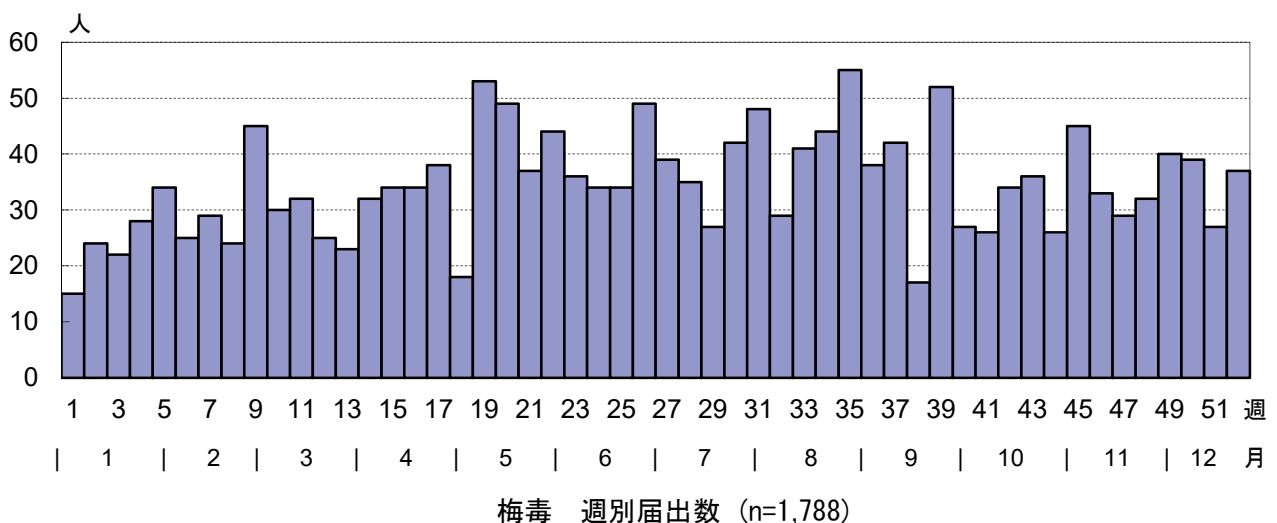
⑭ 梅毒

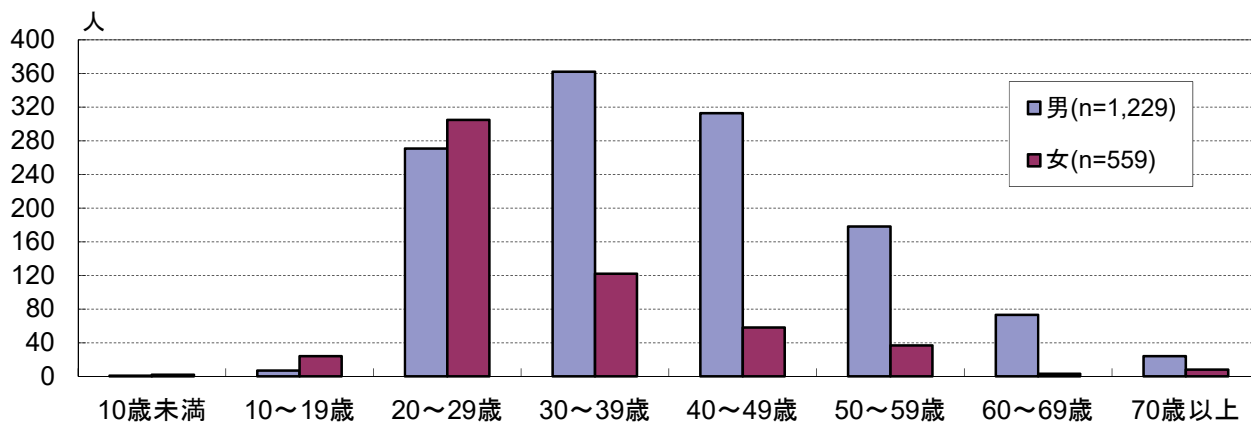
2017 年は 1,788 人の届出があり、調査開始以来（1999 年）、最も多い届出数となった。早期顕症梅毒Ⅰ期 584 人、早期顕症梅毒Ⅱ期 700 人、晩期顕症梅毒 26 人、無症候 474 人、先天梅毒 4 人であった。性別は男性 1,229 人、女性 559 人であった。年齢階級別では 10 歳未満 3 人、10～19 歳 31 人、20～29 歳 576 人、30～39 歳 484 人、40～49 歳 371 人、50～59 歳 215 人、60～69 歳 76 人、70 歳以上 32 人で、20～49 歳の男性が全体の 52.9%を占めた。一方、20～29 歳 576 人のうち女性が 305 人で 53.0%を占めた。

推定感染地は国内 1,750 人、国外 28 人、国内又は国外 10 人であり、国外感染例 28 人の推定感染国は、タイ 11 人、中国 5 人、ベトナム 2 人、マレーシア 2 人、フィリピン、インドネシア、ミャンマー、シンガポール、米国、モロッコ各 1 人、東南アジア（渡航国不明）2 人であった。

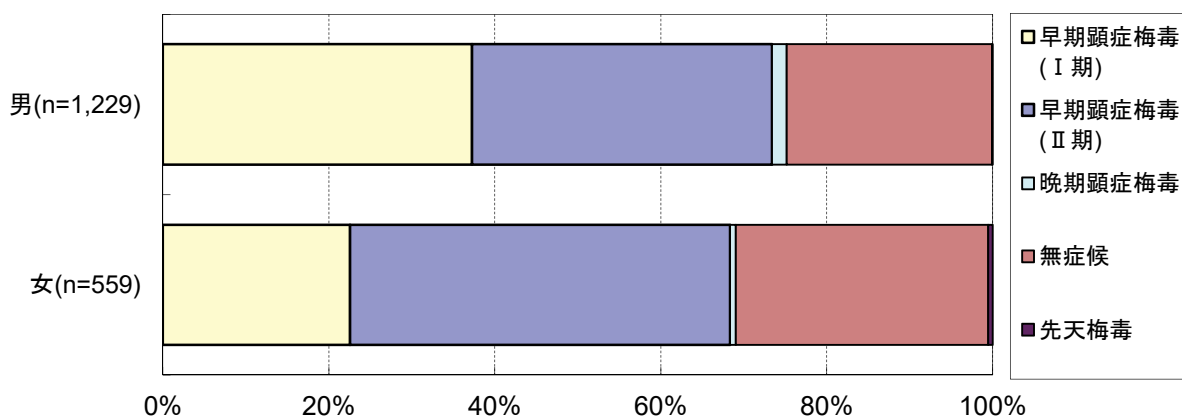
推定感染経路は性的接触 1,714 人（同性間 376 人、異性間 1078 人、両性間 12 人、性別不明 248 人）、母子感染 4 人、静注薬物常用または針等の鋭利なものの刺入による感染 2 人、不明 68 人となった。

先天性梅毒の 4 人はすべて母子感染で新生児 3 人、70 歳以上 1 人であった。

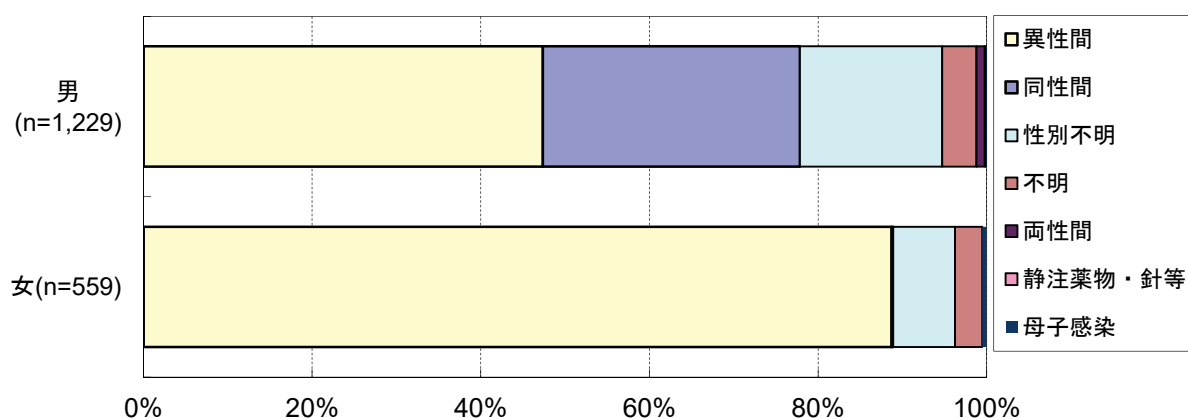




梅毒 性別・年齢階級別届出数 (n=1,788)



梅毒 性別病型届出数 (n=1,788)



梅毒 性別推定感染経路 (n=1,788)

⑮ 播種性クリプトコックス症

2017 年は 15 人の届出があった。性別は男性 9 人、女性 6 人で、年齢階級別では 20～29 歳 1 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 1 人、50～59 歳 1 人、60～69 歳 5 人、70 歳以上 6 人であった。死亡例は 2 人

報告された。推定感染国はすべて国内であった。推定感染原因は免疫不全 12 人（ステロイド加療中 4 人、癌化学療法中、多発性硬化症、腎移植後、誤嚥性肺炎、リンパ腫化学療法中、HIV 各 1 人、状況不明 2 人）、末期癌患者 1 人、不明 2 人であった。

⑯ 破傷風

2017 年は 9 人の届出があった。性別は男性 7 人、女性 2 人で、年齢階級別では 10～19 歳 1 人、20～29 歳 1 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 2 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 2 人であった。推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は創傷感染 8 人、不明 1 人であった。破傷風含有ワクチン接種歴は、あり 3 人（すべて詳細不明）、なし 3 人、不明 3 人であった。

⑰ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

2017 年は 8 人の届出があった。性別は男性 6 人、女性 2 人で、年齢階級別では 50～59 歳 1 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 5 人であった。菌種はすべて *Enterococcus faecium*、耐性遺伝子は *vanA* 1 人、*vanB* 4 人、不明 3 人であった。

推定感染地はすべて国内であった。推定感染経路は抗生剤使用による耐性 2 人、接触感染 1 人、結腸膀胱瘻 1 人、不明 4 人であった。

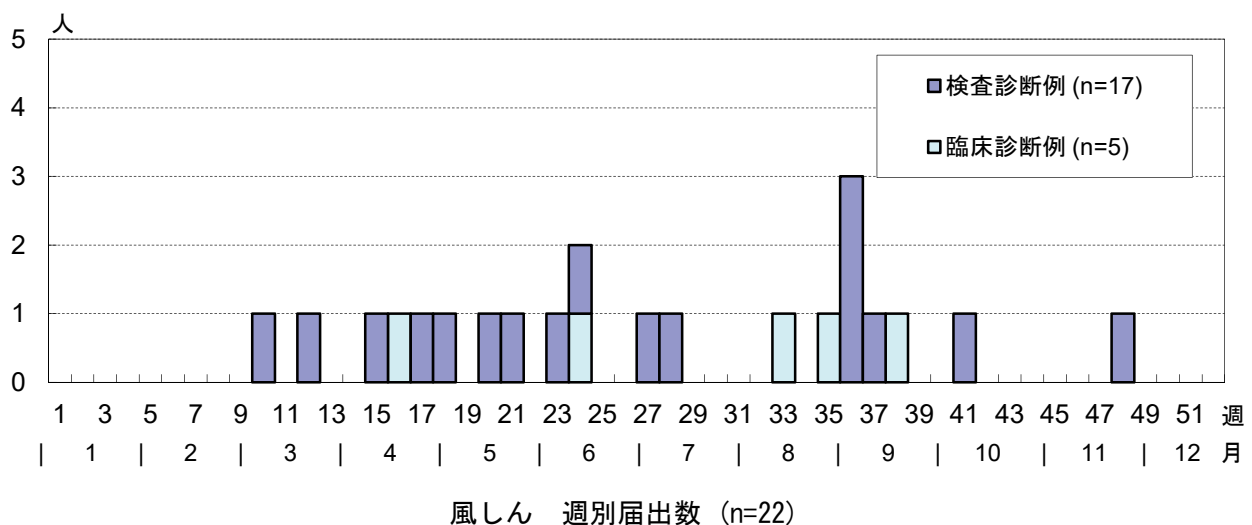
⑱ 風しん

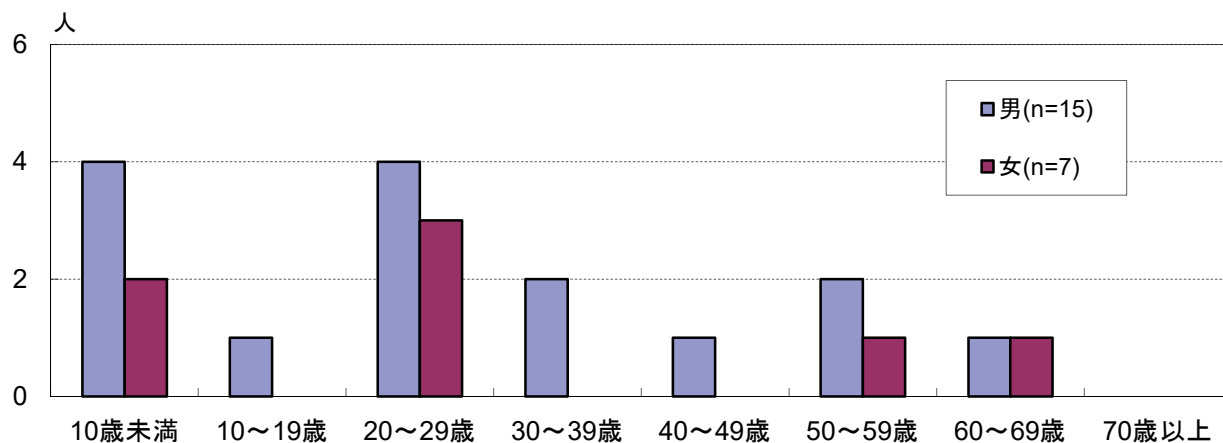
2017 年の届出は 22 人であった。検査診断例 17 人（うち PCR 陽性例は 5 例）、臨床診断例 5 人であった。

性別は男性 15 人、女性 7 人で、年齢階級別では 10 歳未満 6 人（すべて 5 歳未満）、10～19 歳 1 人、20～29 歳 7 人、30～39 歳 2 人、40～49 歳 1 人、50～59 歳 3 人、60～69 歳 2 人であった。

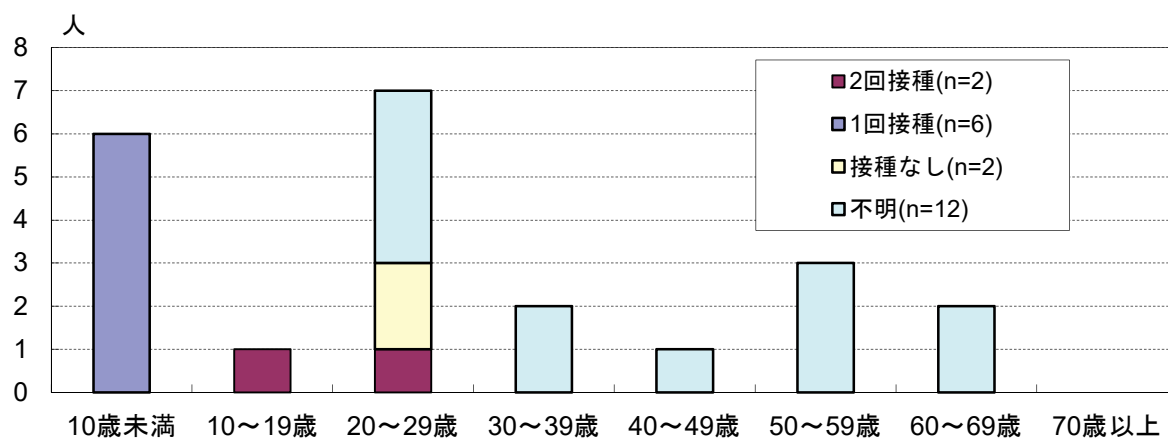
推定感染地は国内 20 人、国外 1 人（フィリピン）、国内又は国外（イタリア又はスイス）1 人であった。

風しん含有ワクチン接種歴は、2 回接種 2 人、1 回接種 6 人、接種歴なし 2 人、不明 12 人であった。





風しん 性別・年齢階級別届出数 (n=22)



風しん 年齢別・接種歴別届出数 (n=22)

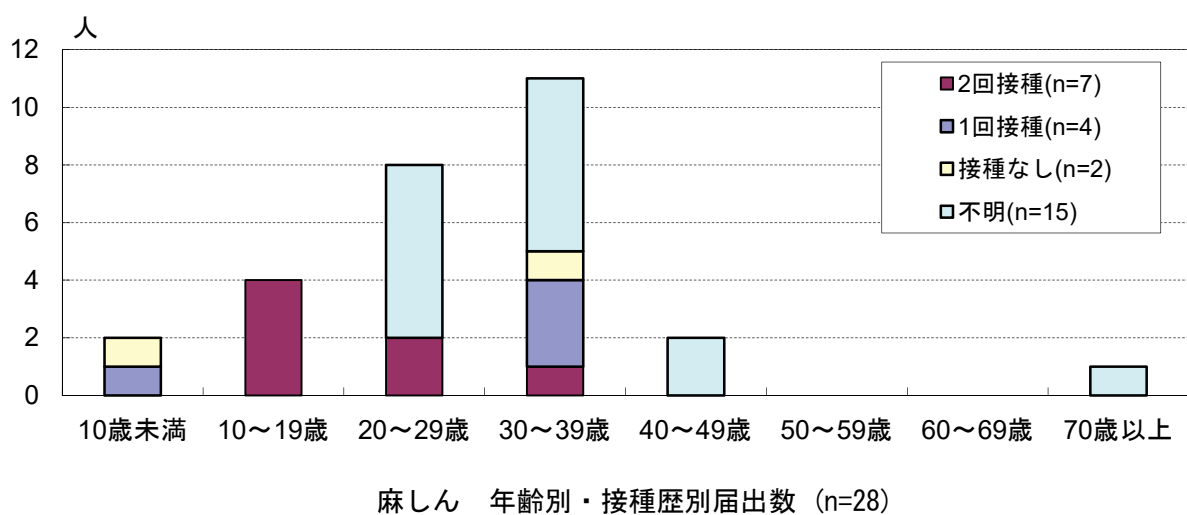
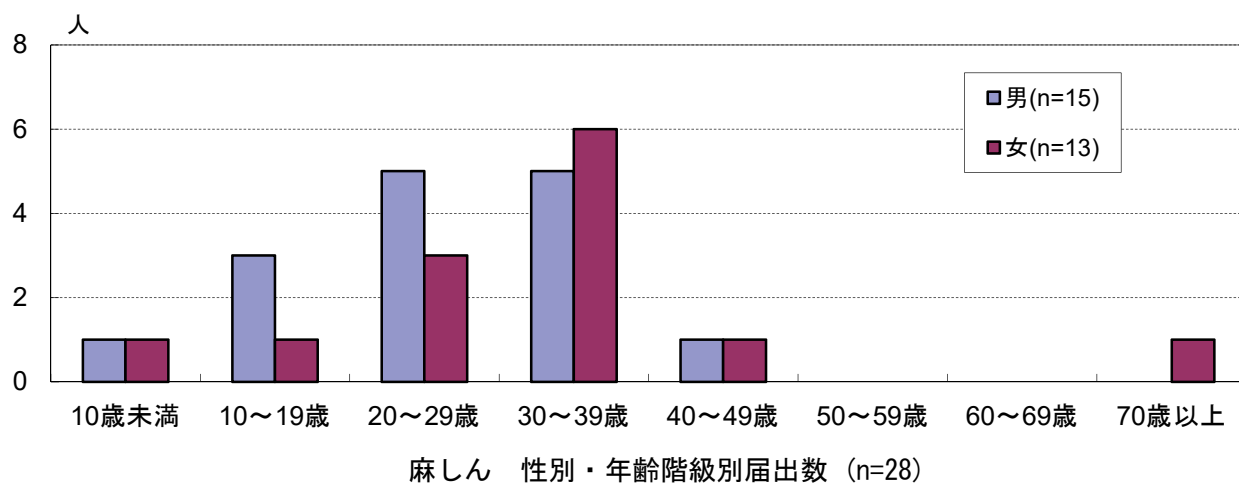
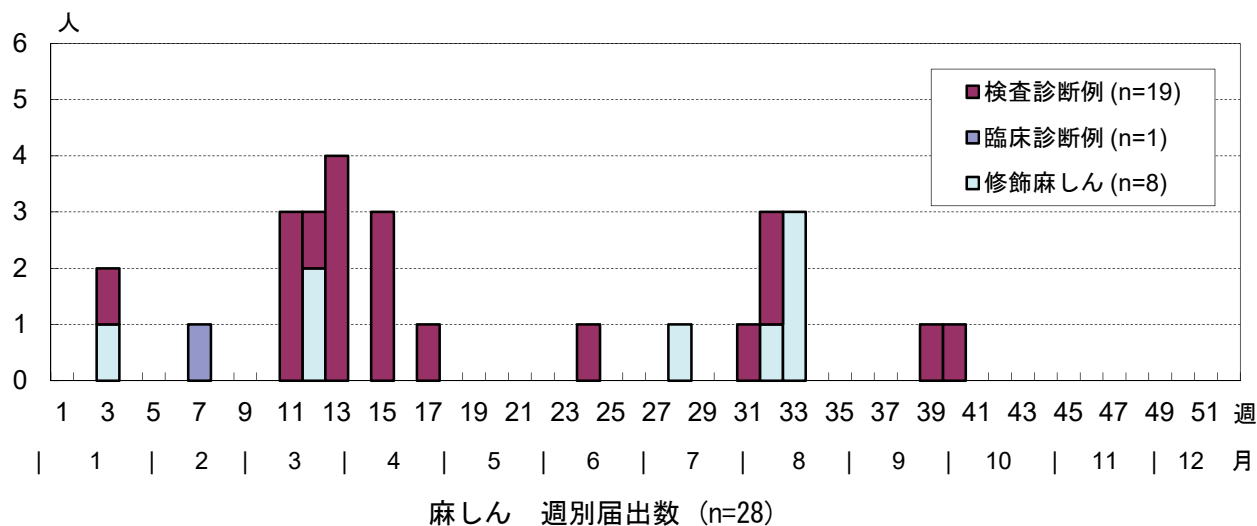
⑨ 麻しん

2017年は28人の届出があった。検査診断例19人、臨床診断例1人、修飾麻しん8人であった。肺炎の合併の報告が1例あった。症例の集積は、第12週に東北地方における同一自動車学校関連が3人（遺伝子型D8）、第15週に首都圏大学の合宿所関連が3人（遺伝子型D8）であった。

性別は男性15人、女性13人で、年齢階級別では10歳未満2人（うち5歳未満1人）、10～19歳4人、20～29歳8人、30～39歳11人、40～49歳2人、70歳以上1人であった。推定感染地は国内23人、国外5人であった。国外感染例5人の推定感染国はインドネシア2人、タイ1人、ミャンマー1人、タイ又はカンボジア1人であった。

麻しん含有ワクチン接種歴は、2回接種7人、1回接種4人、接種なし2人、不明15人であった。

2017年にPCR検査で麻しんウイルス陽性が確認された例は25件あり、それらの遺伝子型別の内訳はD8型24件、H1型1人でD8が96.0%を占めた。また、A型（ワクチン株のため届出対象外）2件であった。



麻しん届出例 (n=28)

受理日	性別	年齢	遺伝子型	推定感染地域	ワクチン接種歴
1/20	女	32	D8	国内	1回
1/20	女	24	H1	国外 (ミャンマー)	不明

2/13	男	8	判定保留	国内	1 回
3/13	男	30	D8	国外（インドネシア）	不明
3/16	女	19	D8	国内	2 回
3/16	男	40	D8	国外（タイ又はカンボジア）	不明
3/22	男	18	D8	国内	2 回
3/22	男	18	D8	国内	2 回
3/22	男	21	D8	国内	不明
3/27	男	38	D8	国内	2 回
3/27	女	33	D8	国内	不明
3/29	男	21	D8	国内	2 回
3/30	男	34	D8	国内	1 回
4/10	男	19	D8	国内	2 回
4/12	男	21	D8	国内	2 回
4/12	男	20	D8	国内	不明
4/27	女	40	D8	国内	不明
6/16	女	38	不明	国内	不明
7/11	女	74	不明	国内	不明
8/4	女	33	D8	国外（インドネシア）	不明
8/9	男	25	D8	国内	不明
8/10	女	30	D8	国内	1 回
8/11	女	33	D8	国内	不明
8/15	女	25	D8	国内	不明
8/15	女	26	D8	国内	不明
8/15	男	34	D8	国内	不明
9/28	女	2	D8	国外（タイ）	なし
10/4	男	37	D8	国内	なし

⑳ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

2017 年は 6 人の届出があった。性別は男性 4 人、女性 2 人で、60～69 歳 3 人、70 歳以上 3 人であった。推定感染国はすべて国内で、推定感染原因は手術部位感染（縫合不全）1 人、医療器具関連感染（人工呼吸器）1 人、その他（肺炎からの派生 1 人、不明 3 人）4 人であった。

㉑ その他の五類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

先天性風しん症候群（CRS）、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

表3-1(1) 一、二、三類感染症 週別患者報告数

2017年第1週～2017年第52週

週	期 間	一 類							二 類							三 類				
		エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	鳥インフルエンザ (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
1	1. 2～ 1. 8																2			
2	1. 9～ 1.15																1	2		
3	1.16～ 1.22																	3		
4	1.23～ 1.29																3	3		
5	1.30～ 2. 5																1			
6	2. 6～ 2.12																1		1	
7	2.13～ 2.19																	1		
8	2.20～ 2.26																1			
9	2.27～ 3. 5																	2		
10	3. 6～ 3.12																1			1
11	3.13～ 3.19																	2		
12	3.20～ 3.26																	2		
13	3.27～ 4. 2																1	6		1
14	4. 3～ 4. 9																1	2		
15	4.10～ 4.16																1	4		
16	4.17～ 4.23																1	5		
17	4.24～ 4.30																	2	1	
18	5. 1～ 5. 7																	1		
19	5. 8～ 5.14																1	1		
20	5.15～ 5.21															1	2	4		
21	5.22～ 5.28																	5		
22	5.29～ 6. 4																1	2		1
23	6. 5～ 6.11																	2		
24	6.12～ 6.18																1	5		
25	6.19～ 6.25																	5	1	
26	6.26～ 7. 2																	4	2	
27	7. 3～ 7. 9																	7	1	1
28	7.10～ 7.16																	9		
29	7.17～ 7.23																2	9		
30	7.24～ 7.30																1	19		
31	7.31～ 8. 6																2	18		
32	8. 7～ 8.13																	58	1	1
33	8.14～ 8.20																	73		
34	8.21～ 8.27																	38		
35	8.28～ 9. 3																2	36		
36	9. 4～ 9.10																	30		
37	9.11～ 9.17																1	28		1
38	9.18～ 9.24															1	1	21	1	
39	9.25～10. 1																	7		
40	10. 2～10. 8																1	1		
41	10. 9～10.15																	13		
42	10.16～10.22																	6		
43	10.23～10.29																1	7		
44	10.30～11. 5																1	2		
45	11. 6～11.12																	6		
46	11.13～11.19																	4		
47	11.20～11.26																	1		
48	11.27～12. 3																2	8		
49	12. 4～12.10																			
50	12.11～12.17																			
51	12.18～12.24																1	1		
52	12.25～12.31																	2		
合 計																2	34	467	8	6

* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-1(2) 四類感染症 週別患者報告数

2017年第1週～2017年第52週

週	期 間	四 類														
		E 型 肝 炎	A 型 肝 炎	エ キ ノ コ ツ ク ス 症	回 帰 熱	コ ク シ ジ オ イ デ ス 症	チ ク ン グ ニ ア 熱	つ つ が 虫 病	デ ン グ 熱	日 本 紅 斑 熱	ボ ツ リ ヌ ス 症	マ ラ リ ア	ラ イ ム 病	類 鼻 疽	レ ジ オ ネ ラ 症	レ プ ト ス ピ ラ 症
1	1. 2～ 1. 8	2							1						3	
2	1. 9～ 1.15							1	2						3	
3	1.16～ 1.22		3						2			2			3	
4	1.23～ 1.29	1							1						1	
5	1.30～ 2. 5	3						1	1						2	
6	2. 6～ 2.12		1												2	1
7	2.13～ 2.19	1	2												4	
8	2.20～ 2.26	2	1						1						2	
9	2.27～ 3. 5	4	6								1				4	
10	3. 6～ 3.12		5												2	
11	3.13～ 3.19	2	6						2			1				
12	3.20～ 3.26	1							1						2	
13	3.27～ 4. 2		1						1			1			4	
14	4. 3～ 4. 9	1	1						3						2	
15	4.10～ 4.16		2						1						1	
16	4.17～ 4.23	2	4												1	
17	4.24～ 4.30	3	3				1		1						1	
18	5. 1～ 5. 7	1													4	
19	5. 8～ 5.14	3	1						1			1			3	
20	5.15～ 5.21	1	1												4	
21	5.22～ 5.28	1	2												4	
22	5.29～ 6. 4	1	3												2	
23	6. 5～ 6.11	1													1	
24	6.12～ 6.18	2	2						1			1				
25	6.19～ 6.25	3	2						2					1	1	
26	6.26～ 7. 2	1	1						5			1			3	
27	7. 3～ 7. 9		2		1		1		1						4	
28	7.10～ 7.16	1		1					1			2	1		5	2
29	7.17～ 7.23	1							1			1			5	
30	7.24～ 7.30								2			1			4	
31	7.31～ 8. 6	2	1			1		1	3							
32	8. 7～ 8.13	1							2			3			7	
33	8.14～ 8.20		2						2						4	
34	8.21～ 8.27	2							5	1		1			6	
35	8.28～ 9. 3	2							3			3			8	
36	9. 4～ 9.10	1							3			3			3	2
37	9.11～ 9.17		1						3						3	1
38	9.18～ 9.24	1	1						2						2	
39	9.25～10. 1								2						4	
40	10. 2～10. 8	2			1				1			1			5	
41	10. 9～10.15														6	1
42	10.16～10.22		4						2			1			2	1
43	10.23～10.29		1						2						4	
44	10.30～11. 5		1					1				2			3	1
45	11. 6～11.12	3						1	4						6	
46	11.13～11.19														4	
47	11.20～11.26											1			2	
48	11.27～12. 3	2	1					2							2	
49	12. 4～12.10										1	1			3	
50	12.11～12.17						1	2							5	
51	12.18～12.24	3	3					1							1	
52	12.25～12.31		1					3							2	
合 計		57	65	1	2	1	3	13	65	1	2	27	1	1	159	9

表3-1(3) 五類(全数把握)感染症 週別患者報告数

2017年第1週～2017年第52週

週	期 間	五 類																			
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻疹	薬剤耐性アシネトバクター感染症
1	1. 2～ 1. 8			4				3	7				8	2	15	2		1			
2	1. 9～ 1.15	4	1	3	3			1	10		3		9		24						
3	1.16～ 1.22	8	1	4	2			1	8	1	2		10		22	1				2	
4	1.23～ 1.29	3		4	2			2	12		2		8	2	28						
5	1.30～ 2. 5	7	1	4	3			1	13		2		8	1	34			1			
6	2. 6～ 2.12	4	2	3	2		2		11				10		25			1			
7	2.13～ 2.19	7	3	2	2		1	1	4				11	1	29	1	1			1	
8	2.20～ 2.26	7		2	1		1	1	9				9	1	24						
9	2.27～ 3. 5	2		3	1				12	3			13		45						
10	3. 6～ 3.12	4	1	2			2	3	5		1		10		30	1			1		
11	3.13～ 3.19	5	1	5	3		1	3	7	1			7		32					3	
12	3.20～ 3.26	3	5	2	1			1	4	1			15	1	25				1	3	
13	3.27～ 4. 2	6		6	1			2	8		3	1	16	1	23					4	
14	4. 3～ 4. 9	2	3	4				2	11	1			8	2	32						
15	4.10～ 4.16	5		5	1			3	10	1	1		10		34	2			1	3	
16	4.17～ 4.23	2	2	5	3			1	11	1			10	2	34			1	1		1
17	4.24～ 4.30	3	1	2	1			1	7	1			10		38				1	1	
18	5. 1～ 5. 7			3	2			1	3		1		11	2	18				1		
19	5. 8～ 5.14	4		6				1	11		3		16	2	53						
20	5.15～ 5.21	3		6	1			3	8	3	2		17	1	49	1			1		
21	5.22～ 5.28	3	2					2	12		3		8	1	37				1		
22	5.29～ 6. 4	5	1	4	1			5	7				7	2	44	1	1				
23	6. 5～ 6.11	3	1	3				2	8	1			8		36			1	1		
24	6.12～ 6.18	9	1	8				2	5		1		11	1	34	1			2	1	
25	6.19～ 6.25	6	2	3	2			1	10	1	2	1	6	1	34						
26	6.26～ 7. 2	5	2	3	2		1		10				9	3	49						
27	7. 3～ 7. 9	4	1	2	3			3	8		1		3	2	39			1	1		
28	7.10～ 7.16	1	2	9	1				18		3		8	1	35				1	1	
29	7.17～ 7.23	4		4	1		2	1	10		3		2	2	27						
30	7.24～ 7.30	7	1	5	3			1	15	1	1		4	1	42						
31	7.31～ 8. 6	1	2	6	1			2	7		2		5		48		1			1	
32	8. 7～ 8.13	3	2	3	1				9	1	1		1	1	29					3	
33	8.14～ 8.20	4	1	5			2	1	10	1	1		2	2	41				1	3	
34	8.21～ 8.27	2	2	6	3		1		12	1	1		3	1	44						1
35	8.28～ 9. 3	3	3	5	1			1	10		1		2	1	55			1	1		
36	9. 4～ 9.10	4	1	2	5			1	9	1	1				38				3		
37	9.11～ 9.17	4		5		1			6	2			4		42		1		1		
38	9.18～ 9.24	1	3	4	2				5				4		17	1			1		
39	9.25～10. 1	4		4	1			3	12				5		52					1	
40	10. 2～10. 8	10	1	5	2			1	5		3		5	3	27					1	1
41	10. 9～10.15	5	1	7	1				10				5	3	26				1		
42	10.16～10.22	4		8	1			2	13				7		34	1	1				
43	10.23～10.29	6	2	9		1	1	1	10				3	1	36	1					1
44	10.30～11. 5	5		2	1		1	2	5		1		5	2	26		1				1
45	11. 6～11.12	8	3	6	1			1	13				10	2	45						
46	11.13～11.19	6	1	2	1			1	6		2		6	2	33						
47	11.20～11.26	3	2	3					9		1		7	2	29		1				
48	11.27～12. 3	4	2	1			1	2	8	1	2		5	1	32	1			1		
49	12. 4～12.10	4	3	7	2		3	1	9		1		11		40		1				1
50	12.11～12.17	4	1	1	3			2	6	1	1		7	1	39		1	1			
51	12.18～12.24	4	2		2			3	9		2		5		27	1					
52	12.25～12.31	4	1	5	4				7		2		6	1	37						
合 計		219	67	212	74	2	19	72	464	24	56	3	390	55	1,788	15	9	8	22	28	6

表3-2(1) 一、二、三類感染症 保健所別患者報告数

2017年第1週～2017年第52週

	一 類							二 類						三 類					
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	鳥インフルエンザ (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
千代田																	3		
中央区																2	9	1	
みなと																3	23	1	2
新宿区																6	26	1	1
文京															1	4	6		2
台東																	6		1
墨田区																1	9	2	
江東区																	13		
品川区																1	17		
目黒区																1	7		
大田区																3	26	1	
世田谷																1	29		
渋谷区																	11	1	
中野区																	15		
杉並																	11		
池袋																1	9		
北区																	5		
荒川区															1		17		
板橋区																2	35		
練馬区																1	26		
足立																2	9		
葛飾区																1	15		
江戸川																	10		
八王子市																2	14		
町田市																	22		
西多摩																	6		
南多摩																	9		
多摩立川																	24		
多摩府中																3	29	1	
多摩小平																	26		
島しょ																			
合 計															2	34	467	8	6

* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-2(2) 四類感染症 保健所別患者報告数

2017 年第 1 週～2017 年第 52 週

	四 類														
	E 型肝炎	A 型肝炎	エキノコックス症	回帰熱	コクシジオイデス症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ボツリヌス症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症
千代田	4	3												5	
中央区	1	1						2						3	
みなと	1	3			1			7			5			7	
新宿区	5	8				1	1	22			15			8	5
文京	5	4	1	1		1		6		1	2			2	2
台東														2	1
墨田区		1		1				6			3			4	
江東区	3	1						1						2	
品川区	4	4				1								6	
目黒区	3	2						1						4	
大田区	4	8						4		1	1			18	
世田谷	1	4						2	1					5	
渋谷区	3	5						1						4	
中野区													1	1	
杉並		1					1							3	
池袋														1	
北区		1												2	
荒川区	1													1	
板橋区	8	4						2						11	1
練馬区	1	4						1						6	
足立														3	
葛飾区	3							1						5	
江戸川	2							1						3	
八王子市							1							10	
町田市	2	3						1						6	
西多摩	1						5				1			7	
南多摩	2							1						2	
多摩立川	3	3										1		6	
多摩府中		1						5						12	
多摩小平		4						1						10	
島しょ							5								
合 計	57	65	1	2	1	3	13	65	1	2	27	1	1	159	9

表3-2(3) 五類(全数把握)感染症 保健所別患者報告数

2017 年第 1 週～2017 年第 52 週

	五 類																	
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	麻しん
千代田	13	1	4					4				6		36	1		1	1
中央区	5	1	5	3			2					4		43			2	6
みなと	19	3	7				1	24	1	1		12	1	136	1		1	4
新宿区	30	19	21	4	2	5	11	171	10	7		31	9	664	2			1
文京	18	4	12	4		5	5	60	2	5		24	8	69	3			2
台東	5	2	3									3		146				
墨田区	4		2				2	7		2		15	4	22			1	1
江東区	7	7	18	2		1		1	3					32	1			
品川区	7	2	18				8	6		5		13	1	36			2	
目黒区	10		6	2			2	7			1	13		10		1		
大田区	7	5	16	5				11	2	3		16	3	26	1	1		2
世田谷	12		11	18			1	9		2		15	4	37				1
渋谷区	1	3	11	1			1	83		1		14		48		1		
中野区	5	1				1	2	13				3		23			1	
杉並	4	1	3	1				4		4		9	5	11				
池袋	3	1	1	1				6		2		4		124	1			
北区	2		1	2			1	3				7	1	26				
荒川区	6	2	1	6			1	1				7		32		1		
板橋区	9	5	20				10	14	2	5		32	5	35	1	1		1
練馬区	2	2	4	3		1	1	4		2		15	1	12	1		1	
足立	9		2							2		4		16			2	1
葛飾区	2		2			2		3		1		1		20				1
江戸川	1	1	2				2	1		2		2		36				
八王子市	2		3				1	4				9		14	1		2	4
町田市	4		4				3	1				11	1	8		1	1	
西多摩	1	1	2			1	1					3	2	8		1		
南多摩	7	1	1	3			1	2	1			16	3	13				3
多摩立川	11	3	11	1		1	2	6		5	1	16	1	34			1	
多摩府中	12	2	9	17		2	1	16	2	2	1	53	6	53	2	2	1	5
多摩小平	1		12	1			13	3	1	5		32		18			1	2
島しょ																	1	
合 計	219	67	212	74	2	19	72	464	24	56	3	390	55	1,788	15	9	8	28

表3-3(1) 一、二、三類感染症 年齢階級別患者報告数

2017年第1週～2017年第52週

	一 類							二 類							三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 *	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	鳥インフルエンザ (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
0歳																	1		
1～4歳																	40	1	
5～9歳																2	44	2	
10～14歳																	22		
15～19歳																	38	1	
20～24歳																3	65	1	1
25～29歳															1	7	53		
30～34歳																4	31		1
35～39歳																5	31		1
40～44歳																4	21	2	2
45～49歳															1	2	17	1	1
50～54歳																2	19		
55～59歳																1	13		
60～64歳																2	14		
65～69歳																	11		
70歳以上																2	47		
合 計															2	34	467	8	6

* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-3(2) 四類感染症 年齢階級別患者報告数

2017 年第 1 週～2017 年第 52 週

	四 類														
	E 型肝炎	A 型肝炎	エキノコックス症	回帰熱	コクシジオイデス症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ボツリヌス症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症
0歳										2					
1～4歳											1				
5～9歳								1							
10～14歳		1						2			1				
15～19歳		2					1	2			2			1	
20～24歳		4						9			1				3
25～29歳	2	10					1	11			1				
30～34歳	1	5				1		9			6				1
35～39歳	2	6	1	1			1	4			6			1	
40～44歳	6	7					1	8	1		5			3	
45～49歳	8	5			1	1	1	3						7	
50～54歳	10	6					1	8			1			14	2
55～59歳	5	7						3			2		1	18	
60～64歳	6	2					1	2						15	
65～69歳	6	3		1		1	2	1			1			22	1
70歳以上	11	7					4	2				1		78	2
合 計	57	65	1	2	1	3	13	65	1	2	27	1	1	159	9

表3-3(3) 五類(全数把握)感染症 年齢階級別患者報告数

2017年第1週～2017年第52週

	五 類																	
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん
0歳			6	5			1			4		10	1	3				
1～4歳			5	40				1	1	3		29	5				6	1
5～9歳	1	1	2	11						2		11	3					1
10～14歳			3	5						1		2	2					
15～19歳		3	1	3				4				1	2	31		1	1	4
20～24歳	1	7	2				1	52	4	1		4	8	260			3	5
25～29歳	10	11	2				1	86	4		1	1	5	316	1	1	4	3
30～34歳	17	9	2	1			1	77	3	2		9	8	224	1		1	8
35～39歳	20	11	2		1		2	75	3			13	4	260		1	1	3
40～44歳	38	6	5	1		1	2	61	1			17	4	204	1	2	1	2
45～49歳	40	4	8				4	44	3	1		15	4	167				
50～54歳	29	5	9				3	26		1		12	4	139	1		1	2
55～59歳	31	2	11		1	2	6	14	1	1		15	2	76			1	
60～64歳	11	1	12			2	4	10	1	1		33		46	1		2	2
65～69歳	8	3	26	2		2	12	11		3	1	45	2	30	4	2	2	1
70歳以上	13	4	116	6		12	35	3	3	36	1	173	1	32	6	2	5	1
合 計	219	67	212	74	2	19	72	464	24	56	3	390	55	1,788	15	9	8	28

（２） 小児科・内科疾患

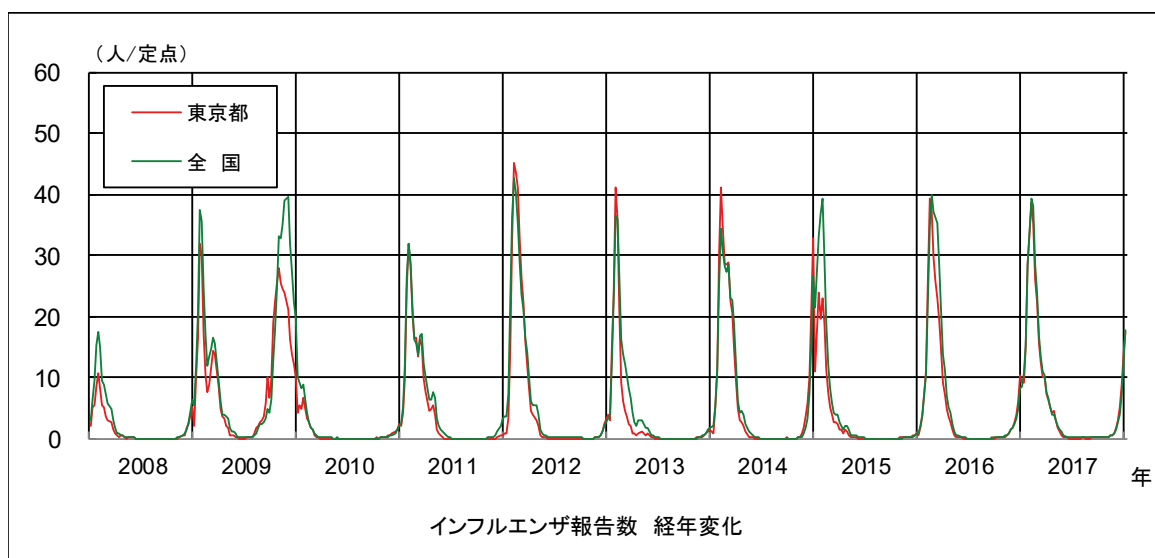
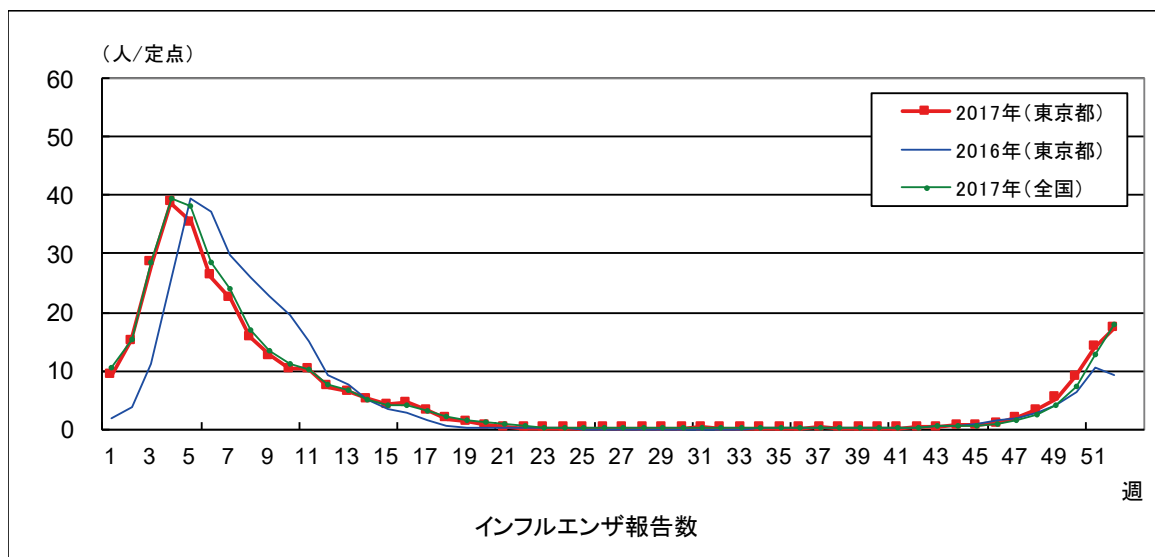
ア インフルエンザ

2017年の報告数は129,813人、定点当たり314.14人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は249.35人であり、2017年は例年に比べてやや多い報告数であった。

2016/17シーズンの流行は2016年46週（11.14～11.20）に1.57人と定点当たり1.0人を超え、その後報告数は増加して51週（12.19～12.25）には10.56人と10.0人を超えた。しかし2016年最終週の52週（12.26～1.1）には9.06人となったが、2017年2週（1.9～1.15）には再度15.17人と10.0人を超え4週（1.23～1.29）には38.73人とピークに達した。その後12週（3.20～3.26）に7.27人と10.0人を割り、20週（5.15～5.21）に0.61人と1.0人以下となり流行は終息した。

2017/18シーズンの流行は2017年47週（11.20～11.26）に定点当たり1.86人と1.0人を超え流行期に入り、51週（12.18～12.24）には14.03人と10.0人を超えた。

2017年の保健所定点当たりの報告数では最多が荒川区の427.00人、最小が渋谷区の163.93人であった。年齢階層別報告数では1歳未満1,342人（1.0%）、1歳～10歳未満62,349人（48.0%）、10歳～20歳未満29,465人（22.7%）、20歳～60歳未満30,504人（23.5%）、60歳以上6,153人（4.7%）であった。



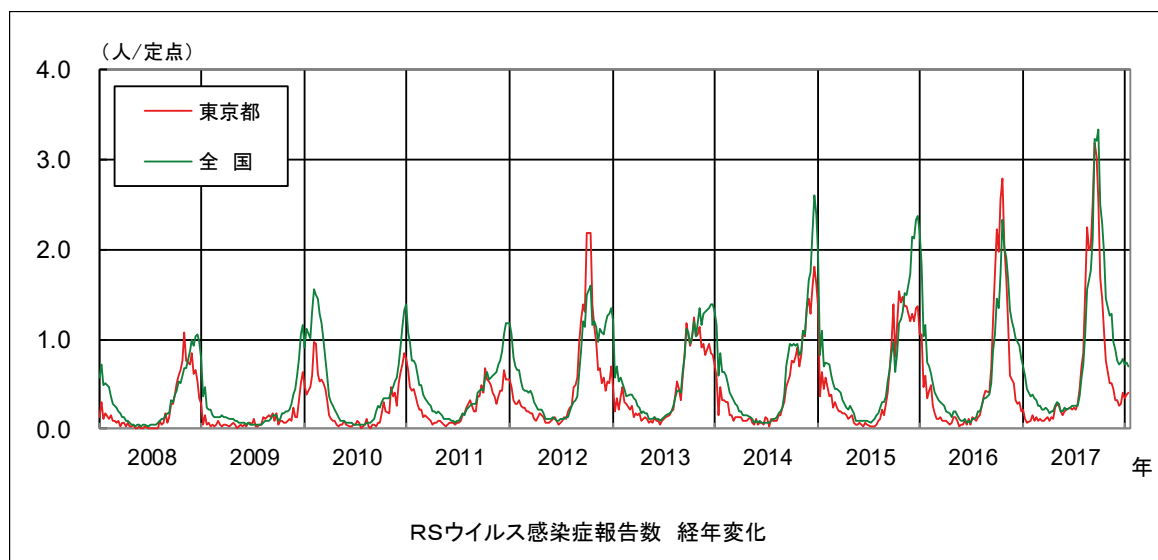
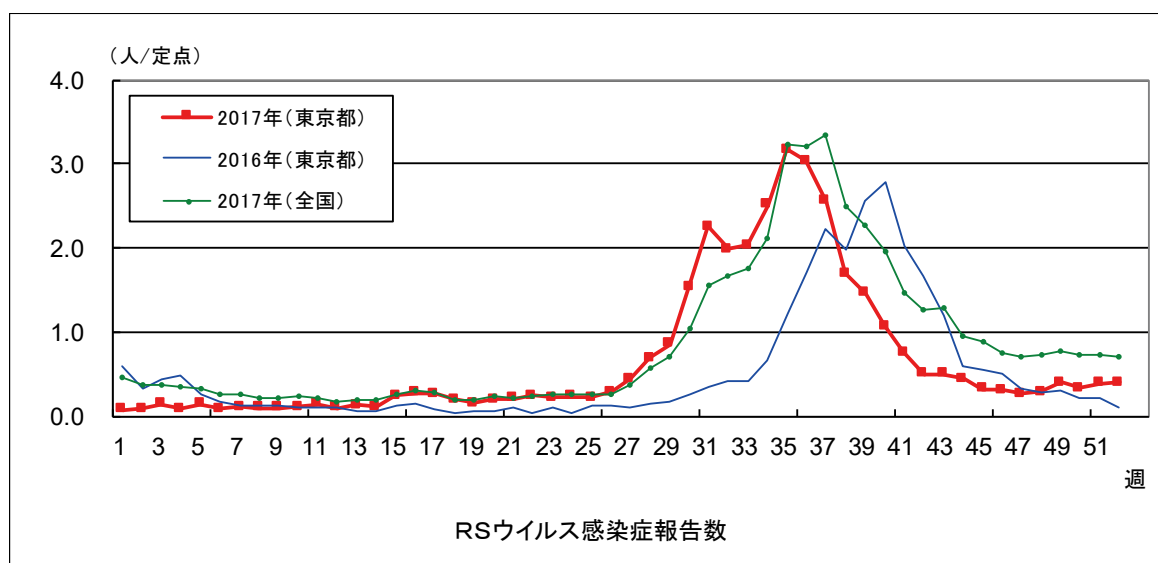
イ RS ウイルス感染症

2017 年の報告数は 8,838 人、定点当たりの報告数は 34.47 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 20.69 人であり、2017 年はここ 10 年では最も多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数では 30 週（7.24～7.30）から 40 週（10.2～10.8）にかけて 1.0 人を超える大きな山があり、ピークは 35 週（8.28～9.3）の 3.17 人であった。

保健所別定点当たりの報告数の最も多かったのは前年と同じく荒川区の 96.50 人であった。

年齢階層別報告数では 6 か月未満が 929 人（10.5%）、6 か月～12 か月未満が 1,987 人（22.5%）、1 歳代が 3,533 人（40.0%）、2 歳代が 1,498 人（16.9%）と 2 歳代以下で 89.9%を占めている。

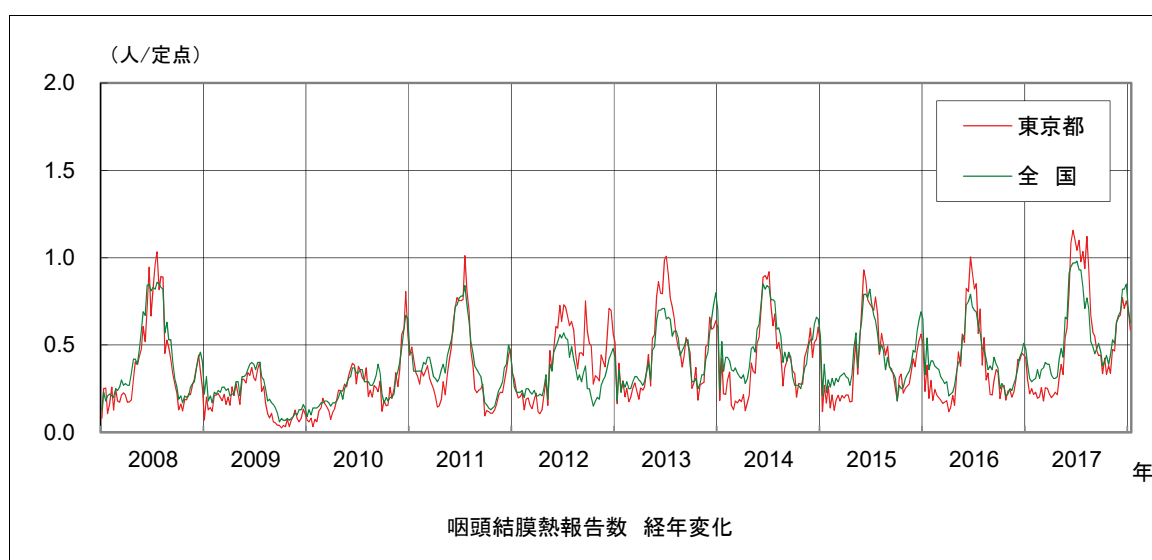
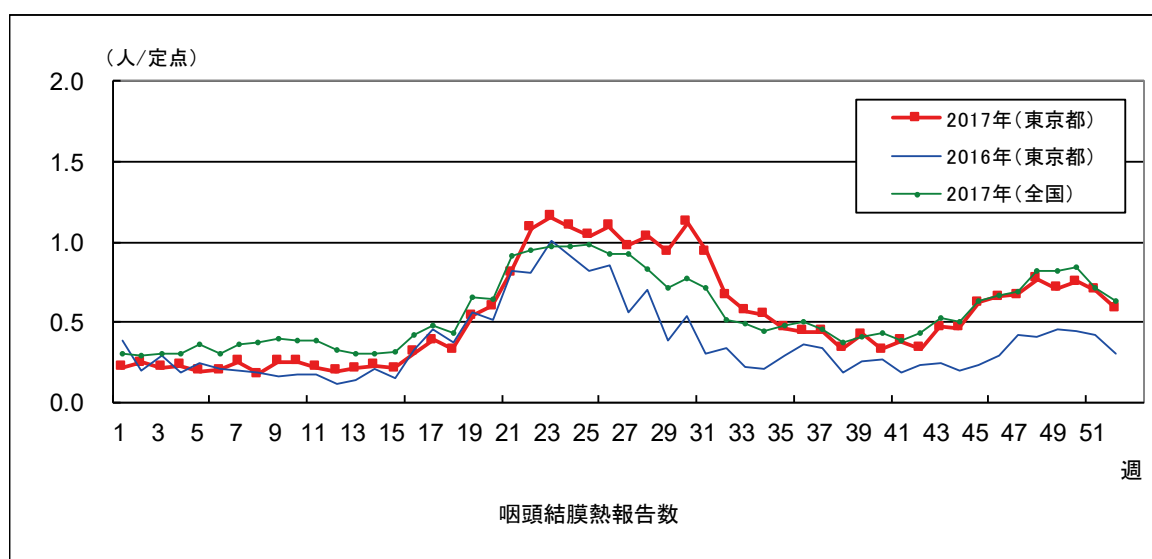


ウ 咽頭結膜熱

2017年の報告数は7,322人、定点当たりの報告数は7,322人、定点当たりの報告数は28.21人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は19.62人であり、2017年はここ10年で最も多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数では19週（5.8～5.14）から34週（8.21～8.27）と45週（11.6～11.12）から52週（12.25～12.31）にかけて定点当たり0.5人を超える2つの山があり、ピークは23週（6.5～6.11）の1.16人であった。

保健所別定点当たりの報告数では多摩小平が74.97人、荒川区が69.25人と多かった。年齢階層別報告数では1歳代が1,806人（24.7%）と最も多く、5歳代以下で83.7%を占めている。



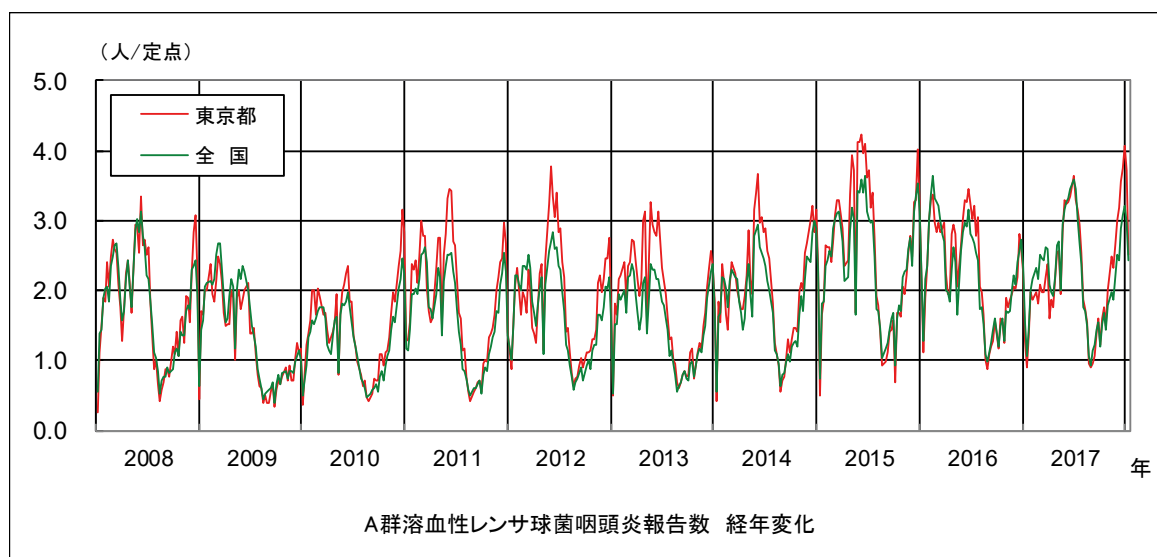
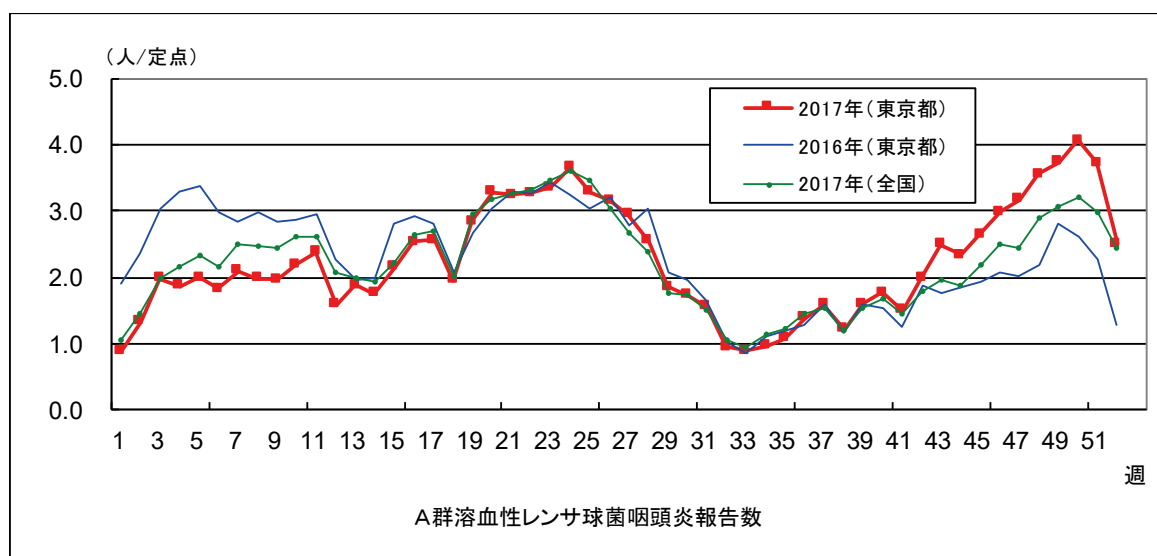
エ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2017 年の報告数は 30,664 人、定点当たりの報告数は 117.71 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 100.54 人であり、2017 年は例年よりやや多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数では 20 週（5.15～5.21）から 26 週（6.26～7.2）にかけてと 47 週（11.20～11.26）から 51 週（12.18～12.24）にかけて、定点当たり 3.0 人を超える山が 2 つあり、ピークは 50 週（12.11～12.17）の 4.06 人であった。

保健所別定点当たりの報告数では昨年と同様多摩小平が 222.53 人で最多であった。

年齢階層別報告数では 4 歳代が 4,113 人（13.4%）と最も多いのは前年と変わらず、3 歳代から 7 歳代で 59.2%を占めている。



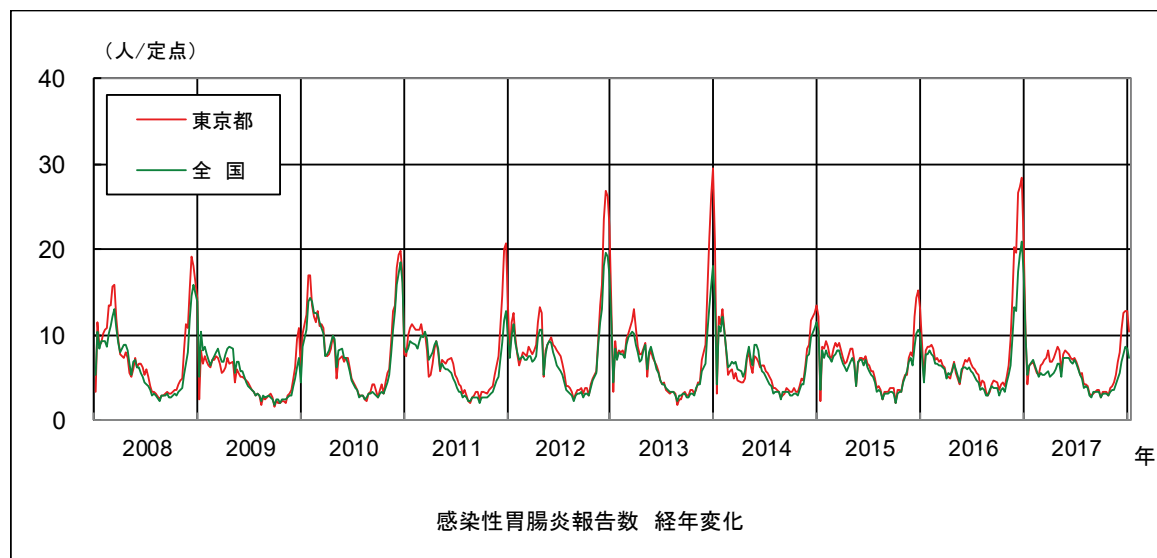
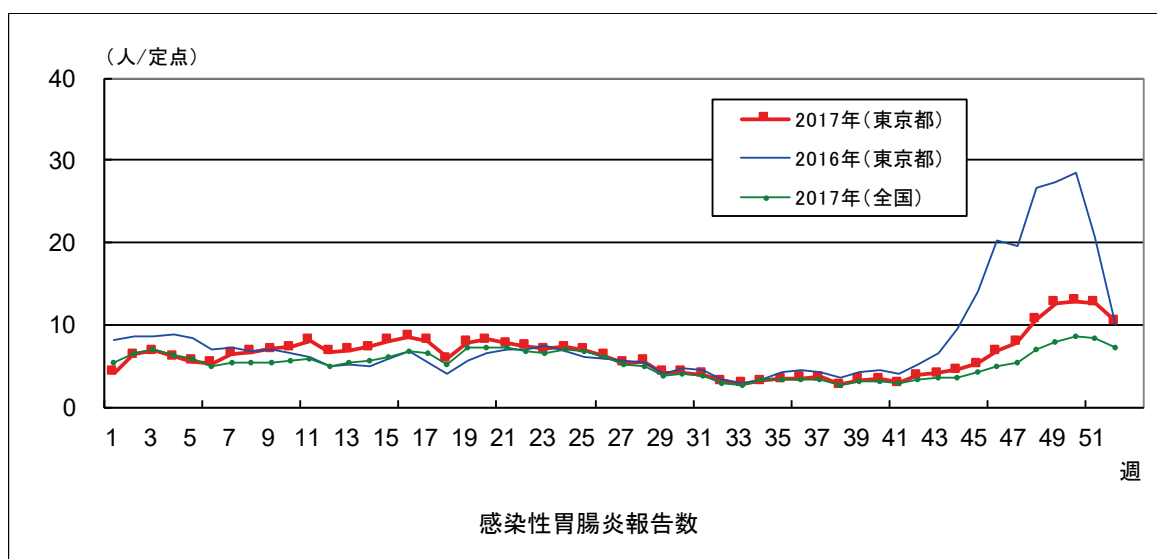
オ 感染性胃腸炎

2017 年の報告数は 84,981 人で、定点当たりの報告数は 326.63 人であった。ここ 10 年の報告数の平均は 371.98 人であり、2017 年は例年に比べてやや少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では 48 週（11.27～12.3）から 52 週（12.25～12.31）にかけて定点当たり 10.0 人を超える山があり、ピークは 50 週（12.11～12.17）の 12.88 人であった。

保健所別定点当たりの報告数で多かったのは中央区の 588.83 人、八王子市の 549.63 人、町田市の 549.25 人などであった。

年齢階層別報告数では 1 歳代が 12,777 人（15.0%）と最も多いのは前年と同様であった。



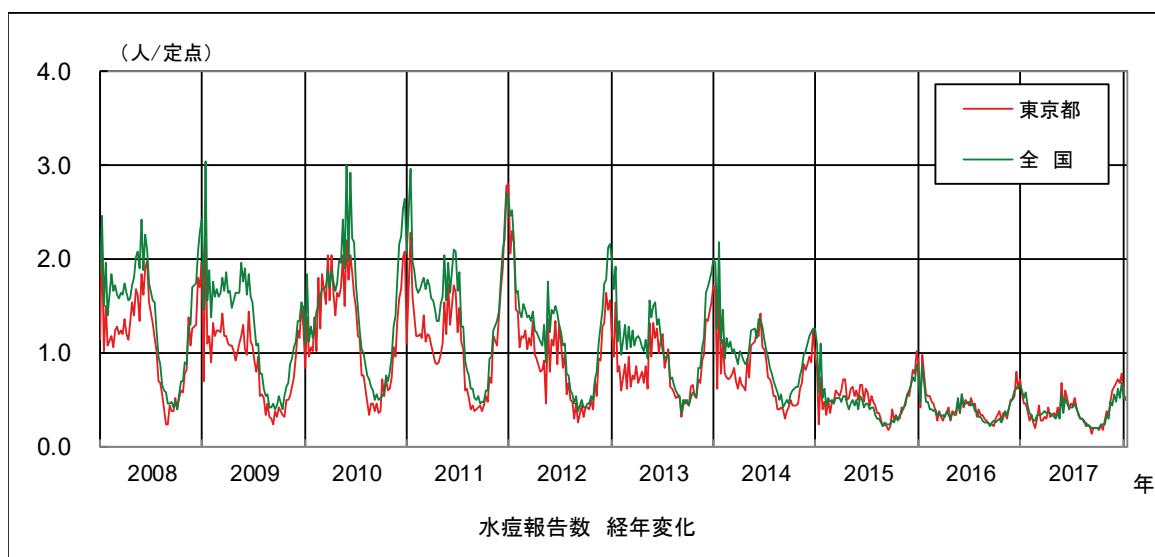
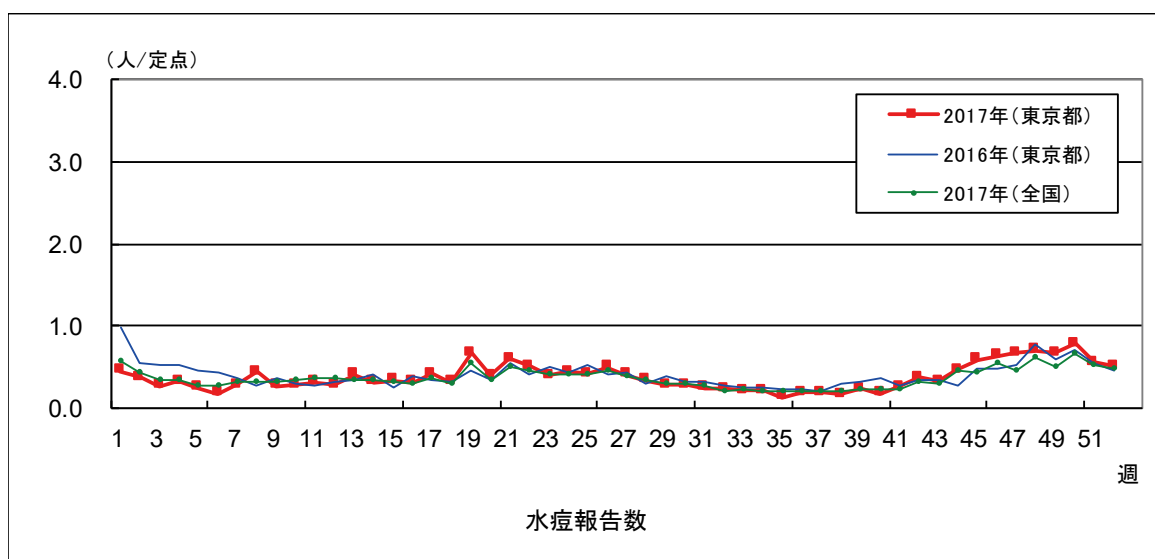
カ 水痘

2017年の報告数は5,135人であった。定点当たりの報告数は19.73人で、ここ10年の定点当たりの報告数の平均は43.14人であり、ここ10年で最も少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では19週（5.8～5.14）と45週（11.6～11.12）から50週（12.11～12.17）にかけて定点当たり0.6人を超える小さな山が見られ、ピークは50週（12.11～12.17）の0.78人であるが、あまり季節変動は見られない。

保健所別定点当たりの報告数で多かったのは目黒区の32.40人、中野区の30.17人などであった。

年齢階層別報告数では6歳代が703人（13.7%）と最も多く、4歳代から7歳代で51.0%を占めている。



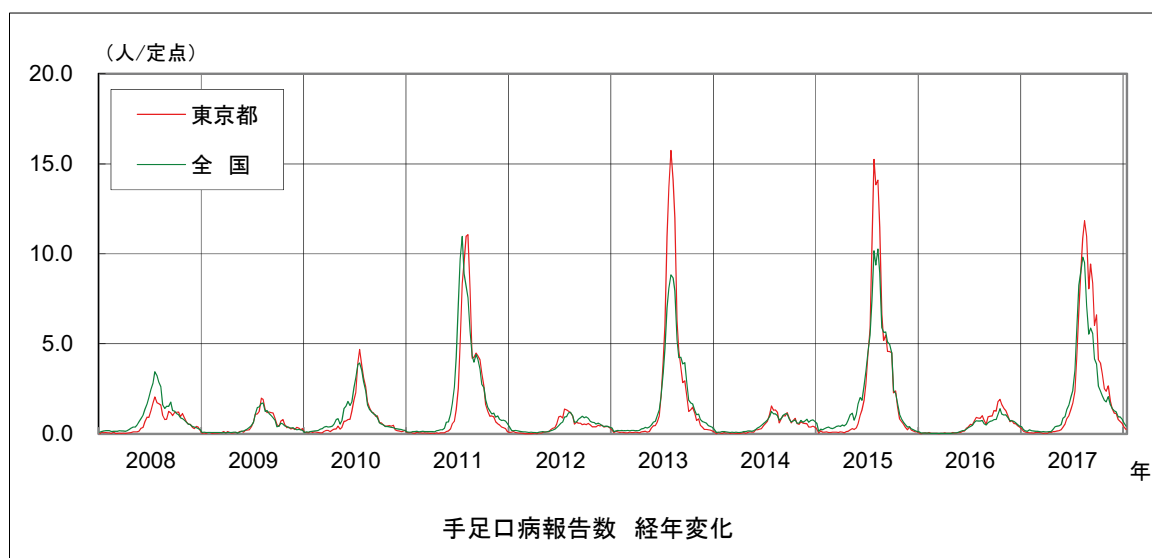
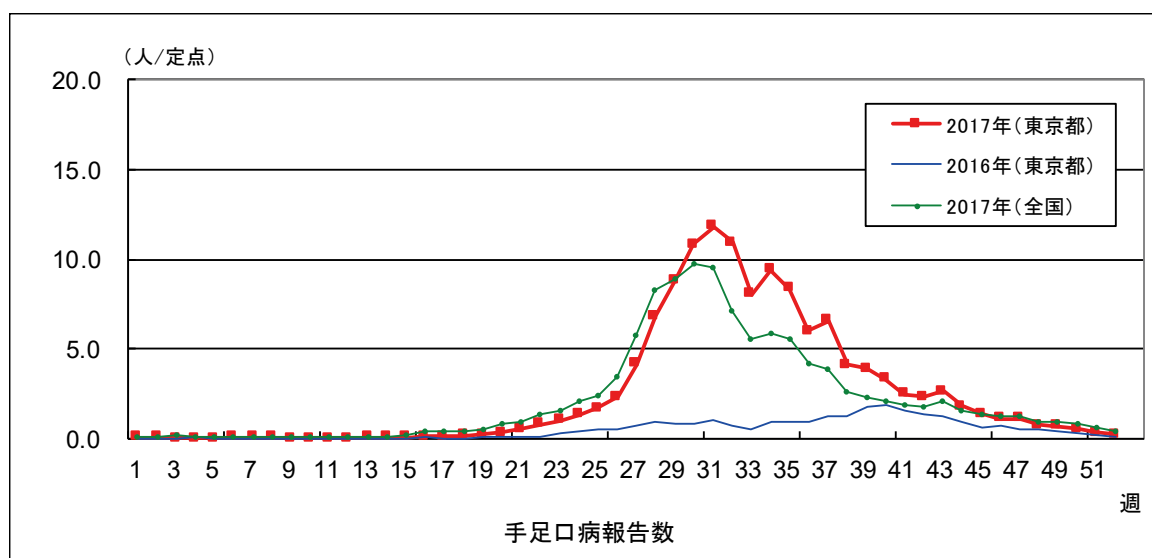
キ 手足口病

2017年の報告数は33,056人、定点当たりの報告数は129.10人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は63.38人であり、2017年はここ10年では最多の報告数であった。

週別定点当たりの報告数では28週（7.10～7.16）から37週（9.11～9.17）にかけ5.0人を超える大きな山があり、ピークは31週（7.31～8.6）の11.84人であった。

保健所別定点当たりの報告数で多かったのは中央区の256.00人、台東区の214.08人、多摩小平の206.72人であった。

年齢階層別報告数では1歳代が11,327人（34.3%）と最も多いのは前年と変わりがなかった。



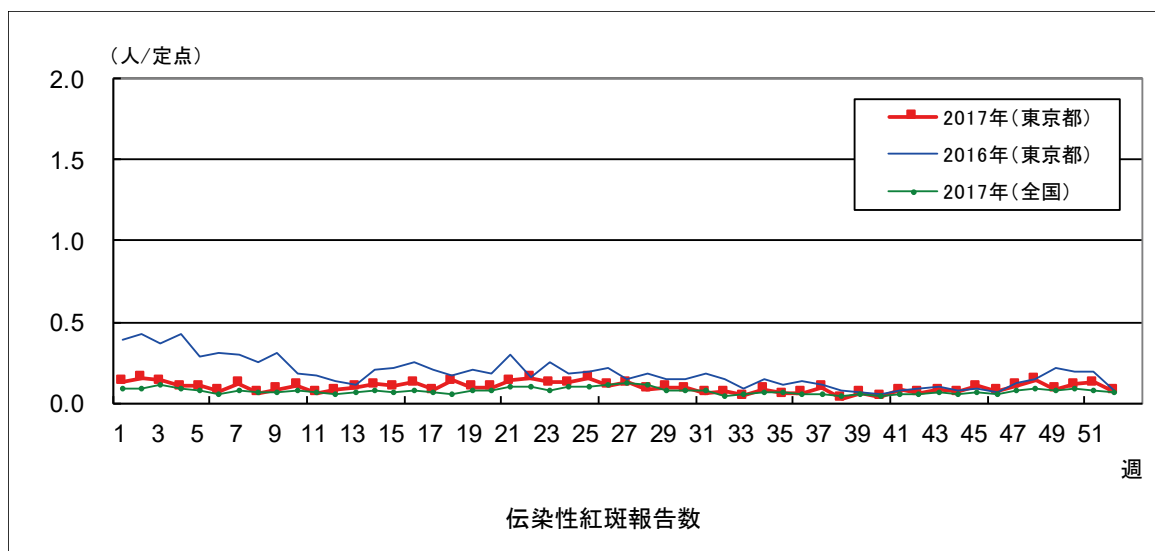
ク 伝染性紅斑

2017 年の報告数は 1,311 人であり、定点当たりの報告数は 5.04 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 14.80 人であり、2017 年はここ 10 年で最も少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では 0.2 人を超える週は見られなかった。

保健所別定点当たりの報告数で最も多かったのは目黒区の 21.80 人であった。

年齢階層別報告数では 5 歳代が 240 人（18.3%）と最も多く、3 歳代から 6 歳代で 58.4%を占めている。



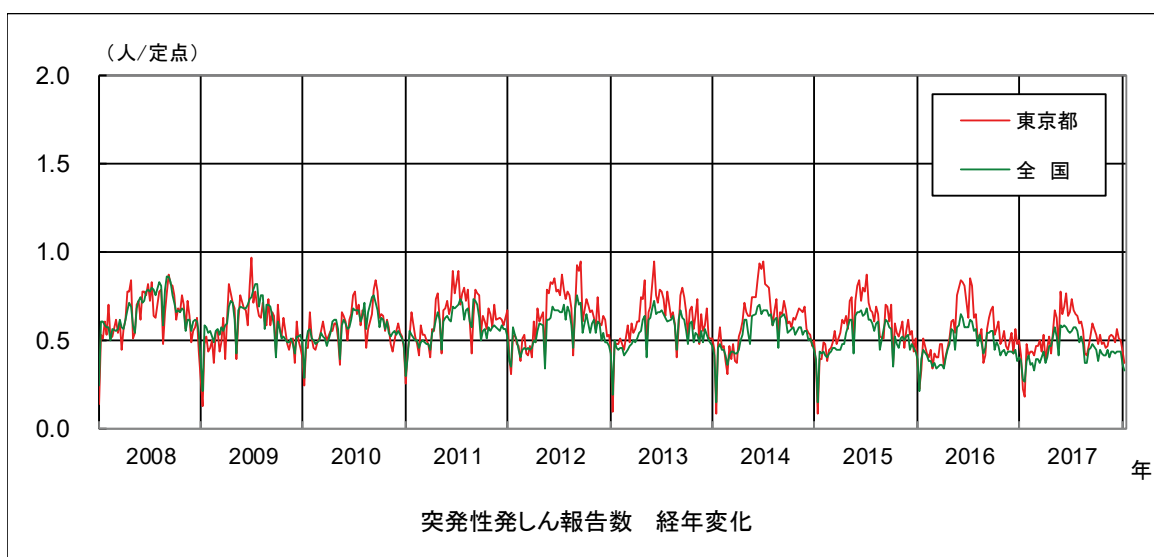
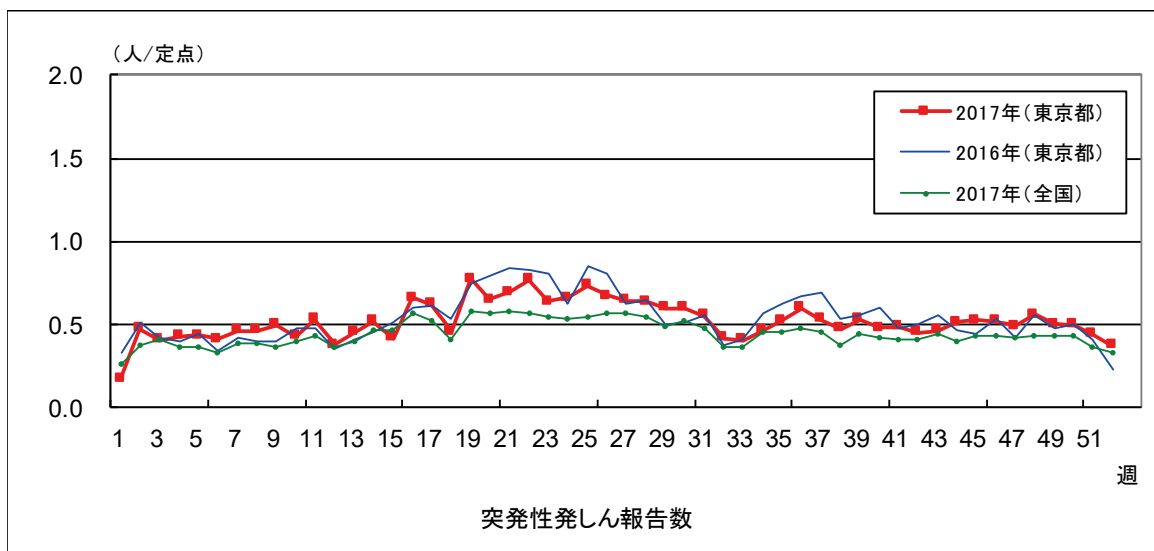
ケ 突発性発しん

2017年の報告数は7,056人であり、定点当たりの報告数は27.13人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は30.70人であり、ここ10年で最も少ない報告数であったが、経年変化の差は少ない。

週別定点当たりの報告数では19週（5.8～5.14）から30週（7.24～7.30）にかけて0.6人を超える緩やかな山がみられるが、例年と同じく季節変動は少なかった。

保健所別定点当たりの報告数で多かったのは台東の48.75人、多摩小平の46.39人であった。

年齢階層別報告数では1歳代が3,818人（54.1%）、6か月～1歳未満が2,061人（29.2%）と両方で83.3%を占めている。



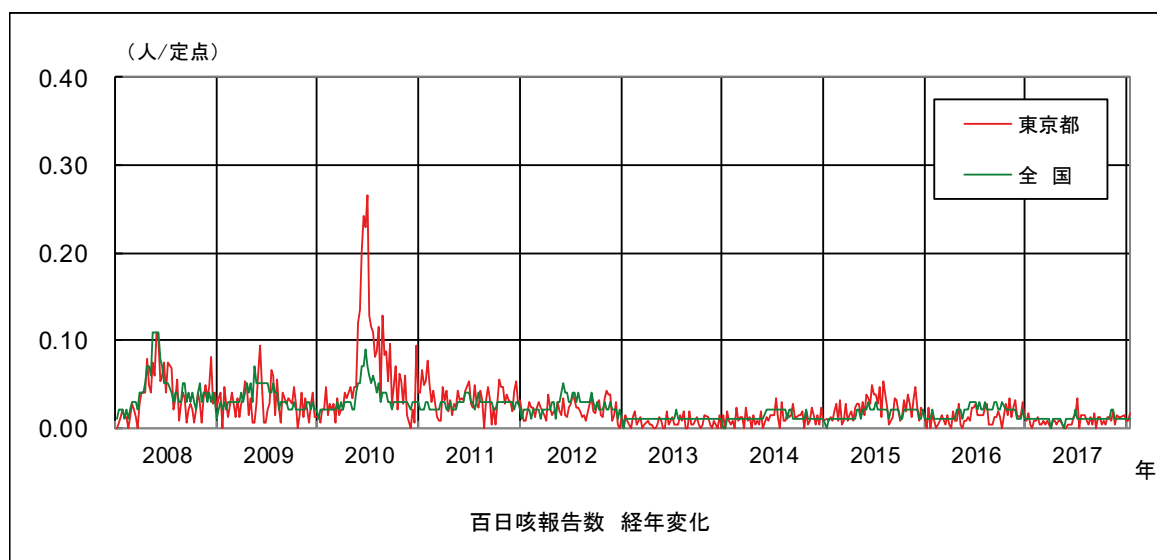
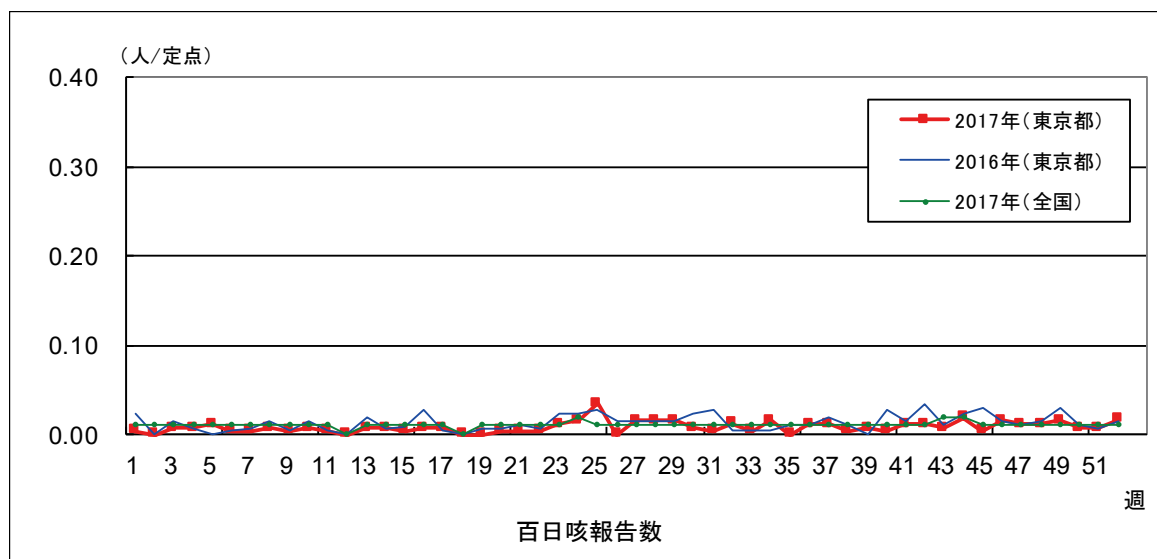
コ 百日咳

2017 年の報告数は 113 人、定点当たりの報告数は 0.44 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 1.29 人であり、2017 年は 2013 年に次いで報告数が少なかった。

週別定点当たりの報告数では 25 週（6.19～6.25）の 0.03 人以外 0.03 人を超えた週はなかった。

保健所別定点当たりの報告数で多かったのは目黒区の 1.60 人であった。

年齢階層別報告数では 10 歳未満が 61 人（54.0%）、10 歳代が 14 人（12.4%）、20 歳以上が 38 人（33.6%）報告されている。



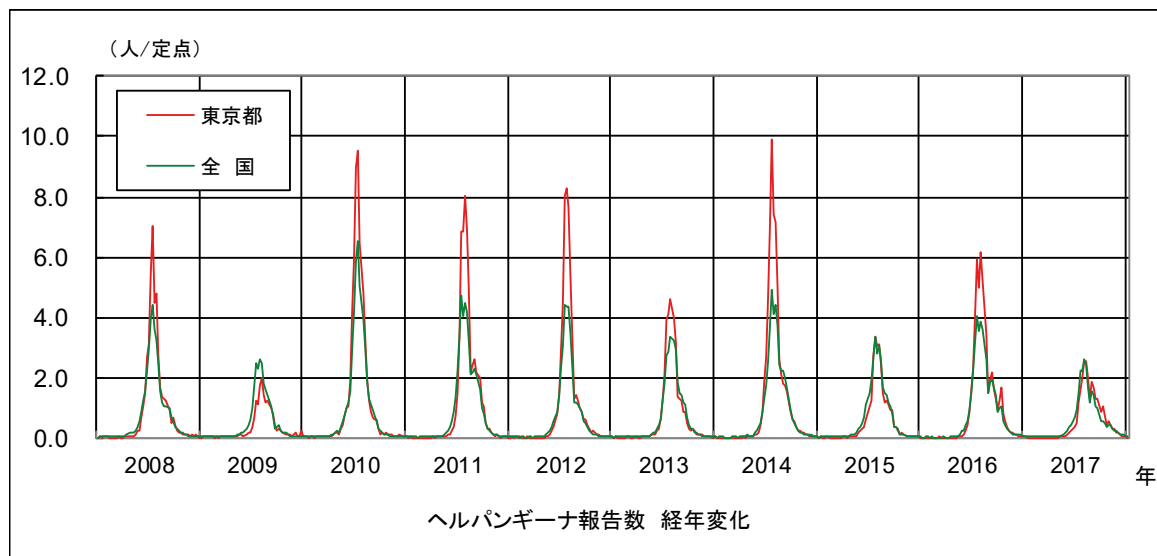
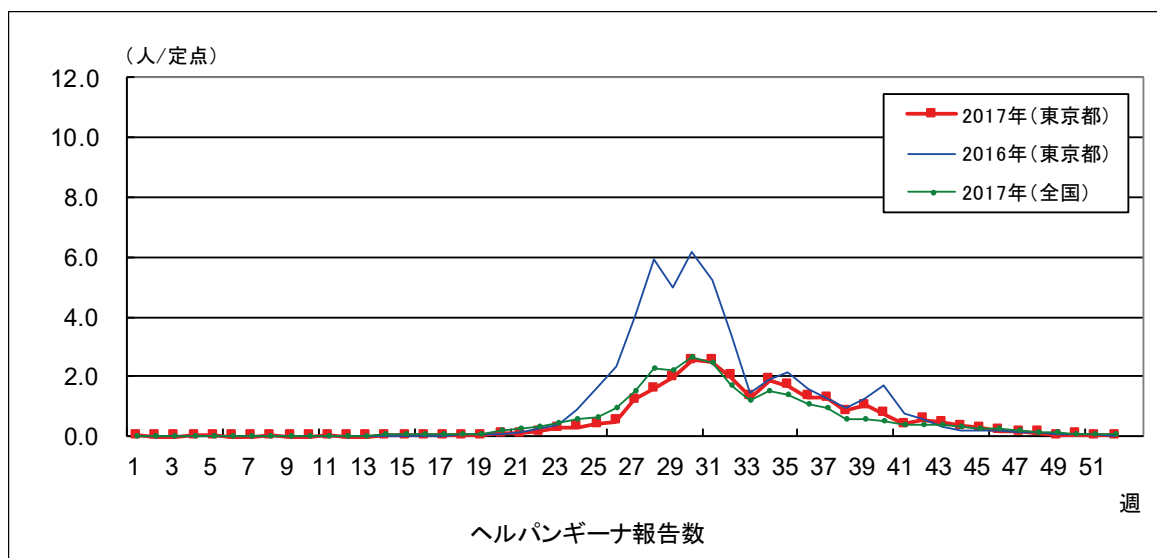
サ ヘルパンギーナ

2017年の報告数は6,812人、定点当たりの報告数は26.54人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は42.63人であり、2017年は2009年に次いで少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では27週（7.3～7.9）から39週（9.25～10.1）にかけておおむね1.0人を超える緩やかな山があり、ピークは30週（7.24～7.30）の2.54人であった。

保健所別定点当たりの報告数で最も多かったのは荒川区の47.50人であった。

年齢階層別報告数では1歳代が2,077人（30.5%）と最も多いのは前年と同様である。5歳代以下で89.9%を占めている。



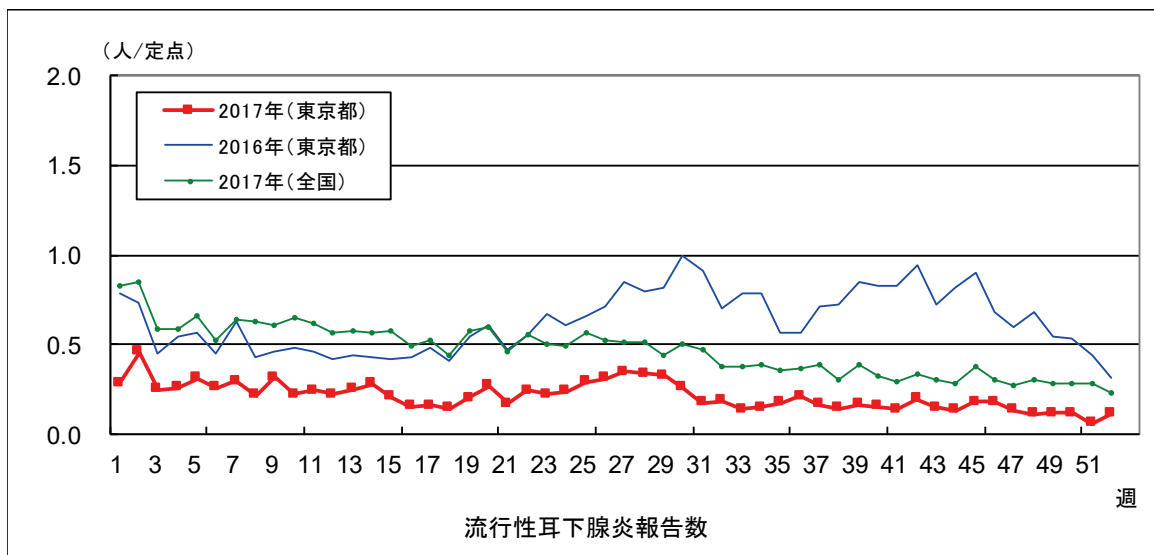
シ 流行性耳下腺炎

2017年の報告数は2,903人、定点当たりの報告数は11.16人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は20.81人であり、2017年はここ10年で最も少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では2週（1.9～1.15）に0.46人となったが、それ以外は0.4人未満であった。

保健所別定点当たりの報告数で最も多かったのは町田市の33.75人であった。

年齢階層別報告数では6歳代が399人（13.7%）と最も多く、6歳代以下で51.9%を占めている。



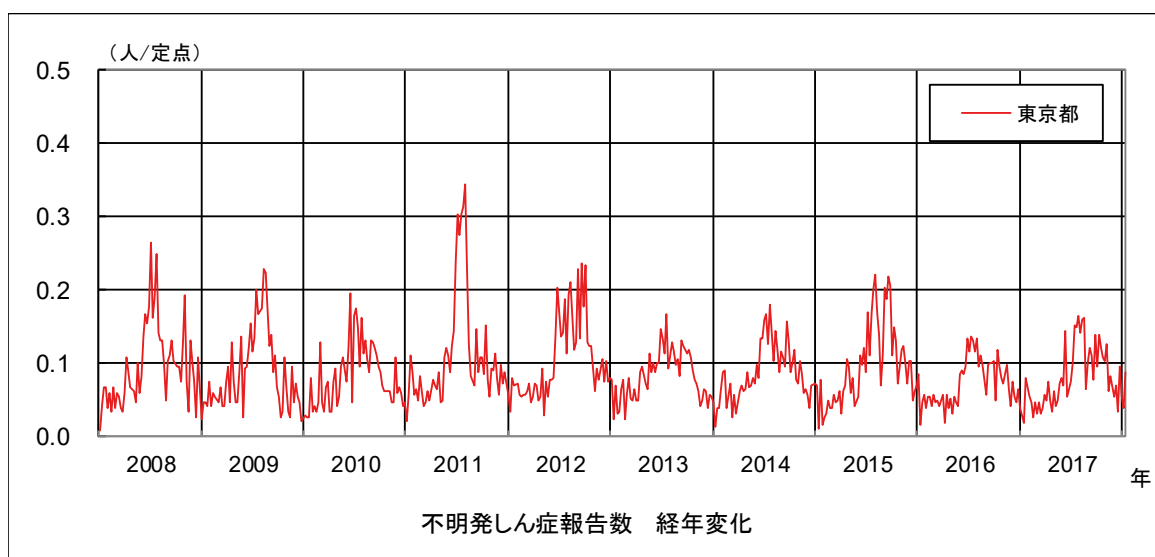
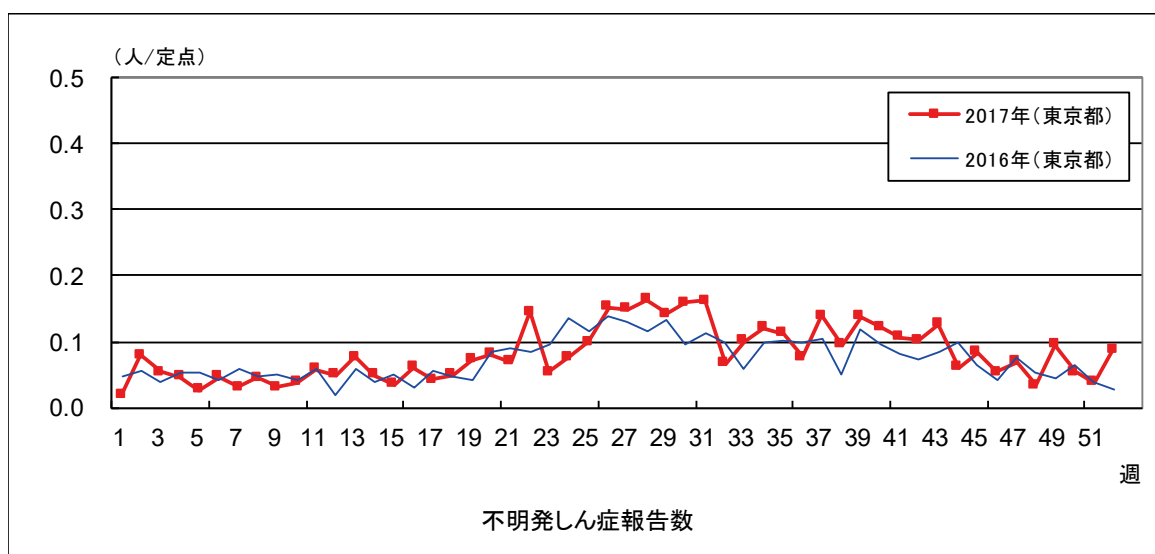
ス 不明発しん症

2017 年の報告数は 1,101 人、定点当たりの報告数は 4.25 人であった。ここ 10 年の報告数の平均は 4.66 人であり、2017 年は平均的な報告数であった。

週別定点当たりの報告数では 25 週（6.19～6.25）から 43 週（10.23～10.29）にかけておおむね 0.1 人を超える緩やかな山があり、26 週（6.26～7.2）から 31 週（7.31～8.6）にかけては 0.14～0.16 人とやや多くなっている。

保健所別定点当たりの報告数で最も多かったのは中央区の 18.83 人であった。

年齢階層別報告数では 1 歳代が 321 人（29.2%）と最も多く、4 歳代以下で 862 人と 78.3%を占めている。



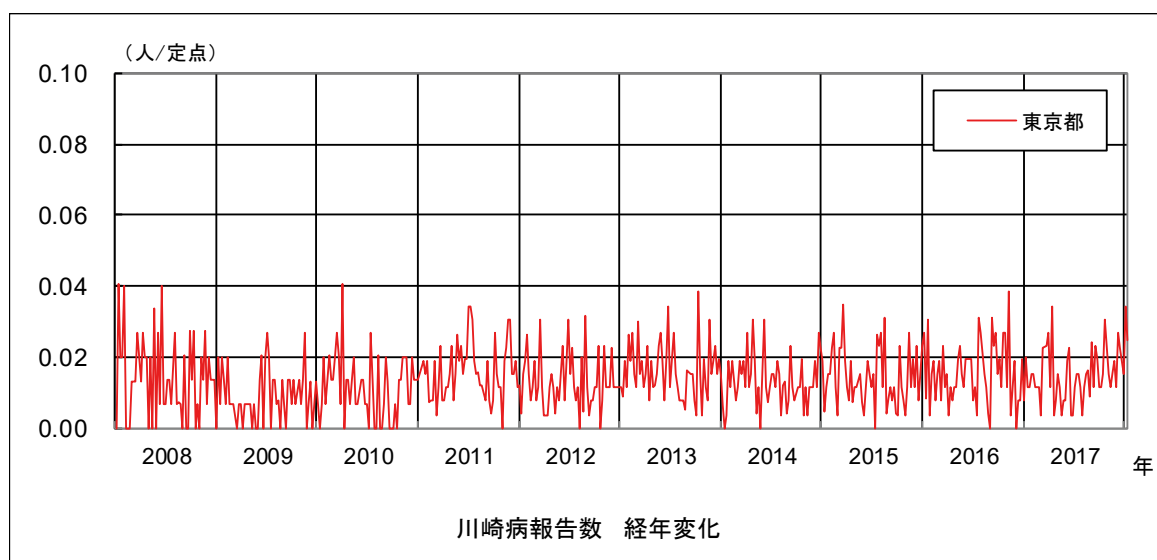
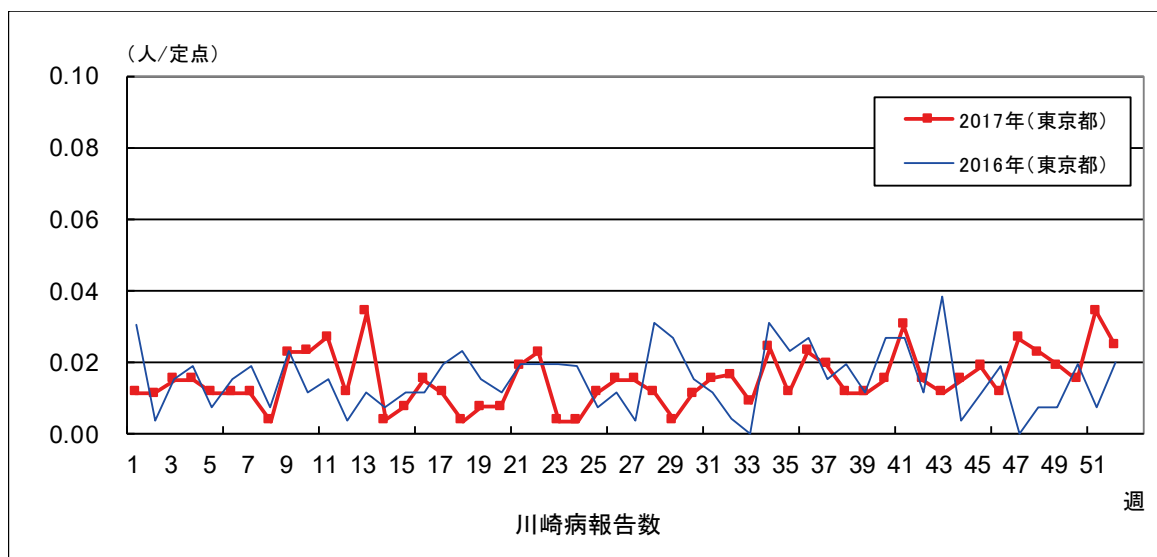
セ 川崎病

2017年の報告数は205人、定点当たりの報告数は0.79人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は0.72人であり、2017年は平均的な報告数であった。

週別定点当たりの報告数では0.04人を超える週はなく、季節変動はなかった。

保健所別定点当たりの報告数で最も多かったのは前年と同様に新宿区の6.71人であった。

年齢階層別報告数では1歳代が50人(24.4%)と最も多いのは前年と変わりなく、4歳代以下で86.3%を占めている。



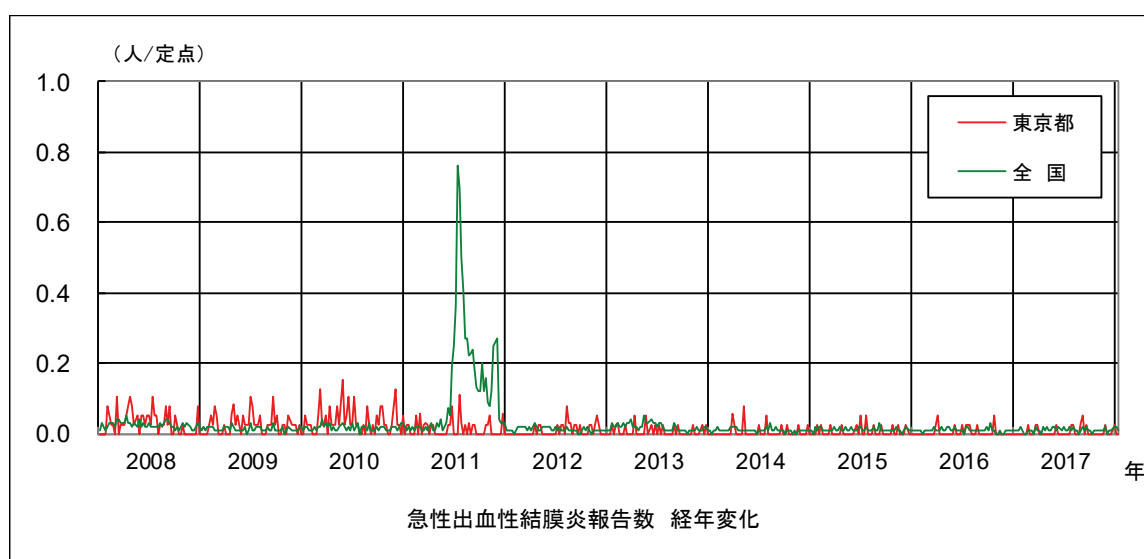
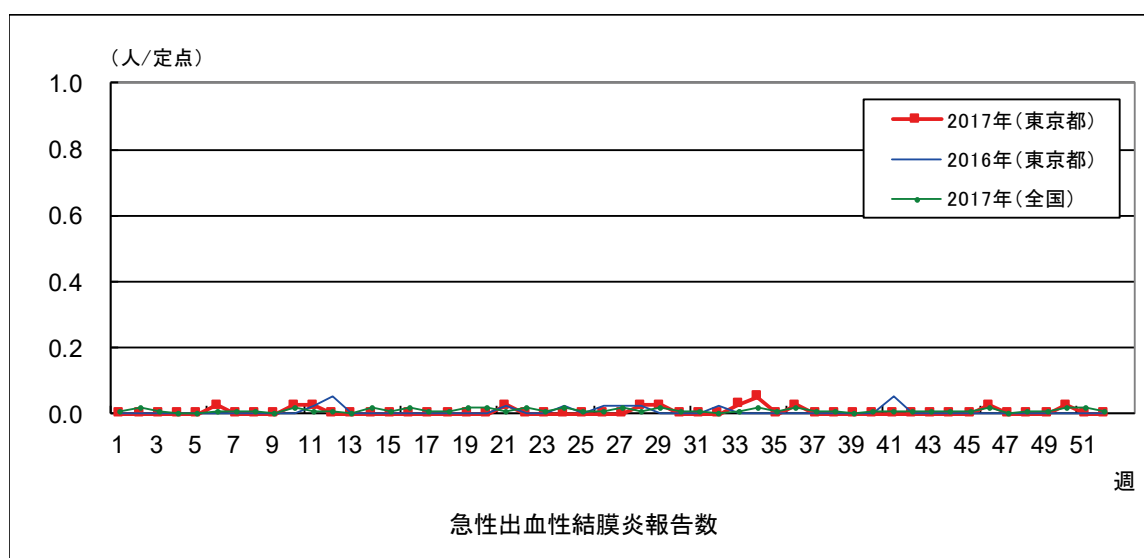
(3) 眼科疾患

ア 急性出血性結膜炎

2017年の報告数は12人、定点当たり0.31人だった。過去10年間では2016年(定点当たり0.28人)について少ない報告だった。

患者発生数の推移には1年を通じてあまり特徴がなく、34週(8.21～8.27)に2人発生した以外は各週1人以下で、年間41週は発生がなかった。全国的にも低いレベルで分散した発生が続いており、東京も同様だった。

二次医療圏別では眼科定点のある12医療圏のうち、報告のあったのは6医療圏で区西南部圏、区西北部圏、区東部圏が2人以上が多かった。報告年齢は分散していたが、20歳以上の成人が10人と全体の83.3%を占めた。19歳以下では4歳、15～19歳に各1人(8.3%)みられた。

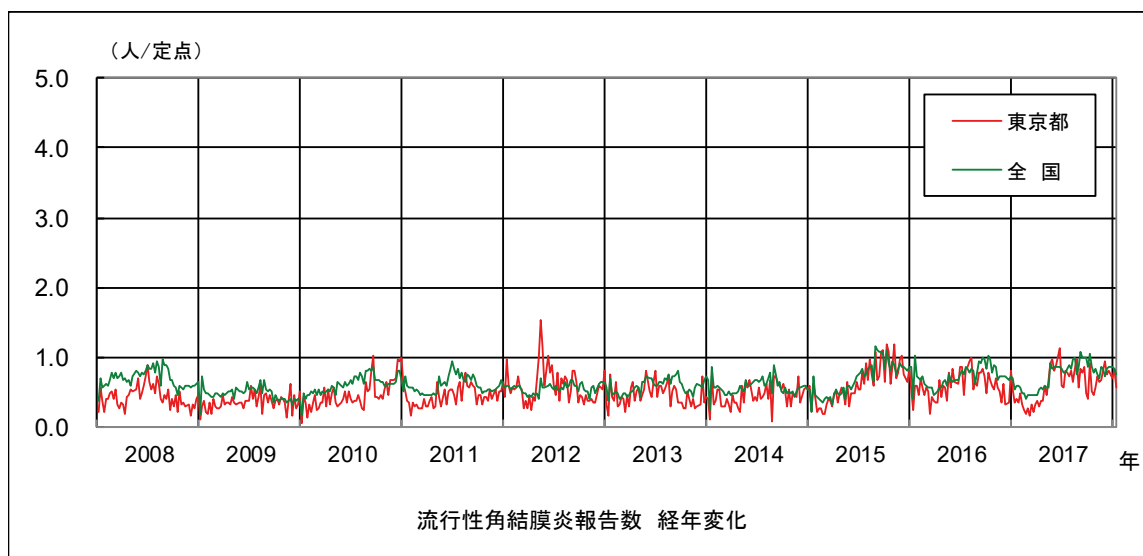
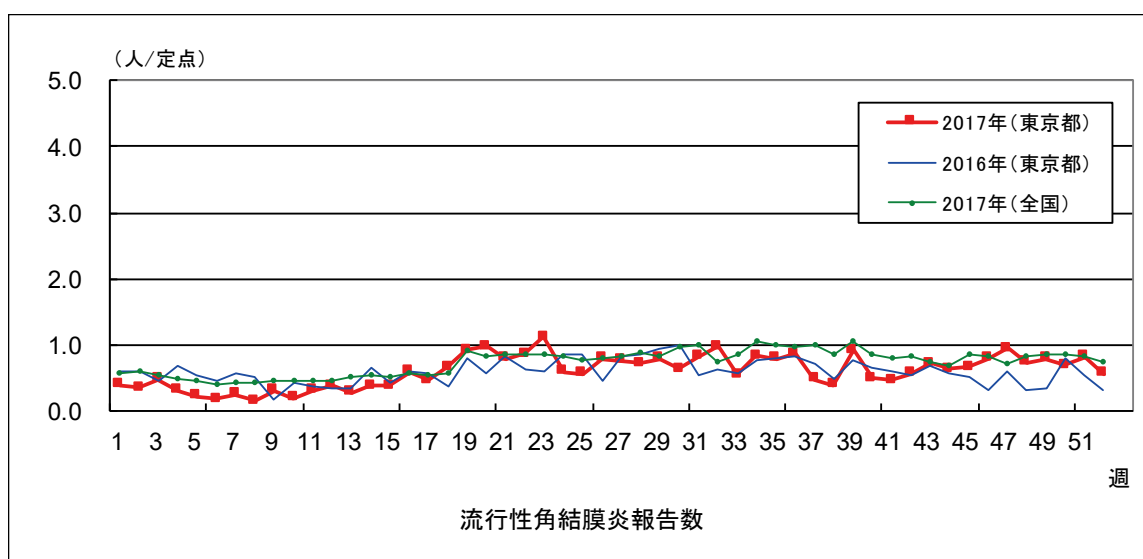


イ 流行性角結膜炎

2017 年の報告数は 1,219 人、定点当たり 31.48 人であった。過去 10 年間では最近 2 年間の 2015 年（定点当たり 32.49 人）、2016 年（定点当たり 31.03 人）と同じ位多い報告数だった。

患者発生数は第 4 週（1.23～1.29）から第 13 週（3.27～4.2）までが定点当たり 0.38 人以下と少なく、その他はほぼ平坦化していた。全国と比較しても同様であった。

二次医療圏別では、定点当たり報告数では北多摩北部圏 65.00 人、区東北部圏 58.33 人、区中央部圏 57.50 人で多かった。報告年齢は 20 歳から 49 歳が 644 人と 52.8%を占め、20 歳以上の成人が 845 人（69.3%）であった。10 歳未満は 319 人（26.2%）で、各年齢層に分散していた。



(4) 基幹定点医療機関における週報告疾患

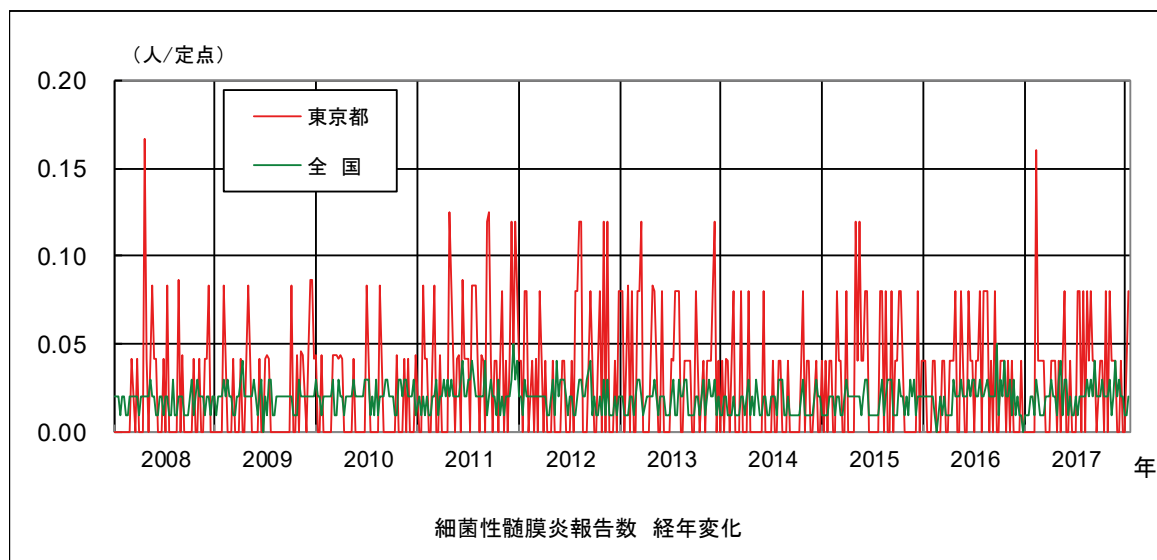
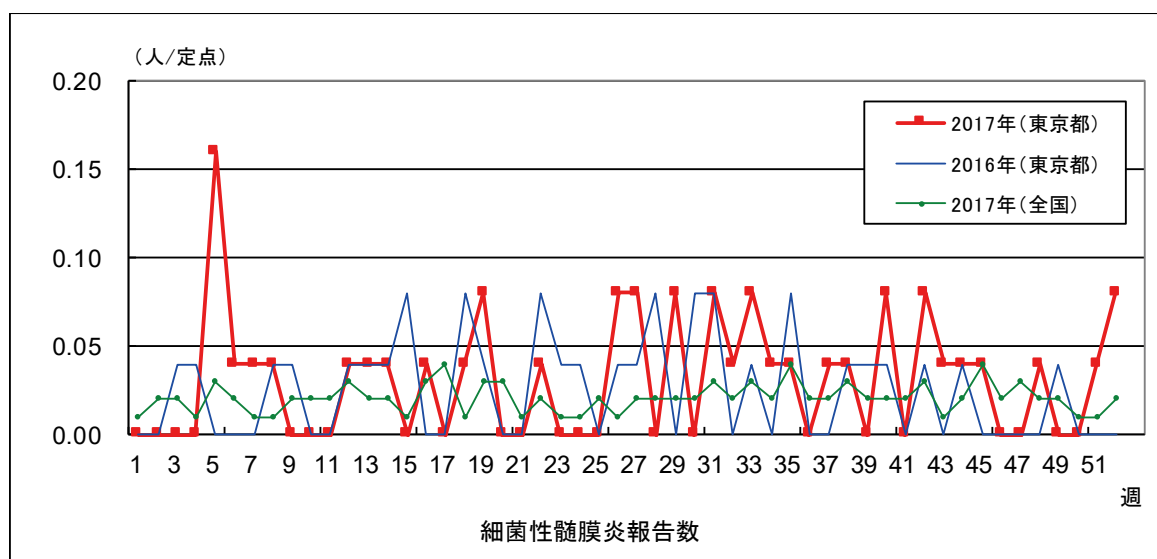
ア 細菌性髄膜炎

2017年の報告数は41人、定点当たりの報告数は1.64人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.39人であり2017年はやや多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数では5週(1.30~2.5)に0.16人とやや多い報告数が見られたが、他の週は0.08人以下で季節変動は明らかでない。

保健所別定点当たりの報告数で多かったのは墨田区の7.00人、世田谷の6.50人であった。

年齢階層別報告数では6か月未満が11人(26.8%)、60歳代以上が17人(41.5%)であった。



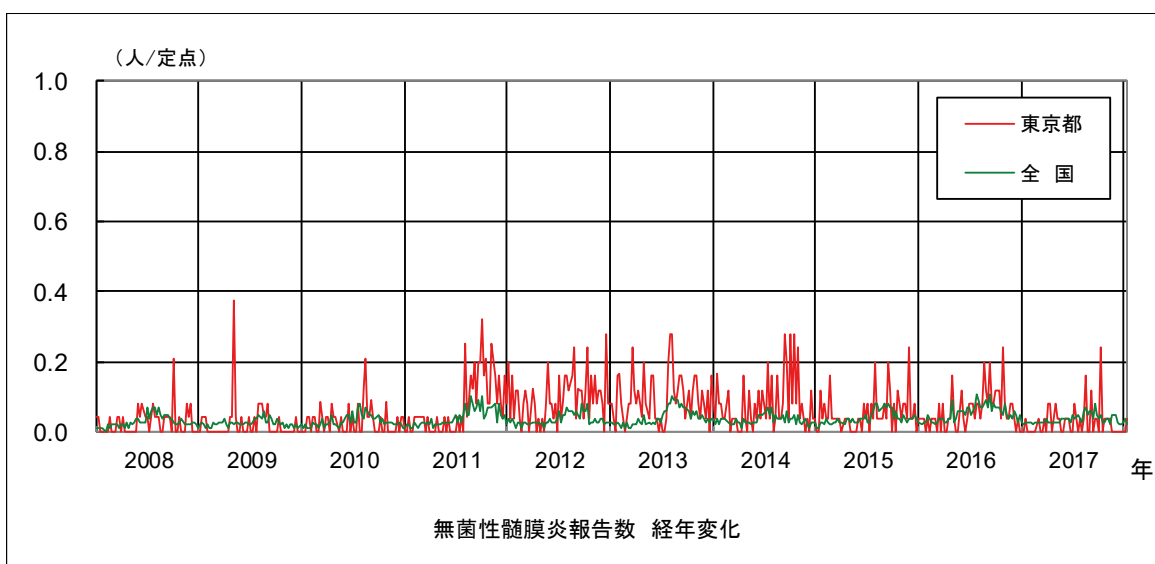
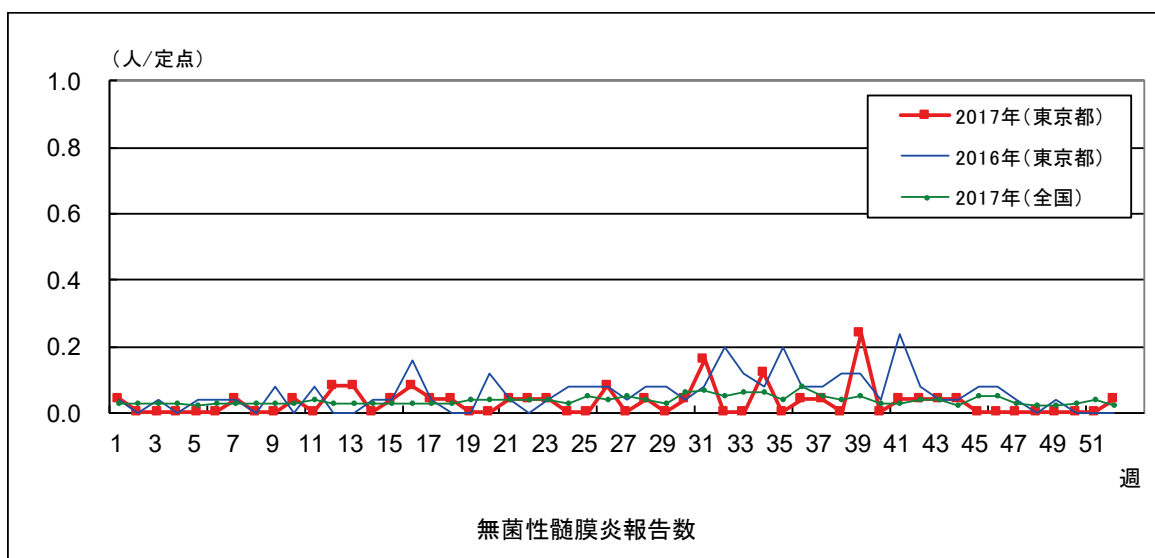
イ 無菌性髄膜炎

2017年の報告数は39人、定点当たりの報告数は1.56人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は2.97人であり、2017年はやや少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では39週（9.25～10.1）が0.24人とやや多い報告数であったが、季節変動は明らかではない。

保健所別定点当たりの報告数で多かったのは世田谷の7.00人、葛飾区の6.00人であった。

年齢階層別報告数では6か月未満が11人（28.2%）であった。



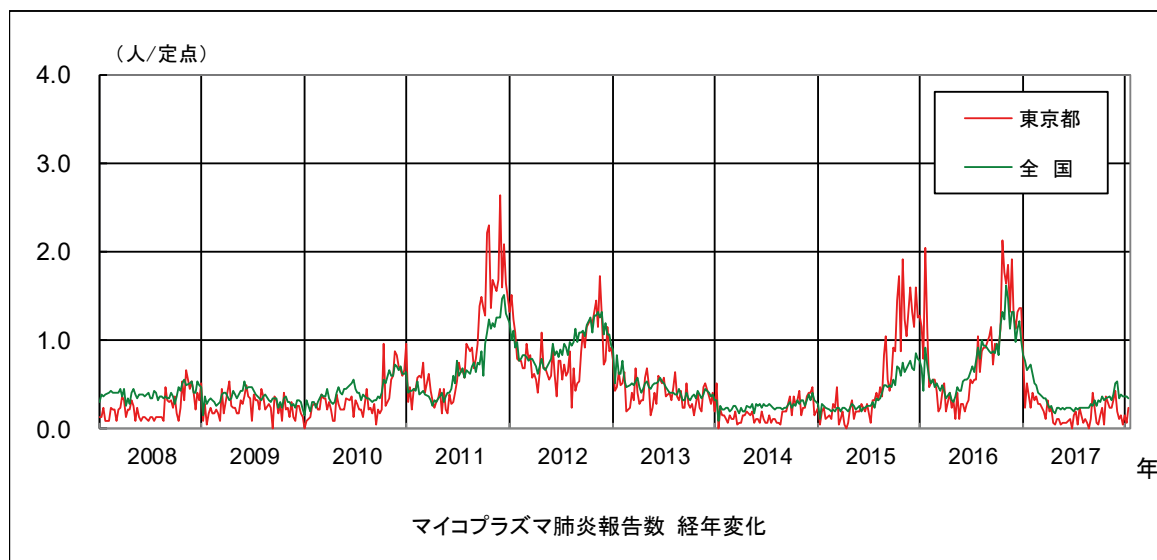
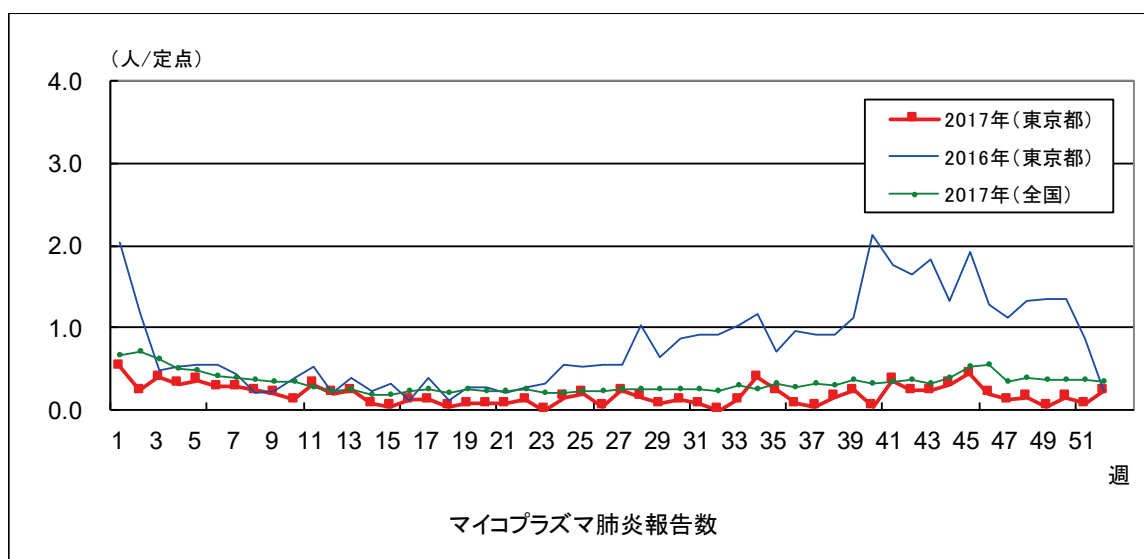
ウ マイコプラズマ肺炎

2017 年の報告数は 237 人、定点当たりの報告数は 9.48 人であった。この 10 年の定点当たりの報告数の平均は 24.51 人であり、2017 年は 2014 年に次いで少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では 1 週（1.2～1.8）の 0.52 人以外 0.5 人を超えた週はなく季節変動も明らかではない。

保健所別定点当たりの報告数で最も多かったのは池袋の 24.00 人であった。

年齢階層別報告数では 10 歳未満が 123 人（51.9%）、10 歳代が 49 人（20.7%）、20 歳代～60 歳未満が 51 人（21.5%）、60 歳以上が 14 人（5.9%）であった。

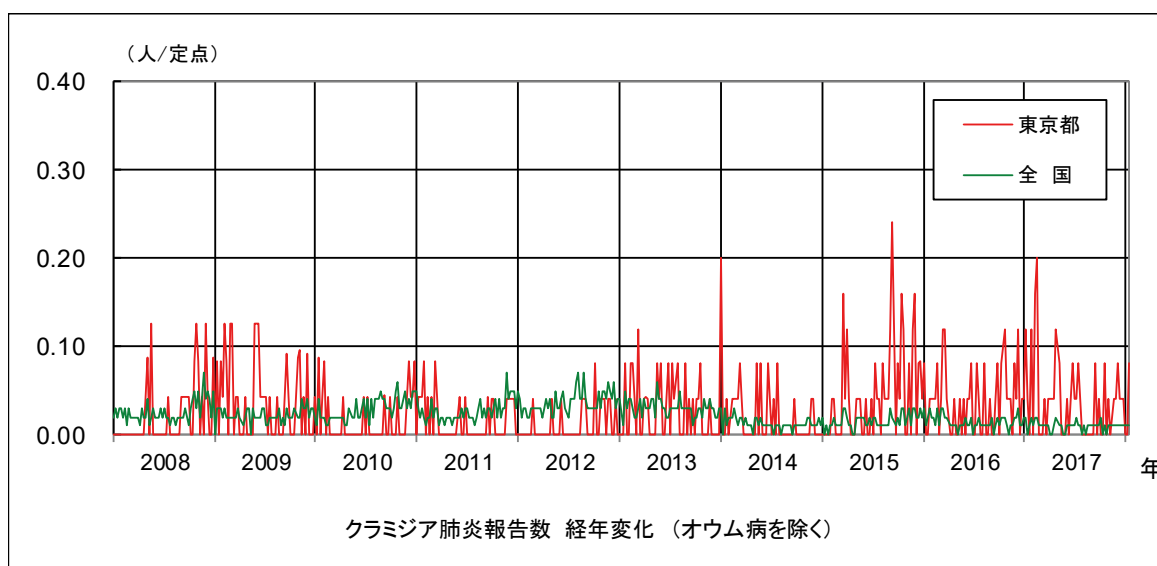
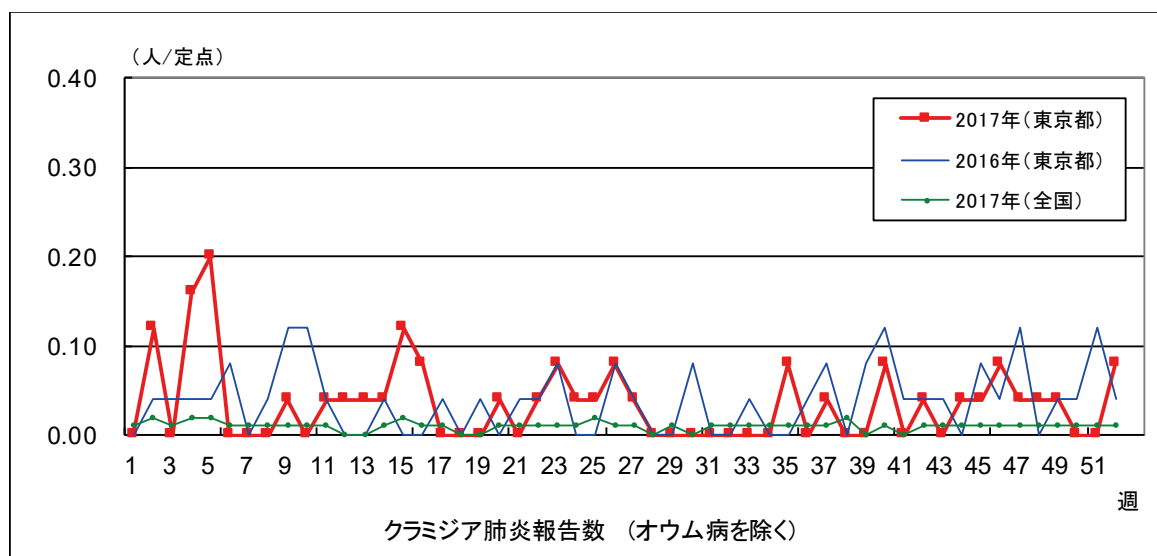


エ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

2017年の報告数は46人、定点当たりの報告数は1.84人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.38人で2017年は平均よりやや多い報告数であった。週別定点当たりの報告数では4週（1.23～1.29）と5週（1.30～2.5）にやや報告数の増加があるがそれ以外の季節変動は明らかではない。

保健所別定点当たりの報告数で多かったのは池袋 8.00人、多摩府中 8.00人、みなと 7.00人、葛飾 6.00人、多摩小平 0.50人でこの5か所の保健所以外からの報告はなかった。

年齢階層別報告数では60歳代以上が35人（76.1%）であった。

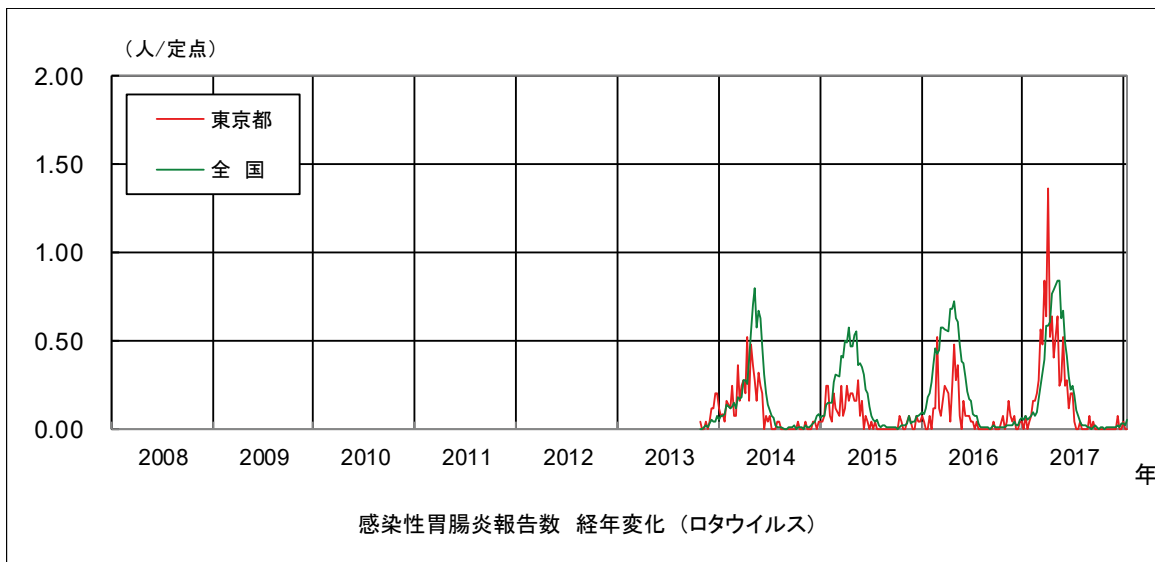
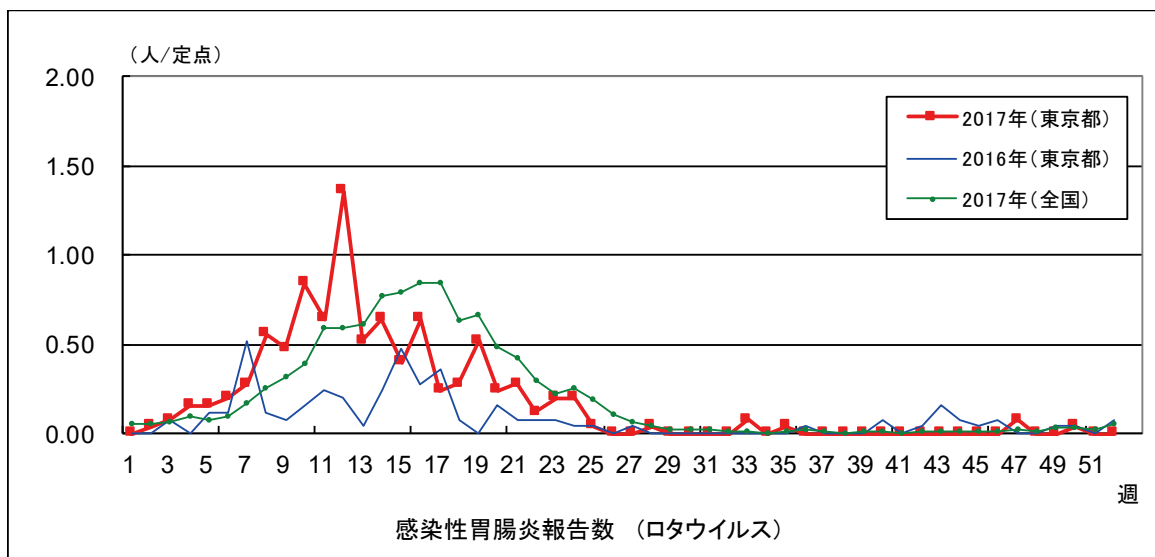


オ 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）

2017 年の報告数は 235 人、定点当たりの報告数は 9.40 人であった。2014 年から報告は通年化されたが、2017 年はこの 4 年間では最も報告数が多かった。週別定点当たりの報告数では 7 週（2.13～2.19）から 21 週（5.22～5.28）にかけて 0.2 人を超える大きな山がありピークは 12 週（3.20～3.26）の 1.36 人であった。

保健所別定点当たりの報告数で多かったのは葛飾区の 49.00 人、渋谷区の 43.00 人であった。

年齢階層別報告数では 2 歳代が 46 人（19.6%）と最も多く、4 歳代以下で 159 人（67.7%）を占めている。

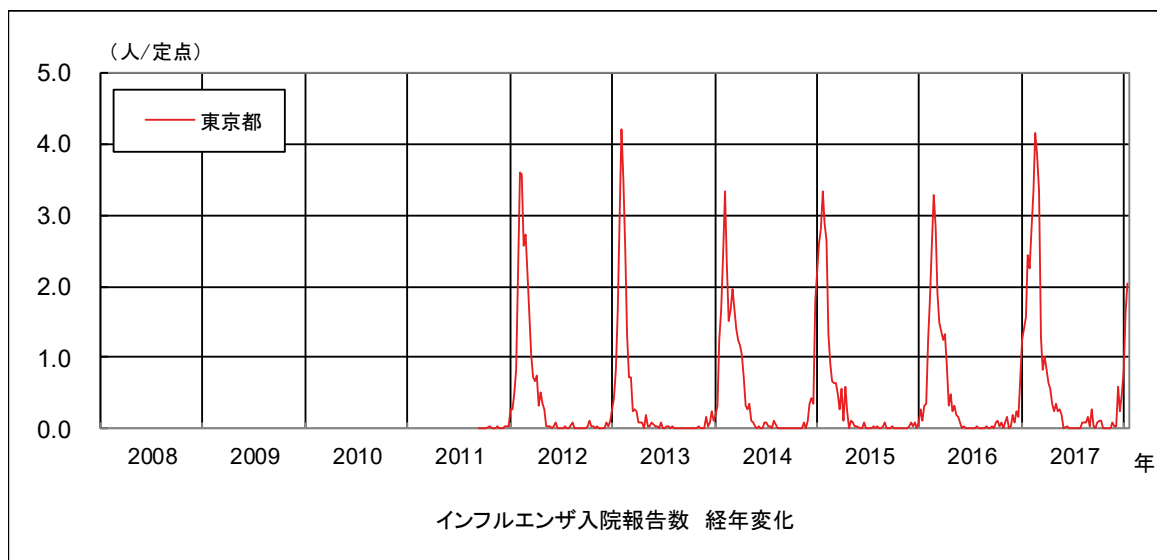
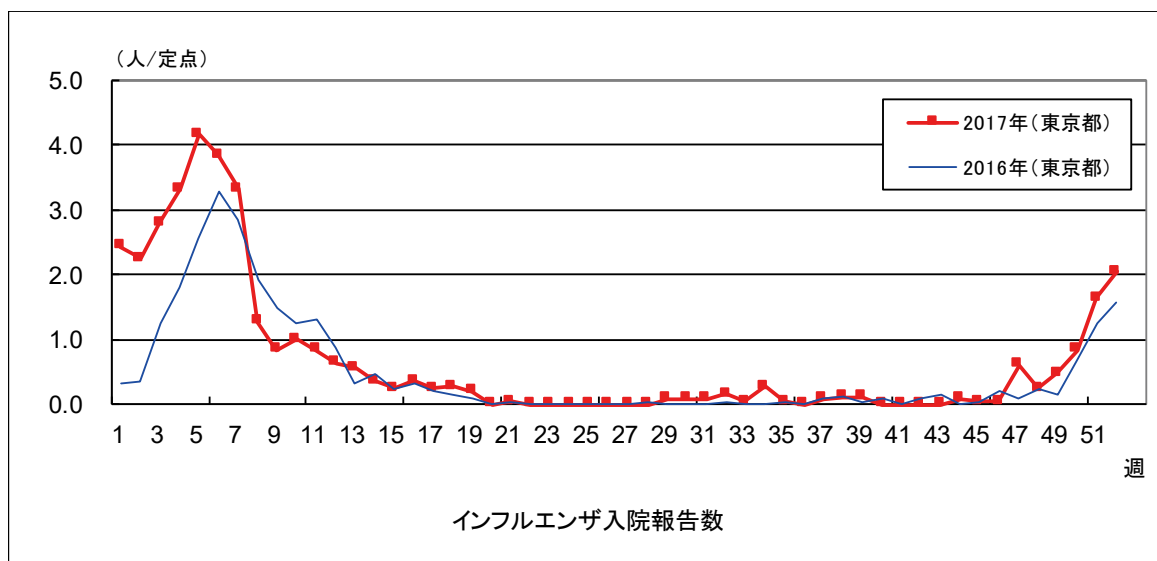


カ インフルエンザ入院

2017年の報告数は902人、定点当たりの報告数は36.08人であった。報告が通年化された2012年からの6年間の定点当たりの報告数の平均は26.03人であり。2017年はこの6年間で最も報告数が多かった。2016/17シーズンのピークは5週の4.16人であった。2017/18シーズンは最終52週では2.04人まで増加している。

保健所別定点当たりの報告数で多かったのは葛飾区の92.00人、世田谷の69.50人であった。

年齢階層別報告数では10歳未満215人(23.8%)、10歳代37人(4.1%)、20歳代～50歳代83人(9.2%)、60歳代72人(8.0%)、70歳代151人(16.7%)、80歳以上344人(38.1%)であった。

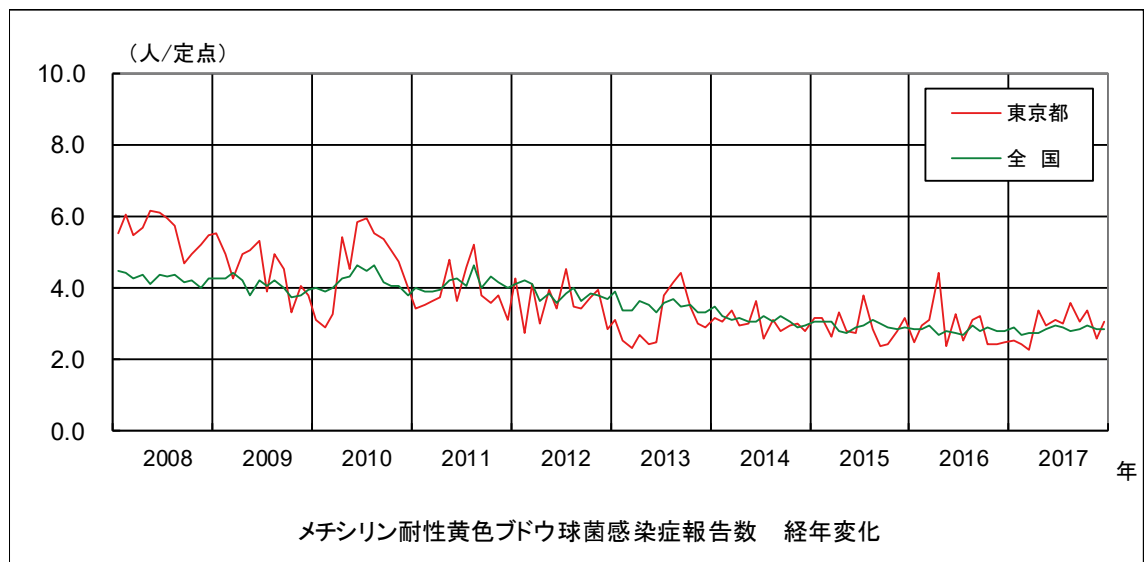
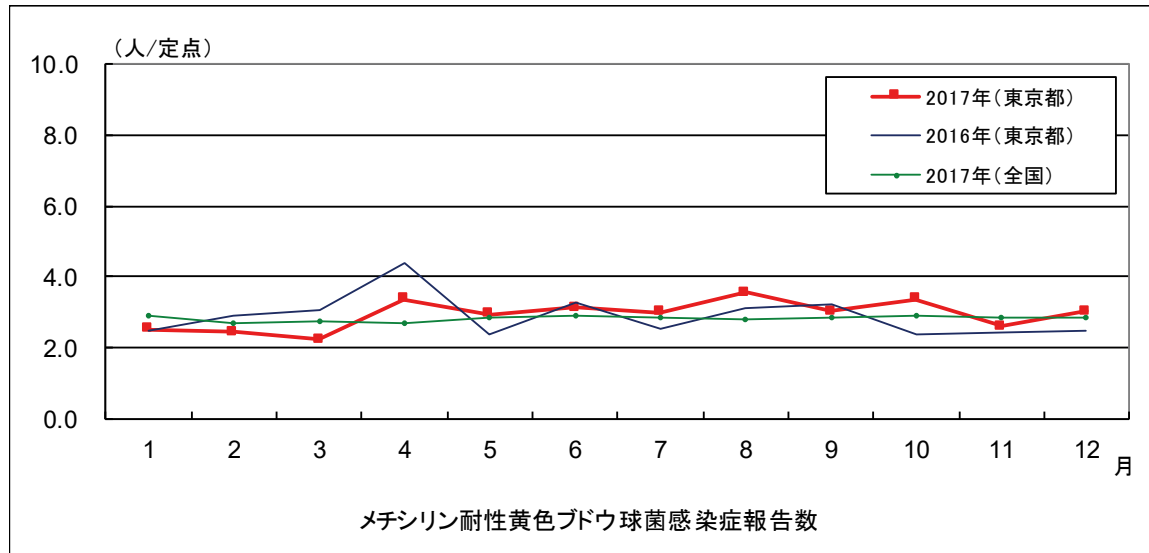


（５） 基幹定点医療機関における月報告疾患

ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症

2017年の報告数は881人、定点当たりの報告数は35.24人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は44.55人であった。2011年より報告数は減少を続けていたが2017年は前年より若干増加がみられた。月別の報告数に明らかな変動は見られなかった。

性別では男性573人（65.0%）、女性308人（35.0%）と例年と同様男性に多かった。年齢階層別報告数では10歳未満が208人（23.6%）、70歳以上が359人（40.7%）と若年者と高齢者に多かった。

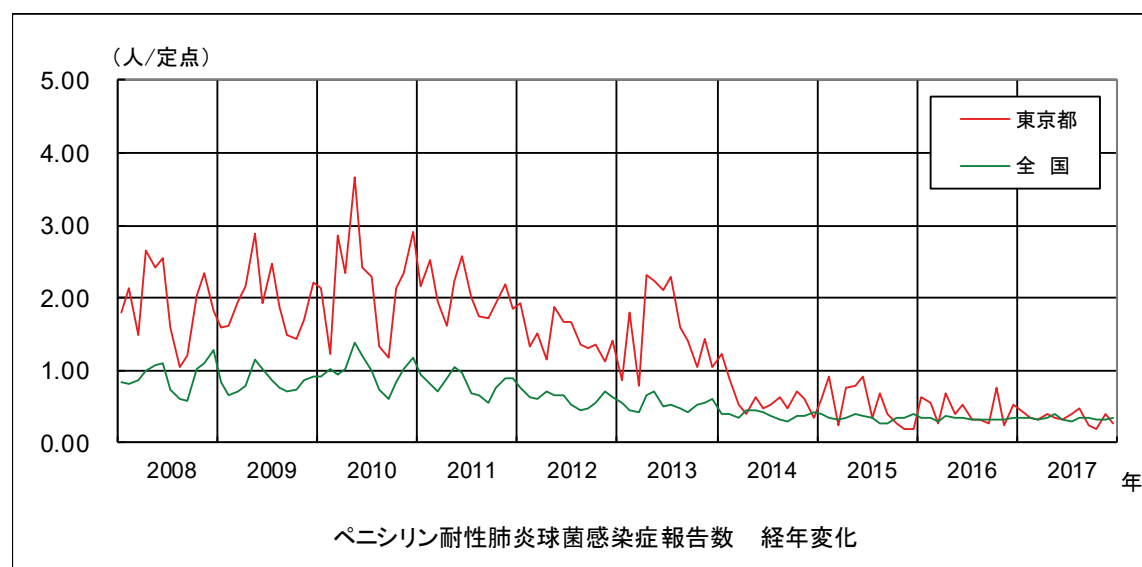
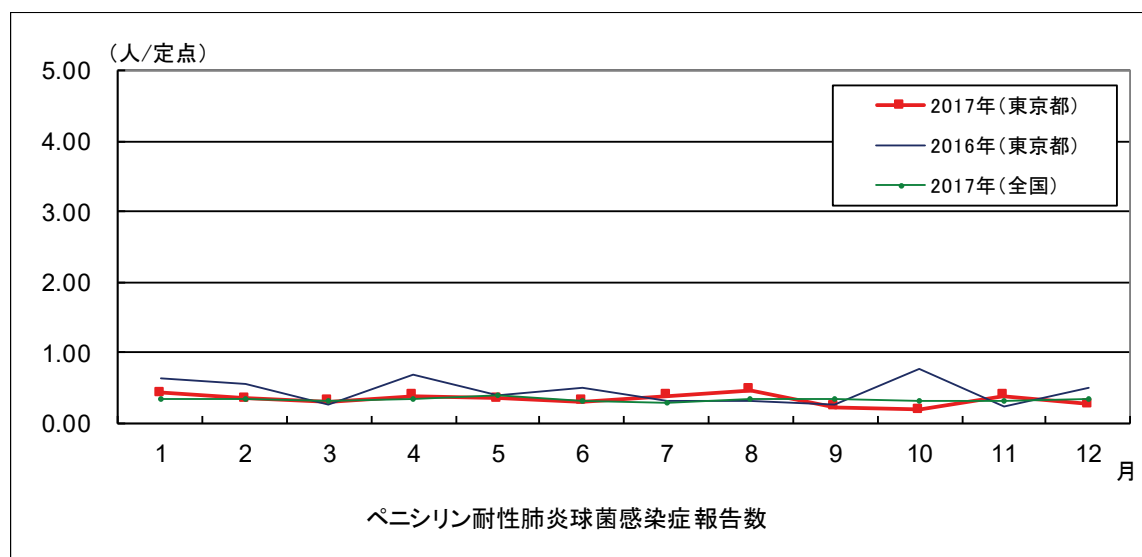


イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2017年の報告数は105人、定点当たりの報告数は4.20人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は15.79人であり2014年より前年比で減少が続いている。

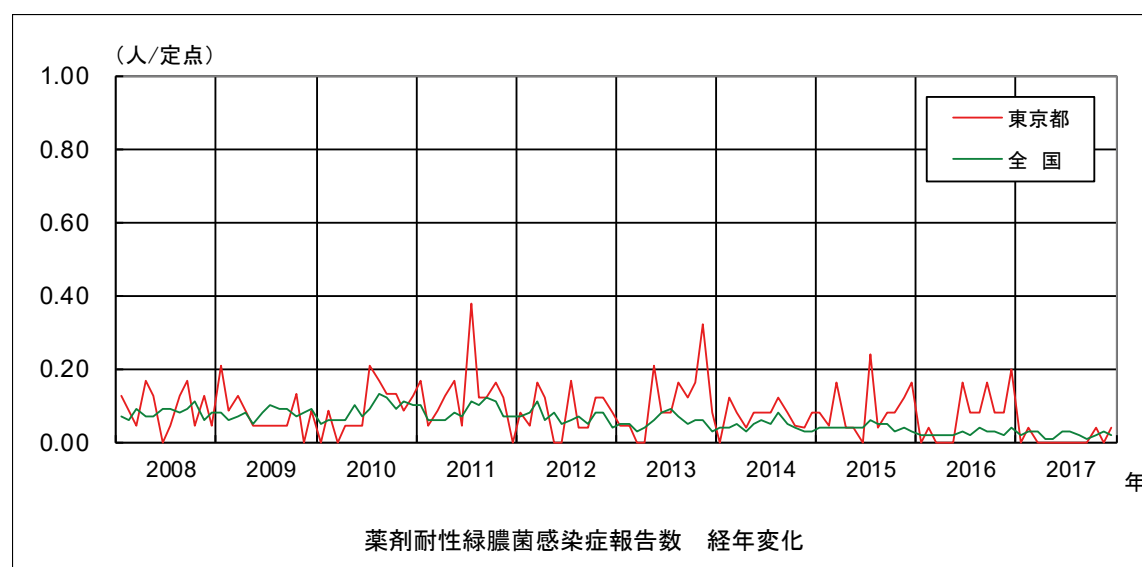
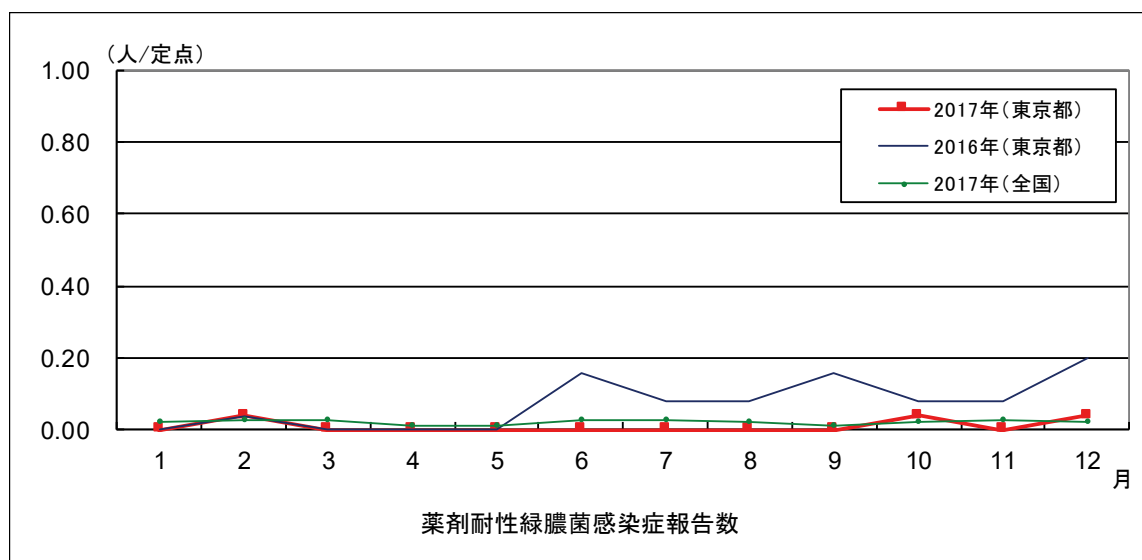
月別報告数に季節変動は見られない。

性別では男性69人(65.7%)、女性36人(34.3%)で例年と同じく男性に多かった。年齢階層別報告数では10歳未満が45人(42.9%)、70歳以上が30人(28.6%)であった。



ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症

2017年の報告数は3人で、定点当たりの報告数は0.12人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は0.99人で、2017年はここ10年で最も少ない報告数であった。3人の性及び年齢は40歳の男性、60歳の男性及び70歳以上の女性であった。



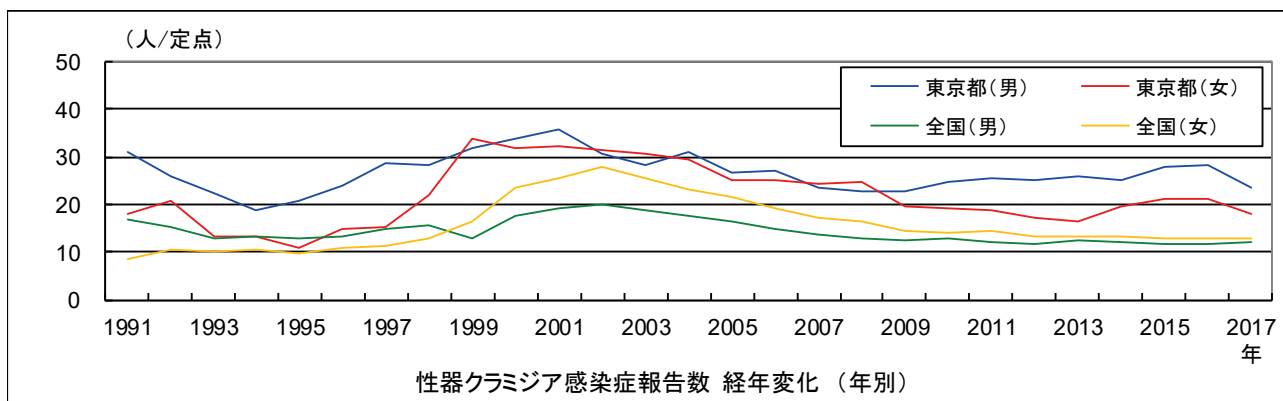
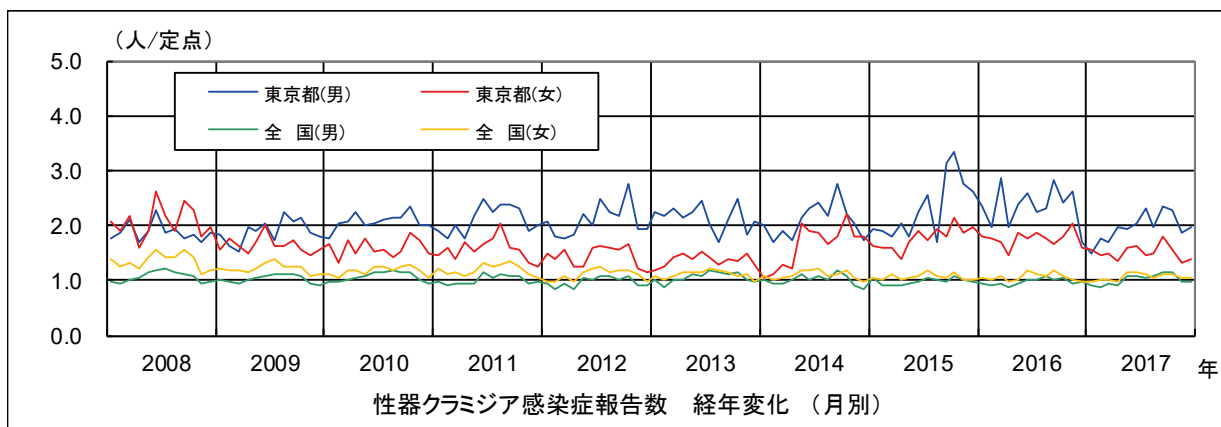
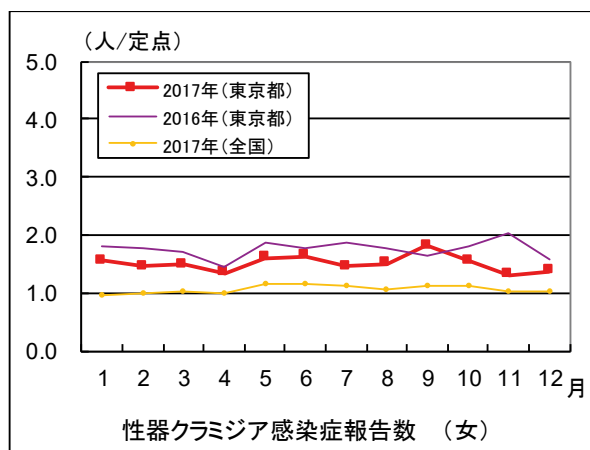
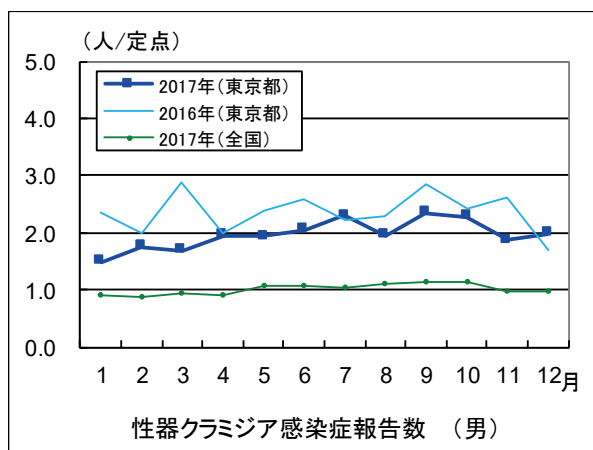
(6) 性感染症

ア 性器クラミジア感染症

2017年の報告数は2,294人、定点当たり41.77人であり、男性の報告数は1,300人、定点当たり23.67人（前年比0.84）、女性の報告数は994人、定点当たり18.10人（前年比0.86）であった。

定点当たり報告数を月別に見ると、男性は9月が2.35人で最多、1月が1.49人で最少、女性では9月が2.04人で最多、11月が1.31人で最少であった。保健所別では、男性は千代田区の85.0人、女性は多摩立川の79.5人が最多であった。

年齢階級別報告数では、男性は25～29歳の279人が最多で、20歳代と30歳代で男性全体の66.7%を占めた。女性では20～24歳の310人が最多で、20歳代と30歳代で女性全体の82.8%を占めた。

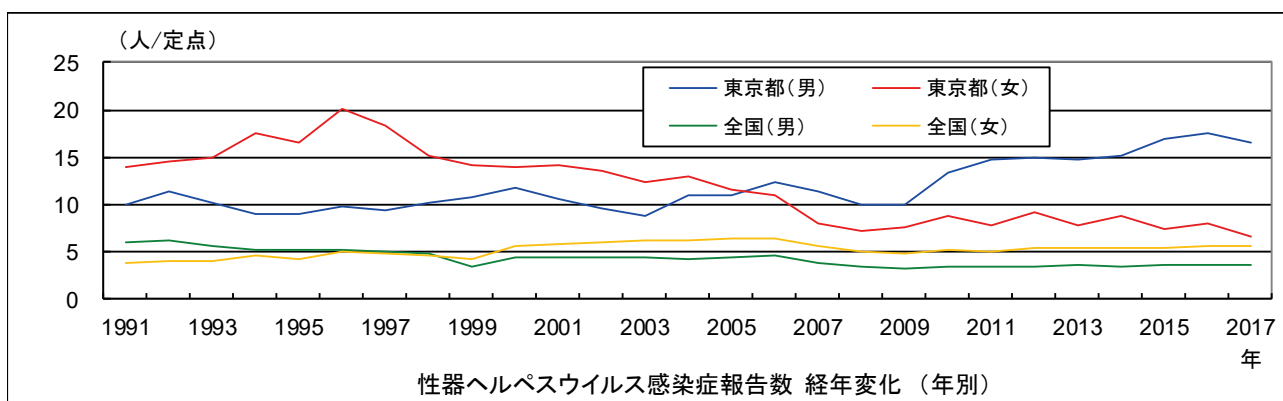
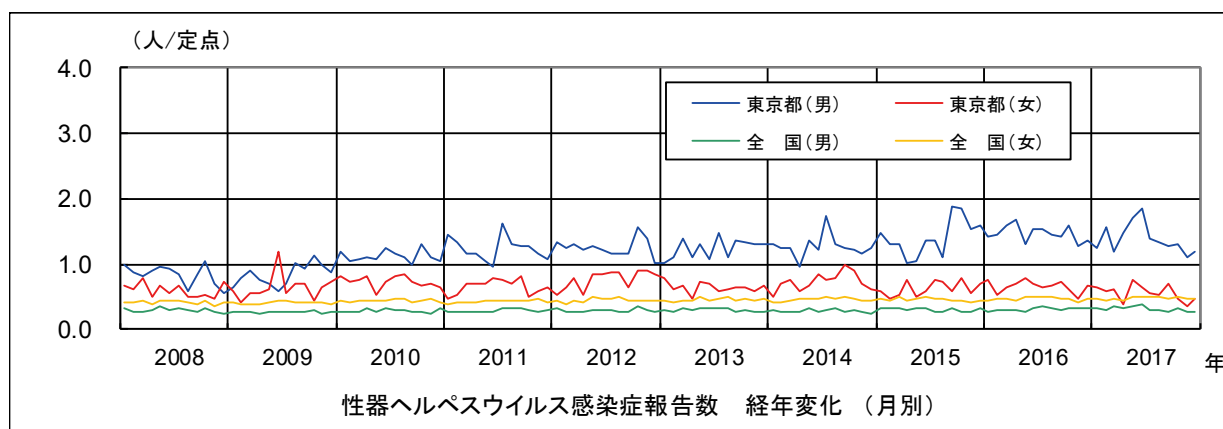
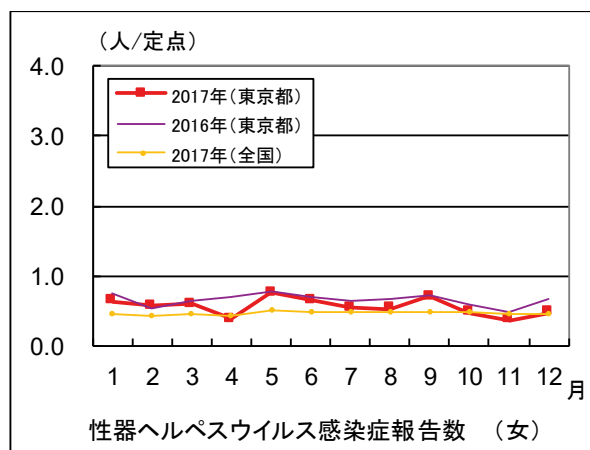
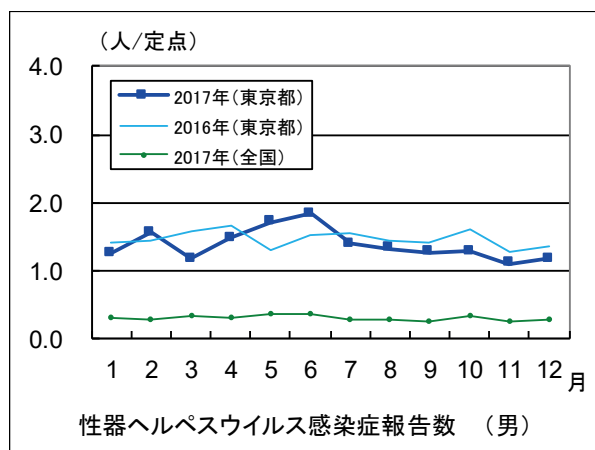


イ 性器ヘルペスウイルス感染症

2017年の報告数は1,279人、定点当たり23.29人であり、男性の報告数は911人、定点当たり16.59人（前年比0.96）、女性の報告数は368人、定点当たり6.70人（前年比0.85）で、2006年以降男性に多い状況が続いている。

月別の定点当たり報告数は、男性は6月が1.84人で最多、11月が1.11人で最少、女性は5月が0.76人で最多、11月が0.36人で最少であった。保健所別では、男性はみなとが最多で203.00人、女性は町田市が最多で27.00人であった。

年齢階級別報告数では、男性は40～44歳の137人が最多で、35～54歳までの各階級で100人以上の報告数を認めた。女性では30～34歳の61人が最多で、20歳代と30歳代で女性全体の59.8%を占めた。

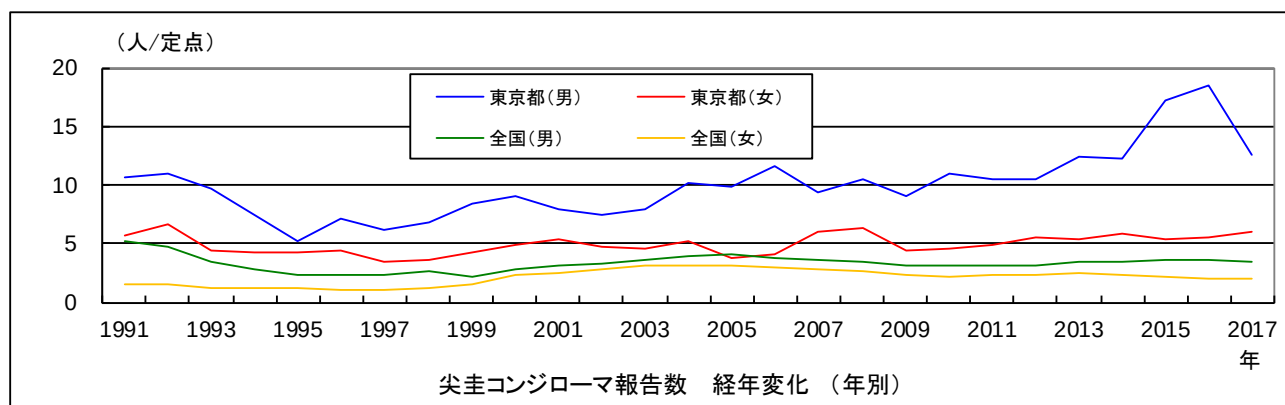
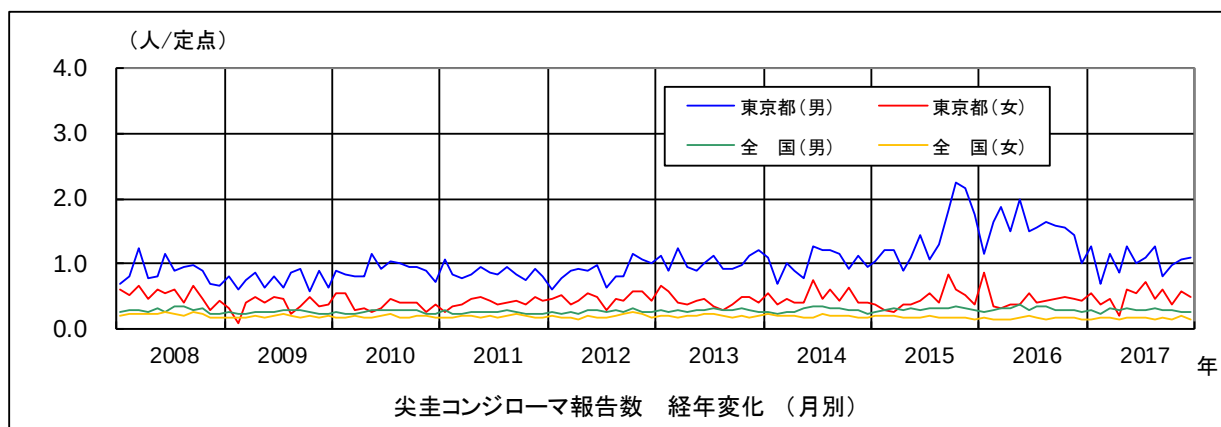
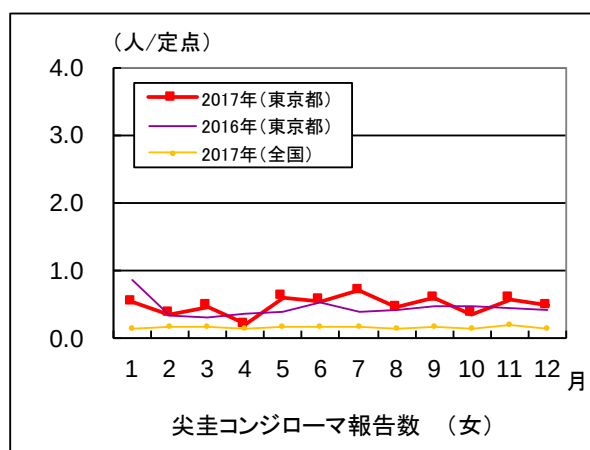
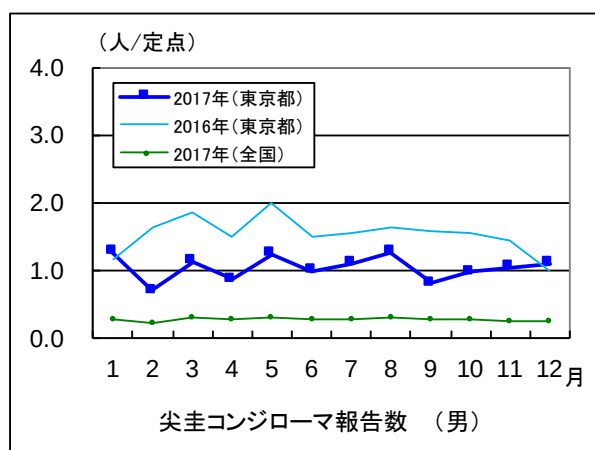


ウ 尖圭コンジローマ

2017年の報告数は1,021人、定点当たり18.58人であり、男性の報告数は692人、定点当たり12.59人（前年比0.68）、女性の報告数は329人、定点当たり5.99人（前年比1.08）で、男性の割合が多かったが、男性の報告数の減少に反して女性の報告数は微増した。

月別定点当たり報告数は、男性は1月と8月が1.27人で最多、2月が0.70人で最少、女性は7月が1.11人で最多、10月が0.98人で最少であった。保健所別では、男性が新宿区の59.17人、女性も新宿区の28.64人がそれぞれ最多であった。

年齢階級別報告数では、男性は35～39歳の129人が最多で、30歳代と40歳代で男性全体の58.4%を占めた。女性では20～24歳が104人と最多で、20歳代と30歳代で女性全体の80.2%と年齢構成は昨年と同様の傾向を示した。

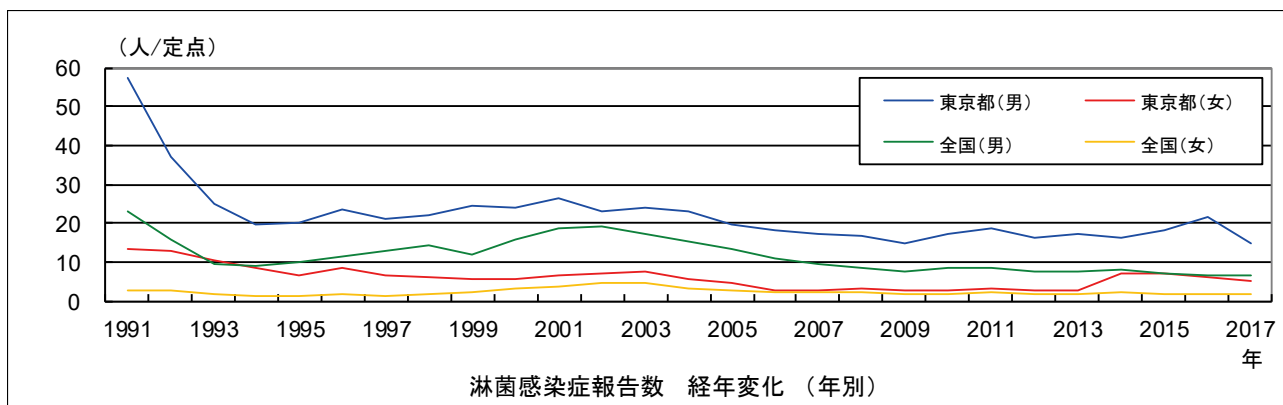
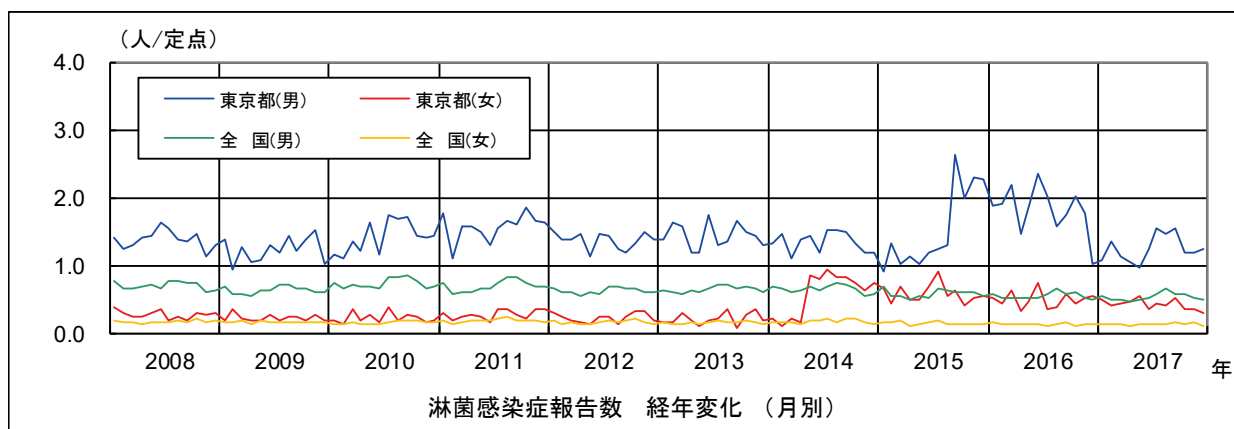
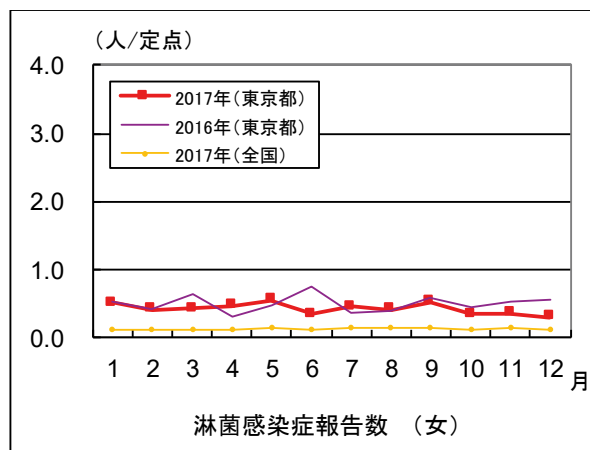
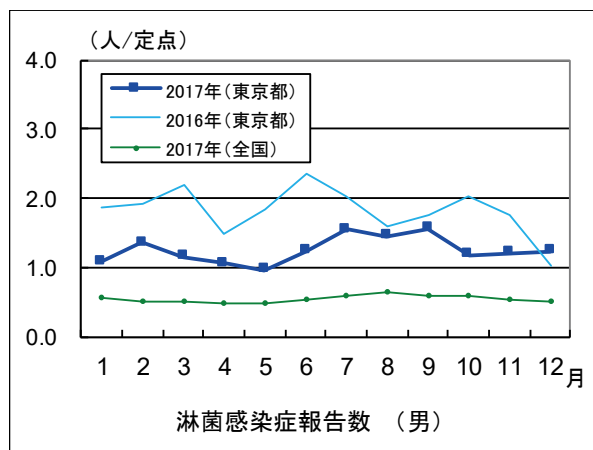


エ 淋菌感染症

2017年の報告数は1,109人、定点当たり20.2人であり、男性の報告数は825人、定点当たり15.02人（前年比0.69）、女性の報告数は284人、定点当たり5.17人（前年比0.86）であった。

月別定点当たり報告数は、男性は9月が1.56人で最多、5月が0.96人で最少であった。女性は5月が0.56人で最多、12月が0.31人で最少であった。保健所別では、男性は千代田区の46.0人、女性は台東の79.0人が最多であった。

年齢階級別報告数では、男性は25～29歳の152人が最多で、20歳代と30歳代が男性全体の69.6%を占めた。女性は20～24歳の66人が最多で、20歳代と30歳代が女性全体の69.7%を占めた。



オ 膣トリコモナス症

膣トリコモナス症は東京都が独自に実施している定点項目疾患である。2017 年の報告数は 110 人、定点当たり 2.0 人であり、男性の報告数は 2 人、定点当たり 0.04 人（前年比 0.50）、女性の報告数は 108 人、定点当たり 1.97 人（前年比 0.96）であった。

男性は報告数が少なく明らかな傾向を判断するのは困難だったが、女性では、月別定点当たり患者報告数は 10 月が 0.31 人で最多、12 月が 0.04 人で最少であった。保健所別では、台東の 18.50 人が最多であった。

年齢階級別報告数では女性で 20～24 歳が 19 人で最多だが、20 歳代から 40 歳代までは各年齢階級別に 10 人以上の報告数があり、35 歳以上の報告がない男性に比べて患者の傾向に幅が見られた。

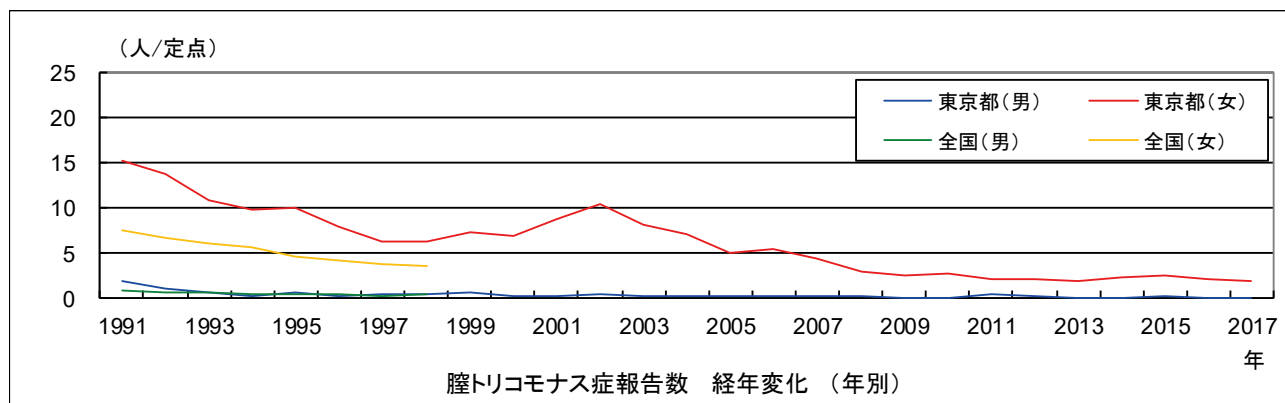
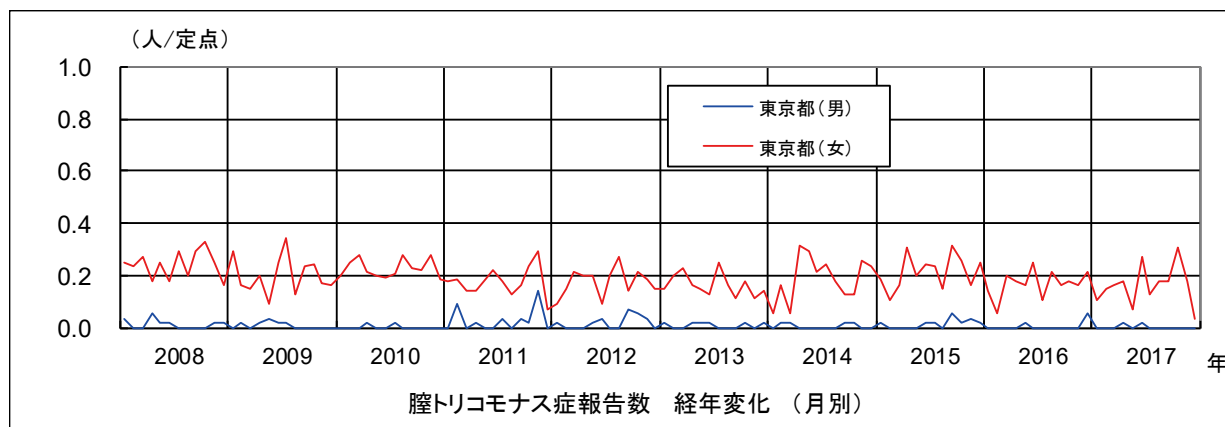
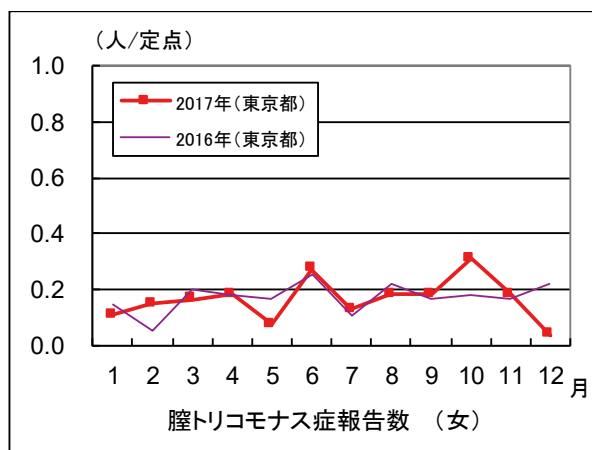
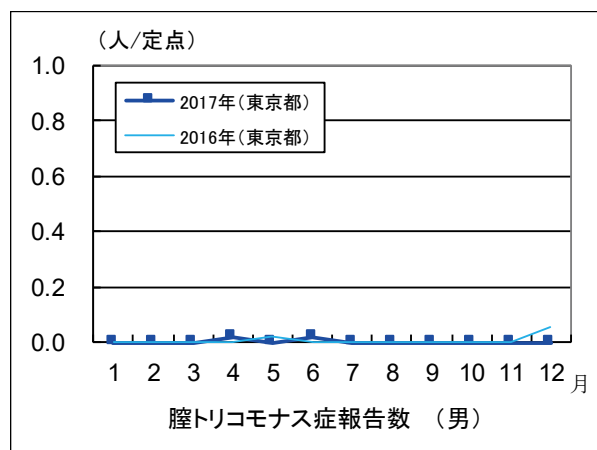


表4-1(1) 週別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2017年第1週～第52週

週	期 間	報告 定点 数 (イン フル エン ザ)	イン フル エン ザ	報告 定点 数 (小児 科)	R S ウ ィ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 球 菌 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
1	1. 2～ 1. 8	409	3,770	258	19	57	231	1,083	117	23	34	45	1	2	73
2	1. 9～ 1.15	415	6,295	263	23	66	348	1,667	98	22	41	125		1	121
3	1.16～ 1.22	416	11,874	262	38	57	517	1,786	70	18	37	107	2	1	66
4	1.23～ 1.29	415	16,074	261	24	60	487	1,608	85	14	27	112	2	2	68
5	1.30～ 2. 5	415	14,694	261	36	51	519	1,453	66	10	27	114	3	3	82
6	2. 6～ 2.12	413	10,813	260	22	53	473	1,370	48	21	20	107	1		68
7	2.13～ 2.19	416	9,277	262	28	67	547	1,689	74	19	31	121	1	1	78
8	2.20～ 2.26	416	6,516	262	26	47	519	1,744	115	19	16	121	2	3	58
9	2.27～ 3. 5	415	5,181	262	25	67	514	1,859	72	17	22	131	1	1	84
10	3. 6～ 3.12	415	4,236	261	29	66	574	1,898	73	9	29	113	2	1	58
11	3.13～ 3.19	413	4,217	260	36	58	619	2,104	83	10	17	138	1	3	64
12	3.20～ 3.26	414	3,008	261	26	52	415	1,758	75	9	21	99		1	59
13	3.27～ 4. 2	417	2,635	263	34	56	494	1,821	108	23	25	119	2	1	66
14	4. 3～ 4. 9	413	2,114	260	27	60	456	1,882	83	20	30	135	2	3	73
15	4.10～ 4.16	412	1,716	260	62	56	559	2,093	89	32	27	109	1	5	54
16	4.17～ 4.23	414	1,872	262	72	82	663	2,226	84	33	33	174	2	3	41
17	4.24～ 4.30	414	1,285	262	70	102	671	2,117	109	42	21	163	2	5	42
18	5. 1～ 5. 7	416	724	262	53	87	510	1,532	82	48	36	120		10	38
19	5. 8～ 5.14	415	496	262	40	142	746	2,051	176	61	26	203		10	54
20	5.15～ 5.21	414	251	262	52	157	861	2,158	104	96	25	170	1	19	71
21	5.22～ 5.28	412	123	261	56	212	847	2,022	157	143	36	181	1	26	45
22	5.29～ 6. 4	415	48	263	63	286	858	1,939	134	222	41	202	1	39	65
23	6. 5～ 6.11	413	26	262	59	303	879	1,841	104	267	33	168	3	70	59
24	6.12～ 6.18	414	27	263	62	289	958	1,920	118	362	33	174	4	83	63
25	6.19～ 6.25	413	17	261	58	272	858	1,794	110	449	40	192	9	102	76
26	6.26～ 7. 2	415	17	262	76	288	826	1,633	132	620	29	176		131	82
27	7. 3～ 7. 9	413	45	261	116	255	768	1,404	108	1,090	33	168	4	314	91
28	7.10～ 7.16	386	31	257	178	266	653	1,432	87	1,764	22	164	4	412	87
29	7.17～ 7.23	414	38	261	223	245	484	1,080	74	2,301	25	156	4	516	86
30	7.24～ 7.30	417	60	263	405	295	455	1,089	75	2,853	24	158	2	669	69
31	7.31～ 8. 6	411	95	259	583	244	402	1,020	64	3,066	17	143	1	653	46
32	8. 7～ 8.13	383	36	243	482	163	229	780	59	2,666	17	102	3	485	46
33	8.14～ 8.20	379	29	227	460	130	203	644	50	1,829	10	93	1	296	32
34	8.21～ 8.27	402	40	249	626	137	240	796	54	2,347	21	115	4	467	38
35	8.28～ 9. 3	413	58	259	822	121	278	872	34	2,168	15	137		441	46
36	9. 4～ 9.10	414	71	259	786	114	359	907	51	1,560	17	155	3	340	56
37	9.11～ 9.17	410	88	258	659	114	410	931	50	1,707	25	137	3	328	43
38	9.18～ 9.24	413	67	261	441	88	318	710	43	1,075	8	124	1	219	38
39	9.25～10. 1	415	79	261	381	111	419	856	61	1,026	16	139	2	268	44
40	10. 2～10. 8	412	56	262	279	87	463	895	46	872	11	126	1	198	41
41	10. 9～10.15	417	68	262	197	100	393	755	69	656	21	127	3	105	37
42	10.16～10.22	415	99	263	132	89	524	1,015	100	623	16	119	3	146	52
43	10.23～10.29	415	142	261	131	124	648	1,058	85	697	21	121	2	119	40
44	10.30～11. 5	416	234	262	117	122	610	1,174	123	474	18	135	5	86	35
45	11. 6～11.12	418	226	263	85	165	696	1,384	157	369	27	138	1	72	48
46	11.13～11.19	415	360	261	82	172	779	1,787	167	301	19	136	4	47	48
47	11.20～11.26	417	775	262	69	176	831	2,063	176	301	29	129	3	38	36
48	11.27～12. 3	418	1,323	263	76	203	935	2,771	186	209	38	148	3	31	30
49	12. 4～12.10	416	2,189	262	105	186	979	3,302	176	184	23	132	4	10	31
50	12.11～12.17	416	3,756	262	88	197	1,064	3,374	205	153	30	130	2	14	31
51	12.18～12.24	415	5,821	262	103	184	974	3,324	145	97	33	115	2	10	16
52	12.25～12.31	387	6,721	240	96	141	601	2,510	124	59	18	90	4	2	28
合 計			129,813		8,838	7,322	30,664	84,981	5,135	33,056	1,311	7,056	113	6,812	2,903

表4-1(2) 週別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2017年第1週～第52週

週	期 間	報告定点数 (小児科)	不明 発しん症	川崎病	報告定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	報告定点数 (基幹)	インフルエンザ入院
1	1. 2～ 1. 8	258	5	3	38		15	25		1	13			25	61
2	1. 9～ 1. 15	263	21	3	39		14	25			6	3	1	25	56
3	1. 16～ 1. 22	262	14	4	39		19	25			10		2	25	70
4	1. 23～ 1. 29	261	12	4	39		12	25			8	4	4	25	83
5	1. 30～ 2. 5	261	7	3	39		9	25	4		9	5	4	25	104
6	2. 6～ 2. 12	260	12	3	38	1	7	25	1		7		5	25	96
7	2. 13～ 2. 19	262	8	3	39		10	25	1	1	7		7	25	83
8	2. 20～ 2. 26	262	12	1	39		6	25	1		6		14	25	32
9	2. 27～ 3. 5	262	8	6	39		12	25			5	1	12	25	21
10	3. 6～ 3. 12	261	10	6	39	1	8	25		1	3		21	25	25
11	3. 13～ 3. 19	260	15	7	39	1	12	25			8	1	16	25	21
12	3. 20～ 3. 26	261	13	3	39		15	25	1	2	5	1	34	25	16
13	3. 27～ 4. 2	263	20	9	39		11	25	1	2	6	1	13	25	14
14	4. 3～ 4. 9	260	13	1	39		15	25	1		2	1	16	25	9
15	4. 10～ 4. 16	260	9	2	39		15	25		1	1	3	10	25	6
16	4. 17～ 4. 23	262	16	4	39		23	25	1	2	3	2	16	25	9
17	4. 24～ 4. 30	262	11	3	39		18	25		1	3		6	25	6
18	5. 1～ 5. 7	262	13	1	39		26	25	1	1	1		7	25	7
19	5. 8～ 5. 14	262	19	2	39		36	25	2		2		13	25	5
20	5. 15～ 5. 21	262	21	2	39		38	25			2	1	6	25	0
21	5. 22～ 5. 28	261	18	5	39	1	31	25		1	2		7	25	1
22	5. 29～ 6. 4	263	38	6	39		34	25	1	1	3	1	3	25	0
23	6. 5～ 6. 11	262	14	1	39		44	25		1		2	5	25	0
24	6. 12～ 6. 18	263	20	1	39		23	25			4	1	5	25	0
25	6. 19～ 6. 25	261	26	3	39		22	25			5	1	1	25	0
26	6. 26～ 7. 2	262	40	4	39		31	25	2	2	1	2		25	0
27	7. 3～ 7. 9	261	39	4	39		30	25	2		6	1		25	0
28	7. 10～ 7. 16	257	42	3	39	1	28	25		1	4		1	25	0
29	7. 17～ 7. 23	261	37	1	39	1	31	25	2		2			25	2
30	7. 24～ 7. 30	263	42	3	39		25	25		1	3			25	2
31	7. 31～ 8. 6	259	42	4	39		32	25	2	4	2			25	2
32	8. 7～ 8. 13	243	16	4	38		37	25	1					25	4
33	8. 14～ 8. 20	227	23	2	36	1	20	25	2		3		2	25	1
34	8. 21～ 8. 27	249	30	6	38	2	32	25	1	3	10			25	7
35	8. 28～ 9. 3	259	29	3	38		30	25	1		6	2	1	25	1
36	9. 4～ 9. 10	259	20	6	38	1	33	25		1	2			25	0
37	9. 11～ 9. 17	258	36	5	39		19	25	1	1	1	1		25	2
38	9. 18～ 9. 24	261	25	3	38		15	25	1		4			25	3
39	9. 25～10. 1	261	36	3	39		36	25		6	6			25	3
40	10. 2～10. 8	262	32	4	38		19	25	2		1	2		25	0
41	10. 9～10. 15	262	28	8	39		18	25		1	9			25	0
42	10. 16～10. 22	263	27	4	39		22	25	2	1	6	1		25	0
43	10. 23～10. 29	261	33	3	39		28	25	1	1	6			25	0
44	10. 30～11. 5	262	16	4	39		25	25	1	1	8	1		25	2
45	11. 6～11. 12	263	22	5	39		26	25	1		11	1		25	1
46	11. 13～11. 19	261	14	3	39	1	31	25			5	2		25	1
47	11. 20～11. 26	262	18	7	38		36	25			3	1	2	25	15
48	11. 27～12. 3	263	9	6	39		29	25	1		4	1		25	6
49	12. 4～12. 10	262	25	5	39		31	25			1	1		25	12
50	12. 11～12. 17	262	14	4	39	1	27	25			4		1	25	21
51	12. 18～12. 24	262	10	9	39		32	25	1		2			25	41
52	12. 25～12. 31	240	21	6	37		21	25	2	1	6	2		25	51
合 計			1,101	205		12	1,219		41	39	237	46	235		902

表4-2(1) 週別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2017年第1週～第52週

週	期 間	報告 定点 数 (イン フル エン ザ)	イン フル エン ザ	報告 定点 数 (小 児 科)	R S ウ ィ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 球 菌 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
1	1. 2～ 1. 8	409	9.22	258	0.07	0.22	0.90	4.20	0.45	0.09	0.13	0.17	0.00	0.01	0.28
2	1. 9～ 1.15	415	15.17	263	0.09	0.25	1.32	6.34	0.37	0.08	0.16	0.48		0.00	0.46
3	1.16～ 1.22	416	28.54	262	0.15	0.22	1.97	6.82	0.27	0.07	0.14	0.41	0.01	0.00	0.25
4	1.23～ 1.29	415	38.73	261	0.09	0.23	1.87	6.16	0.33	0.05	0.10	0.43	0.01	0.01	0.26
5	1.30～ 2. 5	415	35.41	261	0.14	0.20	1.99	5.57	0.25	0.04	0.10	0.44	0.01	0.01	0.31
6	2. 6～ 2.12	413	26.18	260	0.08	0.20	1.82	5.27	0.18	0.08	0.08	0.41	0.00		0.26
7	2.13～ 2.19	416	22.30	262	0.11	0.26	2.09	6.45	0.28	0.07	0.12	0.46	0.00	0.00	0.30
8	2.20～ 2.26	416	15.66	262	0.10	0.18	1.98	6.66	0.44	0.07	0.06	0.46	0.01	0.01	0.22
9	2.27～ 3. 5	415	12.48	262	0.10	0.26	1.96	7.10	0.27	0.06	0.08	0.50	0.00	0.00	0.32
10	3. 6～ 3.12	415	10.21	261	0.11	0.25	2.20	7.27	0.28	0.03	0.11	0.43	0.01	0.00	0.22
11	3.13～ 3.19	413	10.21	260	0.14	0.22	2.38	8.09	0.32	0.04	0.07	0.53	0.00	0.01	0.25
12	3.20～ 3.26	414	7.27	261	0.10	0.20	1.59	6.74	0.29	0.03	0.08	0.38		0.00	0.23
13	3.27～ 4. 2	417	6.32	263	0.13	0.21	1.88	6.92	0.41	0.09	0.10	0.45	0.01	0.00	0.25
14	4. 3～ 4. 9	413	5.12	260	0.10	0.23	1.75	7.24	0.32	0.08	0.12	0.52	0.01	0.01	0.28
15	4.10～ 4.16	412	4.17	260	0.24	0.22	2.15	8.05	0.34	0.12	0.10	0.42	0.00	0.02	0.21
16	4.17～ 4.23	414	4.52	262	0.27	0.31	2.53	8.50	0.32	0.13	0.13	0.66	0.01	0.01	0.16
17	4.24～ 4.30	414	3.10	262	0.27	0.39	2.56	8.08	0.42	0.16	0.08	0.62	0.01	0.02	0.16
18	5. 1～ 5. 7	416	1.74	262	0.20	0.33	1.95	5.85	0.31	0.18	0.14	0.46		0.04	0.15
19	5. 8～ 5.14	415	1.20	262	0.15	0.54	2.85	7.83	0.67	0.23	0.10	0.77		0.04	0.21
20	5.15～ 5.21	414	0.61	262	0.20	0.60	3.29	8.24	0.40	0.37	0.10	0.65	0.00	0.07	0.27
21	5.22～ 5.28	412	0.30	261	0.21	0.81	3.25	7.75	0.60	0.55	0.14	0.69	0.00	0.10	0.17
22	5.29～ 6. 4	415	0.12	263	0.24	1.09	3.26	7.37	0.51	0.84	0.16	0.77	0.00	0.15	0.25
23	6. 5～ 6.11	413	0.06	262	0.23	1.16	3.35	7.03	0.40	1.02	0.13	0.64	0.01	0.27	0.23
24	6.12～ 6.18	414	0.07	263	0.24	1.10	3.64	7.30	0.45	1.38	0.13	0.66	0.02	0.32	0.24
25	6.19～ 6.25	413	0.04	261	0.22	1.04	3.29	6.87	0.42	1.72	0.15	0.74	0.03	0.39	0.29
26	6.26～ 7. 2	415	0.04	262	0.29	1.10	3.15	6.23	0.50	2.37	0.11	0.67		0.50	0.31
27	7. 3～ 7. 9	413	0.11	261	0.44	0.98	2.94	5.38	0.41	4.18	0.13	0.64	0.02	1.20	0.35
28	7.10～ 7.16	386	0.08	257	0.69	1.04	2.54	5.57	0.34	6.86	0.09	0.64	0.02	1.60	0.34
29	7.17～ 7.23	414	0.09	261	0.85	0.94	1.85	4.14	0.28	8.82	0.10	0.60	0.02	1.98	0.33
30	7.24～ 7.30	417	0.14	263	1.54	1.12	1.73	4.14	0.29	10.85	0.09	0.60	0.01	2.54	0.26
31	7.31～ 8. 6	411	0.23	259	2.25	0.94	1.55	3.94	0.25	11.84	0.07	0.55	0.00	2.52	0.18
32	8. 7～ 8.13	383	0.09	243	1.98	0.67	0.94	3.21	0.24	10.97	0.07	0.42	0.01	2.00	0.19
33	8.14～ 8.20	379	0.08	227	2.03	0.57	0.89	2.84	0.22	8.06	0.04	0.41	0.00	1.30	0.14
34	8.21～ 8.27	402	0.10	249	2.51	0.55	0.96	3.20	0.22	9.43	0.08	0.46	0.02	1.88	0.15
35	8.28～ 9. 3	413	0.14	259	3.17	0.47	1.07	3.37	0.13	8.37	0.06	0.53		1.70	0.18
36	9. 4～ 9.10	414	0.17	259	3.03	0.44	1.39	3.50	0.20	6.02	0.07	0.60	0.01	1.31	0.22
37	9.11～ 9.17	410	0.21	258	2.55	0.44	1.59	3.61	0.19	6.62	0.10	0.53	0.01	1.27	0.17
38	9.18～ 9.24	413	0.16	261	1.69	0.34	1.22	2.72	0.16	4.12	0.03	0.48	0.00	0.84	0.15
39	9.25～10. 1	415	0.19	261	1.46	0.43	1.61	3.28	0.23	3.93	0.06	0.53	0.01	1.03	0.17
40	10. 2～10. 8	412	0.14	262	1.06	0.33	1.77	3.42	0.18	3.33	0.04	0.48	0.00	0.76	0.16
41	10. 9～10.15	417	0.16	262	0.75	0.38	1.50	2.88	0.26	2.50	0.08	0.48	0.01	0.40	0.14
42	10.16～10.22	415	0.24	263	0.50	0.34	1.99	3.86	0.38	2.37	0.06	0.45	0.01	0.56	0.20
43	10.23～10.29	415	0.34	261	0.50	0.48	2.48	4.05	0.33	2.67	0.08	0.46	0.01	0.46	0.15
44	10.30～11. 5	416	0.56	262	0.45	0.47	2.33	4.48	0.47	1.81	0.07	0.52	0.02	0.33	0.13
45	11. 6～11.12	418	0.54	263	0.32	0.63	2.65	5.26	0.60	1.40	0.10	0.52	0.00	0.27	0.18
46	11.13～11.19	415	0.87	261	0.31	0.66	2.98	6.85	0.64	1.15	0.07	0.52	0.02	0.18	0.18
47	11.20～11.26	417	1.86	262	0.26	0.67	3.17	7.87	0.67	1.15	0.11	0.49	0.01	0.15	0.14
48	11.27～12. 3	418	3.17	263	0.29	0.77	3.56	10.54	0.71	0.79	0.14	0.56	0.01	0.12	0.11
49	12. 4～12.10	416	5.26	262	0.40	0.71	3.74	12.60	0.67	0.70	0.09	0.50	0.02	0.04	0.12
50	12.11～12.17	416	9.03	262	0.34	0.75	4.06	12.88	0.78	0.58	0.11	0.50	0.01	0.05	0.12
51	12.18～12.24	415	14.03	262	0.39	0.70	3.72	12.69	0.55	0.37	0.13	0.44	0.01	0.04	0.06
52	12.25～12.31	387	17.37	240	0.40	0.59	2.50	10.46	0.52	0.25	0.08	0.38	0.02	0.01	0.12
平 均			6.04		0.66	0.54	2.26	6.28	0.38	2.48	0.10	0.52	0.01	0.51	0.21

表4-2(2) 週別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2017年第1週～第52週

週	期 間	報告定点数 (小児科)	不明 発しん症	川崎病	報告定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	報告定点数 (基幹)	インフルエンザ入院
1	1. 2～ 1. 8	258	0.02	0.01	38		0.39	25		0.04	0.52			25	2.44
2	1. 9～ 1.15	263	0.08	0.01	39		0.36	25			0.24	0.12	0.04	25	2.24
3	1.16～ 1.22	262	0.05	0.02	39		0.49	25			0.40		0.08	25	2.80
4	1.23～ 1.29	261	0.05	0.02	39		0.31	25			0.32	0.16	0.16	25	3.32
5	1.30～ 2. 5	261	0.03	0.01	39		0.23	25	0.16		0.36	0.20	0.16	25	4.16
6	2. 6～ 2.12	260	0.05	0.01	38	0.03	0.18	25	0.04		0.28		0.20	25	3.84
7	2.13～ 2.19	262	0.03	0.01	39		0.26	25	0.04	0.04	0.28		0.28	25	3.32
8	2.20～ 2.26	262	0.05	0.00	39		0.15	25	0.04		0.24		0.56	25	1.28
9	2.27～ 3. 5	262	0.03	0.02	39		0.31	25			0.20	0.04	0.48	25	0.84
10	3. 6～ 3.12	261	0.04	0.02	39	0.03	0.21	25		0.04	0.12		0.84	25	1.00
11	3.13～ 3.19	260	0.06	0.03	39	0.03	0.31	25			0.32	0.04	0.64	25	0.84
12	3.20～ 3.26	261	0.05	0.01	39		0.38	25	0.04	0.08	0.20	0.04	1.36	25	0.64
13	3.27～ 4. 2	263	0.08	0.03	39		0.28	25	0.04	0.08	0.24	0.04	0.52	25	0.56
14	4. 3～ 4. 9	260	0.05	0.00	39		0.38	25	0.04		0.08	0.04	0.64	25	0.36
15	4.10～ 4.16	260	0.03	0.01	39		0.38	25		0.04	0.04	0.12	0.40	25	0.24
16	4.17～ 4.23	262	0.06	0.02	39		0.59	25	0.04	0.08	0.12	0.08	0.64	25	0.36
17	4.24～ 4.30	262	0.04	0.01	39		0.46	25		0.04	0.12		0.24	25	0.24
18	5. 1～ 5. 7	262	0.05	0.00	39		0.67	25	0.04	0.04	0.04		0.28	25	0.28
19	5. 8～ 5.14	262	0.07	0.01	39		0.92	25	0.08		0.08		0.52	25	0.20
20	5.15～ 5.21	262	0.08	0.01	39		0.97	25			0.08	0.04	0.24	25	
21	5.22～ 5.28	261	0.07	0.02	39	0.03	0.79	25		0.04	0.08		0.28	25	0.04
22	5.29～ 6. 4	263	0.14	0.02	39		0.87	25	0.04	0.04	0.12	0.04	0.12	25	
23	6. 5～ 6.11	262	0.05	0.00	39		1.13	25		0.04		0.08	0.20	25	
24	6.12～ 6.18	263	0.08	0.00	39		0.59	25			0.16	0.04	0.20	25	
25	6.19～ 6.25	261	0.10	0.01	39		0.56	25			0.20	0.04	0.04	25	
26	6.26～ 7. 2	262	0.15	0.02	39		0.79	25	0.08	0.08	0.04	0.08		25	
27	7. 3～ 7. 9	261	0.15	0.02	39		0.77	25	0.08		0.24	0.04		25	
28	7.10～ 7.16	257	0.16	0.01	39	0.03	0.72	25		0.04	0.16		0.04	25	
29	7.17～ 7.23	261	0.14	0.00	39	0.03	0.79	25	0.08		0.08			25	0.08
30	7.24～ 7.30	263	0.16	0.01	39		0.64	25		0.04	0.12			25	0.08
31	7.31～ 8. 6	259	0.16	0.02	39		0.82	25	0.08	0.16	0.08			25	0.08
32	8. 7～ 8.13	243	0.07	0.02	38		0.97	25	0.04					25	0.16
33	8.14～ 8.20	227	0.10	0.01	36	0.03	0.56	25	0.08		0.12		0.08	25	0.04
34	8.21～ 8.27	249	0.12	0.02	38	0.05	0.84	25	0.04	0.12	0.40			25	0.28
35	8.28～ 9. 3	259	0.11	0.01	38		0.79	25	0.04		0.24	0.08	0.04	25	0.04
36	9. 4～ 9.10	259	0.08	0.02	38	0.03	0.87	25		0.04	0.08			25	
37	9.11～ 9.17	258	0.14	0.02	39		0.49	25	0.04	0.04	0.04	0.04		25	0.08
38	9.18～ 9.24	261	0.10	0.01	38		0.39	25	0.04		0.16			25	0.12
39	9.25～10. 1	261	0.14	0.01	39		0.92	25		0.24	0.24			25	0.12
40	10. 2～10. 8	262	0.12	0.02	38		0.50	25	0.08		0.04	0.08		25	
41	10. 9～10.15	262	0.11	0.03	39		0.46	25		0.04	0.36			25	
42	10.16～10.22	263	0.10	0.02	39		0.56	25	0.08	0.04	0.24	0.04		25	
43	10.23～10.29	261	0.13	0.01	39		0.72	25	0.04	0.04	0.24			25	
44	10.30～11. 5	262	0.06	0.02	39		0.64	25	0.04	0.04	0.32	0.04		25	0.08
45	11. 6～11.12	263	0.08	0.02	39		0.67	25	0.04		0.44	0.04		25	0.04
46	11.13～11.19	261	0.05	0.01	39	0.03	0.79	25			0.20	0.08		25	0.04
47	11.20～11.26	262	0.07	0.03	38		0.95	25			0.12	0.04	0.08	25	0.60
48	11.27～12. 3	263	0.03	0.02	39		0.74	25	0.04		0.16	0.04		25	0.24
49	12. 4～12.10	262	0.10	0.02	39		0.79	25			0.04	0.04		25	0.48
50	12.11～12.17	262	0.05	0.02	39	0.03	0.69	25			0.16		0.04	25	0.84
51	12.18～12.24	262	0.04	0.03	39		0.82	25	0.04		0.08			25	1.64
52	12.25～12.31	240	0.09	0.03	37		0.57	25	0.08	0.04	0.24	0.08		25	2.04
平 均			0.08	0.02		0.01	0.61		0.03	0.03	0.18	0.04	0.18		0.69

表5-1(1) 保健所別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2017年第1週～第52週

	設置 定点数 (イン フルエ ンザ)	イン フルエ ンザ	設置 定点数 (小児 科)	R S ウイ ルス 感染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギー ナ
千代田	4	788	3	45	14	48	340	13	92	1	19		24
中央区	5	1,416	3	75	57	263	1,750	66	716	9	124		104
みなと	9	2,499	6	260	283	496	1,547	151	785	36	168	5	148
新宿区	12	2,240	8	576	223	925	2,331	94	581	29	173	3	177
文京	7	1,757	4	68	135	349	944	116	505	10	127	1	76
台東	7	1,374	4	197	210	562	1,982	71	856	11	194	1	167
墨田区	8	2,285	5	243	65	250	1,009	52	689	2	131		87
江東区	14	4,639	9	318	153	1,005	4,505	116	1,150	19	261	1	155
品川区	12	2,279	8	237	131	594	2,319	151	858	30	200	2	175
目黒区	8	1,844	5	302	78	451	1,885	162	792	109	128	8	156
大田区	21	5,232	13	573	551	2,101	5,654	180	1,552	78	342	15	385
世田谷	25	8,980	16	654	361	2,506	4,386	363	1,979	107	295	2	554
渋谷区	7	1,142	4	37	31	140	954	94	458	47	94		79
中野区	11	3,692	7	242	230	734	2,546	181	1,077	79	228		190
杉並	16	4,519	10	213	253	537	2,677	171	973	111	207	3	154
池袋	8	1,653	5	190	87	130	617	28	268	1	29	2	54
北区	11	2,898	7	123	120	423	1,633	99	828	7	284		91
荒川区	7	2,989	4	378	276	603	1,391	80	542	7	174	1	184
板橋区	16	3,365	10	63	53	495	1,688	116	836	23	191	7	139
練馬区	21	5,874	13	299	319	2,517	3,503	362	1,782	20	340	19	318
足立	20	6,474	13	395	415	881	4,505	169	1,277	33	326		383
葛飾区	13	4,578	8	76	60	621	2,815	159	1,041	27	214	1	291
江戸川	19	5,744	12	313	461	1,965	4,596	173	1,327	138	304	15	462
八王子市	18	7,400	11	622	400	1,847	6,035	311	2,069	71	318	3	368
町田市	13	5,394	8	113	101	1,328	4,394	203	1,104	46	221	1	243
西多摩	14	4,609	8	109	139	398	1,729	145	782	10	112	3	130
南多摩	14	5,103	9	414	285	994	2,787	234	1,104	40	249		265
多摩立川	21	6,918	14	323	96	1,838	3,469	227	1,562	55	290	2	239
多摩府中	33	12,715	21	621	619	2,227	5,658	460	2,404	116	621	14	604
多摩小平	23	8,755	15	754	1,111	3,316	5,329	384	3,037	39	690	4	406
島しょ	2	658	1	5	5	120	3	4	30		2		4
合 計	419	129,813	264	8,838	7,322	30,664	84,981	5,135	33,056	1,311	7,056	113	6,812
定点当たり報告数		314.14		34.47	28.21	117.71	326.63	19.73	129.10	5.04	27.13	0.44	26.54
前年定点当たり報告数		302.31		27.06	19.38	120.13	423.72	21.34	26.97	9.57	27.87	0.70	50.69
当年/前年		1.04		1.27	1.46	0.98	0.77	0.92	4.79	0.53	0.97	0.63	0.52

表5-1(2) 保健所別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2017年第1週～第52週

	設置定点数(小児科)	流行性耳下腺炎	不明発しん症	川崎病		設置定点数(眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎		設置定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	インフルエンザ入院
千代田	3	8	11	6						2			13		1	29
中央区	3	28	56	5	1		68									
みなと	6	84	12	10						1	1	2	18	7		36
新宿区	8	39	43	53	2		40			2	2	5	24		19	50
文京	4	32	4	1	1		47			1						42
台東	4	32	24	1												
墨田区	5	16	25	5	1	1	33			1	7		14			47
江東区	9	67	51	6	1		29									
品川区	8	64	21	2	1		11									
目黒区	5	45	16	1	1		1									
大田区	13	113	84	20	2	1	69			1	1					
世田谷	16	251	101	7	2	4	31			2	13	14	6		19	139
渋谷区	4	11	4		1		70			1	1		18		43	28
中野区	7	96	8	6	1	1	24									
杉並	10	64	38	7	1		36			2	1		12		5	32
池袋	5	14	2	3	1		34			1			24	8	27	
北区	7	25	15	3	1		23									
荒川区	4	36	3	3	1		45									
板橋区	10	88	59	1	2	3	41			1	1		13		19	27
練馬区	13	278	29	4	2		52									
足立	13	89	19		2		124									
葛飾区	8	21	59	3	1		61			1		6	10	6	49	92
江戸川	12	124	37	11	2	1	56									
八王子市	11	271	99	7	2		66			1						59
町田市	8	270	27	1	1											
西多摩	8	49	2	2	1		3			1			3			4
南多摩	9	124	6	8	1		6									
多摩立川	14	158	24	1	2		15			1			8		10	25
多摩府中	21	245	127	23	3	1	104			3	11	12	50	24	38	176
多摩小平	15	159	95	5	2		130			2	3		24	1	5	113
島しょ	1	2								1						3
合 計	264	2,903	1,101	205	39	12	1,219			25	41	39	237	46	235	902
定点当たり報告数		11.16	4.25	0.79		0.31	31.48				1.64	1.56	9.48	1.84	9.40	36.08
前年定点当たり報告数		32.88	3.79	0.80		0.28	31.03				1.32	3.08	41.88	2.00	4.32	25.96
当年/前年		0.34	1.12	0.99		1.10	1.01				1.24	0.51	0.23	0.92	2.18	1.39

表5-2(1) 保健所別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科)

2017 年第 1 週～第 52 週

	設置 定点数 (イン フルエ ンザ)	イン フル エン ザ	設置 定点数 (小児 科)	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ
千代田	4	197.00	3	15.00	4.67	16.00	113.33	4.33	30.67	0.33	6.33		8.00
中央区	5	283.33	3	29.83	19.67	88.67	588.83	22.17	256.00	3.00	42.33		37.33
みなと	9	279.92	6	43.33	47.25	83.50	260.33	25.33	131.00	6.00	28.25	0.83	24.67
新宿区	12	188.25	8	73.32	28.23	116.13	293.41	11.80	74.04	3.64	21.82	0.38	22.36
文京	7	253.21	4	16.90	33.90	87.37	236.13	28.90	126.20	2.50	31.68	0.25	19.00
台東	7	196.45	4	49.25	52.75	141.42	499.50	18.08	214.08	2.75	48.75	0.25	41.75
墨田区	8	285.63	5	48.60	13.00	50.00	201.80	10.40	137.80	0.40	26.20		17.40
江東区	14	331.06	9	37.58	17.21	112.52	504.30	12.88	136.83	2.11	29.39	0.11	18.00
品川区	12	189.98	8	29.91	16.50	74.38	290.59	18.93	109.34	3.79	25.16	0.25	22.34
目黒区	8	230.50	5	60.40	15.60	90.20	377.00	32.40	158.40	21.80	25.60	1.60	31.20
大田区	21	271.21	13	46.03	43.57	165.99	447.15	14.35	123.83	6.12	27.04	1.19	31.39
世田谷	25	368.32	16	43.04	23.14	158.24	280.75	22.99	127.81	6.76	18.98	0.13	35.76
渋谷区	7	163.93	4	9.25	7.75	35.00	238.50	23.50	114.50	11.75	23.50		19.75
中野区	11	369.20	7	40.33	38.33	122.33	424.33	30.17	179.50	13.17	38.00		31.67
杉並	16	268.80	10	20.32	23.71	49.60	248.98	15.85	91.93	10.37	19.28	0.28	14.47
池袋	8	238.50	5	47.50	21.83	32.67	154.92	7.00	67.50	0.25	7.33	0.50	14.00
北区	11	266.39	7	18.65	17.71	62.11	239.71	14.19	121.51	1.02	41.30		13.47
荒川区	7	427.00	4	96.50	69.25	151.50	350.00	20.00	139.00	1.75	44.25	0.25	47.50
板橋区	16	210.31	10	6.30	5.30	49.50	168.80	11.60	83.60	2.30	19.10	0.70	13.90
練馬区	21	279.71	13	23.38	24.76	193.99	269.78	27.98	138.91	1.54	26.28	1.46	24.68
足立	20	325.63	13	31.77	32.31	68.03	349.97	13.18	101.85	2.54	25.45		30.29
葛飾区	13	352.15	8	9.50	7.50	77.63	351.88	19.88	130.13	3.38	26.75	0.13	36.38
江戸川	19	315.22	12	27.17	39.96	169.97	396.55	14.85	118.05	11.98	26.26	1.33	41.51
八王子市	18	411.11	11	57.49	36.51	168.17	549.63	28.33	190.41	6.47	29.01	0.27	34.02
町田市	13	417.40	8	14.13	12.63	166.00	549.25	25.38	138.00	5.75	27.63	0.13	30.38
西多摩	14	330.69	8	13.66	17.45	49.98	217.00	18.18	98.64	1.25	14.00	0.38	16.27
南多摩	14	364.50	9	46.00	31.67	110.44	309.67	26.00	122.67	4.44	27.67		29.44
多摩立川	21	329.43	14	23.14	6.86	131.35	247.96	16.23	112.27	3.93	20.74	0.15	17.24
多摩府中	33	389.74	21	32.27	30.92	109.71	278.87	22.59	125.92	5.72	30.82	0.70	31.55
多摩小平	23	385.17	15	51.45	74.97	222.53	359.28	25.92	206.72	2.64	46.39	0.27	27.34
島しょ	2	329.00	1	5.00	5.00	120.00	3.00	4.00	30.00		2.00		4.00
定点当たり報告数		314.14		34.47	28.21	117.71	326.63	19.73	129.10	5.04	27.13	0.44	26.54
前年定点当たり報告数		302.31		27.06	19.38	120.13	423.72	21.34	26.97	9.57	27.87	0.70	50.69
当年/前年		1.04		1.27	1.46	0.98	0.77	0.92	4.79	0.53	0.97	0.63	0.52

表5-2(2) 保健所別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2017年第1週～第52週

	設置 定点数 (小児科)	流行性 耳下腺炎	不明 発しん 症	川 崎 病		設置 定点数 (眼科)	急性 出血性 結膜炎	流行性 角結膜 炎		設置 定点数 (基幹)	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	(オウ ム病を 除く) クラミ ジア肺 炎	(ロタ ウイルス による) 感染性 胃腸炎	イン フルエ ンザ入 院
千代田	3	2.67	3.67	2.00						2			6.50		0.50	14.50
中央区	3	9.50	18.83	1.67	1		68.00									
みなと	6	14.00	2.00	1.67						1	1.00	2.00	18.00	7.00		36.00
新宿区	8	4.89	5.43	6.71	2		20.00			2	1.00	2.50	12.00		9.50	25.00
文京	4	8.00	1.00	0.25	1		47.00			1						42.00
台東	4	8.00	6.00	0.25												
墨田区	5	3.20	5.00	1.00	1	1.00	33.00			1	7.00		14.00			47.00
江東区	9	7.51	5.84	0.69	1		29.00									
品川区	8	8.00	2.63	0.25	1		11.00									
目黒区	5	9.00	3.20	0.20	1		1.00									
大田区	13	9.10	6.58	1.59	2	0.50	34.50			1	1.00					
世田谷	16	15.91	6.52	0.44	2	2.00	15.50			2	6.50	7.00	3.00		9.50	69.50
渋谷区	4	2.75	1.00		1		70.00			1	1.00		18.00		43.00	28.00
中野区	7	16.00	1.33	1.00	1	1.00	24.00									
杉並	10	5.85	3.53	0.65	1		36.00			2	0.50		6.00		2.50	16.00
池袋	5	3.50	0.50	0.75	1		34.00			1			24.00	8.00	27.00	
北区	7	3.57	2.14	0.43	1		23.00									
荒川区	4	9.00	0.75	0.75	1		45.00									
板橋区	10	8.80	5.90	0.10	2	1.50	20.50			1	1.00		13.00		19.00	27.00
練馬区	13	21.50	2.24	0.31	2		26.00									
足立	13	6.89	1.53		2		66.00									
葛飾区	8	2.63	7.38	0.38	1		61.00			1		6.00	10.00	6.00	49.00	92.00
江戸川	12	10.74	3.20	0.98	2	0.50	28.00									
八王子市	11	24.64	9.06	0.68	2		33.00			1						59.00
町田市	8	33.75	3.38	0.13	1											
西多摩	8	6.14	0.25	0.25	1		3.00			1			3.00			4.00
南多摩	9	13.78	0.67	0.89	1		6.00									
多摩立川	14	11.29	1.72	0.71	2		7.50			1			8.00		10.00	25.00
多摩府中	21	12.15	6.42	1.14	3	0.33	34.67			3	3.67	4.00	16.67	8.00	12.67	58.67
多摩小平	15	10.68	6.35	0.35	2		65.00			2	1.50		12.00	0.50	2.50	56.50
島しょ	1	2.00								1						3.00
定点当たり報告数		11.16	4.25	0.79		0.31	31.48				1.64	1.56	9.48	1.84	9.40	36.08
前年定点当たり報告数		32.88	3.79	0.80		0.28	31.03				1.32	3.08	41.88	2.00	4.32	25.96
当年/前年		0.34	1.12	0.99		1.10	1.01				1.24	0.51	0.23	0.92	2.18	1.39

表6 年齢階級別患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹) 2017年第1週～第52週

	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
6か月未満	267	929	35	18	735	33	260	1	88	2	48
12か月未満	1,075	1,987	507	202	5,635	139	3,430	42	2,061	3	710
1歳	4,132	3,533	1,806	1,317	12,777	318	11,327	106	3,818	12	2,077
2歳	4,660	1,498	1,097	1,938	9,096	280	6,739	88	720	7	1,379
3歳	5,897	554	1,054	3,144	8,060	376	3,839	142	199	5	820
4歳	7,648	219	961	4,113	7,648	576	2,694	228	85	3	653
5歳	7,936	51	666	4,107	6,527	670	1,719	240	41	4	437
6歳	8,555	24	393	3,775	5,119	703	947	155	23	6	220
7歳	8,770	9	223	3,029	4,224	671	493	105	7	7	107
8歳	7,934	9	150	2,271	3,616	452	343	73	10	5	89
9歳	6,817	2	108	1,750	2,870	347	203	47	1	7	76
10～14歳	22,326	6	127	3,094	7,474	463	420	57	2	11	106
15～19歳	7,139	1	20	301	1,793	45	68	2		3	16
20～29歳	6,488	16	175	1,605	9,407	62	574	25	1	38	74
30～39歳	8,526										
40～49歳	9,949										
50～59歳	5,541										
60～69歳	3,185										
70～79歳	1,866										
80歳以上	1,102										
合 計	129,813	8,838	7,322	30,664	84,981	5,135	33,056	1,311	7,056	113	6,812

	流行性耳下腺炎	不明発しん症	川崎病	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く)クラミジア肺炎	(ロタウイルス)感染性胃腸炎	インフルエンザ入院
6か月未満		37	4		5	11	11		2	15	18
12か月未満	13	163	33		15	2	1	3		18	10
1歳	41	321	50		57	1	4	9		33	38
2歳	91	164	34		42			7		46	23
3歳	219	98	29		46		1	18		22	18
4歳	349	79	27		42		1	14		25	29
5歳	396	70	18	1	23	1	3	16		20	15
6歳	399	40	6		25		2	16		15	18
7歳	336	23			15			21		14	19
8歳	304	25	2		13	1	2	8		9	14
9歳	244	14			16	1		11		7	13
10～14歳	418	43	1		44	3	5	42		10	29
15～19歳	28	6	1	1	31		1	7	1		8
20～29歳	65	18		2	154		2	18	2		12
30～39歳					288	1	2	13	1		22
40～49歳				3	202	2	1	14	1		19
50～59歳				1	87	1	1	6	4		30
60～69歳				4	71	4		7	11		72
70～79歳					43	7	2	4	13		151
80歳以上						6		3	11	1	344
合 計	2,903	1,101	205	12	1,219	41	39	237	46	235	902

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

注：眼科定点把握対象疾患の「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

表7-1 二次医療圏別患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹)

2017年第1週～第52週

	設置 定点 数 (インフル エンザ)	インフル エンザ	設置 定点 数 (小児科)	R S ウイ ルス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ
1 区中央部圏	32	7,834	20	645	699	1,718	6,563	417	2,954	67	632	7	519	
2 区南部圏	33	7,511	21	810	682	2,695	7,973	331	2,410	108	542	17	560	
3 区西南部圏	40	11,966	25	993	470	3,097	7,225	619	3,229	263	517	10	789	
4 区西部圏	39	10,451	25	1031	706	2,196	7,554	446	2,631	219	608	6	521	
5 区西北部圏	56	13,790	35	675	579	3,565	7,441	605	3,714	51	844	28	602	
6 区東北部圏	40	14,041	25	849	751	2,105	8,711	408	2,860	67	714	2	858	
7 区東部圏	41	12,668	26	874	679	3,220	10,110	341	3,166	159	696	16	704	
8 西多摩圏	14	4,609	8	109	139	398	1,729	145	782	10	112	3	130	
9 南多摩圏	45	17,897	28	1149	786	4,169	13,216	748	4,277	157	788	4	876	
10 北多摩西部圏	21	6,918	14	323	96	1,838	3,469	227	1,562	55	290	2	239	
11 北多摩南部圏	33	12,715	21	621	619	2,227	5,658	460	2,404	116	621	14	604	
12 北多摩北部圏	23	8,755	15	754	1,111	3,316	5,329	384	3,037	39	690	4	406	
13 島しょ圏	2	658	1	5	5	120	3	4	30		2		4	
合 計	419	129,813	264	8,838	7,322	30,664	84,981	5,135	33,056	1,311	7,056	113	6,812	

	設置 定点 数 (小児 科)	流 行 性 耳 下 腺 炎	不 明 発 し ん 症	川 崎 病	設置 定点 数 (眼 科)	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	設置 定点 数 (基 幹)	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	(オ ウ ム 病 を 除 く) ク ラ ミ ジ ア 肺 炎	(ロ タ ウ イ ル ス に よ る) 感 染 性 胃 腸 炎	イン フル エン ザ 入 院
1 区中央部圏	20	184	107	23	2		115	4	1	2	31	7	1	107
2 区南部圏	21	177	105	22	3	1	80	1	1					
3 区西南部圏	25	307	121	8	4	4	102	3	14	14	24		62	167
4 区西部圏	25	199	89	66	4	1	100	4	3	5	36		24	82
5 区西北部圏	35	405	105	11	6	3	150	2	1		37	8	46	27
6 区東北部圏	25	146	81	6	4		230	1		6	10	6	49	92
7 区東部圏	26	207	113	22	4	2	118	1	7		14			47
8 西多摩圏	8	49	2	2	1		3	1			3			4
9 南多摩圏	28	665	132	16	4		72	1						59
10 北多摩西部圏	14	158	24	1	2		15	1			8		10	25
11 北多摩南部圏	21	245	127	23	3	1	104	3	11	12	50	24	38	176
12 北多摩北部圏	15	159	95	5	2		130	2	3		24	1	5	113
13 島しょ圏	1	2						1						3
合 計	264	2,903	1,101	205	39	12	1,219	25	41	39	237	46	235	902

表7-2 二次医療圏別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹)

2017年第1週～第52週

	設置 定点数 (インフル エンザ)	インフル エンザ		設置 定点数 (小児科)	R S ウイ ルス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 咽 頭 炎 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギー ナ
1 区中央部圏	32	246.11		20	32.61	35.12	86.37	330.25	20.98	148.70	3.35	31.80	0.35	26.06
2 区南部圏	33	240.19		21	39.73	33.12	130.44	386.41	16.10	118.40	5.25	26.33	0.82	27.84
3 区西南部圏	40	303.52		25	41.13	19.08	124.75	293.28	24.92	132.27	10.62	21.08	0.43	32.24
4 区西部圏	39	270.16		25	42.22	28.62	88.72	305.52	18.02	107.49	8.84	24.58	0.24	21.20
5 区西北部圏	56	251.63		35	20.17	17.20	105.44	220.32	17.89	110.87	1.50	24.96	0.83	17.95
6 区東北部圏	40	352.01		25	34.77	30.19	84.48	350.31	16.46	116.61	2.68	28.81	0.08	34.96
7 区東部圏	41	314.25		26	35.17	26.68	126.12	395.47	13.31	127.45	6.30	27.29	0.63	28.37
8 西多摩圏	14	330.69		8	13.66	17.45	49.98	217.00	18.18	98.64	1.25	14.00	0.38	16.27
9 南多摩圏	45	398.82		28	41.27	28.12	148.98	472.47	26.73	153.65	5.62	28.19	0.14	31.50
10 北多摩西部圏	21	329.43		14	23.14	6.86	131.35	247.96	16.23	112.27	3.93	20.74	0.15	17.24
11 北多摩南部圏	33	389.74		21	32.27	30.92	109.71	278.87	22.59	125.92	5.72	30.82	0.70	31.55
12 北多摩北部圏	23	385.17		15	51.45	74.97	222.53	359.28	25.92	206.72	2.64	46.39	0.27	27.34
13 島しょ圏	2	329.00		1	5.00	5.00	120.00	3.00	4.00	30.00		2.00		4.00

	設置 定点数 (小児 科)	流 行 性 耳 下 腺 炎	不 明 発 し ん 症	川 崎 病	設置 定点数 (眼 科)	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	設置 定点数 (基 幹)	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	ク ラ ミ ジ ア 肺 炎 (オ ウ ム 病 を 除 く)	感 染 性 胃 腸 炎 (ロ タ ウ イ ル ス に よ る)	イン フル エン ザ 入 院
1 区中央部圏	20	9.22	5.38	1.15	2		57.50	4	0.25	0.50	7.75	1.75	0.25	26.75
2 区南部圏	21	8.66	5.05	1.07	3	0.33	26.67	1	1.00					
3 区西南部圏	25	12.39	4.95	0.32	4	1.00	25.50	3	4.67	4.67	8.00		20.67	55.67
4 区西部圏	25	8.01	3.61	2.69	4	0.25	25.67	4	0.75	1.25	9.00		6.00	20.50
5 区西北部圏	35	12.00	3.12	0.33	6	0.57	25.43	2	0.50		18.50	4.00	23.00	13.50
6 区東北部圏	25	5.87	3.28	0.24	4		58.33	1		6.00	10.00	6.00	49.00	92.00
7 区東部圏	26	8.14	4.46	0.87	4	0.50	29.50	1	7.00		14.00			47.00
8 西多摩圏	8	6.14	0.25	0.25	1		3.00	1			3.00			4.00
9 南多摩圏	28	23.76	4.73	0.58	4		18.00	1						59.00
10 北多摩西部圏	14	11.29	1.72	0.07	2		7.50	1			8.00		10.00	25.00
11 北多摩南部圏	21	12.15	6.42	1.14	3	0.33	34.67	3	3.67	4.00	16.67	8.00	12.67	58.67
12 北多摩北部圏	15	10.68	6.35	0.35	2		65.00	2	1.50		12.00	0.50	2.50	56.50
13 島しょ圏	1	2.00						1						3.00

表8-1 月別患者報告数(基幹)

2017年1月～12月

	報告 定点 数	メ チ シ リ ン 耐 性 黄 色 ブ ド ウ 球 菌 感 染 症	ペ ニ シ リ ン 耐 性 肺 炎 球 菌 感 染 症	薬 剤 耐 性 緑 膿 菌 感 染 症
1月	25	63	11	
2月	25	61	9	1
3月	25	56	8	
4月	25	84	10	
5月	25	74	9	
6月	25	78	8	
7月	25	75	10	
8月	25	89	12	
9月	25	76	6	
10月	25	84	5	1
11月	25	65	10	
12月	25	76	7	1
合 計		881	105	3

表8-2 月別定点当たり患者報告数(基幹)

2017年1月～12月

	報告 定点 数	メ チ シ リ ン 耐 性 黄 色 ブ ド ウ 球 菌 感 染 症	ペ ニ シ リ ン 耐 性 肺 炎 球 菌 感 染 症	薬 剤 耐 性 緑 膿 菌 感 染 症
1月	25	2.52	0.44	
2月	25	2.44	0.36	0.04
3月	25	2.24	0.32	
4月	25	3.36	0.40	
5月	25	2.96	0.36	
6月	25	3.12	0.32	
7月	25	3.00	0.40	
8月	25	3.56	0.48	
9月	25	3.04	0.24	
10月	25	3.36	0.20	0.04
11月	25	2.60	0.40	
12月	25	3.04	0.28	0.04
平 均		2.94	0.35	0.01
合 計		35.24	4.20	0.12
前年合計		34.68	5.52	0.88
当年/前年		1.02	0.76	0.14

表8-3 月別・性別患者報告数(基幹) 2017年1月～12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
1月	38	25	8	3		
2月	43	18	5	4	1	
3月	30	26	6	2		
4月	47	37	4	6		
5月	50	24	5	4		
6月	57	21	5	3		
7月	48	27	7	3		
8月	54	35	8	4		
9月	45	31	6			
10月	57	27	3	2	1	
11月	44	21	7	3		
12月	60	16	5	2		1
合 計	573	308	69	36	2	1

表8-4 性別・年齢階級別患者報告数(基幹) 2017年1月～12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
0歳	75	35	5	1		
1～4歳	36	26	14	16		
5～9歳	23	13	4	5		
10～14歳	8	10	3	2		
15～19歳	14	2	5			
20～24歳	10	7	2			
25～29歳	10	2	1			
30～34歳	7	1		1		
35～39歳	6	8		2		
40～44歳	17	13	1		1	
45～49歳	25	4				
50～54歳	24	11	2			
55～59歳	21	13	2			
60～64歳	35	14	1	2		
65～69歳	27	25	6		1	
70歳以上	235	124	23	7		1
合 計	573	308	69	36	2	1
定点当たり報告数	22.92	12.32	2.76	1.44	0.08	0.04
前年定点当たり報告数	20.76	13.92	3.24	2.28	0.64	0.24
当年／前年	1.10	0.89	0.85	0.63	0.13	0.17

表9-1 月別患者報告数(性感染症) 表9-2 月別定点あたり患者報告数(性感染症)
2017年1月～12月 2017年1月～12月

	報告 定点 数	性 器 ク ラ ミ ジ ア 感 染 症	性 器 感 染 症 ヘ ル ペ ス ウ イ ル ス	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	淋 菌 感 染 症	膣 ト リ コ モ ナ ス 症
1月	55	167	104	100	88	6
2月	54	174	115	58	96	8
3月	55	175	98	89	87	9
4月	55	182	102	60	84	11
5月	55	195	136	103	84	4
6月	55	203	137	86	87	16
7月	55	207	107	100	110	7
8月	55	191	102	95	103	10
9月	55	229	109	78	115	10
10月	55	211	97	74	84	17
11月	55	175	81	90	86	10
12月	55	185	91	88	85	2
合 計		2,294	1,279	1,021	1,109	110

	報告 定点 数	性 器 ク ラ ミ ジ ア 感 染 症	性 器 感 染 症 ヘ ル ペ ス ウ イ ル ス	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	淋 菌 感 染 症	膣 ト リ コ モ ナ ス 症
1月	55	3.04	1.89	1.82	1.60	0.11
2月	54	3.22	2.13	1.07	1.78	0.15
3月	55	3.18	1.78	1.62	1.58	0.16
4月	55	3.31	1.85	1.09	1.53	0.20
5月	55	3.55	2.47	1.87	1.53	0.07
6月	55	3.69	2.49	1.56	1.58	0.29
7月	55	3.76	1.95	1.82	2.00	0.13
8月	55	3.47	1.85	1.73	1.87	0.18
9月	55	4.16	1.98	1.42	2.09	0.18
10月	55	3.84	1.76	1.35	1.53	0.31
11月	55	3.18	1.47	1.64	1.56	0.18
12月	55	3.36	1.65	1.60	1.55	0.04
平 均		3.48	1.94	1.55	1.68	0.17
合 計		41.77	23.29	18.58	20.20	2.00
前年合計		49.39	25.49	24.06	27.82	2.13
当年/前年		0.85	0.91	0.77	0.73	0.94

表9-3 月別・性別患者報告数(性感染症) 2017年1月～12月

	報告 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	82	85	69	35	70	30	60	28		6
2月	54	95	79	84	31	38	20	73	23		8
3月	55	93	82	65	33	63	26	63	24		9
4月	55	108	74	81	21	48	12	58	26	1	10
5月	55	107	88	94	42	69	34	53	31		4
6月	55	113	90	101	36	55	31	68	19	1	15
7月	55	127	80	77	30	61	39	85	25		7
8月	55	108	83	73	29	70	25	80	23		10
9月	55	129	100	70	39	45	33	86	29		10
10月	55	126	85	71	26	54	20	65	19		17
11月	55	103	72	61	20	58	32	66	20		10
12月	55	109	76	65	26	61	27	68	17		2
合 計		1,300	994	911	368	692	329	825	284	2	108

表9-4 月別・性別定点当たり患者報告数(性感染症) 2017年1月～12月

	報告 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	1.49	1.55	1.25	0.64	1.27	0.55	1.09	0.51		0.11
2月	54	1.76	1.46	1.56	0.57	0.70	0.37	1.35	0.43		0.15
3月	55	1.69	1.49	1.18	0.60	1.15	0.47	1.15	0.44		0.16
4月	55	1.96	1.35	1.47	0.38	0.87	0.22	1.05	0.47	0.02	0.18
5月	55	1.95	1.60	1.71	0.76	1.25	0.62	0.96	0.56		0.07
6月	55	2.05	1.64	1.84	0.65	1.00	0.56	1.24	0.35	0.02	0.27
7月	55	2.31	1.45	1.40	0.55	1.11	0.71	1.55	0.45		0.13
8月	55	1.96	1.51	1.33	0.53	1.27	0.45	1.45	0.42		0.18
9月	55	2.35	1.82	1.27	0.71	0.82	0.60	1.56	0.53		0.18
10月	55	2.29	1.55	1.29	0.47	0.98	0.36	1.18	0.35		0.31
11月	55	1.87	1.31	1.11	0.36	1.05	0.58	1.20	0.36		0.18
12月	55	1.98	1.38	1.18	0.47	1.11	0.49	1.24	0.31		0.04

表9-5 保健所別、二次医療圏別患者報告数(性感染症)

2017年1月～12月

	設置 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	170	8	26	3	60	4	92				348	15
中央区	3	84	13	41	6	12	3	27			3	164	25
みなと	2	114	34	406	48	78	9	52	1			650	92
新宿区	7	260	96	144	73	411	199	197	51		4	1,012	423
文京	1	39		19		8		15				81	
台東	2	8	113	1	11	3	25	17	158	1	37	30	344
墨田区	2	33	15	13	2	9	6	25	2		7	80	32
江東区	2	120	10	56	1	29		75	3		2	280	16
品川区	1	56	5	41	3	6		24	2			127	10
大田区	2	29	68				2	12	1		1	41	72
渋谷区	5	70	93	106	73	27	21	77	8		3	280	198
中野区	2	10	1			2		11	1		4	23	6
杉並	2	70	16	5	7	5	1	31	2			111	26
池袋	3	147	82	45	47	26	14	109	12	1	11	328	166
北区	1	9	1			5		5				19	1
荒川区	1		12		10		2		1		1		26
板橋区	2	29	40	3	19	5	3	27	4		3	64	69
足立	2	6	38		3		7	5	3		2	11	53
江戸川	2	35	65	4	4	5	5	22	13		13	66	100
八王子市	4		84		14		7		4		12		121
町田市	1		39		27		7						73
多摩立川	2	3	159		11		5		18		5	3	198
多摩府中	3	8			2	1	9	2				11	11
多摩小平	1		2	1	4							1	6
合 計	55	1,300	994	911	368	692	329	825	284	2	108	3,730	2,083
定点当たり報告数		23.67	18.10	16.59	6.70	12.59	5.99	15.02	5.17	0.04	1.97	67.92	37.93
前年定点当たり報告数		28.28	21.11	17.59	7.91	18.53	5.53	21.78	6.05	0.07	2.06	86.25	42.65
当年/前年		0.84	0.86	0.94	0.85	0.68	1.08	0.69	0.86	0.50	0.96	0.79	0.89

区中央部圏	10	415	168	493	68	161	41	203	159	1	40	1,273	476
区南部圏	3	85	73	41	3	6	2	36	3		1	168	82
区西南部圏	5	70	93	106	73	27	21	77	8		3	280	198
区西部圏	11	340	113	149	80	418	200	239	54		8	1,146	455
区西北部圏	6	185	123	48	66	36	17	141	16	1	14	411	236
区東北部圏	3	6	50		13		9	5	4		3	11	79
区東部圏	6	188	90	73	7	43	11	122	18		22	426	148
南多摩圏	5		123		41		14		4		12		194
北多摩西部圏	2	3	159		11		5		18		5	3	198
北多摩南部圏	3	8			2	1	9	2				11	11
北多摩北部圏	1		2	1	4							1	6

表9-6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数(性感染症)

2017年1月～12月

	設置 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	85.00	4.00	13.00	1.50	30.00	2.00	46.00				174.00	7.50
中央区	3	28.00	4.33	13.67	2.00	4.00	1.00	9.00			1.00	54.67	8.33
みなと	2	57.00	17.00	203.00	24.00	39.00	4.50	26.00	0.50			325.00	46.00
新宿区	7	37.64	14.02	20.95	10.62	59.17	28.64	28.64	7.40		0.57	146.40	61.26
文京	1	39.00		19.00		8.00		15.00				81.00	
台東	2	4.00	56.50	0.50	5.50	1.50	12.50	8.50	79.00	0.50	18.50	15.00	172.00
墨田区	2	16.50	7.50	6.50	1.00	4.50	3.00	12.50	1.00		3.50	40.00	16.00
江東区	2	60.00	5.00	28.00	0.50	14.50		37.50	1.50		1.00	140.00	8.00
品川区	1	56.00	5.00	41.00	3.00	6.00		24.00	2.00			127.00	10.00
大田区	2	14.50	34.00				1.00	6.00	0.50		0.50	20.50	36.00
渋谷区	5	14.00	18.60	21.20	14.60	5.40	4.20	15.40	1.60		0.60	56.00	39.60
中野区	2	5.00	0.50			1.00		5.50	0.50		2.00	11.50	3.00
杉並	2	35.00	8.00	2.50	3.50	2.50	0.50	15.50	1.00			55.50	13.00
池袋	3	49.00	27.33	15.00	15.67	8.67	4.67	36.33	4.00	0.33	3.67	109.33	55.33
北区	1	9.00	1.00			5.00		5.00				19.00	1.00
荒川区	1		12.00		10.00		2.00		1.00		1.00		26.00
板橋区	2	14.50	20.00	1.50	9.50	2.50	1.50	13.50	2.00		1.50	32.00	34.50
足立	2	3.00	19.00		1.50		3.50	2.50	1.50		1.00	5.50	26.50
江戸川	2	17.50	32.50	2.00	2.00	2.50	2.50	11.00	6.50		6.50	33.00	50.00
八王子市	4		21.00		3.50		1.75		1.00		3.00		30.25
町田市	1		39.00		27.00		7.00						73.00
多摩立川	2	1.50	79.50		5.50		2.50		9.00		2.50	1.50	99.00
多摩府中	3	2.67			0.67	0.33	3.00	0.67				3.67	3.67
多摩小平	1		2.00	1.00	4.00							1.00	6.00
合 計	55	1,300	994	911	368	692	329	825	284	2	108	3,730	2,083
定点当たり報告数		23.67	18.10	16.59	6.70	12.59	5.99	15.02	5.17	0.04	1.97	67.92	37.93

区中央部圏	10	41.50	16.80	49.30	6.80	16.10	4.10	20.30	15.90	0.10	4.00	127.30	47.60
区南部圏	3	28.33	24.33	13.67	1.00	2.00	0.67	12.00	1.00		0.33	56.00	27.33
区西南部圏	5	14.00	18.60	21.20	14.60	5.40	4.20	15.40	1.60		0.60	56.00	39.60
区西部圏	11	31.14	10.40	13.69	7.35	38.19	18.26	21.94	4.95		0.73	104.18	41.36
区西北部圏	6	30.83	20.50	8.00	11.00	6.00	2.83	23.50	2.67	0.17	2.33	68.50	39.33
区東北部圏	3	2.00	16.67		4.33		3.00	1.67	1.33		1.00	3.67	26.33
区東部圏	6	31.33	15.00	12.17	1.17	7.17	1.83	20.33	3.00		3.67	71.00	24.67
南多摩圏	5		24.60		8.20		2.80		0.80		2.40		38.80
北多摩西部圏	2	1.50	79.50		5.50		2.50		9.00		2.50	1.50	99.00
北多摩南部圏	3	2.67			0.67	0.33	3.00	0.67				3.67	3.67
北多摩北部	1		2.00	1.00	4.00							1.00	6.00

表9-7 年齢階級別患者報告数(性感染症) 2017年1月～12月

	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膺トリコモナス症		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳												
1～4歳												
5～9歳												
10～14歳		5						1				6
15～19歳	11	57	4	17	3	16	16	14		5	34	109
20～24歳	176	310	29	57	46	104	132	66	1	19	384	556
25～29歳	279	251	93	54	122	73	152	63		17	646	458
30～34歳	211	155	88	61	129	61	134	31	1	14	563	322
35～39歳	201	107	128	48	107	26	140	38		10	576	229
40～44歳	153	54	137	46	84	25	98	22		15	472	162
45～49歳	115	35	134	20	72	11	67	34		16	388	116
50～54歳	80	12	111	20	71	8	42	10		6	304	56
55～59歳	34	5	73	15	30	2	26	4		3	163	29
60～64歳	16	2	52	10	17	1	10			2	95	15
65～69歳	19	1	20	9	6	1	5	1			50	12
70歳以上	5		42	11	5	1	3			1	55	13
合 計	1,300	994	911	368	692	329	825	284	2	108	3,730	2,083

表10 検査結果別報告数(基幹) 2017年1月～12月

病原体	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	合計
<i>staphylococcus epidermidis</i>	5					5
<i>streptococcus other groups</i>	5					5
<i>streptococcus agalactiae</i>	4					4
other bacteria	2	1				3
<i>other diarrheagenic e. coli</i>	1					1
<i>s.dys.subsp.equisimilis</i>	1					1
<i>staphylococcus aureus</i>	1					1
<i>streptococcus group g</i>	1					1
negative		6				6
enterovirus nt		3				3
mumps virus		1				1
varicella-zoster virus		1				1
<i>mycoplasma pneumoniae</i>			204			204
<i>chlamydophila pneumoniae</i>				37		37
<i>chlamydia species unknown</i>				7		7
<i>chlamydia trachomatis</i>				2		2
rotavirus group unknown					200	200
記載無し	21	27	33		35	116
合 計	41	39	237	46	235	598

表11 疑似症サーベイランス報告数 2017年第1週～第52週

週	期 間	定点数	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱
1	1. 2～ 1. 8	443	1	
2	1. 9～ 1.15	443	2	
3	1.16～ 1.22	443	1	
4	1.23～ 1.29	443		
5	1.30～ 2. 5	443		
6	2. 6～ 2.12	443	3	
7	2.13～ 2.19	443		
8	2.20～ 2.26	443		
9	2.27～ 3. 5	443		
10	3. 6～ 3.12	443		
11	3.13～ 3.19	443		
12	3.20～ 3.26	443		
13	3.27～ 4. 2	443		
14	4. 3～ 4. 9	443		
15	4.10～ 4.16	443	1	
16	4.17～ 4.23	443	1	
17	4.24～ 4.30	443	1	
18	5. 1～ 5. 7	443		
19	5. 8～ 5.14	443		
20	5.15～ 5.21	443	1	
21	5.22～ 5.28	443		
22	5.29～ 6. 4	443		
23	6. 5～ 6.11	443	1	
24	6.12～ 6.18	443		
25	6.19～ 6.25	443		
26	6.26～ 7. 2	443	1	
27	7. 3～ 7. 9	443		
28	7.10～ 7.16	443		
29	7.17～ 7.23	443	1	
30	7.24～ 7.30	443	1	
31	7.31～ 8. 6	443	2	
32	8. 7～ 8.13	443	1	
33	8.14～ 8.20	443		
34	8.21～ 8.27	443	2	
35	8.28～ 9. 3	443		
36	9. 4～ 9.10	443	2	
37	9.11～ 9.17	443		1
38	9.18～ 9.24	443		
39	9.25～10. 1	443		
40	10. 2～10. 8	443		
41	10. 9～10.15	443	3	
42	10.16～10.22	443	1	
43	10.23～10.29	443		
44	10.30～11. 5	443		
45	11. 6～11.12	443		1
46	11.13～11.19	443		
47	11.20～11.26	443		
48	11.27～12. 3	443		
49	12. 4～12.10	443		1
50	12.11～12.17	443		
51	12.18～12.24	443		
52	12.25～12.31	443		
合 計			26	3

保健所	定点数	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱
千代田	4		
中央区	5		
みなの	9		
新宿区	13		
文京	8	3	
台東	7		
墨田区	9		
江東区	14		
品川区	13		
目黒区	8		
大田区	22		
世田谷	28		
渋谷区	9	22	1
中野区	11		
杉並	16		
池袋	9		
北区	11		
荒川区	7		
板橋区	18		
練馬区	21	1	
足立	21		
葛飾区	13		
江戸川	19		
八王子市	19		
町田市	13		
西多摩	15		
南多摩	15		
多摩立川	23		
多摩府中	36		
多摩小平	24		2
島しょ	3		
合 計	443	26	3

年齢階級	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱
0歳	7	
1歳	6	
2歳	1	
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		1
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳	1	1
15～19歳		
20～29歳	1	
30～39歳		
40～49歳	1	1
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳	6	
80歳以上	3	
合 計	26	3

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

東京都健康安全研究センターでは感染症法により位置づけられた感染症発生動向調査事業で、東京都内の病原体定点医療機関で臨床診断された疾患名を基に搬入された検体について、病原体検索・解析（ウイルス検査ならびに細菌検査）を行っている。それらの結果を疾病毎に検出病原体、遺伝子（血清）型解析等と共に、1月～12月（インフルエンザおよび感染性胃腸炎については流行シーズン）でまとめた。なお、2016年感染症発生動向調査事業実施要綱の一部改正に伴い設定した検体提出数の基準では、発生動向の疫学解析に足る検体数、病原体検出数の確保ができなかったため、2017年に一部緩和し、搬入数および検査項目数の設定を変更している。

種別	診断名		検体数
小児科	RSウイルス感染症	伝染性紅斑	週１～２検体 ^{※1}
	咽頭結膜熱	突発性発しん	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	百日咳	
	感染性胃腸炎	ヘルパンギーナ	
	水痘	流行性耳下腺炎	
	手足口病		
	不明発しん症（都単独）	川崎病（都単独）	月１～２検体
内科	インフルエンザ又はインフルエンザ様疾患 （上気道炎・下気道炎を含む）		流行期 ^{※2} ：週１～２検体 非流行期：月１～２検体
眼科	急性出血性結膜炎		週１～２検体
	流行性角結膜炎		
性感症	性器クラミジア感染症		週１～２検体
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ（HPV感染症）		
	淋菌感染症		
	膣トリコモナス症（都単独）		
基幹	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）		週２検体
	細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌が同定された場合は除く）		
	無菌性髄膜炎		
	クラミジア肺炎（オウム病を除く）		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		
	マイコプラズマ肺炎		
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
	薬剤耐性緑膿菌感染症		
	インフルエンザ（鳥インフルエンザは除く。入院患者のみ）		

※1 流行状況に応じて、1～2疾患の検体を提出する。

※2 都内定点医療機関当たりの患者報告数が1を超えた時点から1を下回る時点まで、都からの通知による。

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・内科・基幹病原体定点医療機関からの搬入検体

ア インフルエンザ

① 2016/2017 年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

インフルエンザウイルスの流行シーズンは、毎年9月（第36週）を境にシーズン分けされており、2017年の前半は2016/2017年シーズン、2017年の後半は2017/2018年シーズンとなる。2016/2017年シーズン（2016年第36週～2017年第35週）は、インフルエンザ病原体定点医療機関より535検体が搬入された。遺伝子検査ではAH1pdm09 15件（3.4%）、AH3亜型 315件（71.1%）、B型 113件（Victoria系統 55件：12.4%、B型 Yamagata系統 58件：13.1%）の計443件が検出され、流行の大半をAH3亜型が占めていたことが明らかとなった（図1a、図2a）。ウイルス分離検査では、AH1pdm09 12株、AH3亜型 269株、B型 106株（Victoria系統 52株、Yamagata系統 54株）の計387株が分離された。

② 2017/2018 年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

2017/2018年シーズン（2017年第36週～2018年3月末の第13週）は、インフルエンザ病原体定点医療機関より603検体が搬入された。遺伝子検査ではAH1pdm09 106件（20.3%）、AH3亜型 165件（31.5%）、B型 252件（Victoria系統 3件：0.6%、Yamagata系統 249件：47.6%）の計523件が検出され、流行の半数近くをB型 Yamagata系統が占めていたことが明らかとなった（図1b、図2b）。ウイルス分離検査では、AH1pdm09 97株、AH3亜型 131株、B型 221株（Victoria系統 3株、Yamagata系統 218株）の計449株が分離された。

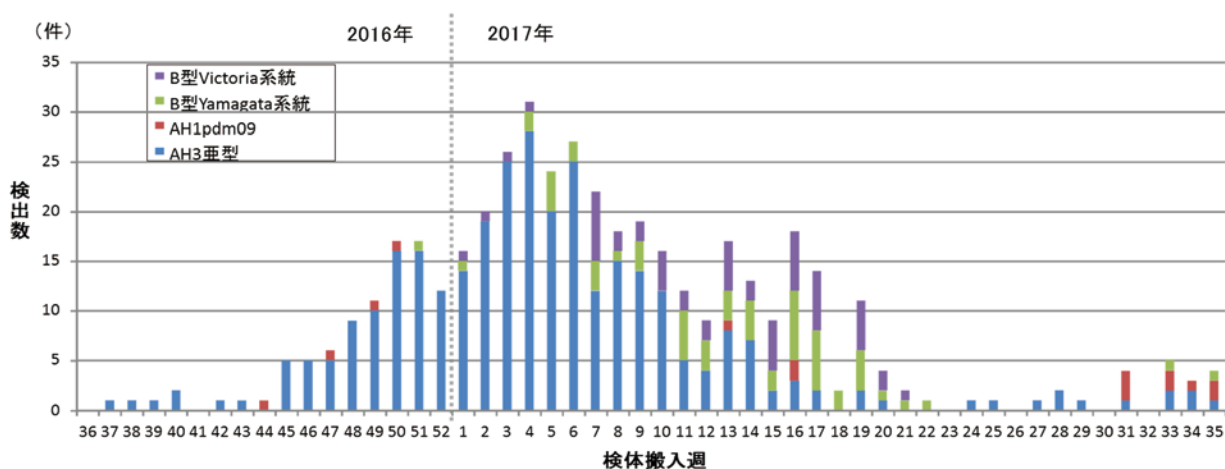


図 1a. 2016/2017 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出数

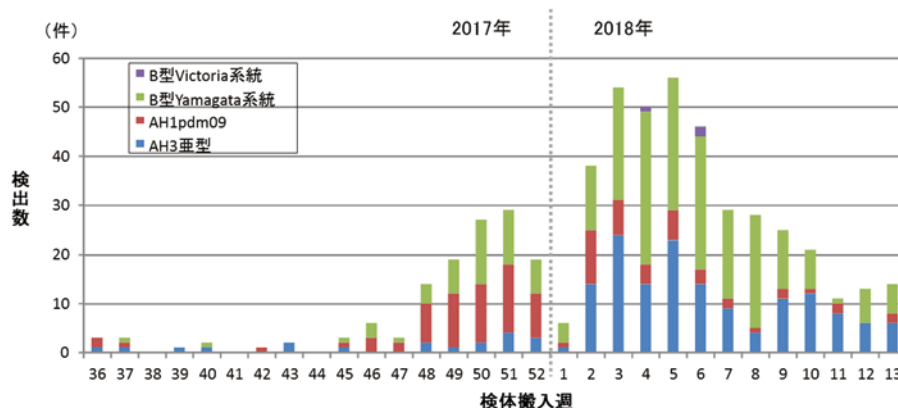


図 1b. 2017/2018 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出数（2018 年 3 月末現在）

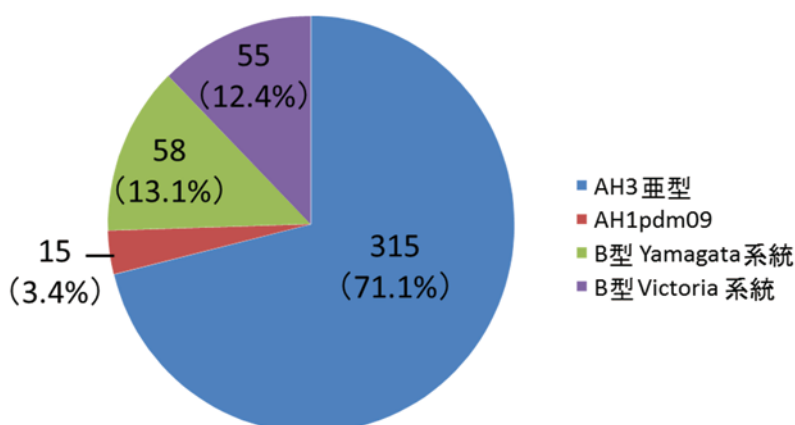


図 2a. 2016/2017 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出状況

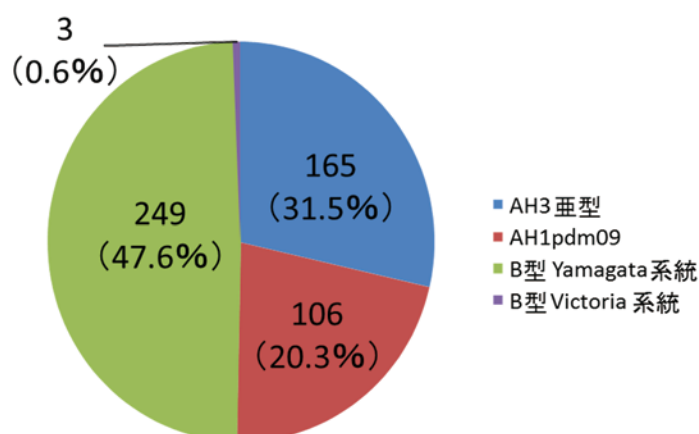


図 2b. 2017/2018 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出状況 (2018 年 3 月末現在)

③ インフルエンザウイルスの抗原解析

遺伝子解析及びワクチン株抗血清を用いた HI 試験により、インフルエンザウイルスの抗原性状を比較した。遺伝子解析は、RT-nested PCR 検査によって得られた HA (ヘマグルチニン) 遺伝子の一部断片を用いてダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定し、ワクチン株と分子系統樹上で比較した。分離株の性状解析は、国立感染症研究所配布のインフルエンザサーベイランスキット抗血清を用いた HI 試験 (1.0% モルモット赤血球浮遊液を使用) により行った。

AH1pdm09 は、2016/2017 年シーズンの流行株とワクチン株 (A/California/07/2009) を比較したところ、解析範囲 (571 塩基) の遺伝子変異は 15~20 塩基、相同性は 96.7%~97.5%であった。系統樹上ではワクチン株と異なるクレードに属していたが、HI 試験による抗原性状を比較したところ、ワクチン株と同等の反応性がみられ、抗原性に大きな変異はないと推察された (図 3)。2017/2018 年シーズンはワクチン株が A/California/07/2009 から A/Singapore/GP1908/2015 に変更された。2017/2018 年シーズンの流行株とワクチン株を比較すると、解析範囲の遺伝子変異は 6~12 塩基、相同性は 97.9%~99.0%であった。系統樹上では同じクレードに属し、HI 試験による抗原性状を比較したところ、ワクチン株と同等の反応性がみられた。

AH3 亜型は、2016/2017 年シーズンの流行株とワクチン株 (A/Hong Kong /4801/2014) を比較すると、解析範囲 (329 塩基) に 2~8 塩基の変異がみられ、相同性は 97.5%~99.3%であった。HI 試験では約

90%以上の株でワクチン株との反応性の低下（ホモ HI 価から 8 倍以上の低下）がみられ、ワクチン株と流行株との抗原性の相違が推察された。2017/2018 年シーズンの流行株とワクチン株を比較すると、解析範囲に 8～11 塩基の変異がみられ、相同性は 96.6%～97.5%であった。系統樹上では、全ての流行株はワクチン株と同じクレードに属していた（図 4）。しかし分離株は、HA 価が 8 倍未満で HI 試験が実施できないものが約 70%あった。HA 価が 8 倍以上で HI 試験が実施できた株では、約 54%でワクチン株抗体との反応性の低下がみられた。

B 型 Victoria 系統では、2016/2017 年シーズンの流行株とワクチン株（B/Texas/02/2013）を比較すると、解析範囲（285 塩基）での遺伝子変異は 4～6 塩基であり、相同性は 97.9%～98.6%であった（図 5）。HI 試験では約 80%の株でワクチン株と同等の反応性がみられ、約 20%の株でワクチン株抗体との反応性の低下がみられた。2017/2018 年シーズンの流行株とワクチン株では、解析範囲での遺伝子変異は 4～5 塩基であり、相同性は 98.2%～98.6%であった。HI 試験では、3 株中 2 株でワクチン株と同等の反応性がみられ、1 株でワクチン株抗体との反応性の低下がみられた。

B 型 Yamagata 系統では、2016/2017 年シーズンの流行株とワクチン株（B/Phuket/3073/2013）を比較すると、解析範囲（282 塩基）での遺伝子変異は 5～9 塩基、相同性は 96.8%～98.3%であった。HI 試験では約 80%の株でワクチン株と同等の反応性がみられ、約 20%の株でワクチン株抗体との反応性の低下がみられた。2017/2018 年シーズンの流行株とワクチン株を比較すると、解析範囲での遺伝子変異は 6～12 塩基、相同性は 96.3～98.0%であった。HI 試験では約 75%の株でワクチン株と同等の反応性がみられ、約 25%の株でワクチン株抗体との反応性の低下がみられた。

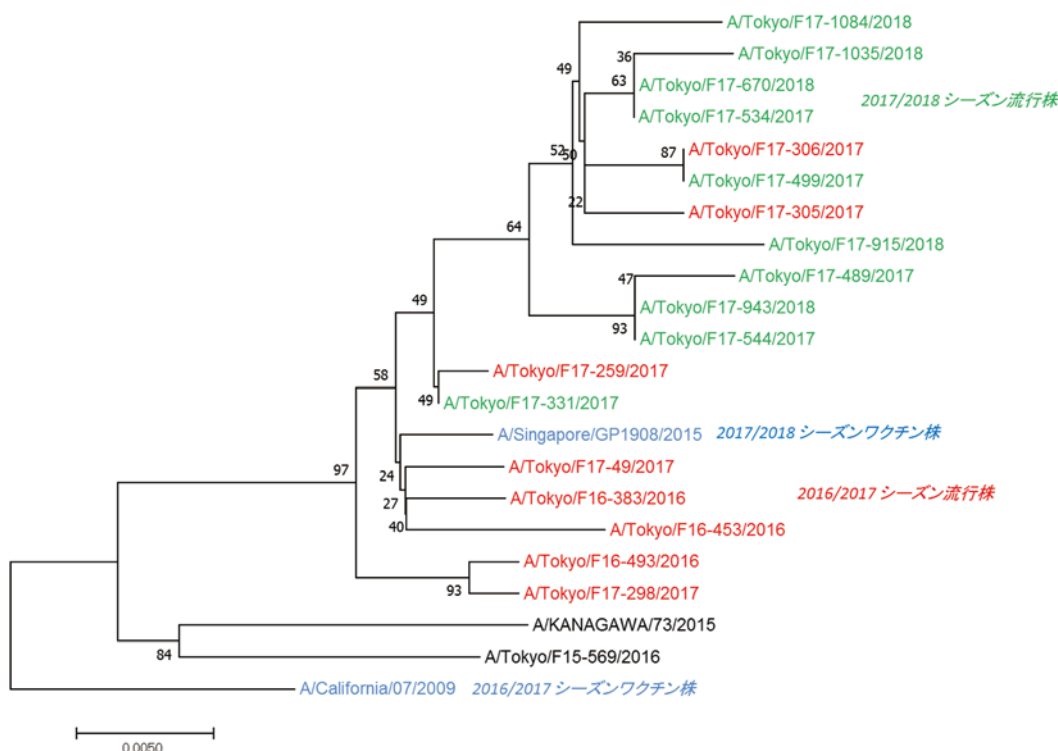


図 3. 東京都における AH1pdm09 インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

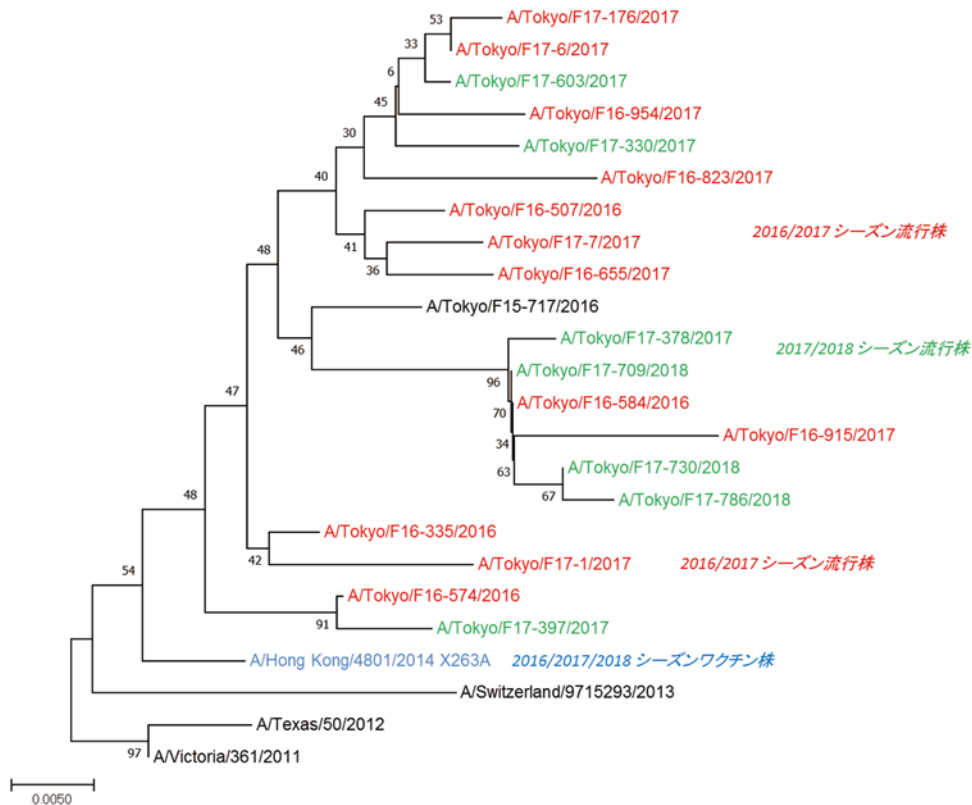


図 4. 東京都における AH3 亜型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

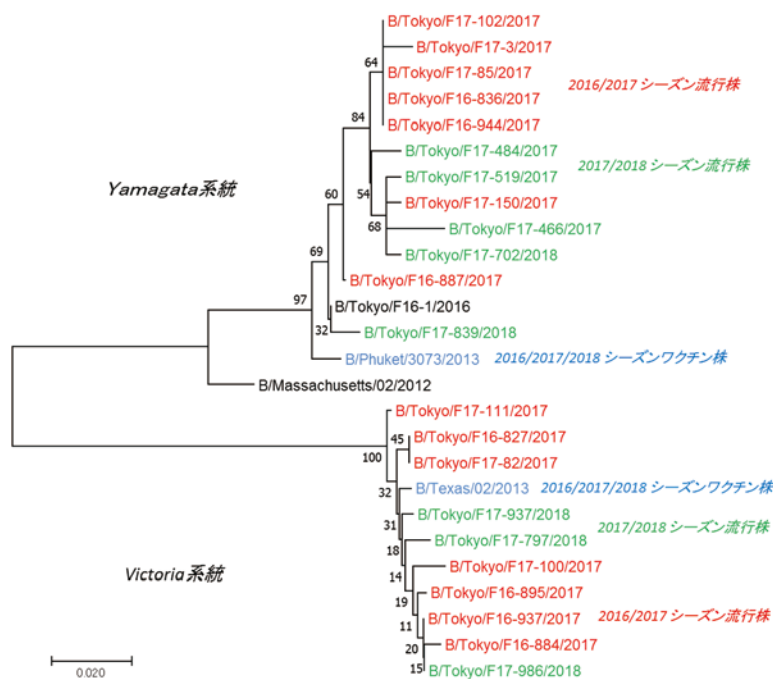


図 5. 東京都における B 型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

④ その他のウイルスの検出状況

インフルエンザの検査と同時に、エンテロウイルス、アデノウイルスの遺伝子検査を行った。2016/2017 年シーズンは 535 検体が搬入され、エンテロウイルス 6 件、ライノウイルス 14 件、アデノウイルス 20 件が検出された（図 6a）。2017/2018 年シーズンは 603 検体が搬入され、エンテロウイル

ス 6 件、ライノウイルス 14 件、アデノウイルス 16 件が検出された（図 6b）。また、ヘルペスウイルス 1 型とインフルエンザウイルス（B 型 Yamagata 系統）が同時に検出された検体が 1 件あった。両シーズンともライノウイルスとアデノウイルスは、インフルエンザの流行期にインフルエンザウイルスと同時に検出される例が多かった。

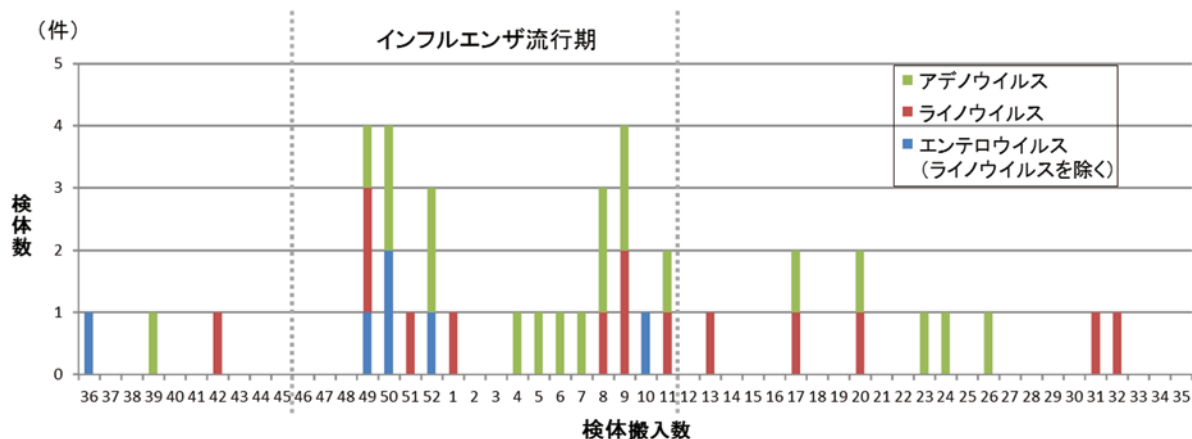


図 6a. 2016/2017 年シーズンのエンテロウイルス、アデノウイルス遺伝子検出数

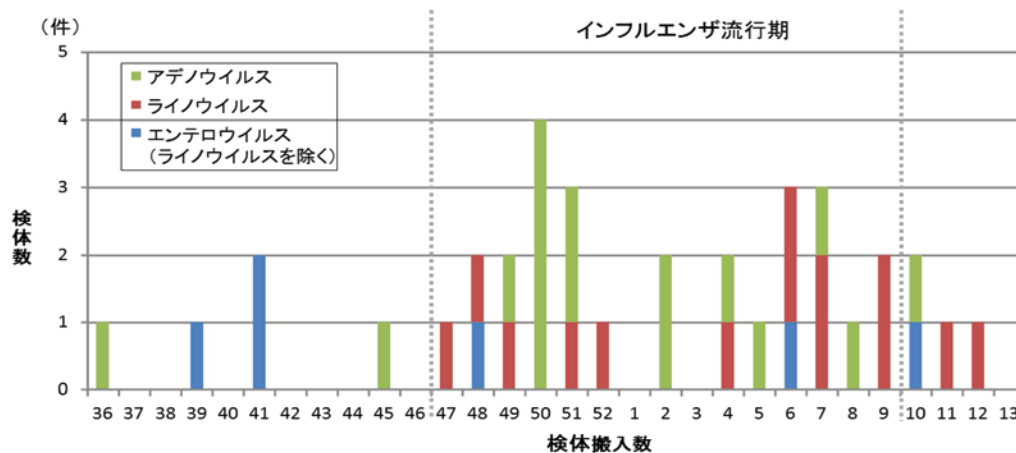


図 6b. 2017/2018 年シーズンのエンテロウイルス、アデノウイルス遺伝子検出数
(2018 年 3 月末現在)

イ RS ウイルス感染症

小児科定点医療機関で RS ウイルス感染症と診断され当センターに搬入された患者検体 42 件について、RS ウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。このうち 38 件から RS ウイルス遺伝子が検出され（A 型 27 件、B 型 11 件）、2 件からヒトメタニューモウイルス遺伝子が検出された。また、ライノウイルス遺伝子が 4 件、コクサッキーウイルス遺伝子とエコーウイルス遺伝子がそれぞれ 1 件検出された（複数検出含む）。また RS ウイルス A 型 11 件、B 型 4 件が分離された。他にはアデノウイルス 1 型、同ウイルス 2 型、コクサッキーウイルス、エコーウイルスがそれぞれ 1 件、アデノウイルスが 2 件分離された（表 1）。検体搬入月別に RS ウイルスの検出状況を見ると A 型は 9 月をピークとして 6 月から 12 月まで一峰性の流行が見られたが、B 型は 1 月から 10 月までほぼ毎月 1～2 件の検出が続き、流行のピークは見られなかった（図 7）。

表 1. RS ウイルス感染症患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

検出ウイルス	遺伝子検出件数	分離件数
RSウイルスA型	27	11
RSウイルスB型	11	4
ヒトメタニューモウイルス	2	0
ライノウイルス	4	0
コクサッキーウイルス	1	1
エコーウイルス	1	1
アデノウイルス	0	2
陰性	1	25

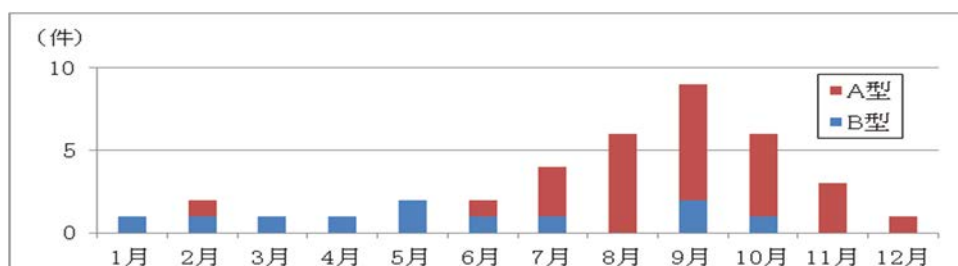


図 7. RS ウイルス感染症患者検体からの RS ウイルス検出状況

ウ 咽頭結膜熱

小児科定点医療機関で咽頭結膜熱と診断され当センターに搬入された患者検体 54 件についてアデノウイルスの遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離試験を実施した。このうち 34 件からアデノウイルス遺伝子が検出され、9 件からライノウイルス、1 件からコクサッキーウイルス B2 型、4 件からヒトヘルペスウイルス 6 型が検出され、単純ヘルペスウイルス 1 件が分離された（表 2）。検体搬入月別に搬入状況を見ると、6～7 月と 11 月にピークがあるが、実際のアデノウイルスの検出件数から見ると、6 月 7 月にそれぞれ搬入された検体のアデノウイルス陽性数は 3 件と低かったのに対し、11 月 12 月では陽性件数は 6 件ずつと一年で最も多かった。咽頭結膜熱はプール熱とも呼ばれ、夏に発生の多い疾患であると認識されることも多いが、本年は冬季に流行があったことが示唆された。また、6 月から 11 月にかけて高い発熱を特徴とするヒトヘルペスウイルス 6 型や単純ヘルペスウイルスが検出され、呼吸器症状を特徴とするライノウイルス等は年間を通しての検出例がみられた(図 8)。

表 2. 咽頭結膜熱患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複感染を含む）

検出ウイルス	遺伝子検出件数	分離件数
アデノウイルス1型	8	6
アデノウイルス2型	11	10
アデノウイルス3型	14	11
アデノウイルス6型	1	0
ライノウイルス	9	0
コクサッキーウイルスB2型	1	0
ヒトヘルペスウイルス6型	4	0
単純ヘルペスウイルス1型	0	1
陰性	13	26

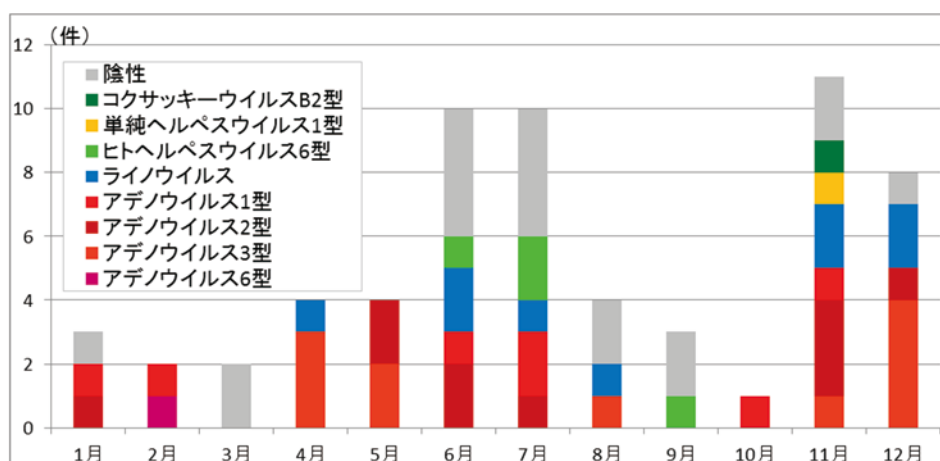


図 8. 咽頭結膜熱患者検体からのウイルス検出状況 (重複感染を含む)

エ 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は流行時期に合わせ、毎年第 36 週から翌年の第 35 週までの 1 年間を感染性胃腸炎の流行シーズンとしている。2017 年は第 35 週までの 2016/2017 年シーズン（2017 年 1 月 1 日から 2017 年 9 月 3 日）と第 36 週以降の 2017/2018 年シーズンに（2017 年 9 月 4 日から 2017 年 12 月 31 日）に分けられる。

小児科定点医療機関及び基幹定点医療機関において感染性胃腸炎（基幹定点医療機関はロタウイルスによるもののみ）と診断され、小児科定点医療機関から搬入された検体についてはノロウイルス、サポウイルス及び A 群ロタウイルス、基幹定点医療機関については A 群ロタウイルス及び C 群ロタウイルスについて遺伝子検査を実施した。第 22 週以降は小児科定点医療機関の検体についてアデノウイルス及びアストロウイルスの遺伝子検査を追加して実施した。

感染性胃腸炎と診断され当センターに搬入された患者検体 129 件について、上述の検査を実施し、うち 83 件からノロウイルス等の感染性胃腸炎の原因となるウイルスが検出され、最も多いのは A 群ロタウイルスであった。ノロウイルスについて見ると、GⅡ.4 は 2016/2017 年シーズン、2017/2018 年シーズンともに最も多く検出されており、2017/2018 年シーズンでは GⅡ.2 が 2 番目に多く検出された（表 3 および図 9）。

表 3. 感染性胃腸炎の患者検体数及び検出遺伝子内訳

	2016/2017	2017/2018	計	遺伝子検査 陽性検体数
小児科定点	76	32	108	63
基幹定点	21	0	21	20
計	97	32	129	83

検出遺伝子	2016/2017	2017/2018
ノロウイルス GⅠ.4	1	0
ノロウイルス GⅡ.2	1	5
ノロウイルス GⅡ.3	1	0
ノロウイルス GⅡ.4	5	8
ノロウイルス GⅡ.17	2	0
サポウイルス	3	5
A 群ロタウイルス	46	0
アデノウイルス	4	0
アストロウイルス	3	0
計	66	18

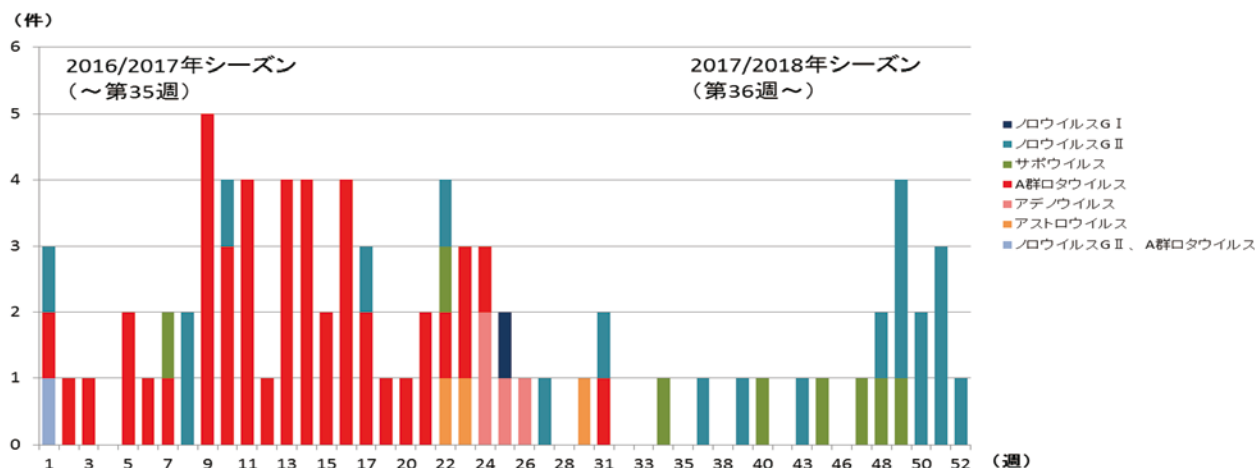


図 9. 感染性胃腸炎患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

オ 水痘

小児科定点医療機関で水痘と診断され当センターに搬入された患者検体 32 件について、水痘帯状疱疹ウイルスの遺伝子検査を実施し、このうち 18 件から当該遺伝子が検出されたが、さらに 3 検体からはコクサッキーウイルス A6 型が検出された。当該ウイルスは手足口病の原因ウイルスとして知られ、特に同ウイルスは手足および口内に大きな水疱を形成することがあり、この水泡を事由として診断されたものと思われた。また、ライノウイルスとの混合感染例が 2 件、ライノウイルスが単独で検出された例が 1 件あった（表 4）。さらに、アデノウイルス 2 型が 1 株分離された（図 10）。

表 4. 水痘患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複感染を含む）

検出ウイルス	遺伝子検出件数	分離件数
水痘帯状疱疹ウイルス	18	0
ライノウイルス	3	0
コクサッキーウイルスA6型	3	0
アデノウイルス2型	0	1
陰性	9	31

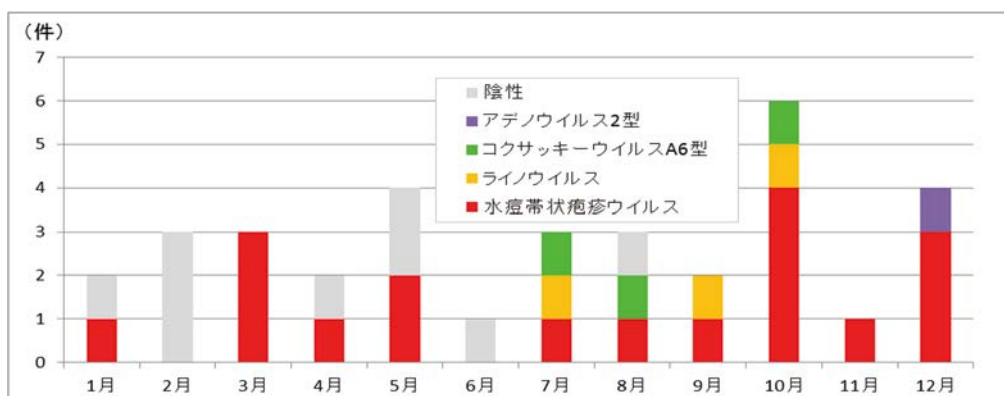


図 10. 月別の水痘患者検体からのウイルス検出状況

カ 手足口病

小児科定点医療機関で手足口病と診断され当センターに搬入された患者検体 136 件について、エンテロウイルスの遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離試験を実施した。このうち 118 件からエンテロウイルスの遺伝子が検出され、コクサッキーウイルス等が 28 件分離された（表 5）。検体搬

入月別に検出状況を見ると、7月をピークとして、10月までに集中して検出されたことが分かる（図11）。検出されたウイルスの半数以上がコクサッキーウイルス A6 型（61.9%）で、次いでエンテロウイルス 71 型（19.5%）、コクサッキーウイルス A10 型（5.9%）、コクサッキーウイルス A16 型（5.1%）となった。分離試験では多くのウイルスが分離できたが、本年の流行株であったコクサッキーウイルス A6 型は分離できなかった。

表 5. 手足口病の患者から検出されたウイルスの内訳

検出ウイルス	遺伝子検出件数	分離件数
コクサッキーウイルスA6型	73	0
エンテロウイルス71型	23	19
コクサッキーウイルスA10型	7	1
コクサッキーウイルスA16型	6	4
ライノウイルス	4	1
エコー18型ウイルス	2	2
エコー9型ウイルス	1	1
エンテロウイルス型不明	2	0
陰性	18	108

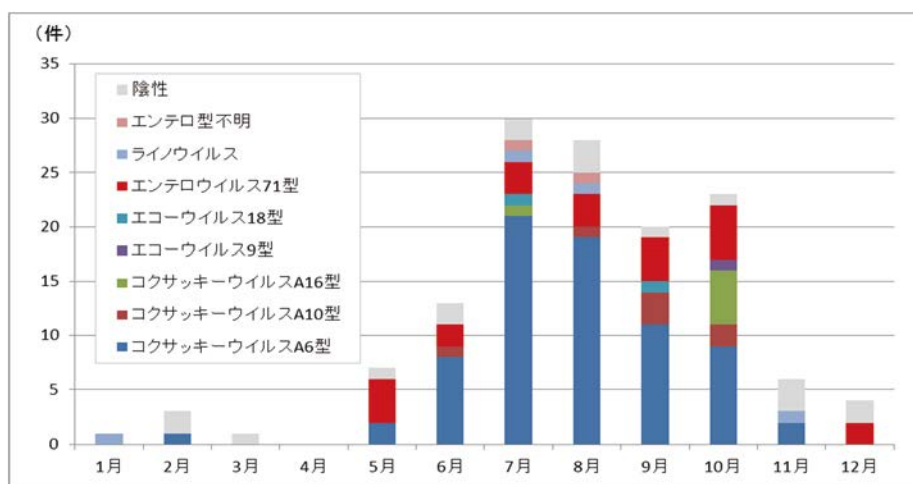


図 11. 手足口病患者検体からの月別ウイルス検出状況

キ 伝染性紅斑

小児科定点医療機関で伝染性紅斑と診断され当センターに搬入された患者検体 19 件について、ヒトパルボウイルス B19 の遺伝子検査を実施し、このうち 5 件から当該遺伝子が検出された。また、ヒトパルボウイルス以外にもエコーウイルス 18 型、ヒトヘルペスウイルス 6 型、ライノウイルスがそれぞれ 1 件検出された(表 6、図 12)。

表 6. 伝染性紅斑の患者から検出されたウイルスの内訳

検出ウイルス	遺伝子検出数	分離件数
エコーウイルス18型	1	1
ライノウイルス	1	0
ヒトヘルペスウイルス6型	1	0
ヒトパルボウイルスB19	5	0
陰性	11	18

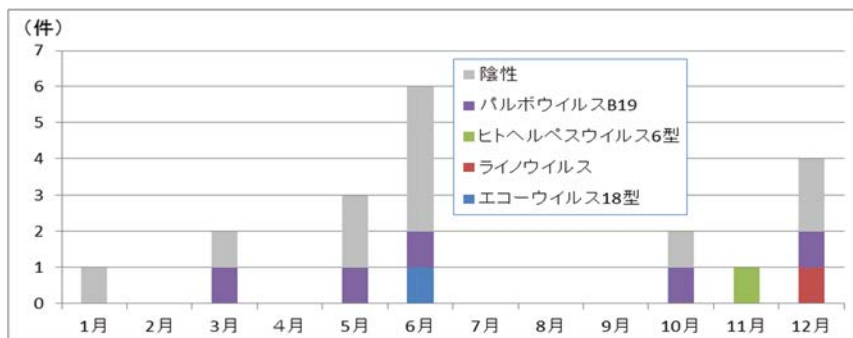


図 12. 伝染性紅斑患者検体からの月別ウイルス検出状況

ク 突発性発しん

小児科定点医療機関で突発性発しんと診断され、当センターに搬入された患者検体 46 件について、遺伝子検査を実施し、このうち 30 件からヒトヘルペスウイルス 6 型、3 件からエコーウイルス 18 型の遺伝子が検出された。ライノウイルスとエコーウイルス 9 型の遺伝子がそれぞれ 2 件検出され、さらにエンテロウイルス 71 型とアデノウイルス 1 型の遺伝子が各 1 件検出されたが、ヒトヘルペスウイルス 7 型の検出はなかった。また、エコーウイルス 18 型 3 株、エコーウイルス 9 型 1 株、アデノウイルス 1 型 1 株が分離された（表 7）。また、検体搬入数は 9 月に最も多く、検出されたウイルスの半数以上はエコーウイルスであった。一般に突発性発しんの原因されるヒトヘルペスウイルスは 5 月に最も多く検出された（図 13）。

表 7. 突発性発しんの患者から検出されたウイルスの内訳

検出ウイルス	遺伝子検出件数	分離件数
アデノウイルス1型	1	2
エコーウイルス18型	3	3
エンテロウイルス71型	1	0
エコーウイルス9型	2	1
ヒトヘルペスウイルス6型	30	0
ライノウイルス	2	0
陰性	7	40

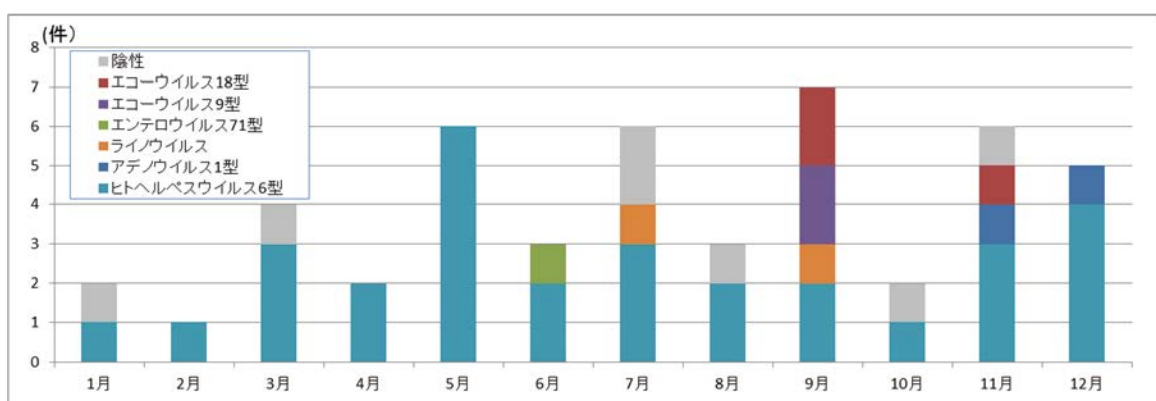


図 13. 突発性発しん患者検体からの月別ウイルス検出状況

ケ ヘルパンギーナ

小児科定点医療機関でヘルパンギーナと診断され当センターに搬入された患者検体 24 件についてエンテロウイルスの遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離試験を実施した。このうち 19 件からコクサッキーウイルス A 群等の遺伝子が検出された（表 8）。搬入月別に検出状況を見ると、6 月を

ピークとして、5月～7月の初夏を中心として搬入されたことが分かった（図 14）。

表 8. ヘルパンギーナ患者検体から検出されたウイルスの内訳

検出ウイルス	遺伝子検出数	分離件数
コクサッキーウイルスA10型	4	1
コクサッキーウイルスA4型	3	0
コクサッキーウイルスA6型	5	0
エコー18型	1	1
ライノウイルス	2	0
パレコウイルス1型	1	1
ヒトヘルペスウイルス6型	1	0
アデノウイルス2	2	2
陰性	5	19

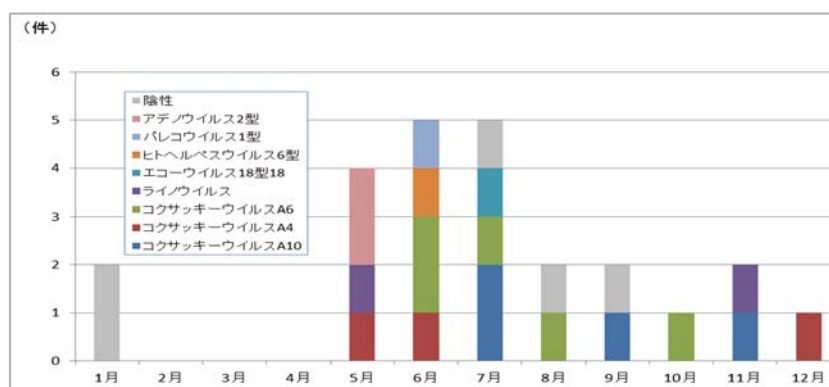


図 14. ヘルパンギーナ患者検体からの月別ウイルス検出状況

コ 流行性耳下腺炎

小児科定点医療機関で流行性耳下腺炎と診断され当センターに搬入された患者検体 76 件について、ムンプスウイルス等の遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離試験を実施した。このうち 28 件からムンプスウイルス遺伝子、7 件から EB ウイルス遺伝子が検出された。また 23 件からムンプスウイルスが分離された（表 9）。ムンプスウイルスおよび EB ウイルスはほぼ年間を通して検出されていたが、ムンプスウイルスは 2 月から 7 月にかけて多く検出される傾向が見られた（図 15）。

表 9. 流行性耳下腺炎の患者から検出されたウイルスの内訳

検出ウイルス	遺伝子検出数	分離件数
ムンプス	28	23
EBウイルス	7	0
陰性	41	53

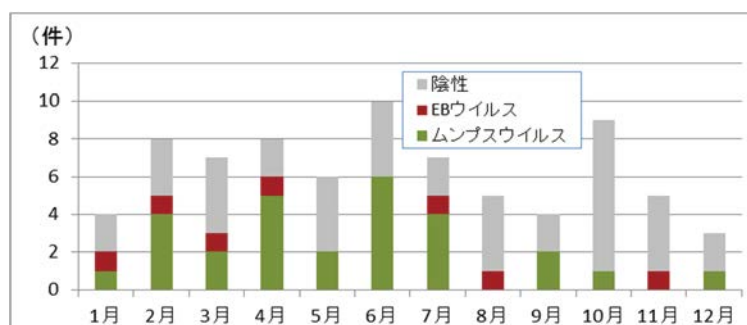


図 15. 流行性耳下腺炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

サ 不明発しん症

小児科定点医療機関で不明発しん症と診断され当センターに搬入された患者検体 160 件について、麻しんウイルス、風しんウイルス、ヒトパルボウイルス B19、ヒトヘルペスウイルス 6 型、7 型、エンテロウイルス、パレコウイルスの遺伝子検査を実施し、67 件からウイルス遺伝子が検出された。一番多く検出されたのはヒトヘルペスウイルス 6 型の 24 件で、次いでライノウイルス 14 件、ヒトヘルペスウイルス 7 型とエコーウイルス 9 型が 9 件、パルボウイルス B19 が 7 件、コクサッキーウイルス A6 型 5 件、風しんウイルス 4 件、麻しんウイルス 2 件となった（重複感染を含む、表 10）。遺伝子解析の結果、麻しんウイルスは全てワクチン株であった。分離については、エコーウイルス 9 型がもっとも多く検出されたが、アデノウイルスの遺伝子検査を行わなかった検体から 5 件のアデノウイルスが分離された（表 10）。月別の検出状況は、夏季に検出数が増加する傾向が見られた（図 16）。

表 10. 不明発しん症の患者から検出されたウイルスの内訳

検出ウイルス	遺伝子検出数	分離件数
パルボウイルスB19	7	0
パレコウイルス	3	0
麻しんウイルス	2	0
風しんウイルス	4	0
ライノウイルス	14	0
エンテロ型別不明	2	0
エンテロウイルス71型	1	1
エコーウイルス9型	9	7
エコーウイルス7型	1	1
エコーウイルス5型	0	1
エコーウイルス3型	1	1
エコーウイルス18型	1	0
コクサッキーウイルスB2型	1	0
コクサッキーウイルスB3型	0	1
コクサッキーウイルスA6型	5	0
ヒトヘルペスウイルス7型	9	0
ヒトヘルペスウイルス6型	24	0
アデノウイルス1型	0	2
アデノウイルス2型	0	1
アデノウイルス3型	0	2
陰性	76	143

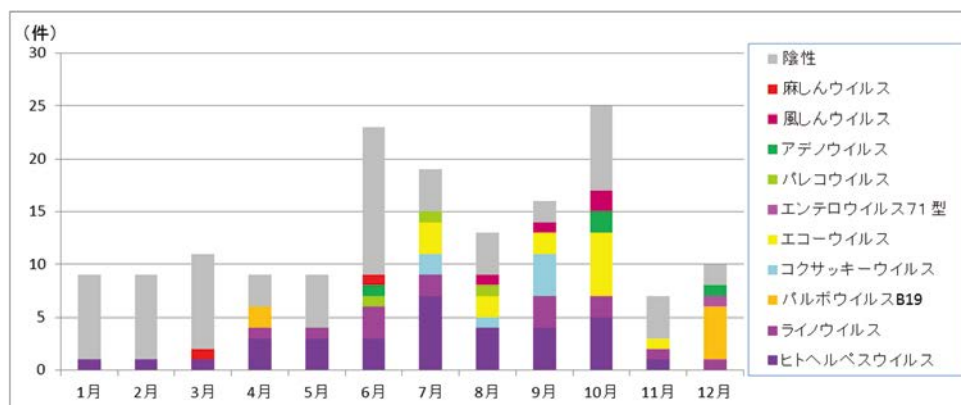


図 16. 不明発しん症患者検体からの月別ウイルス検出状況

シ 川崎病

小児科定点医療機関で川崎病と診断され当センターに搬入された患者検体 6 件について、アデノウイルス等の遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離試験を実施した。その結果コクサッキーウイルス A6 型とライノウイルスが遺伝子検査によってそれぞれ 1 件検出されたが、ウイルス分離はできなかった。

ス 無菌性髄膜炎

基幹定点医療機関で無菌性髄膜炎と診断され当センターに搬入された患者検体 61 件について、エンテロウイルス等の遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離試験を実施した。このうち 11 件からエンテロウイルスやパレコウイルスの遺伝子が検出され、2 件からエンテロウイルス 71 型、エコーウイルス 3 型が分離された（表 11）。検出時期は 6 月から 8 月に多く、最も多く検出されたウイルスはエンテロウイルス 71 型であった（図 17）。

表 11. 無菌性髄膜炎の患者から検出されたウイルスの内訳

検出ウイルス	遺伝子検出数	分離件数
エンテロウイルス71型	4	1
エコーウイルス3型	1	1
エコーウイルス9型	1	0
パレコウイルス	2	0
ライノウイルス	1	0
ヒトヘルペスウイルス6型	1	0
ムンプスウイルス	1	0
陰性	50	59

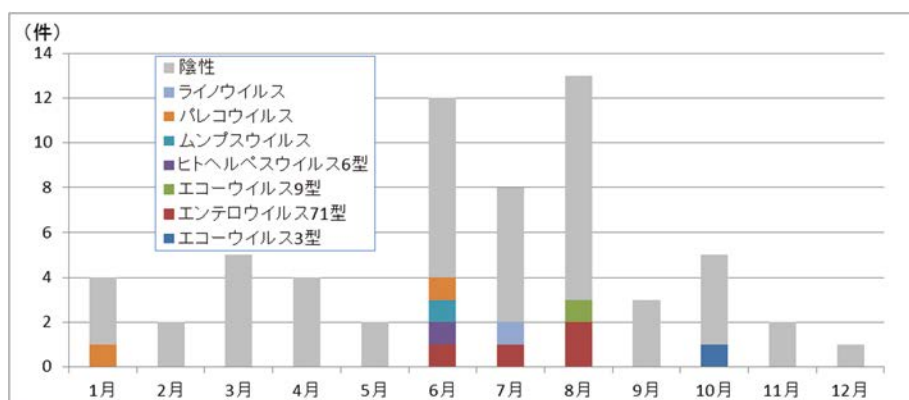


図 17. 不明発しん症患者検体からの月別ウイルス検出状況

（2）眼科定点からの搬入検体

ア 急性出血性結膜炎

当該検体の搬入は無かった。

イ 流行性角結膜炎

定点医療機関で流行性角結膜炎と診断され当センターに搬入された患者検体 17 件について、アデノウイルス及びエンテロウイルスの遺伝子検査及び培養細胞を用いた分離検査を実施した。このうち 13 件からアデノウイルス遺伝子が検出され、4 件からアデノウイルスが分離された（表 12、図 18）。

表 12. 流行性角結膜炎の患者から検出されたウイルスの内訳

検出ウイルス	遺伝子検出数	分離件数
アデノウイルス（型別不明）	2	0
アデノウイルス3型	2	0
アデノウイルス53型	1	0
アデノウイルス64型	6	3
アデノウイルス54型	1	0
アデノウイルス56型	1	1
陰性	4	13

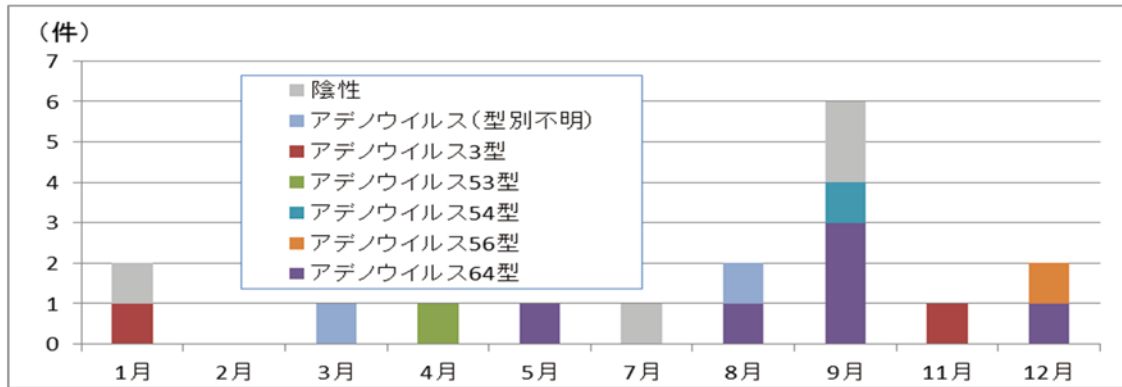


図 18. 流行性角結膜炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

(3) 性感染症 (STI) 定点からの搬入検体

ア 性器ヘルペスウイルス感染症

STI 病原体定点医療機関から 41 検体（主として性器ヘルペス感染症を疑う患者の陰部尿道擦過物、又は水泡内容物）が搬入された。

キャプシド蛋白をコードする glycoprotein D 領域を対象としたリアルタイム PCR 法による単純ヘルペスウイルス 1 型及び 2 型（HSV-1 型及び HSV-2 型）の遺伝子検査を実施した。

その結果、41 検体中 7 検体（17.1%）から HSV-1 型、13 検体（31.7%）から HSV-2 型の遺伝子が検出された。

イ 尖圭コンジローマ

STI 病原体定点医療機関から 48 検体（陰部尿道擦過物、尖圭コンジローマ部位擦過物、又は尖圭コンジローマ患部生検材料）が搬入された。

キャプシド蛋白をコードする L1 領域を対象とした PCR 法によるヒトパピローマウイルス（HPV）遺伝子の検出を行った。標的遺伝子が検出された場合、塩基配列を決定し NCBI Blast を用いた相同性検索により遺伝子型を同定した。さらに、得られた遺伝子型を子宮頸がん等へのリスク評価に基づいて分類した（High リスク、Low リスク及びリスク未分類）。

その結果、48 検体中 41 検体（85.4%）から HPV 遺伝子が検出された。1 検体から 1 種類の HPV 遺伝子型が検出されたのは 32 検体（66.7%）で、リスク評価による分類でみると、16、18 型などの High リスク群に分類されたものではなく、32 検体すべてが Low リスク群に分類された〔6 型:19 検体 (59.4%)、11 型 13 検体 (40.6%)〕。また、9 検体では同時に複数の HPV 遺伝子が検出され、7 検体からは 2 種類（High-Low リスク：4 検体、Low-Low リスク：3 検体）、2 検体からは 3 種類の HPV 遺伝子が検出された（High-High-Low リスク：1 検体、High-Low-Low リスク：1 検体）。

(4) 積極的疫学調査により検出されたウイルス検査結果

ア 二類感染症

① 中東呼吸器症候群（MERS コロナウイルス）

都内医療機関で MERS コロナウイルス感染疑いと診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 2 件について遺伝子検査を実施した。

その結果、MERS コロナウイルスについては全て陰性であり、類症鑑別のために行った季節性インフルエンザ検査も陰性であった。

② 鳥インフルエンザ（A/H5N1 亜型、A/H7N9 亜型）

都内医療機関で鳥インフルエンザウイルス感染疑いと診断された症例はなかった。

イ 四類感染症

① A 型肝炎

医療機関で A 型肝炎と診断され、当センターに搬入された患者検体 55 件について遺伝子検査を実施した。48 件から A 型肝炎遺伝子が検出され、これらについて遺伝子解析を行った結果、遺伝子型は I A 型 45 件、I B 型 1 件、III A 型 2 件であった。

② E 型肝炎

医療機関で E 型肝炎と診断され、当センターに搬入された患者検体 40 件について遺伝子検査を実施した。16 件から E 型肝炎遺伝子が検出され、これらについて遺伝子解析を行った結果、遺伝子型は 3 型 14 件、4 型 1 件、型別不明 1 件であった。

③ 蚊媒介感染症（デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症）

都内医療機関でデング熱と診断、またはデング熱等の蚊媒介感染症疑いと診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 161 件（血液 104 件、尿 57 件）について遺伝子検査を実施した。

その結果、36 件からデングウイルス遺伝子（1 型 8 件、2 型 12 件、3 型 12 件、4 型 4 件）、1 件からチクングニアウイルス遺伝子が検出され、すべて海外感染疑い例であった。ジカウイルス遺伝子は検出されなかった。

④ リケッチア等関連疾患（Q 熱、つつが虫病、日本紅斑熱、発しんチフス、ライム病）

都内医療機関でリケッチア関連疾患疑いと診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 18 件（つつが虫病 10 件、日本紅斑熱 4 件、リケッチア症 1 件、ライム病 3 件）について遺伝子検査を実施した。つつが虫病は *Orientia tsutsugamushi* 遺伝子の 56kDa 領域、日本紅斑熱は紅斑熱群リケッチア遺伝子の gltA 領域、ライム病はボレリア属共通な遺伝子の flaB 領域を対象とした遺伝子検査によって検出を行った。また、標的遺伝子が検出された場合、塩基配列を決定し NCBI Blast を用いた相同性検索により遺伝子型を同定した。

その結果、つつが虫患者の急性期血液 10 検体中 8 件（80.0%）から *Orientia tsutsugamushi* の遺伝子を検出した。その内訳は、血清型：Gilliam 株様の *O. tsutsugamushi* 56kDa 共通抗原遺伝子が検出されたものの 1 株、Karp 株様 3 件、新型と言われる血清型の Kuroki 株様 1 件、Kawasaki 株様が 3 件検出された。また、日本紅斑熱を疑われた検体 5 件中 1 件から日本紅斑熱原因病原体である *Rickettsia japonica* の遺伝子を検出した。ライム病疑いの検体からは 1 件、新興回帰熱の病原体といわれる *Borrelia miyamotoi* の遺伝子を検出した。その他の検体から病原体遺伝子は検出されなかった。

ウ 五類感染症（全数把握疾患）

① 急性脳炎

都内医療機関で急性脳炎と診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 5 件についてエンテロウイルス等の遺伝子検査を実施した。

その結果、コクサッキーウイルス B 群 2 型とロタウイルスがそれぞれ 1 件検出された。

② 水痘（入院を要するもの）

都内医療機関で水痘と診断され、入院に至った事例で、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 1 件について水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）の遺伝子検査を行ったところ、1 件から VZV 遺伝

子が検出された。

③ 先天性風しん症候群

都内医療機関で先天性風しん症候群（疑い含む）と診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 2 件について、風しんウイルスの遺伝子検査を実施したところ、いずれも陰性であった。

④ 麻しん

都内医療機関で麻しん（疑い含む）と診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 135 件について麻しんウイルスの遺伝子検査を実施した。

その結果、26 件から麻しんウイルス遺伝子が検出され、遺伝子型別を行ったところ D8 型が 25 件、H1 型が 1 件であった。麻しんウイルス陰性検体については病原体レファレンス事業により風しんウイルス、ヒトパルボウイルス B19 等の遺伝子検索も実施し、風しんウイルス 1 件、ヒトパルボウイルス B19 2 件、ヒトヘルペスウイルス 6 型 8 件を検出した。

2 細菌検査結果

(1) 四類感染症の病原体検索

ア レジオネラ症

レジオネラ症 12 事例、12 件の検体が搬入された。その内訳は、患者喀痰 6 件、患者由来株 6 株であった。喀痰については、レジオネラ属菌の遺伝子検査及び分離培養を実施した結果、2 件は遺伝子検査及び分離培養ともに陽性、2 件は遺伝子検査及び分離培養ともに陰性、2 件は遺伝子検査は陽性であったが、分離培養は陰性であった。喀痰から分離された 2 株と患者由来株についての血清型別試験を実施した結果、7 株が 1 群であり、1 株はレジオネラ属菌ではなかった。

(2) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索

ア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

搬入された患者由来株は 66 株 (64 事例) で、A 群レンサ球菌が 26 株、B 群レンサ球菌が 13 株、C 群が 1 株、G 群レンサ球菌が 25 株、群別不能が 1 株であった。

A 群レンサ球菌 26 株全ては *Streptococcus pyogenes* であり、その T 血清型は 1 型:10 株、12 型及び 28 型がそれぞれ 3 株、B3264 型及び 4 型がそれぞれ 2 株、3 型、14/49 型、6 型がそれぞれ 1 株であり、型別不能が 3 株であった。M タンパクをコードする遺伝子により型別を行う emm 型別を実施した結果、1 型が 10 株と最も多く、次いで 12 型が 4 株、89 型が 3 株などであった。

B 群レンサ球菌 13 株の血清型を実施した結果、Ib 型:5 株、III 型:3 株、Ia 型:2 株、VI 型及び VIII 型がそれぞれ 1 株であり、型別不能が 1 株であった。

また、C 群レンサ球菌 1 株及び G 群レンサ球菌 26 株は、*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis* であり、emm 型別を実施した結果、stG6792 型が最も多かった。

群別不能であった 1 株の菌種は、*Gemella* sp. と同定されたため、届け出を取り消された。

イ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

搬入された患者由来のインフルエンザ菌は 50 株 (47 事例) であり、莢膜型別について免疫血清を用いた血清型及び PCR 法による型別を実施した結果、e 型が 1 株、f 型が 1 株であり、残りの 48 株はすべて無莢膜型であった。

ウ 侵襲性髄膜炎菌感染症

本疾患の患者由来菌株は 8 株搬入されたが、1 株は髄膜炎菌ではなく *Neisseria* sp. と同定されたため、届け出を取り消された。髄膜炎菌 7 株について PCR 法による型別を実施した結果、5 株が Y 群であり、2 株は W-135 群となった。

エ 侵襲性肺炎球菌感染症

搬入された患者由来の肺炎球菌は 126 株 (119 事例) であり、それぞれについて莢膜血清型別を実施した。その結果は表 13 に示した通りであった。その他は送付された菌株が肺炎球菌ではなかった。

表 13. 肺炎球菌血清型別結果

血清型	株数	血清型	株数	血清型	株数
12F	17	23A	5	14	2
24F	11	24B	5	22F	2
3	8	20	4	23B	2
10A	8	11A	3	6B	2
15C	8	15A	3	34	1
19A	8	6A	3	38	1
35B	8	6C	3	33F	1
7F	7	7C	3	型別不能	2
15B	6	1	2	その他	1

オ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

搬入された菌株は患者由来株 6 株であり、いずれも *Enterococcus faecium* であった。そのうち、5 株は *vanB* 遺伝子を保有しており、1 株は *vanA* 遺伝子を保有していた。

カ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

搬入された本疾患患者由来株は *Acinetobacter baumannii* 6 株であり、PCR 法による耐性遺伝子の検出を実施した結果、いずれも OXA-51-like β -ラクタマーゼをコードする遺伝子とプロモーター活性を有する挿入遺伝子領域 (ISAbal) を保有していた。

キ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

患者由来株 93 株及び保菌者由来株 2 株が搬入された。菌株の内訳は、*Enterobacter* 属が最も多く 40 株、次いで *Klebsiella pneumoniae* が 24 株、*Citrobacter freundii* が 10 株、*Escherichia coli* が 8 株、*Serratia marcescens* が 5 株、*K. oxytoca* が 4 株であった。その他、*Proteus mirabilis* や *Providencia stuartii* など搬入された。

PCR 法による β -ラクタマーゼ遺伝子の検出を実施した結果、NDM 遺伝子保有株が 3 株あり、そのうち、2 株は NDM-1、1 株は NDM-5 であった。また、IMP-1 遺伝子保有株が 35 株、OXA-48 遺伝子保有株が 1 株、CTX-M-1 group 遺伝子保有株が 6 株、CTX-M-2 group 遺伝子保有株が 4 株、CTX-M-9 group 遺伝子保有株が 7 株、EBC 遺伝子保有株が 10 株、CIT 遺伝子保有株が 7 株、DHA 遺伝子保有株が 2 株であった。また、検査したいずれの耐性遺伝子も保有していなかった株は 30 株であった。

（３）五類感染症（定点把握対象）の病原体検索

ア A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

都内の定点医療機関から A 群溶血性レンサ球菌感染症患者由来検体は 88 件であった。その内訳は咽頭スワブが 49 件、菌株 39 株であった。

搬入されたスワブから分離された A 群溶血性レンサ球菌は 42 株であり、菌株で搬入された 39 株を合わせた合計 81 株について T 血清型別試験を実施した。その結果、T12 型が 21 株と最も多く、次いで T1 型が 15 株、T4 型及び TB3264 型がそれぞれ 14 株、T25 型：4 株、T2 型、T3 型、T28 型及び 11 型がそれぞれ 2 株、T6 型、T14/49 型、5/27/44 型が各々 1 株ずつであり、型別不能株は 2 株であった。

イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑いの患者糞便 4 件について腸管系の細菌検査を実施した。その結果、1 検体から *Campylobacter coli* が検出された。

ウ 百日咳

都内の定点医療機関から百日咳疑い患者の鼻汁または咽頭拭い液が 6 検体搬入され、遺伝子検査及び分離同定を実施した。その結果、全て陰性であった。

エ マイコプラズマ肺炎

都内の定点医療機関からマイコプラズマ肺炎疑い患者の咽頭拭い液が 8 検体搬入され、遺伝子検査及び分離同定を実施した。その結果、4 検体から肺炎マイコプラズマ遺伝子が検出され、1 株の肺炎マイコプラズマが分離された。

オ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症

都内の定点医療機関から MRSA 感染症患者由来検体が 49 検体搬入され、すべて MRSA であった。分離された 49 株について、コアグラーゼ型別試験を実施した結果、Ⅰ型:3 株、Ⅱ型:11 株、Ⅲ型:20 株、Ⅶ型:14 株であり、型別不能は 1 株であった。

（４）性感染症（STI）定点からの搬入検体

2017 年 1 月から 12 月に都内 4 ヶ所の性感染症病原体定点医療機関（STI 定点）より搬入された検体について、クラミジア・トラコマチス、淋菌、梅毒トレポネーマ等の病原体の検出を行うとともに、遺伝子型、血清型等の検出状況を解析した。

ア 検査対象・検査方法

STI 定点より搬入された 87 例について検査を実施した。搬入検体の内訳は、男性は陰部擦過物（スワブ）36 例、尿 32 例の合計 68 例、女性はスワブ 17 例、性別不明例はスワブ 1 例、尿 1 例の合計 2 例であった。

クラミジア・トラコマチスおよび淋菌の遺伝子検査は Transcription Mediated Amplification（TMA）法、梅毒トレポネーマの遺伝子検査は *polA*, *TPN47* 領域を標的とした PCR およびリアルタイム PCR により行った。

淋菌およびその他の菌の分離培養は、5%ウマ血液寒天培地およびサイヤー・マーチン寒天培地を用い、発育した集落について菌種を同定した。

イ クラミジア・トラコマチスおよび淋菌検査の検査結果

クラミジア・トラコマチスについては、男性 15 例（22.1%）、女性 11 例（64.7%）から遺伝子が検出された（表 14）。淋菌遺伝子は男性 33 例（48.5%）、女性 2 例（11.8%）、性別不明 1 例（50.0%）から検出された。クラミジアと淋菌の遺伝子が共に検出されたのは、男性 4 例（2.9%）、女性 1 例（5.9%）であった。陽性者の年齢分布をみると、男性は 20～40 歳代でクラミジア・トラコマチス遺伝子陽性が 13 例（86.7%）、淋菌遺伝子陽性が 28 例（87.5%、年代不明例を除く）検出された。女性のクラミジア・トラコマチス遺伝子陽性 11 例（年代不明例を除く）すべてが 20～40 歳代に分布していた。また、

淋菌遺伝子陽性 2 例は 20 歳代であった。

淋菌遺伝子が検出された 36 例のうち 14 例（42.4%）から淋菌が分離された。分離された淋菌菌株については薬剤感受性試験を行った。またその他の病原体として、髄膜炎菌が男性から 1 例（1.5%）分離された。

ウ 梅毒トレポネーマ検査の検査結果

3 例の男性のスワブ（臨床診断：性器クラミジア感染症 2 例、梅毒 1 例）について、梅毒トレポネーマの遺伝子検査を行った結果、2 例からトレポネーマ遺伝子が検出された。

表 14. 性別および年齢階級別の病原体検査成績

	年齢階級	検体数	遺伝子検査			分離培養	
			クラミジア・トラコマチス	淋菌	梅毒	淋菌	髄膜炎菌
男性	20歳代	16	1	13		4	
	30歳代	25	8	11	2	6	
	40歳代	11	4	4		1	1
	50歳代	9	2	3		2	
	60歳代	5					
	70歳以上	1		1			
	不明	1		1			
	計	68	15	33	2	13	1
女性	20歳代	12	8	2		1	
	30歳代	2	1				
	40歳代	3	2				
	計	17	11	2	0	1	0
不明	30歳代	2		1			
	計	2	0	1	0	0	0
合計		87	26	36	2	14	1

エ 性別および臨床診断別の性感染症病原体検査結果

臨床診断別の病原体検査成績を表 15 に示した。男性では、性器クラミジア感染症と診断された 40 例中 11 例（27.5%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、8 例（20%）から淋菌遺伝子が検出され、8 例中 3 例から淋菌が分離された。また、淋菌感染症と診断された 26 例中 4 例（15.4%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、24 例（92.3%）から淋菌遺伝子が検出され、24 例中 10 例から淋菌が分離された。また 1 例から髄膜炎菌が分離された。性器クラミジア感染症および淋菌感染症と診断された 1 例から淋菌遺伝子が検出され淋菌が分離された。

この他、性器クラミジア感染症と診断された 1 例および梅毒と診断された 1 例から梅毒遺伝子が検出された。

女性では、性器クラミジア感染症と診断された 16 例中 11 例（68.8%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、また 1 例（6.3%）から淋菌遺伝子が検出された。また、淋菌感染症と診断された 1 例から淋菌遺伝子が検出された。

性別不明例では、性器クラミジア感染症と診断された 2 例中 1 例（50.0%）から淋菌遺伝子が検出された。

表 15. 性別および臨床診断別の病原体検査結果

臨床診断 (疑い例含む)		検体数	遺伝子検査			分離培養	
			クラミジア・ トラコマチス	淋菌	梅毒	淋菌	髄膜炎菌
男性	性器クラミジア感染症	40	11	8	1	2	
	淋菌感染症	26	4	24		10	1
	性器クラミジア感染症 + 淋菌感染症	1		1		1	
	梅毒	1			1		
	計	68	15	33	2	13	1
女性	性器クラミジア感染症	16	11	1		1	
	淋菌感染症	1		1			
	計	17	11	2	0	1	0
不明	性器クラミジア感染症	2	0	1			
	計	2	0	1	0	0	0
合計		87	26	36	2	14	1

オ クラミジア・トラコマチスの血清型別遺伝子検査の結果

クラミジア・トラコマチスは、血清型に基づいて A～L 型に分類され、アフリカやアジア等のトラコーマ流行地において多く検出されるトラコーマ型の A～C 型、トラコーマ非流行地で主に検出される性器クラミジア感染症型の D～K 型、鼠径リンパ肉芽腫症の起原菌となる L 型にそれぞれ分けられている。

TMA 法により陽性となった検体を対象に、クラミジア・トラコマチス血清型の遺伝子検査を行った。検体よりゲノム DNA を抽出し、血清型特異抗原となる主要外膜蛋白遺伝子 (*omp1*) の可変領域を挟む共通プライマーにより PCR 法で増幅後、その塩基配列を決定し、NCBI (米国生物工学情報センター) の核酸データベースにおける BLAST 検索および解析により血清型を判定した。

遺伝子検査陽性の 26 例のうち、遺伝子解析により 23 例の血清型が同定された。血清型別結果の内訳を表 16 に示した。

D、E、F の 3 つの型の合計で 73.9%であり、2016 年と同様に過半数を占めていた。この他、性器クラミジア感染症型の I 型を除く G～K 型もそれぞれ検出されたが、トラコーマ型 (A～C 型) や鼠径リンパ肉芽腫症型 (L 型) は検出されなかった。なお、3 例については、血清型別に用いるターゲット部位の核酸増幅が行えず、血清型が不明となった。

表 16. クラミジア・トラコマチスの血清型別結果

検体数	血清型						
	D 及び D/Da	E	F	G	H	J 及び Ja	K
23	6	7	4	1	2	2	1
(%)	(26.1)	(30.4)	(17.4)	(4.3)	(8.7)	(8.7)	(4.3)

カ 淋菌分離株の薬剤感受性

分離された淋菌 14 株の薬剤耐性試験の結果を表 17 に示した。ペニシリンに対する中等度耐性 (0.12μg/ml) 以上の耐性株、テトラサイクリンに対する中等度耐性 (0.5μg/ml) 以上の耐性株は、それぞれ 13 株 (92.8%) であった。シプロフロキサシンに対する耐性株 (≥1μg/ml) は 11 株 (78.6%) であった。セフロキシムに対する中等度 (2μg/ml) 以上の耐性株は 5 株 (45.5%)

であった。セフトアキシム、セフトリアキソンにおいては CLSI の感受性の判定基準（セフトアキシム: 0.5μg/ml、セフトリアキソン: 0.25μg/ml）を超えた低感受性株がそれぞれ 1 株ずつみられた。スペクチノマイシンにおいてはすべての株が感受性を示した。

表 17. 淋菌分離株（14 株）の薬剤感受性

薬剤感受性	ペニシリン	テトラサイクリン	シプロフロキサシン	セフトロキシム	セフトアキシム	セフトリアキソン	スペクチノマイシン
	PCG	TC	CPFX	CXM	CTX	CTRX	SPCM
耐性 (%)	3 (21.4)	7 (50.0)	11 (78.6)	4 (28.6)			
中等度耐性 (%)	10 (71.4)	6 (42.9)	0 (0.0)	1 (7.1)			
感受性 (%)	1 (7.1)	1 (7.1)	3 (21.4)	9 (64.3)	13 (92.9)	13 (92.9)	14 (100.0)
低感受性* (%)					1 (7.1)	1 (7.1)	0 (0.0)

*: CLSI の感受性の判定基準を超えたもの

第 3 章

資 料

1 東京都感染症発生動向調査定点医療機関名簿

小児科（264定点）

2017年12月31日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
千代田	滝医院	滝 正彦	102-0074	千代田区九段南4-3-1	03-3264-3101	
千代田	加賀医院	加賀 一兄	101-0051	千代田区神田神保町1-35	03-3291-9951	
千代田	東京通信病院	小野 正恵	102-8798	千代田区富士見2-14-23	03-5214-7111	○*
中央区	小坂こども元気クリニック	小坂 和輝	104-0052	中央区月島3-30-3	03-5547-1191	
中央区	わたなべこどもクリニック	渡邊 浩志	104-0052	中央区月島1-8-1 アイ・マークタワー202	03-5548-2511	
中央区	塙小児科医院	塙 佳生	103-0007	中央区日本橋浜町2-20-2	03-3666-6035	
みなと	ぼればれクリニック	三浦 麻子	108-0074	港区南高輪1-5-21 ルート高輪ビル4F	03-5422-7626	○
みなと	とようら小児科	豊浦 多喜雄	108-0023	港区芝浦3-11-5 第三協栄ビル2階	03-5442-8872	
みなと	小田原医院	行岡 紀子	106-0045	港区麻布十番3-11-12	03-3451-4595	
みなと	白金タワークリニック	小出 浩史	108-0072	港区白金1-17-1-106	03-5789-3882	
みなと	南青山おおつかクリニック	大塚 伸行	107-0062	港区南青山4-9-17	03-5786-3288	
みなと	東京都済生会中央病院	小児科外来	108-0073	港区三田1-4-17	03-3451-8211	○*
新宿区	岡田小児科クリニック	岡田 和子	169-0072	新宿区大久保1-5-15	03-3200-1236	
新宿区	村橋医院	村橋 眞	162-0042	新宿区早稲田町73	03-3203-3538	
新宿区	川尻医院	川尻 敦夫	162-0041	新宿区早稲田鶴巻町534	03-3209-7701	
新宿区	オリエンタル診療所	近 裕	161-0031	新宿区西落合2-20-1	03-3565-3411	
新宿区	牛山医院	牛山 允	169-0075	新宿区高田馬場4-11-5	03-5386-3167	
新宿区	(社)聖母会 聖母病院 小児科	猪野 雅孝	161-8521	新宿区中落合2-5-1	03-3951-1111	○*
新宿区	星野こどもクリニック	星野 洋	161-0032	新宿区中落合2-16-26	03-5988-7133	
新宿区	国立国際医療研究センター 病院	七野 浩之	162-8655	新宿区戸山1-21-1	03-3202-7181	
文京	保坂こどもクリニック	保坂 篤人	112-0001	文京区白山5-27-12	03-3946-0641	
文京	中原内科耳鼻咽喉科医院	中原 秀彦	112-0005	文京区水道2-14-7	03-3941-6074	2017年5月31日まで
	石原医院	藤原 陽子	112-0006	文京区小日向1-6-6	03-3941-8526	2017年6月1日から
文京	大塚診療所	大塚 宜一	113-0034	文京区湯島3-31-6	03-3831-2294	
文京	吉村小児科	内海 裕美	112-0012	文京区大塚2-18-6	03-3943-3806	
台東	いりやキッズクリニック	浅野 由美子	110-0004	台東区下谷3-11-12	03-5808-0415	
台東	柴田小児科医院	柴田 雄介	111-0036	台東区松ヶ谷3-16-4	03-3841-2291	
台東	柳沢小児科医院	山崎 薫	111-0033	台東区花川戸1-14-18	03-3844-0668	
台東	小川こどもクリニック	小川 淳子	111-0053	台東区浅草橋1-25-5 小川ハイム201	03-3861-2429	
墨田区	増田小児科	増田 敬	130-0005	墨田区東駒形1-19-8	03-3622-9641	
墨田区	鈴木こどもクリニック	鈴木 洋	131-0031	墨田区墨田4-45-1	03-3619-4970	○
墨田区	平野医院	平野 圭	131-0043	墨田区立花6-1-14-1F	03-3611-2947	
墨田区	唐澤医院	唐澤 賢祐	130-0023	墨田区立川1-12-13	03-3631-2336	
墨田区	にしじま小児科	西島 由美	131-0046	墨田区京島1-6-3	03-3619-9585	
江東区	竹内小児科医院	竹内 透	135-0011	江東区扇橋2-1-3 ET21ビル2F	03-5606-0303	
江東区	笠井小児クリニック	笠井 秀明	136-0072	江東区大島9-5-1 コアシティ東大島103	03-3636-2577	
江東区	のずえ小児科	野末 富男	135-0062	江東区東雲1-9-11-102	03-5560-6071	
江東区	こどもクリニックさとう	佐藤 保子	135-0016	江東区東陽2-4-29-2F	03-3645-2095	2017年3月31日まで
	までのこうじクリニック	萬里小路 直樹	135-0016	江東区東陽3-27-32 玉河ビル2階	03-5683-5519	2017年4月1日から

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、小児科病原体定点を兼ねる医療機関である。
備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
江東区	たけうちこどもクリニック	竹内 敏雄	135-0061	江東区豊洲4-9-13 東京フロントコート132号	03-3533-2415	
江東区	城田小児科医院	城田 夙男	135-0048	江東区門前仲町1-6-9	03-3641-4056	
江東区	亀戸キッズクリニック	杉本 佳乃	136-0071	江東区亀戸2-42-5 くらまえ三洋ビル2F	03-5875-3387	
江東区	正木医院	正木 忠明	136-0073	江東区北砂7-1-25	03-3644-5794	○
江東区	なおやこどもクリニック	坂口 直哉	136-0074	江東区東砂7-19-13 ベルコモン南砂2F	03-5653-0708	
品川区	東品川クリニック	安座間 薫	140-0002	品川区東品川3-18-3	03-3472-6684	
品川区	宮平医院	宮平 寛	141-0031	品川区西五反田4-22-3	03-3491-0366	
品川区	林小児科医院	林 紋子	140-0014	品川区大井3-6-12	03-3777-7127	
品川区	村井こどもクリニック	村井 孝安	142-0053	品川区中延5-8-19	03-3782-3415	
品川区	鈴の木こどもクリニック	鈴木 博	142-0041	品川区戸越1-3-1 夢のこども館	03-5759-5605	
品川区	田辺小児科医院	田辺 充子	142-0064	品川区旗の台6-30-1	03-3785-9003	
品川区	藤川医院	藤川 敏	140-0014	品川区大井7-29-2	03-3771-1764	
品川区	吉原医院	吉原 幸子	142-0041	品川区戸越5-8-5	03-3781-4030	
目黒区	自由が丘メディカルプラザ2	高嶋 能文	152-0035	目黒区自由が丘2-11-16 ニューバルビュール3F	03-5731-3565	
目黒区	目黒通りこどもクリニック	藤田 秀樹	153-0064	目黒区下目黒6-1-27 アメニティハウス 2F	03-6303-1091	
目黒区	田口医院	田口 豊	152-0003	目黒区碑文谷6-7-4 KYレジデンス	03-3714-0188	
目黒区	井手小児科	井手 郁	152-0002	目黒区目黒本町6-17-27	03-5704-3819	
目黒区	仲村医院	仲村 和子	153-0053	目黒区五本木1-8-9	03-3712-7776	
大田区	かげ山小児科	景山 敦	146-0082	大田区池上7-14-11	03-3752-8182	
大田区	井上小児科医院	井上 清	143-0023	大田区山王3-30-2	03-3771-2514	
大田区	宮下クリニック	宮下 守	143-0014	大田区大森中3-35-9	03-5764-1003	
大田区	田園小児科クリニック	高橋 茂	145-0071	大田区田園調布5-36-3	03-3722-0765	
大田区	岡小児科内科クリニック	岡 哲康	146-0091	大田区鶴の木1-16-19	03-3758-3387	
大田区	原口小児科クリニック	原口 道夫	144-0032	大田区北糀谷1-11-8	03-3742-1517	
大田区	奥山こどもクリニック	奥山 裕子	146-0095	大田区多摩川1-21-3	03-5482-0415	
大田区	加藤内科小児科医院	加藤 瑞規	146-0093	大田区矢口1-19-25	03-3759-6169	
大田区	神川小児科クリニック	神川 晃	144-0044	大田区本羽田1-6-22	03-3741-5005	
大田区	斎藤医院	斎藤 洋子	143-0025	大田区南馬込5-26-7	03-3772-2791	
大田区	どうどうクリニック	小柳 英樹	146-0081	大田区仲池上1-31-13	03-5747-2333	○
大田区	うちやまこどもクリニック	内山 浩志	146-0085	大田区久が原3-36-13-3F	03-3753-7172	
大田区	木村こどもクリニック	木村 方美	144-0045	大田区南六郷2-27-1	03-3733-9080	
世田谷	いなみ小児科	稲見 誠	154-0002	世田谷区下馬3-22-13	03-3421-4885	
世田谷	吉川小児科	吉川 弘二	156-0043	世田谷区松原3-28-8-2階	03-5329-4153	
世田谷	橋本小児科医院	橋本 倫太郎	157-0072	世田谷区祖師谷3-37-5	03-3482-4668	○
世田谷	かねみつ小児クリニック	金光 岳文	157-0062	世田谷区南烏山4-7-14	03-5384-3355	
世田谷	小林クリニック	小林 俊夫	157-0067	世田谷区喜多見2-10-3-101	03-3416-7119	
世田谷	山口小児科内科	山口 義哉	158-0091	世田谷区中町4-35-6	03-3702-6180	
世田谷	永井小児科内科医院	永井 雄一	158-0081	世田谷区深沢6-20-14	03-5707-0624	
世田谷	田宮小児科医院	田宮 貞和	156-0052	世田谷区経堂5-21-3	03-3427-7974	
世田谷	うめはらこどもクリニック	梅原 実	154-0004	世田谷区太子堂3-38-18	03-6809-7878	
世田谷	つだ小児科クリニック	津田 正彦	154-0017	世田谷区世田谷4-5-8 アルス世田谷ネクステージ1F	03-5477-7736	
世田谷	えんどう小児科クリニック	遠藤 大一	156-0045	世田谷区桜上水1-7-10 クールセリシエ1F	03-6379-7127	
世田谷	三宅小児科	三宅 健	156-0057	世田谷区上北沢4-21-13	03-3302-2771	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、小児科病原体定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
世田谷	直宮医院	直宮 晃一	155-0031	世田谷区北沢3-11-14	03-3468-2867	
世田谷	臼井医院	臼井 弘人	157-0066	世田谷区成城5-7-12	03-3482-2253	
世田谷	用賀クリニック	川崎 浩司	158-0096	世田谷区玉川台2-22-16 パークヒル用賀Ⅲ 1F	03-3709-6255	
世田谷	藤井医院	藤井 秀樹	158-0083	世田谷区奥沢1-38-19	03-3728-0383	
渋谷区	坂本クリニック	坂本 純一	151-0073	渋谷区笹塚1-31-11 ビラージュ笹塚 1-101	03-3469-3926	
渋谷区	たからぎ医院	宝樹 真理	150-0013	渋谷区恵比寿1-7-10	03-3441-4626	2017年2月28日まで
	医療法人社団 育心会 稲垣クリニック	稲垣 稔	151-0053	渋谷区代々木5-7-17-1F	03-5453-1399	2017年3月1日から
渋谷区	かずえキッズクリニック	川上 一恵	151-0072	渋谷区幡ヶ谷3-81-7	03-3376-1662	
渋谷区	内藤小児科内科医院	内藤 昭三	150-0022	渋谷区恵比寿南2-5-9	03-3713-2526	
		内藤 章文				2017年7月1日代表者変更
中野区	高木小児科医院	高木 英行	165-0031	中野区上鷺宮4-19-10	03-5241-5823	
中野区	江原町小児科耳鼻科	金 慶彰	165-0023	中野区江原町3-35-8	03-5988-7705	
中野区	田沼内科・小児科医院	田沼 美昭	164-0012	中野区本町6-23-3	03-3380-2622	
中野区	小池小児科医院	小池 林太郎	165-0033	中野区若宮1-43-11	03-3330-0743	
中野区	宇野医院	宇野 真二	164-0001	中野区中野1-6-2	03-3369-2090	
杉並	立正佼成会附属佼成病院	倉山 亮太	166-0012	杉並区和田2-25-1	03-3383-1281	○*
中野区	しばたこども&アレルギー クリニック	柴田 淳	164-0003	中野区東中野5-1-1 ユニゾンタワー3F	03-3360-5569	
杉並	柿田医院	柿田 豊	167-0022	杉並区下井草2-23-5	03-3395-3602	
杉並	長沼内科医院	長沼 裕一郎	166-0015	杉並区成田東3-36-8	03-3311-1803	
杉並	中里医院	中里 恵美子	167-0043	杉並区上荻4-2-3	03-3390-5258	
杉並	はら医院	原 みさ子	168-0062	杉並区方南2-28-3	03-3317-0380	
杉並	松野医院	松野 哲彦	166-0001	杉並区阿佐谷北3-42-10	03-3330-4656	
杉並	宮下小児科医院	佐々木 礼子	166-0016	杉並区成田西3-20-3	03-3392-3855	
杉並	宮崎クリニック	宮崎 素子	168-0063	杉並区和泉4-51-14	03-3317-7701	
杉並	岩崎小児科医院	岩崎 由紀夫	166-0012	杉並区和田3-49-7	03-5377-0015	
杉並	セキこどもクリニック	関 兼英	166-0004	杉並区阿佐谷南2-1-27	03-3318-1625	
杉並	高井戸こどもクリニック	柳垣 繁	168-0071	杉並区高井戸西1-27-22	03-3331-6644	
池袋	金澤医院	金澤 義之	170-0003	豊島区駒込3-5-7	03-3910-4952	
池袋	みなと小児科	湊 通嘉	171-0043	豊島区要町 3-22-10-301	03-3973-5080	
池袋	田村医院	田村 仁	170-0011	豊島区池袋本町1-45-16	03-3971-4922	
池袋	平井医院	平井 貴志	171-0032	豊島区雑司が谷1-26-10	03-3971-8064	
池袋	南長崎こみ山医院	込山 賢次	171-0052	豊島区南長崎3-14-17	03-3953-0086	
北区	斉藤小児科医院	斉藤 十紀	114-0003	北区豊島2-8-6	03-3911-0569	
北区	ほくとクリニック	金子 清志	115-0045	北区赤羽2-9-6	03-3901-4926	
北区	富士見診療所	越田 利弘	114-0031	北区十条仲原3-1-5	03-3900-5354	
北区	かとうクリニック	加藤 隆司	115-0043	北区神谷1-12-9	03-3913-1103	○
北区	中山医院	伊藤 佳子	114-0016	北区上中里1-17-8	03-3910-6805	
北区	桑畑医院	桑畑 圭子	114-0003	北区豊島2-6-1	03-3919-0700	
北区	はんだ・こどもクリニック	繁田 龍雄	115-0045	北区赤羽2-69-4 クリニックプラザ21 2F	03-3901-7433	
荒川区	鈴木小児科医院	鈴木 博之	116-0012	荒川区東尾久3-1-9	03-3892-1266	
荒川区	まつおかこどもクリニック	松岡 郁美	116-0002	荒川区荒川2-1-5 荒川セントラルビルディング2F	03-5604-1567	
荒川区	いなばキッズクリニック	稲葉 八興	116-0003	荒川区南千住4-7-1 BiVi南千住3D	03-5604-1710	
荒川区	加藤小児科内科医院	加藤 薫	116-0014	荒川区東日暮里5-44-1-1F	03-3803-3377	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、小児科病原体定点を兼ねる医療機関である。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
板橋区	青木小児科医院	青木 恒春	175-0045	板橋区西台2-9-3	03-3932-3849	
板橋区	上原内科医院	上原 章	173-0004	板橋区板橋3-6-11	03-5375-9981	
板橋区	石川医院	宮川 美知子	174-0071	板橋区常盤台1-61-3	03-3960-3940	
板橋区	井上医院	井上 文正	175-0092	板橋区赤塚4-17-11	03-5968-5777	
板橋区	杉内医院	杉内 孝謙	175-0094	板橋区成増3-17-16	03-3930-2331	
板橋区	望月内科クリニック	望月 紘一	174-0044	板橋区相生町4-5	03-3937-6769	
板橋区	あべこどもクリニック	阿部 和子	175-0082	板橋区高島平1-28-5 KAZZビル2F	03-3559-8115	
板橋区	はっとり小児科	服部 拓哉	174-0063	板橋区前野町3-31-3	03-5994-3205	
板橋区	鈴木医院	鈴木 育夫	173-0023	板橋区大山町10-10	03-3956-1788	
板橋区	よりふじ医院	依藤 壽	173-0031	板橋区大谷口北町27-4	03-3956-1255	
練馬区	岩崎小児科医院	岩崎 章宣	178-0061	練馬区大泉学園町8-7-17	03-3867-5501	
練馬区	秋田医院	秋田 博伸	176-0013	練馬区豊玉中4-10-3	03-3991-1151	
練馬区	飯島医院	飯島 健志	179-0072	練馬区光が丘7-3-6	03-3976-6087	
練馬区	うすきクリニック	臼杵 一	178-0064	練馬区南大泉4-47-9 コンフォート南大泉1F	03-3924-0443	
練馬区	牧田小児科内科医院	牧田 郁夫	176-0002	練馬区桜台1-45-15 グランドールマキノ1F	03-3948-0600	○
練馬区	沼口小児科医院	沼口 俊介	179-0072	練馬区光が丘5-2-5-102	03-3976-0131	○
練馬区	浅村こどもクリニック	浅村 信二	177-0041	練馬区石神井町2-8-21 星ビル2F	03-5372-6686	
練馬区	上石神井サン・クリニック	小西 佐知子	177-0044	練馬区上石神井3-6-34	03-5910-3888	
練馬区	佐藤皮膚科小児科クリニック	佐藤 徳枝	177-0045	練馬区関町北1-23-10 井ロビル4F	03-3928-2767	
練馬区	のと小児科クリニック	能登 信孝	179-0083	練馬区平和台4-12-6	03-5945-9855	
練馬区	マサキ小児科アレルギー科	正木 拓朗	178-0063	練馬区東大泉2-5-10	03-3923-1515	
練馬区	わたなべこどもクリニック	渡辺 克也	176-0023	練馬区中村北4-5-2	03-3990-9998	
練馬区	わたなべこどもクリニック	渡辺 久幸	167-0052	練馬区東大泉1-26-16	03-5947-3577	
足立区	和田小児科医院	和田 紀之	121-0812	足立区西保木間2-15-23	03-3884-2301	○
足立区	曙町クリニック	泉田 京子	120-0023	足立区千住曙町41-2-107	03-3879-9116	
足立区	日比谷医院	日比谷 一郎	121-0011	足立区中央本町5-5-27	03-3889-4601	
足立区	ちばこどもクリニック	千葉 康之	121-0801	足立区東伊興1-12-16	03-3857-0222	
足立区	三原小児科医院	三原 章	123-0857	足立区本木北町14-6	03-3890-0205	
足立区	勝楽堂病院	芦田 光則	120-0032	足立区千住柳町5-1	03-3881-0137	
足立区	梅津クリニック	梅津 亮二	120-0005	足立区綾瀬3-15-20 遠藤ビル2F	03-5616-8214	
足立区	中島小児科	中島 正樹	120-0015	足立区足立4-41-6	03-3852-5241	
足立区	中西医院	中西 隆	123-0852	足立区関原3-44-7	03-3852-1122	
足立区	千葉小児科内科医院	千葉 昭典	121-0061	足立区花畑7-14-9	03-3850-8523	
足立区	しみず医院	清水 博史	121-0823	足立区伊興3-18-21	03-5691-1212	
足立区	師田内科小児科	師田 基	121-0801	足立区東伊興3-2-7	03-3897-7320	
足立区	木村耳鼻咽喉科小児科医院	木村 康子	123-0872	足立区江北6-22-1	03-3896-3387	
葛飾区	伊藤メディカルクリニック	伊藤 民恵	124-0006	葛飾区堀切4-57-5	03-3602-4205	
葛飾区	高橋小児科医院	高橋 紀久雄	124-0023	葛飾区東新小岩5-17-1	03-3692-3021	
葛飾区	菊島小児科医院	菊島 秀丸	124-0013	葛飾区東立石3-24-16	03-3697-1556	
葛飾区	的場医院	伊藤 隆一	125-0042	葛飾区金町6-13-9	03-3607-0517	
葛飾区	永寿堂医院	松永 貞一	125-0061	葛飾区亀有3-43-5	03-3604-2101	○
葛飾区	白井医院	白井 泰生	124-0024	葛飾区新小岩1-37-11	03-3653-5774	
葛飾区	三尾医院	三尾 仁	125-0041	葛飾区東金町3-16-12	03-3607-2917	
葛飾区	鈴木医院	鈴木 敏克	125-0061	葛飾区亀有3-4-11	03-3690-2211	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、小児科病原体定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
江戸川	吉岡医院	吉岡 和之	133-0056	江戸川区南小岩5-16-8	03-3657-1037	
江戸川	小松川医院	田崎 ゆき	132-0025	江戸川区松江3-12-13	03-3651-0057	
江戸川	久田医院	久田 和子	132-0035	江戸川区平井1-27-5	03-3681-0081	
江戸川	みやのこどもクリニック	宮野 孝一	134-0085	江戸川区南葛西2-18-27	03-3869-4133	
江戸川	なかにし小児科クリニック	中西 茂則	134-0088	江戸川区西葛西5-1-8 トーショービル1F	03-3675-6678	
江戸川	石橋こどもクリニック	石橋 涼子	132-0021	江戸川区中央2-4-18 ほっと館1F	03-5661-5336	
江戸川	はるやま小児科・アレルギー科	春山 次男	133-0065	江戸川区南篠崎町2-10-1 カームコート1F	03-3679-1188	
江戸川	千葉クリニック	千葉 友幸	134-0081	江戸川区北葛西1-14-23	03-3680-4035	○
江戸川	星田小児クリニック	星田 宏	134-0083	江戸川区中葛西2-3-10	03-3680-2028	
江戸川	本橋医院	本橋 俊和	132-0024	江戸川区一之江8-15-1 エクセルイチノエ1A	03-5662-8755	
江戸川	ながきこどもクリニック	永木 幸子	133-0051	江戸川区北小岩6-15-5 小岩メディカルセンター新館3F	03-5612-0661	
江戸川	アンヌ小児科	布上 孝志	133-0071	江戸川区鹿骨3-7-13	03-3672-1071	
西多摩	笹本医院	笹本 隆夫	198-0084	青梅市住江町58	0428-24-3955	
西多摩	わかさぎ医院	道佛 雅克	205-0001	羽村市小作台2-7-16	042-579-0311	
西多摩	星野小児科内科クリニック	星野 誠	197-0822	あきる野市小川東1-19-20-1	042-559-7332	○
西多摩	鈴木内科	鈴木 道彦	190-0163	あきる野市館谷156	042-596-2307	
西多摩	新井クリニック	新井 敏彦	190-1232	瑞穂町長岡1-51-2	042-557-0018	
西多摩	ナルケンキッズクリニック	成井 研治	198-0036	青梅市河辺町4-20-4	0428-21-0252	
西多摩	大堀医院	大堀 洋一	198-0023	青梅市今井5-2440-159	0428-31-9098	
西多摩	東福生むさしの台クリニック	川島 雅之	197-0013	福生市武蔵野台1-1-7 センチュリー武蔵野台1F	042-539-1223	
八王子市	加地医院	加地 はるみ	193-0816	八王子市大楽寺町137	042-651-5341	○
八王子市	まつもと小児・アレルギークリニック	松本 勉	192-0364	八王子市南大沢2-2 パオレ5F	042-679-6051	
八王子市	のま小児科	野間 清司	192-0916	八王子市みなみ野3-1-8	042-632-7327	
八王子市	京王八王子クリニック	末松 隆二	192-0046	八王子市明神町4-7-14 八王子ONビル2F	042-645-7878	
八王子市	北野小児科	廣田 保蔵	192-0906	八王子市北野町545-3 きたのタウン6F	042-645-8715	
八王子市	小児科加藤醫院	加藤 直樹	192-0919	八王子市七国4-9-3	042-632-7950	
八王子市	なかよしこどもクリニック	朝長 香	192-0355	八王子市堀之内2-6-5 森本ビル201	042-679-6778	
八王子市	こどもクリニック南大沢	保坂 暁子	192-0364	八王子市南大沢2-27 フレスコ南大沢4F	042-670-8700	
八王子市	はしもと小児科	橋本 政樹	193-0942	八王子市櫛田町557-3	042-668-8555	
八王子市	こども診療所	小島 直樹	192-0054	八王子市小門町10-3	042-625-0023	
八王子市	スマイルこどもクリニック	森脇 弘隆	193-0832	八王子市散田町5-4-20	042-661-5529	
南多摩	須賀小児科	須賀 康正	191-0031	日野市高幡328	042-593-7888	
南多摩	佐々木クリニック	佐々木 榮一	191-0062	日野市多摩平1-8-10	042-585-2591	
南多摩	こどもクリニックしみず	清水 伸泰	206-0034	多摩市鶴牧1-24-1 新都心センタービル3F	042-373-0512	○
南多摩	桜井医院	櫻井 健彦	206-0811	稲城市押立1254-1	042-378-3224	
南多摩	牛尾医院	牛尾 正孝 牛尾 方信	191-0043	日野市平山6-5-13	042-591-2001	2017年4月1日代表者変更
南多摩	おおしろクリニック	大城 清彦	191-0016	日野市神明3-6-16 アメニティ明和館1F-1	042-589-6780	
南多摩	唐木田こどもクリニック	飛田 正俊	206-0035	多摩市唐木田1-53-9 唐木田センタービル2C	042-355-8505	
南多摩	まえばら小児科	前原 幸治	206-0011	多摩市関戸4-72 聖蹟桜ヶ丘オーパ5F	042-374-5028	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、小児科病原体定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
南多摩	もりこどもクリニック	森 直行	206-0824	稲城市若葉台4-18-4	042-350-6977	
町田市	風の子こどもクリニック	風張 眞由美	194-0015	町田市金森東1-25-29 金森メディカルプラザA-2	042-851-8630	
町田市	はやレクリニック	林 泉彦	194-0035	町田市忠生2-28-7	042-793-3055	○
町田市	やもりこどもクリニック	矢守 利次	195-0057	町田市真光寺2-37-11 鶴川台メディカルヴィレッジ 総合棟1F-A	042-737-3675	
町田市	しのはら小児クリニック	篠原 治	194-0003	町田市小川1-2-8	042-795-3003	
町田市	キッズクリニック智	渡邊 智子	194-0211	町田市相原町1652-1	042-700-6315	
町田市	豊川小児科内科医院	豊川 達記	194-0001	町田市つくし野2-18-18	042-795-4465	
町田市	村野小児科・アレルギー科	村野 浩太郎	196-0063	町田市野津田町1083	042-735-5777	
町田市	やすだこどもクリニック	保田 由喜治	194-0032	町田市本町田920-1	042-725-9056	
多摩立川	野上医院	五十嵐 弥生	190-0021	立川市羽衣町2-42-7	042-522-6010	○
多摩立川	内野産婦人科外科小児科	内野 孝子	186-0002	国立市東1-8-6 メディカルセンター	042-580-0112	
多摩立川	藤田医院	藤田 仁	208-0031	武蔵村山市岸1-25-1	042-560-0363	○
多摩立川	太陽こども病院	木内 巻男	196-0003	昭島市松原町1-2-1	042-544-7511	
多摩立川	医療法人社団瑞涼会 くぼしまこどもクリニック	久保嶋 慎二	185-0024	国分寺市泉町2-9-3 ハートフル西晴3F	042-300-1801	
多摩立川	めぐろクリニック	目黒 隆毅	190-0034	立川市西砂町6-6-16	042-520-1234	
多摩立川	さいわいこどもクリニック	宮田 章子	190-0002	立川市幸町1-11-3	042-536-7280	○
多摩立川	大田医院	大田 眞也	196-0022	昭島市中神町1237	042-541-0311	
多摩立川	マシュマロこどもクリニック	富士川 善直	185-0003	国分寺市戸倉4-45-5	042-320-1155	
多摩立川	くろさわ子ども&内科クリニック	黒澤 サト子	180-0011	国分寺市本多3-7-25	042-323-9630	○
多摩立川	大久保医院	新井 ゆみ	186-0011	国立市谷保7224	042-572-7775	
多摩立川	有村クリニック	有村 章	207-0014	東大和市南街4-10-6	042-590-0377	
多摩立川	さくらこどもクリニック	野口 幸男	207-0023	東大和市上北台3-393-1	042-566-8177	
多摩立川	伊奈平南クリニック	田中 こずえ	208-0023	武蔵村山市伊奈平4-4-1	042-560-1311	
多摩府中	ささとこどもクリニック	笹本 和広	182-0036	調布市飛田給1-41-5 T・Oビル2F	042-498-4153	
多摩府中	ぬきいこどもクリニック	貫井 清孝	182-0022	調布市国領町4-8-1 プラザバレット2F	042-440-0215	
多摩府中	松本医院	松本 悦雄	180-0002	武蔵野市吉祥寺東町1-23-3	0422-22-5755	
多摩府中	おぎわらこどもクリニック	荻原 篤	180-0006	武蔵野市中町3-3-2	0422-60-5177	
多摩府中	横内医院	石川 尉子	181-0002	三鷹市牟礼6-6-14	0422-43-0910	2017年1月31日まで
	きたのこどもクリニック	内藤 英紀	181-0003	三鷹市北野4-12-17 きたのメディカルパーク1階	0422-70-4150	2017年2月1日から
多摩府中	若林医院	若林 研司	181-0001	三鷹市井の頭4-16-10	0422-43-0526	
多摩府中	水野小児科医院	水野 幸治	183-0052	府中市新町2-39	042-363-2727	○2017年8月31日まで
	まつおか小児クリニック	松岡 典子	183-0034	府中市寿町2-4-42 コープ府中3F	042-319-1020	○2017年10月1日から
多摩府中	岡山小児科・眼科医院	岡山 哲廣	184-0015	小金井市貫井北町5-28-16	042-342-4792	
多摩府中	石戸谷小児科	石戸谷 尚子	201-0012	狛江市中和泉1-1-1 狛江YSビル4F	03-3430-1070	
多摩府中	長谷川小児科医院	長谷川 正子	180-0001	武蔵野市吉祥寺北町2-8-5	0422-22-6804	
多摩府中	渡辺こどもクリニック	渡邊 直幸	181-0013	三鷹市下連雀9-5-1 泰成マンション1F	0422-41-1550	
多摩府中	つちや小児科	土屋 正己	181-0013	三鷹市下連雀4-16-11	0422-40-1488	
多摩府中	さくらんぼこどもクリニック	三田市 薫	183-0026	府中市南町4-43-1	042-340-8288	
多摩府中	おき医院	隠岐 直紀	183-0011	府中市白糸台5-24-1	042-354-1277	
多摩府中	日野クリニック	日野 佳昭	183-0034	府中市住吉町2-15-9	042-330-3600	
多摩府中	すみれクリニック	篠崎 昌子	183-0021	府中市片町3-26-14	042-401-8461	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、小児科病原体定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
多摩府中	野々田小児科内科	野々田 昶	183-0013	府中市小柳町3-32-26	042-369-2561	
多摩府中	佐々木こどもクリニック	佐々木 伸彦	182-0006	調布市西つつじヶ丘3-37-2 横田ファイブ107	042-487-2433	
多摩府中	麻生こどもクリニック	麻生 泰二	182-0026	調布市小島町1-5-6 アールアンドエスビル3F	042-480-7810	
多摩府中	えんどう小児科	遠藤 泰弘	184-0002	小金井市梶野町4-2-32-103	0422-56-7211	
多摩府中	神保クリニック小児科	神保 修	201-0003	狛江市和泉本町1-2-13	03-3430-2818	
多摩小平	清水小児科内科医院	清水 達也	187-0001	小平市大沼町2-729-8	042-343-2255	
多摩小平	わかばこどもクリニック	渡邊 孫衛	189-0024	東村山市富士見町3-13-14	042-390-2700	
多摩小平	大塚小児科アレルギー科 クリニック	大塚 武	203-0053	東久留米市本町3-1-23	042-479-7300	
多摩小平	すぎはらこどもクリニック	杉原 聡	188-0004	西東京市西原町5-1-17	042-451-8680	
多摩小平	斉藤小児科内科クリニック	斉藤 喜親	202-0004	西東京市下保谷4-2-21	042-421-7201	
多摩小平	清瀬旭ヶ丘診療所	和田 光弘	204-0002	清瀬市旭ヶ丘2-5-4	042-491-2214	
多摩小平	鈴木小児科内科医院	鈴木 昌和	187-0045	小平市学園西町2-11-28	042-341-0353	○
多摩小平	中山小児科医院	中山 康子	187-0011	小平市鈴木町1-30-20	042-322-1231	
多摩小平	ちあきこどもクリニック	辻 千秋	187-0034	小平市栄町2-3-7	042-349-2012	
多摩小平	武こどもクリニック	深堀 俊彦	189-0013	東村山市栄町2-32-20-201	042-397-3374	○
多摩小平	あきつこどもクリニック	村上 綾子	189-0001	東村山市秋津町4-31-16	042-390-1150	
多摩小平	いくせ医院	木村 憲人	203-0013	東久留米市新川町1-4-18 わかさとビル1F	042-471-2304	
多摩小平	ひばりこどもクリニック	高山 順	188-0001	西東京市谷戸町3-11-9 長谷川ビル1F	042-438-8824	
多摩小平	すくすくkidsクリニック	高田 佳宜	188-0012	西東京市南町5-9-17	042-451-3027	
多摩小平	医療法人社団 華岡会 廣橋小児科・内科医院	廣橋 尚武	204-0021	清瀬市元町1-5-3	042-493-7400	2017年12月31日まで
	武蔵野総合クリニック	守山 典宏	204-0021	清瀬市元町1-8-30	042-496-7015	2018年1月1日から
島しょ	大島医療センター	清水 忠典	100-0101	大島町元町3-2-9	04992-2-2345	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、小児科病原体定点を兼ねる医療機関である。

2018年変更医療機関

2018年4月1日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
南多摩	もりこどもクリニック	森 直行	206-0824	稲城市若葉台4-18-4	042-350-6977	2018年1月31日まで
	平尾内科クリニック	竹田 有為子	206-0823	稲城市平尾3-7-26	042-331-8221	2018年2月1日から
多摩府中	えんどう小児科	遠藤 泰弘	184-0002	小金井市梶野町4-2-32-103	0422-56-7211	2018年3月31日まで
	三枝耳鼻咽喉科・小児科医院	三枝 歌子	184-0004	小金井市本町5-19-32 三枝ビル2F	042-381-8221	2018年4月1日から

内科（155定点）

2017年12月31日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
千代田	神田診療所	高橋 淳	101-0047	千代田区内神田2-8-14	03-3256-0086	
中央区	松本内科院	松本 章一	104-0031	中央区京橋2-11-5-5F	03-4405-7480	
中央区	中央内科クリニック	村松 弘康	103-0013	中央区日本橋人形町2-7-8	03-3668-0088	
みなと	馬場クリニック	馬場 繁二	106-0045	港区麻布十番2-13-2	03-3454-7788	
みなと	もとやまクリニック	元山 幹雄	108-0072	港区白金1-8-9	03-3473-2866	
みなと	新田町ビル診療所	坪田 淳	108-0014	港区芝5-34-6 新田町ビル2F	03-3451-2619	
新宿区	高橋医院	高橋 秀和	169-0074	新宿区北新宿3-21-10	03-3371-8064	
新宿区	早稲田クリニック	小西 洋之	162-0045	新宿区馬場下町10 早稲田レストハイツ2F	03-3208-2007	
新宿区	石井外科	石井 正彌	162-0065	新宿区住吉町8-2	03-3351-9338	
新宿区	磯貝クリニック	磯貝 祐貴子	169-0051	新宿区西早稲田2-4-8	03-3232-1776	
文京	八千代診療所	井上 博和	113-0001	文京区白山1-5-8	03-3811-4519	
文京	森谷医院	森谷 茂樹	113-0022	文京区千駄木5-43-11	03-3821-0128	
文京	大橋内科クリニック	大橋 誠	113-0024	文京区西片2-15-11	03-5842-8670	
台東	関戸クリニック	関戸 俊樹	111-0035	台東区西浅草2-14-3	03-3844-8666	
台東	城所医院	城所 功文	110-0014	台東区北上野2-26-5	03-3844-0510	○
台東	かとう医院	加藤 元浩	110-0003	台東区根岸3-12-14	03-5603-7161	
墨田区	大室医院	大室 博之	130-0012	墨田区太平3-2-7	03-3622-0629	
墨田区	白鬚橋病院	石原 哲	131-0032	墨田区東向島4-2-10	03-3611-6363	2017年3月31日まで
	東京曳舟病院	古城 資久	131-0032	墨田区東向島2-27-1	03-5655-1120	2017年4月1日から
墨田区	さとう内科クリニック	佐藤 和子	130-0004	墨田区本所4-13-3-1F	03-5819-6505	○
江東区	小林クリニック	小林 昭夫	136-0072	江東区大島4-1-6-105	03-3684-0481	
江東区	みやたけクリニック	宮武 俊秀	136-0074	江東区東砂4-23-6	03-5677-3232	
江東区	大陽ビルクリニック	中木 基江	135-0016	江東区東陽3-23-6 大陽ビル102	03-5635-5715	
江東区	望月内科クリニック	望月 俊男	135-0005	江東区高橋13-2 ヴィラロイヤル森下1F	03-5669-1531	
江東区	辰巳中央診療所	鳴海 章人	135-0053	江東区辰巳1-9-49-102	03-3521-0163	
品川区	白井クリニック	白井 寛	140-0014	品川区大井2-4-1	03-3771-7265	
品川区	千葉医院	千葉 光雄	140-0001	品川区北品川2-20-6	03-3471-3493	
品川区	遠藤医院	遠藤 紀雄	141-0021	品川区上大崎2-24-13-305	03-3492-6422	
品川区	青柳医院	青柳 豊	142-0042	品川区豊町1-4-15	03-3788-0801	
目黒区	杉田診療所	杉田 浩	153-0063	目黒区目黒1-5-19 目黒第一ビル	03-3493-2731	
目黒区	清水クリニック	清水 嘉一	153-0051	目黒区上目黒5-19-40	03-3715-3290	
目黒区	阿部医院	清水 恵一郎	152-0032	目黒区平町2-5-7	03-3717-2288	
大田区	テクノポートクリニック	宮島 良征	144-0035	大田区南蒲田2-16-1 トキメックビル別館2F	03-5703-5522	
大田区	馬込中央診療所	寺門 節雄	143-0027	大田区中馬込1-5-8	03-3775-5631	
大田区	北條医院	北條 稔	143-0016	大田区大森北3-4-5	03-3768-0066	○
大田区	井出内科クリニック	井出 雅生	146-0092	大田区下丸子3-13-11	03-3757-2484	
大田区	松坂医院	松坂 聡	144-0047	大田区萩中1-6-28	03-3741-0985	
大田区	溝谷医院	溝谷 弘成	143-0012	大田区大森東2-1-4	03-3763-7371	
大田区	並木医院	並木 敦也	145-0065	大田区東雪谷5-27-13	03-3720-8041	
大田区	竹内内科小児科医院	竹内 昭一	145-0072	大田区田園調布本町40-12-201	03-3721-5222	
世田谷	亀井内科神経内科クリニック	亀井 敦行	158-0083	世田谷区奥沢4-15-7	03-3726-1108	
世田谷	古畑病院	古畑 正	154-0001	世田谷区池尻2-33-10	03-3424-0705	○
世田谷	幸野メディカルクリニック	幸野 敬子	157-0072	世田谷区祖師谷3-30-28	03-3483-1808	

（注） 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、内科病原体定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
世田谷	竹川内科医院	竹川 享	156-0051	世田谷区宮坂1-41-20	03-3706-2341	
世田谷	上田クリニック	上田 光久	157-0062	世田谷区南島山6-3-15 ikビル2F	03-5313-3322	2017年4月30日まで
	医療法人社団 シンセリティ いなみ内科クリニック	稲見 真木子	154-0024	世田谷区三軒茶屋1-13-7 三茶JOYビル2F	03-3413-1730	2017年5月1日から
世田谷	こうらクリニック	児浦 利哉	154-0021	世田谷区豪徳寺1-23-22	03-3425-2333	
世田谷	高橋医院	高橋 由光	158-0094	世田谷区玉川3-23-22	03-3700-0232	
世田谷	荏原医院	荏原 包臣	158-0097	世田谷区用賀4-13-11	03-3700-0135	
世田谷	西島内科クリニック	西島 敬之郎	157-0068	世田谷区宇奈根3-1-21	03-5494-2020	
渋谷区	小林医院	小林 晴二郎	151-0064	渋谷区上原1-23-1	03-3467-3577	
渋谷区	しおざき内科	塩崎 正英	150-0002	渋谷区渋谷1-7-5 青山セブンハイツ2F	03-5485-3123	○
渋谷区	渡辺クリニック	渡辺 豊	151-0071	渋谷区本町3-10-3-202	03-3375-7361	
中野区	大場診療所	渡辺 茂	165-0034	中野区大和町3-40-6	03-3330-0073	
中野区	山田クリニック	山田 千津子	165-0026	中野区新井2-6-10	03-3386-0415	
中野区	東中野クリニック	飯国 紀一郎	164-0003	中野区東中野1-58-12	03-3361-2732	
中野区	溝口医院	溝口 雅康	164-0013	中野区弥生町2-12-9	03-3372-0035	
杉並	藤多クリニック	藤多 和義	167-0043	杉並区上荻1-9-1	03-3392-8811	
杉並	富士見丘医院	加茂 隆	168-0082	杉並区久我山5-20-1	03-3332-2401	○
杉並	河合内科クリニック	河合 章	167-0043	杉並区上荻3-1-11	03-3399-8563	
杉並	内山クリニック	内山 克己	168-0063	杉並区和泉3-6-2	03-5355-3535	
杉並	石井こども・内科循環器科 クリニック	石井 哲哉	166-0014	杉並区松ノ木1-6-21	03-3314-5677	
杉並	清水内科クリニック	清水 聡	166-0003	杉並区高円寺南1-7-3	03-3318-2431	
池袋	武藤クリニック	武藤 敬	171-0051	豊島区長崎1-22-11	03-3957-7065	
池袋	山下診療所大塚	山下 巖	170-0004	豊島区北大塚2-13-1 GHYビル5F	03-3910-6711	
池袋	目白おかの内科	岡野 晃	171-0031	豊島区目白3-16-15 茜ビル1F	03-5988-3363	
北区	青木内科クリニック	青木 薫	114-0024	北区西ヶ原1-46-17 旭レヂデンス1F	03-5961-1855	
北区	共和堂医院	増田 幹生	114-0001	北区東十条2-5-1	03-3911-0665	
北区	王子神谷齋藤クリニック	齋藤 広重	114-0003	北区豊島8-24-4	03-3911-5433	
北区	医療法人社団景星会赤羽 赤羽東口病院	河 一京	115-0045	北区赤羽1-38-5	03-3902-2131	
荒川区	水野クリニック	水野 武昭	116-0002	荒川区荒川1-49-2 サクラハイツ2F	03-3891-0219	
荒川区	飯土用内科	飯土用 誠也	116-0002	荒川区荒川3-23-13	03-3891-5858	
荒川区	東京リバーサイド病院	森野 文敏	116-0003	荒川区南千住8-4-4	03-5850-0311	
板橋区	平山医院	平山 貴度	174-0064	板橋区中台1-46-3	03-3932-3598	
板橋区	岡部医院	岡部 洋太郎	173-0004	板橋区板橋3-37-1	03-3961-0416	
板橋区	天木診療所	天木 聡	174-0053	板橋区清水町47-7	03-3961-3913	○
板橋区	野口医院	野口 晟	175-0082	板橋区高島平1-43-1	03-3932-9700	
板橋区	伊藤内科小児科クリニック	伊藤 景樹	175-0094	板橋区成増1-17-10	03-3930-5114	
板橋区	多比良医院	多比良 清	175-0094	板橋区成増4-13-2	03-3975-8139	
練馬区	川邊内科	川邊 敏之	177-0044	練馬区上石神井2-26-15	03-3920-6810	○
練馬区	練馬第一診療所	矢田 毅	179-0083	練馬区平和台4-20-16	03-3933-8957	
練馬区	すずしろ診療所	黒部 信一	176-0001	練馬区練馬1-15-1 堀越ビル2階	03-3557-1131	
練馬区	金谷クリニック	金谷 斎	179-0072	練馬区光が丘2-4-11-102	03-3979-2331	
練馬区	豊島医院	豊島 良一	177-0041	練馬区石神井町1-22-8	03-3996-0014	
練馬区	若井内科・呼吸器科	若井 安理	178-0061	練馬区大泉学園町7-15-16 ハナブサ第一ビル3階	03-5933-2011	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、内科病原体定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
練馬区	長嶺医院	稲田 直行	178-0063	練馬区東大泉7-7-9	03-3922-6122	
練馬区	水谷内科呼吸器科クリニック	水谷 清二	178-0063	練馬区東大泉6-51-4 TKマンション1F	03-3867-8141	
足立	城北診療所	須藤 秀明	123-0852	足立区関原2-38-21	03-3840-5474	
足立	久勝医院	久勝 章司	120-0013	足立区弘道2-1-3	03-3889-4714	
足立	健愛クリニック	鈴木 篤	120-0023	足立区千住曙町37-8	03-5813-1805	
足立	山一ビル内科クリニック	有野 亨	121-0815	足立区島根3-8-1	03-3884-8888	
足立	天沼医院	天沼 満	121-0812	足立区西保木間4-5-14-2	03-3883-8855	
足立	佐々木医院	佐々木 照	120-0005	足立区綾瀬2-26-17	03-5680-0566	
足立	旭医院	青木 哲	120-0026	足立区千住旭町9-15	03-3888-3508	
葛飾区	吉川内科医院	吉川 昌一	125-0063	葛飾区白鳥3-31-2-101	03-3602-8723	
葛飾区	遠藤医院	遠藤 啓一郎	125-0052	葛飾区柴又3-12-18	03-3607-1636	
葛飾区	富田医院	富田 秀人	124-0022	葛飾区奥戸5-1-18	03-3692-3026	
葛飾区	久保島医院	久保嶋 武仁	124-0001	葛飾区小菅2-25-10	03-3602-2746	
葛飾区	猪口医院	猪口 幸子	125-0052	葛飾区柴又4-6-14	03-5693-1511	
江戸川	同愛会病院	椿 浩司	132-0031	江戸川区松島1-42-21	03-3654-3311	
江戸川	医療法人社団美友梨会 福田クリニック	福田 徹	133-0065	江戸川区南篠崎町2-38-13	03-3679-2011	
江戸川	京谷医院	京谷 淳	133-0051	江戸川区北小岩6-17-7	03-3671-8103	
江戸川	小暮医院	小暮 堅三	133-0042	江戸川区興宮町16-13	03-3653-5347	
江戸川	中川医院	中川 陽之	132-0034	江戸川区小松川3-75	03-3684-2534	
江戸川	葛西中央病院	土谷 明男	134-0091	江戸川区船堀7-10-3	03-3680-8121	
江戸川	恵仁堂医院	山上 恵一	133-0052	江戸川区東小岩4-10-5	03-3657-4416	○
西多摩	福生クリニック	玉木 一弘	197-0012	福生市加美平3-35-13	042-551-2312	
西多摩	日の出ヶ丘病院	神尾 重則	190-0181	日の出町大久野310	042-597-0811	
西多摩	片平医院	片平 潤一	198-0036	青梅市河辺町10-16-20	0428-21-1741	○
西多摩	近藤医院	近藤 之暢	197-0827	あきる野市油平35	042-558-0506	
西多摩	双葉クリニック	松崎 潤	205-0022	羽村市双葉町1-1-15	042-570-1588	
西多摩	石畑診療所	小林 康弘	190-1211	西多摩郡瑞穂町石畑207	042-557-0072	
八王子市	秋山内科医院	秋山 幸久	192-0904	八王子市子安町1-32-7	042-643-0212	
八王子市	京王八王子駅前診療所	田中 光彦	192-0046	八王子市明神町4-7-1 京王駅前ビル5F	042-645-8228	○
八王子市	近藤内科医院	近藤 一英	193-0824	八王子市長房町1502-30	042-661-6035	
八王子市	遠山内科・循環器クリニック	遠山 博	192-0916	八王子市みなみ野2-16-3 モンパルテ1F	042-632-8033	
八王子市	伊藤内科消化器医院	伊藤 均	192-0045	八王子市大和田町4-15-14	042-642-6734	
八王子市	南大沢クリニック	佐々木 容三	192-0364	八王子市南大沢5-14-4-1	042-674-7766	
八王子市	横川内科クリニック	島村 嘉一	192-0823	八王子市横川町550-23 矢野ビル1F	042-625-7711	
南多摩	斉藤内科呼吸器科	斉藤 宣照	206-0025	多摩市永山4-2-6-202	042-373-2522	
南多摩	土方クリニック	土方 英史	191-0024	日野市万願寺1-13-1	042-587-7171	
南多摩	中川クリニック	中川 均	191-0041	日野市南平7-18-11	042-594-0313	
南多摩	やはの内科・胃腸科クリニック	矢羽野 壮光	206-0011	多摩市関戸1-11-9 桜ヶ丘富沢ビル6F	042-356-3761	
南多摩	長峰クリニック	武井 滋	206-0821	稲城市長峰2-2-2	042-350-7171	
町田市	こばやし医院	小林 信正	194-0012	町田市金森1-26-15	042-726-3431	
町田市	望月外科胃腸科クリニック	望月 彰	194-0001	町田市つくし野2-8-16	042-795-4523	2017年11月末閉院
町田市	泰生医院	金沢 健雅	194-0212	町田市小山町2470-5	042-797-7423	
町田市	成田クリニック	成田 雅弘	194-0011	町田市成瀬ヶ丘2-23-16	042-795-1281	○
町田市	はやし内科クリニック	林 淳弘	195-0057	町田市真光寺2-37-11	042-736-5501	
多摩立川	つづきクリニック	都築 義和	190-0013	立川市富士見町4-10-18	042-540-4180	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、内科病原体定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
多摩立川	平田循環器・内科	平田 俊吉	190-0002	立川市幸町2-45-9	042-537-4850	○
多摩立川	まことクリニック	腰塚 誠二	196-0003	昭島市松原町2-9-1	042-546-2800	
多摩立川	国分寺内科中央病院	松本 めぐみ	185-0022	国分寺市東元町2-3-19	042-322-0131	
多摩立川	新田クリニック	新田 國夫	186-0005	国立市西2-26-29	042-574-3355	
多摩立川	半田医院	半田 宏一	208-0013	武蔵村山市大南3-54-16	042-564-8649	
多摩立川	高橋医院	高橋 英樹	207-0021	東大和市立野2-3-17	042-565-7001	
多摩府中	赤須内科クリニック	赤須 文彰	183-0006	府中市緑町2-17-9	042-334-0780	
多摩府中	小林内科	小林 肇	182-0035	調布市上石原2-30-22	042-482-8623	
多摩府中	田原医院	田原 順雄	180-0014	武蔵野市関前3-3-9	042-251-8458	
多摩府中	渡辺医院	渡辺 滋	180-0004	武蔵野市吉祥寺本町4-7-9	0422-22-8937	
多摩府中	岡庭医院	岡庭 孝	181-0001	三鷹市井の頭3-21-16	0422-43-8367	
多摩府中	いりえ内科クリニック	入江 哲也	181-0003	三鷹市北野4-5-30 キューブコート鳥山101号	03-5314-3577	
多摩府中	府中よつやクリニック	市川 雅	183-0035	府中市四谷3-37-14	042-336-7222	
多摩府中	仙川さとうクリニック	佐藤 正邦	182-0002	調布市仙川町2-18-15 メゾン仙川1F	03-5315-7373	
多摩府中	武蔵小金井クリニック	金光 寛承	184-0004	小金井市本町5-19-33	042-384-0080	
多摩府中	柏田内科クリニック	柏田 和子	201-0001	狛江市西野川1-15-19	03-3430-0222	○
多摩府中	中村内科クリニック	中村 公彦	183-0031	府中市西府町2-12-1	042-362-2112	
多摩府中	辻医院	荒井 敏	182-0034	調布市下石原3-60-4	042-482-2891	
多摩小平	松岡内科クリニック	松岡 緑郎	187-0002	小平市花小金井1-1-11 エメラルドビル3F	042-426-8080	
多摩小平	高橋内科クリニック	高橋 英二	189-0011	東村山市恩多町4-1-23	042-395-3553	
多摩小平	水谷医院	水谷 良子	189-0013	東村山市栄町1-13-1	042-390-5522	
多摩小平	宮本医院	宮本 兼吾	204-0022	清瀬市松山1-42-6	042-491-0547	
多摩小平	山口内科・呼吸器科クリニック	山口 規夫	203-0053	東久留米市本町3-12-2	042-472-2386	○
多摩小平	廣川クリニック	廣川 豊	202-0012	西東京市東町4-8-28 JUN西東京市101	042-425-6476	
多摩小平	保谷内科・呼吸器科クリニック	保谷 功	202-0005	西東京市住吉町6-1-26	042-458-7870	
多摩小平	井上内科クリニック	井上 玄	187-0042	小平市仲町268-6 サライ仲町102	042-342-0056	
島しょ	小笠原村診療所	野沢 有二	100-2101	小笠原村父島清瀬	04998-2-3800	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、内科病原体定点を兼ねる医療機関である。

2018年変更医療機関

2018年4月1日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
板橋区	野口医院	野口 晟	175-0082	板橋区高島平1-43-1	03-3932-9700	2018年1月31日まで
	高島平東口クリニック	梅原 有弘	175-0082	板橋区高島平8-5-10 MAビル3F	03-3933-1213	2018年3月1日から

眼科（39定点）

2017年12月31日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
中央区	宮下眼科医院	宮下 公男	104-0031	中央区京橋2-5-18 3F	03-3564-0240	
新宿区	東京女子医科大学病院眼科	篠崎 和美	162-8666	新宿区河田町8-1	03-3353-8111	○*
新宿区	東京医科大学病院眼科	森 秀樹	160-0023	新宿区西新宿6-7-1	03-3342-6111	
文京	順天堂大学医学部眼科	村上 晶	113-0033	文京区本郷3-1-3	03-3813-3111	
墨田区	毛塚眼科医院	毛塚 剛司	131-0033	墨田区向島1-5-7	03-3622-0941	
江東区	さとう眼科	佐藤 明	136-0076	江東区南砂6-1-11	03-3645-5441	
品川区	濱崎眼科医院	濱崎 陞	140-0014	品川区大井3-18-17	03-3776-4197	
目黒区	にっとのクリニック	入戸野 千寿	152-0011	目黒区原町2-1-24	03-5704-4092	
大田区	朝広眼科	朝広 信彦	146-0085	大田区久が原5-17-9	03-3751-7757	
大田区	下丸子眼科クリニック	藤井 孝	146-0092	大田区下丸子1-6-24 グランドステラ下丸子1F	03-5741-2400	
世田谷	烏山眼科医院	福下 公子	157-0062	世田谷区南島山5-16-20 二番館ハラジマビル3F	03-3308-0777	
世田谷	喜多見眼科	熊川 美代子	157-0067	世田谷区喜多見8-18-10 小泉ビル3F	03-5494-7878	
渋谷区	細川眼科クリニック	細川 可奈	150-0012	渋谷区広尾5-14-2 広尾KKビル4F	03-5423-7023	○
中野区	福田眼科医院	福田 敏雅	165-0026	中野区新井2-33-1	03-3386-3700	
杉並	荒木眼科医院	荒木 博子	167-0042	杉並区西荻北2-9-10	03-3395-3091	○
池袋	大木眼科	大木 孝太郎	171-0014	豊島区池袋2-17-1	03-3971-2598	
北区	秋山眼科医院	秋山 健一	114-0023	北区滝野川3-4-14	03-3915-5210	
荒川区	眼科アリモト	有本 啓三	116-0014	荒川区東日暮里5-51-7	03-3806-3720	
板橋区	フルヤ眼科クリニック	古谷 和正	173-0004	板橋区板橋1-22-8 古谷ビル2F	03-5375-4930	
板橋区	小暮眼科	小暮 慎二	175-0094	板橋区成増3-10-5	03-3979-3555	
練馬区	荻野眼科医院	荻野 公嗣	177-0041	練馬区石神井町1-25-10	03-3996-2021	
練馬区	氷川台眼科	長松 淳一	179-0084	練馬区氷川台3-38-8 内観堂ビル2F	03-5984-1900	
足立	三原眼科医院	三原 敬	123-0857	足立区本木北町14-6	03-3890-0785	
足立	菅田眼科	菅田 裕久	120-0034	足立区千住2-6	03-3881-2641	
葛飾区	的場眼科クリニック	伊藤 景子	125-0042	葛飾区金町6-13-9	03-3607-0657	
江戸川	松江八木橋眼科	八木橋 修	132-0025	江戸川区松江2-1-5 目々沢ビル	03-5607-3505	
江戸川	安田医院	安田 尚美	132-0011	江戸川区瑞江1-43-12	03-5666-7038	
八王子市	倉田眼科医院	倉田 美樹	192-0073	八王子市寺町55	042-622-1440	
八王子市	大熊眼科医院	大熊 京子	193-0835	八王子市千人町2-19-15 長塚ビル3F	042-667-3477	
西多摩	馬詰眼科	馬詰 良比古	197-0023	福生市志茂224-1	042-553-9521	
南多摩	小川眼科	小川 昭彦	206-0011	多摩市関戸2-40-1 ニッセイ聖蹟桜ヶ丘ビル3F	042-337-6660	
町田市	吉川眼科クリニック	吉川 啓司	194-0021	町田市中町1-3-1 小田桐ビル2F	042-739-0781	
多摩立川	天佑眼科医院	岡本 晴彦	207-0014	東大和市南街1-27-5	042-561-2965	
多摩立川	曾根医院	曾根 隆一郎	185-0012	国分寺市本町4-19-8	042-322-0516	
多摩府中	こはら眼科	小原 真樹夫	180-0006	武蔵野市中町1-4-4 スクウェア三鷹1F	0422-52-8871	
多摩府中	武蔵境眼科医院	村松 隆次	180-0023	武蔵野市境南町1-8-1 武蔵野STビル2F	0422-34-2117	
多摩府中	平山眼科医院	平山 信隆	183-0023	府中市宮町1-20-19 大津ビル2F	042-364-0300	
多摩小平	徳島診療所	中川 尚	189-0024	東村山市富士見町1-2-14	042-391-2525	○
多摩小平	つしま眼科医院	對馬 一仁	204-0021	清瀬市元町1-8-19 アーク清瀬201	042-496-2240	

（注） 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、眼科病原体定点を兼ねる医療機関である。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる医療機関である。

性感染症（55定点）

2017年12月31日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
千代田	スバル医院	中村 憲司	100-0006	千代田区有楽町1-2-6	03-3580-9559	
千代田	(公社)東京都教職員互助会 三楽病院	平澤 潔	101-8326	千代田区神田駿河台2-5	03-3292-3981	
中央区	前田医院	前田 立雄	104-0045	中央区築地1-3-6	03-3541-0396	
中央区	弓削医院	弓削 文一	103-0014	中央区日本橋蛸殻町1-28-7	03-3666-3979	
中央区	対馬ルリ子女性ライフクリニック 銀座	対馬 ルリ子	104-0061	中央区銀座2-6-5 銀座トレンシヤビル7F	03-3538-0283	
みなと	大原皮膚泌尿器科	大原 正雄	107-0052	港区赤坂2-14-33 栄屋清水ビル5階	03-3584-4821	
みなと	赤枝六本木診療所	赤枝 恒雄	106-0046	港区元麻布3-1-30	03-3405-1388	
新宿区	新宿さくらクリニック	澤村 正之	169-0073	新宿区百人町2-11-22	03-3364-6333	
新宿区	峰岸医院	峰岸 宏年	160-0023	新宿区西新宿5-9-19	03-3373-1686	
新宿区	植松医院	植松 幹雄	169-0075	新宿区高田馬場1-32-14 UKビル2F	03-3209-5608	
新宿区	阿蘇医院	阿蘇 哲	160-0008	新宿区三栄町1-1	03-3351-3224	
新宿区	竹下医院	竹下 寿子	169-0075	新宿区高田馬場2-14-22	03-3200-1281	
新宿区	(財)東京都保健医療公社 大久保病院	高田 淳子	160-8488	新宿区歌舞伎町2-44-1	03-5273-7711	
新宿区	しらかば診療所	井戸田 一朗	162-0065	新宿区住吉町8-28 B・STEPビル2階	03-5919-3127	
文京	細部医院	細部 高英	113-0031	文京区根津1-1-15	03-3822-6858	
台東	佐々木医院	佐々木貴子	111-0032	台東区浅草5-33-7	03-3872-6776	
台東	永寿総合病院	高橋 峰夫	110-8645	台東区東上野2-23-16	03-3833-8381	
墨田区	南外科泌尿器科	南 孝明	131-0032	墨田区東向島5-38-14	03-3614-2511	
墨田区	賛育会病院	鈴木 正明	130-0012	墨田区太平3-20-2	03-3622-9191	
江東区	尾関皮膚泌尿器科	尾関 全彦	135-0048	江東区門前仲町2-6-2 幸栄ビル3階	03-3630-1241	○
江東区	江東病院	宮崎 亮一郎	136-0072	江東区大島6-8-5	03-3685-2166	
品川区	東五反田クリニック	小川 秀彌	141-0022	品川区東五反田4-11-12 パレード池田山102	03-3280-6762	
大田区	前村医院	前村 由美	143-0014	大田区大森中2-19-17	03-3761-3955	
大田区	東京蒲田病院	松島 正浩	144-0051	大田区西蒲田7-10-1	03-3733-0525	2017年3月20日まで
		小山 豊				2017年3月21日から
渋谷区	ムラキクリニック	村木 淳郎	151-0064	渋谷区上原1-33-10	03-5790-8333	
渋谷区	赤阪医院	赤阪 雄一郎	150-0001	渋谷区神宮前3-31-9	03-3401-7506	
渋谷区	JR東京総合病院	奥山 伸彦	151-8528	渋谷区代々木2-1-3	03-3320-2204	
渋谷区	東クリニック	東 哲徳	151-0073	渋谷区笹塚1-30-3 ビラージュ笹塚Ⅲ4F	03-3481-0380	
渋谷区	都立広尾病院	秋山 邦久	150-0013	渋谷区恵比寿2-34-10	03-3444-1181	
中野区	矢島外科泌尿器科	矢島 暎夫	165-0027	中野区野方5-7-22	03-3338-6911	
中野区	新渡戸記念中野総合病院	吉野 修司	164-8607	中野区中央4-59-16	03-3382-1231	
杉並	荻窪駅前クリニック	吉田 正林	167-0051	杉並区荻窪5-27-8 FCビル4F	03-3220-9622	
杉並	荻窪病院	杉山 武	167-0035	杉並区今川3-1-24	03-3399-1101	
池袋	安康レディースクリニック	安康 善雄	171-0014	豊島区池袋2-42-3 オスカービル2F	03-3971-3544	
池袋	真和クリニック	森田 博人	171-0021	豊島区西池袋1-25-1	03-3971-3272	
池袋	渡辺胃腸科医院	渡辺 伸介	170-0005	豊島区南大塚1-53-1	03-3943-6371	○
北区	十条銀座診療所	平林 徹	114-0034	北区上十条2-27-17	03-3908-1826	
荒川	加藤産婦人科医院	加藤 寛彦	116-0001	荒川区町屋2-9-21	03-3895-3521	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、「性感染症病原体定点」を兼ねる医療機関である。

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
板橋区	本多医院	本多 章乃	173-0023	板橋区大山町18-12	03-3959-0807	
板橋区	板橋中央総合病院	大橋 浩文	174-8691	板橋区小豆沢2-12-7	03-3967-1181	
足立	長門クリニック	渡邊 秀樹	120-0002	足立区中川2-5-8	03-3605-3131	
足立	博慈会記念総合病院	林 達郎	123-0864	足立区鹿浜5-11-1	03-3899-1311	
江戸川	岩倉病院	岩倉 弘毅	133-0056	江戸川区南小岩7-28-4	03-3659-3215	○
江戸川	とおるクリニック	田中 徹	132-0011	江戸川区瑞江2-3-1-3F	03-5664-8020	
八王子市	新クリニック	福嶺 紀隆	193-0931	八王子市台町2-16-8	042-621-6203	
八王子市	西島産婦人科	西島 重信	193-0835	八王子市千人町1-8-5	042-661-6642	○
八王子市	米山産婦人科病院	花岡 素美	192-0065	八王子市新町2-12	042-642-5225	
八王子市	はぎの医院	萩野 陽一郎	192-0066	八王子市本町14-7	042-622-2206	
町田市	町田産婦人科菜の花クリニック	町田 利正	194-0045	町田市南成瀬7-14-1	042-728-1101	
多摩立川	泉医院	泉 康二	190-0012	立川市曙町2-14-16	042-522-2233	
多摩立川	こむかい産婦人科	小武海 成之	190-0022	立川市錦町2-3-30	050-3588-0123	
多摩府中	武蔵野陽和会病院	長倉 和彦	180-0012	武蔵野市緑町2-1-33	0422-52-3212	
多摩府中	武蔵野赤十字病院	泌尿器科部長	180-8610	武蔵野市境南町1-26-1	0422-32-3111	*
多摩府中	都立多摩総合医療センター	医事課 医事管理係	183-8524	府中市武蔵台2-8-29	042-323-5111	
多摩小平	真能クリニック	真能 純一	187-0045	小平市学園西町2-13-37 カミデビル2F	042-342-8280	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、性感染症病原体定点を兼ねる医療機関である。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる医療機関である。

基幹（25定点）

2017年12月31日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
千代田	東京通信病院	小野 正恵	102-8798	千代田区富士見2-14-23	03-5214-7111	○ *
千代田	(公社) 東京都教職員互助会 三楽病院	総務課長	101-8326	千代田区神田駿河台2-5	03-3292-3981	
みなと	東京都済生会中央病院	小児科外来	108-0073	港区三田1-4-17	03-3451-8211	○ *
新宿区	(社)聖母会 聖母病院	猪野 雅孝	161-8521	新宿区中落合2-5-1	03-3951-1111	○ *
新宿区	東京女子医科大学病院	病院長	162-8666	新宿区河田町8-1	03-3353-8111	○ #
文京	がん・感染症センター 都立駒込病院	医事課長	113-8677	文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101	○
墨田区	都立墨東病院	医事課長	130-8575	墨田区江東橋4-23-15	03-3633-6151	○
大田区	(公財) 東京都保健医療公社 荏原病院	医事課長	145-0065	大田区東雪谷4-5-10	03-5734-8000	○
世田谷	国立成育医療研究センター	医事課長	157-8535	世田谷区大蔵2-10-1	03-3416-0181	
世田谷	公立学校共済組合 関東中央病院	医事課長	158-8531	世田谷区上用賀6-25-1	03-3429-1171	
渋谷区	都立広尾病院	医事課長	150-0013	渋谷区恵比寿2-34-10	03-3444-1181	○
杉並	立正佼成会附属佼成病院	倉山 亮太	166-0012	杉並区和田2-25-1	03-3383-1281	○ *
杉並	河北総合病院	岡井 隆広	166-8588	杉並区阿佐谷北1-7-3	03-3339-2121	
池袋	都立大塚病院	病歴係長	170-8476	豊島区南大塚2-8-1	03-3941-3211	○
板橋区	(公財) 東京都保健医療公社 豊島病院	医事課長	173-0015	板橋区栄町33-1	03-5375-1234	○
葛飾	(公財) 東京都保健医療公社 東部地域病院	医事課長	125-8512	葛飾区亀有5-14-1	03-5682-5111	○
西多摩	青梅市立総合病院	医事課長	198-0042	青梅市東青梅4-16-5	0428-22-3191	○
八王子市	東京医科大学 八王子医療センター	医事課長	193-0998	八王子市館町1163	042-665-5611	○
多摩立川	国家公務員共済組合連合会 立川病院	医事課長	190-8531	立川市錦町4-2-22	042-523-3131	○
多摩府中	都立多摩総合医療センター	医事課 医事管理係	183-8524	府中市武蔵台2-8-29	042-323-5111	○
	都立小児総合医療センター	医事課 医事管理係	183-8561	府中市武蔵台2-8-29	042-300-5111	○
多摩府中	武蔵野赤十字病院	総務課長	180-8610	武蔵野市境南町1-26-1	0422-32-3111	○
多摩小平	(公財) 東京都保健医療公社 多摩北部医療センター	医事課長	189-8511	東村山市青葉町1-7-1	042-396-3811	○
多摩小平	公立昭和病院	医事課長	187-8510	小平市天神町2-450	042-461-0052	○
島しょ	町立八丈病院	業務課長	100-1511	八丈町三根26-11	04996-2-1188	○

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、基幹病原体定点を兼ねる医療機関である。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、「小児科定点」を兼ねる医療機関である。

備考欄に「#」の表示がある医療機関は、「眼科定点」を兼ねる医療機関である。

疑似症単独（24定点）

2017年12月31日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	氏 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	備 考
新宿区	(公財) 東京都保健医療公社 大久保病院	庶務課庶務係	160-8488	新宿区歌舞伎町2-44-1 東京都健康プラザハイジア	03-5273-7711	
文京	がん・感染症センター 都立駒込病院	庶務課	113-8677	文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101	*
墨田区	都立墨東病院	医事課	130-8575	墨田区江東橋4-23-15	03-3633-6151	*
品川区	N T T 東日本関東病院	感染症対策推進室	141-8625	品川区東五反田5-9-22	03-3448-6651	
大田区	(公財) 東京都保健医療公社 荏原病院	医事課医事管理係	145-0065	大田区東雪谷4-5-10	03-5734-8000	*
世田谷	自衛隊中央病院	医療安全評価官	154-0001	世田谷区池尻1-2-24	03-3411-0151	
世田谷	国立成育医療研究センター	運営部医事課	157-8535	世田谷区大蔵2-10-1	03-3416-0181	
世田谷	公立学校共済組合 関東中央病院	事務部 医事課外来係	158-8531	世田谷区上用賀6-25-1	03-3429-1171	
渋谷区	都立広尾病院	医療サービス課 サービス推進係	150-0013	渋谷区恵比寿2-34-10	03-3444-1181	*
渋谷区	日本赤十字社医療センター	院内感染対策室	150-8935	渋谷区広尾4-1-22	03-3400-1311	
池袋	都立大塚病院	医事課医事管理係	170-8476	豊島区南大塚2-8-1	03-3941-3211	*
板橋区	(公財) 東京都保健医療公社 豊島病院	医事課	173-0015	板橋区栄町33-1	03-5375-1234	*
板橋区	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター	医事課医事管理係	173-0015	板橋区栄町35-2	03-3964-1141	
足立	博慈会記念総合病院	小児科医局	123-0864	足立区鹿浜5-11-1	03-3899-1311	
西多摩	青梅市立総合病院	医事課医事係	198-0042	青梅市東青梅4-16-5	0428-22-3191	*
南多摩	(公財) 東京都保健医療公社 多摩南部地域病院	庶務課庶務係	206-0036	多摩市中沢2-1-2	042-338-5111	
八王子市	東海大学八王子病院	事務部総務課	192-0032	八王子市石川町1838	042-639-1110	
多摩立川	国家公務員共済組合連合会 立川病院	医事課長	190-8531	立川市錦町4-2-22	042-523-3131	*
多摩立川	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター	事務部企画課	190-0014	立川市緑町3256	042-526-5511	
多摩府中	都立多摩総合医療センター	医事課医事管理係	183-8524	府中市武蔵台2-8-29	042-323-5111	*
多摩府中	武蔵野赤十字病院	事務部総務課	180-8610	武蔵野市境南町1-26-1	0422-32-3111	*
多摩府中	杏林大学医学部付属病院	医療安全管理部	181-8611	三鷹市新川6-20-2	0422-47-5511	
多摩小平	公立昭和病院	患者サービス課	187-8510	小平市天神町2-450	042-461-0052	*
島しょ	町立八丈病院	病院事務局管理係	100-1511	八丈町三根26-11	04996-2-1188	*

(注) 備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる医療機関である。

2 東京都感染症予防検討委員会委員名簿

2017年12月31日現在 : 順不同

氏 名	役 職
◎ 長 岡 常 雄	社会福祉法人 土佐希望の家 施設長
○ 岡 部 信 彦	川崎市健康安全研究所長
○ 萩 原 温 久	萩原医院（東京小児科医会）
永 井 英 明	独立行政法人 国立病院機構東京病院呼吸器センター部長
尾 形 英 雄	結核予防会複十字病院副院長
山 川 博 之	江戸川保健所長
広 松 恭 子	町田市保健所長
今 村 顕 史	東京都立駒込病院感染症科部長
稲 見 成 之 *	東京都福祉保健局健康安全部食品危機管理担当課長
石 川 貴 敏 *	東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課疫学情報担当課長
山 下 和 予	国立感染症研究所感染症疫学センター客員研究員
杉 下 由 行	東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長
長谷川 道 彦	はせがわクリニック（東京泌尿器科医会）
北 村 邦 夫	一般社団法人日本家族計画協会理事長（東京産婦人科医会）
黒 澤 サト子	くろさわ子ども&内科クリニック（東京小児科医会）
井 上 賢 治	お茶の水・井上眼科クリニック（東京都眼科医会）
美 田 敏 宏 *	順天堂大学医学部 熱帯医学・寄生虫病学講座教授
平 山 宗 宏	東京大学名誉教授
池 田 忠 生	元日本大学医学部准教授

鳥 居 明	東京都医師会理事（疾病担当）
-------	----------------

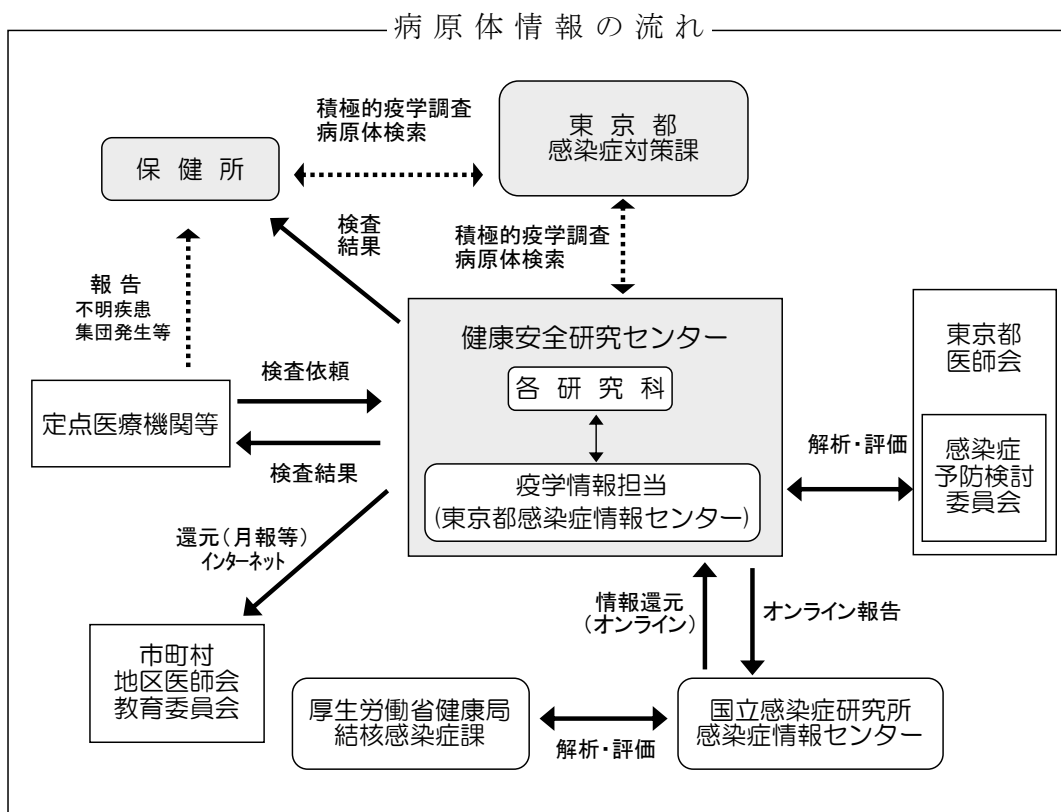
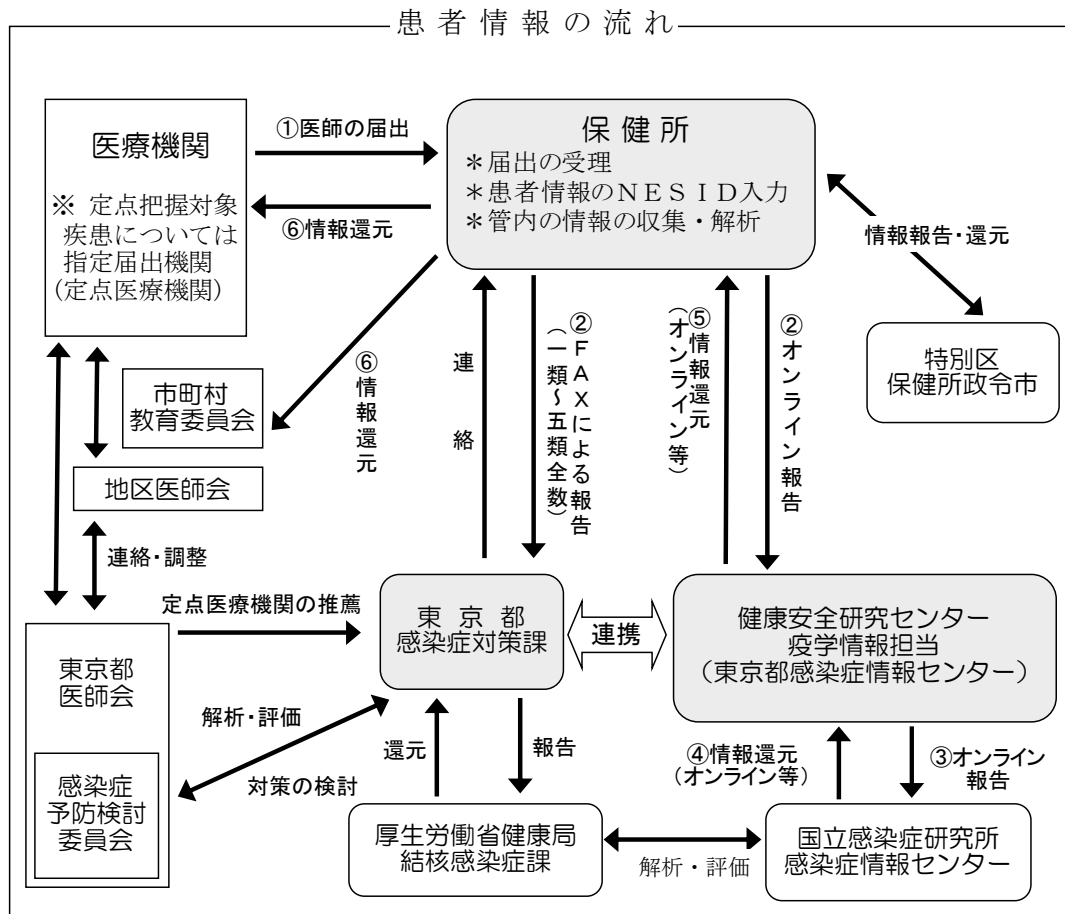
* 平成29年4月1日から

◎委員長 ○副委員長

平成29年3月31日まで

澁 谷 智 晃	東京都福祉保健局健康安全部食品危機管理担当課長
村 上 邦仁子	東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課疫学情報担当課長
遠 藤 弘 良	聖路加国際大学公衆衛生学大学院設置準備室長

3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ



東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11 衛福結第680号

平成12年3月30日

最終改正 30 福保健感第137号

平成30年4月20日

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生状況の正確な把握と分析、その結果の国民や医療関係者への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止するとともに、病原体情報を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として実施するものとする。

第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施体制

1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都、特別区及び保健所政令市における患者情報、疑似症情報及び病原体情報（検査情報を含む。以下同じ。）を収集・分析し、東京都、特別区及び保健所政令市の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター（以下「健康安全研究センター」という。）は、東京都全域の患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

- （1）東京都は、定点把握対象の感染症についての、患者情報及び疑似症情報を収集するため、感染症法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定する。

- (2) 東京都は、定点把握対象の五類感染症についての、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定する。なお、感染症法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、感染症法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定する。

3 検査施設

東京都内における本事業に係る検体等の検査については、健康安全研究センターにおいて実施する。健康安全研究センターは、検査施設における病原体等検査の業務管理要領（以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（別表1の75、85及び86に掲げるもの）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（別表1の75、85及び86に掲げるもの）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」（平成18年3月8日付健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知、平成30年4月10日最終改正。以下「届出基準」という。）に基づき診断した場合は、国の定める届出基準の別記様式1-1から2-1、2-3から4-4、5-1並びに本要綱の別記様式8、10及び12を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等を提供する。

ウ 保健所

(ア) 届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼等するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターと協議する。

(イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。

(ウ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき

当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から求められた場合にあっては、福祉保健局健康安全部感染症対策課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

2 全数把握対象の五類感染症（別表１の７５、８５及び８６に掲げるものを除く。）

(１) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

全数把握対象の五類感染症（別表１の７５、８５及び８６に掲げるものを除く。）を届出基準に基づき診断した医師は、国の定める届出基準の別記様式５－１から５－１０、５－１２から５－１４、５－１６から５－２０、５－２３並びに本要綱の別記様式１１を用いて、７日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、提供する。

ウ 保健所

(ア) 届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターと協議する。

(イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。

(ウ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健

所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、福祉保健局健康安全部感染症対策課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ア) 小児科定点

対象感染症のうち、別表1の88から99までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力するよう努めること。

(イ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表1の100に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記（ア）で選定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

(ウ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表1の101及び102に掲げるものについては、眼科を標ぼうする医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。

(エ) 性感染症定点

対象感染症のうち、別表1の103から107までに掲げるものについては、産婦人科、産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和二十三年政令第三百二十六号）第三条の二第一項第一号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標ぼうする医療機関（主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。

(オ) 基幹定点

対象感染症のうち、別表１の１００に掲げるインフルエンザ（届出基準はインフルエンザ定点と異なり、入院患者に限定される）、別表１の１０８から１１５までに掲げるものについては、患者を３００人以上収容する施設を有する病院であって、内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を二次医療圏毎に１か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、病原体定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ア) 医療機関を病原体定点として選定する場合は、原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

(イ) アの（ア）により選定された患者定点の概ね１０％を小児科病原体定点とし、別表１の８８から９９までを対象感染症とする。

(ウ) アの（ア）及び（イ）により選定された患者定点の概ね１０％をインフルエンザ病原体定点とし、別表１の１００を対象感染症とする。また、インフルエンザ病原体定点を、感染症法第１４条の２第１項に規定する指定提出機関として指定する。

(エ) アの（ウ）により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定し、別表１の１０１及び１０２を対象感染症とする。

(オ) アの（エ）により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定し、別表１の１０３から１０７を対象感染症とする。

(カ) アの（オ）により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定し、別表１の１００に掲げるインフルエンザ（入院患者に限る。）、別表１の１０８から１１５までを対象感染症とする。

(３) 調査単位等

ア 患者情報

調査単位の期間等は、別表２のとおりとする。

イ 病原体情報

病原体情報のうち、(２)のイの（ウ）により選定された病原体定点に関するものについては、別表１の１００に掲げるインフルエンザの流行期（(２)のアの（イ）により選定された患者定点あたりの患者発生数が東京都全体で１を超えた時点から１を下回るまでの間）には１週間（月曜日から日曜日）を調査単位とし、非流行期（流行期以外の期間）には各月を調査単位とする。その他病原体定点に関するものについては、各月を調査単位とする。

(４) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (２)のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれの調査単位の患者発生状況を別記様式２から７に記載する。

(ウ) (イ)の届出に当たっては、感染症法施行規則第７条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のために検体等采取する。

(イ) 病原体定点は、検体等について、別記様式1の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。

(ウ) (2) のイの (イ) により選定された病原体定点においては、別表1の88から97までの対象感染症のうち、調査単位ごとに、概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体を送付するものとする。

(エ) (2) のイの (ウ) により選定された病原体定点においては、別表1の100に掲げるインフルエンザ（インフルエンザ様疾患を含む。）について、調査単位ごとに、少なくとも1検体を送付するものとする。

ウ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、提供する。

エ 保健所

(ア) 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとし、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターと協議する。

(イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。

(ウ) 保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

オ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、別記様式1の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、福祉保健局健康安全部感染症対策課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等と

して公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 疑似症定点

疑似症定点は下記のとおりとする。

(ア) 本要綱に定める小児科定点及び内科定点

(イ) 疑似症単独定点

(3) 調査単位

調査単位の期間等は、別表3のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 疑似症定点

(ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアの (ア) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を本要綱の別記様式9に記載する。なお、届出に当たっては、感染症法施行規則第7条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で本要綱の別記様式2又は別記様式3による報告を行う。

(ウ) (2) のアの (イ) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を感染症健康危機管理情報ネットワークシステム（以下「K-net」という。）へ入力する。なお、届出に当たっては、感染症法施行規則第7条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位でK-netへの入力による報告を行う。

イ 保健所

(ア) 保健所は、(2) のアの (ア) の医療機関から得られた疑似症情報を、随時又は調査対象の週の翌週の火曜日までに、K-netへ入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

(イ) 保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての疑似症情報を収集し、症候群サーベイランスシステムに入力する。また、当該情報を分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

5 その他

(1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。

(2) 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等については、感染症の発生及びま

ん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外の目的のために用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ、本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の規定に従い行うものとする。

(3) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて福祉保健局長が定めることとする。

6 特別区及び保健所政令市との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区及び保健所政令市と協議し、連携を図るものとする。

附 則

この実施要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年11月5日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成16年8月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年6月12日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成19年6月15日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成20年1月31日から施行し、同年1月1日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成20年7月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成22年3月16日から施行し、同年3月11日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成23年2月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 23 年 9 月 5 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 25 年 5 月 22 日から施行し、同年 5 月 6 日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 26 年 6 月 12 日から施行し、同年 5 月 12 日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成 26 年 8 月 13 日から施行し、同年 7 月 26 日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 27 年 2 月 25 日から施行し、同年 1 月 21 日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成 27 年 5 月 21 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 28 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 28 年 2 月 15 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 30 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 30 年 5 月 1 日から施行する。

感染症法に基づく感染症の分類

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

		疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
			患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届 出 種 別	時 期
一 類	1	エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	2	クリミア・コンゴ出血熱					
	3	痘そう					
	4	南米出血熱					
	5	ペスト					
	6	マールブルグ病					
	7	ラッサ熱					
二 類	8	急性灰白髄炎	○	—	○	全数	直ちに
	9	結核	○	○	△※		
	10	ジフテリア	○	—	○		
	11	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウ イルスであるものに限る)	○	○	○		
	12	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウ イルスであるものに限る)	○	○	○		
	13	鳥インフルエンザ (H5N1)	○	○	○		
三 類	14	鳥インフルエンザ (H7N9)	○	○	○	全数	直ちに
	15	コレラ	○	—	○		
	16	細菌性赤痢	○	—	○		
	17	腸管出血性大腸菌感染症	○	—	○		
	18	腸チフス	○	—	○		
四 類	19	パラチフス	○	—	○	全数	直ちに
	20	E型肝炎	○	—	○		
	21	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)	○	—	○		
	22	A型肝炎	○	—	○		
	23	エキノコックス症	○	—	○		
	24	黄熱	○	—	○		
	25	オウム病	○	—	○		
	26	オムスク出血熱	○	—	○		
	27	回帰熱	○	—	○		
	28	キャサスル森林病	○	—	○		
	29	Q熱	○	—	○		
	30	狂犬病	○	—	○		
	31	コクシジオイデス症	○	—	○		
	32	サル痘	○	—	○		
	33	ジカウイルス感染症	○	—	○		
	34	重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスである ものに限る。)	○	—	○		
	35	腎症候性出血熱	○	—	○		
	36	西部ウマ脳炎	○	—	○		
	37	ダニ媒介脳炎	○	—	○		
	38	炭疽	○	—	○		
	39	チクングニア熱	○	—	○		
	40	つつが虫病	○	—	○		
	41	デング熱	○	—	○		
	42	東部ウマ脳炎	○	—	○		
	43	鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9を除く)	○	—	○		
	44	ニパウイルス感染症	○	—	○		

※結核の無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要。

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出別	時期
四類	45 日本紅斑熱	○	—	○	全数	直ちに
	46 日本脳炎	○	—	○		
	47 ハンタウイルス肺症候群	○	—	○		
	48 Bウイルス病	○	—	○		
	49 鼻疽	○	—	○		
	50 ブルセラ症	○	—	○		
	51 ベネズエラウマ脳炎	○	—	○		
	52 ヘンドラウイルス感染症	○	—	○		
	53 発しんチフス	○	—	○		
	54 ボツリヌス症	○	—	○		
	55 マラリア	○	—	○		
	56 野兎病	○	—	○		
	57 ライム病	○	—	○		
	58 リッサウイルス感染症	○	—	○		
	59 リフトバレー熱	○	—	○		
	60 類鼻疽	○	—	○		
	61 レジオネラ症	○	—	○		
	62 レプトスピラ症	○	—	○		
	63 ロッキー山紅斑熱	○	—	○		
指定感染症	—	—	—	—	—	—

※平成29年12月22日現在、政令に基づく指定感染症なし。

2 五類感染症（全数把握）

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出別	時期
64	アメーバ赤痢	○	—	—	全数	7日以内
65	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	—	—		
66	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	○	—	—		
67	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。)	○	—	—		
68	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	—	—		
69	クリプトスポリジウム症	○	—	—		
70	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	—	—		
71	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	—	—		
72	後天性免疫不全症候群	○	—	○		
73	ジアルジア症	○	—	—		
74	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	—	—	全数	直ちに
75	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	—	—		
76	侵襲性肺炎球菌感染症	○	—	—	全数	7日以内
77	水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。)	○	—	—		
78	先天性風しん症候群	○	—	—		
79	梅毒	○	—	○		
80	播種性クリプトコックス症	○	—	—		
81	破傷風	○	—	—		
82	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
83	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	—	—		
84	百日咳	○	—	—		
85	風しん	○	—	—	全数	直ちに
86	麻しん	○	—	—		
87	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	—	—	全数	7日以内

3 新型インフルエンザ等感染症

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届 出 種 別	時 期
116	新型インフルエンザ	○	○	○	全数	直ちに
117	再興型インフルエンザ	○	○	○		

4 五類感染症（定点把握）

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届 出 種 別 (定点)	時 期
88	RSウイルス感染症	○	—	—	別表2参照	
89	咽頭結膜熱	○	—	—		
90	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	—	—		
91	感染性胃腸炎	○	—	—		
92	水痘	○	—	—		
93	手足口病	○	—	—		
94	伝染性紅斑	○	—	—		
95	突発性発しん	○	—	—		
96	ヘルパンギーナ	○	—	—		
97	流行性耳下腺炎	○	—	—		
98	不明発しん症（都単独）	○	—	—		
99	川崎病（都単独）	○	—	—		
100	インフルエンザ （鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）	○	—	—		
101	急性出血性結膜炎	○	—	—		
102	流行性角結膜炎	○	—	—		
103	性器クラミジア感染症	○	—	—		
104	性器ヘルペスウイルス感染症	○	—	—		
105	尖圭コンジローマ	○	—	—		
106	淋菌感染症	○	—	—		
107	膣トリコモナス症（都単独）	○	—	—		
108	クラミジア肺炎（オウム病を除く。）	○	—	—		
109	感染性胃腸炎 （病原体がロタウイルスであるものに限る。）	○	—	—		
110	細菌性髄膜炎 （インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）	○	—	—		
111	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	—	—		
112	マイコプラズマ肺炎	○	—	—		
113	無菌性髄膜炎	○	—	—		
114	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
115	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	—	—		

5 疑似症

	届 出 対 象	届 出 対 象 者			調 査 単 位 (期間)	時 期
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者		
118	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 （明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）	—	○	—	別表3参照	
119	発熱及び発しん又は水疱	—	○	—		

別表 2

五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期

定点種別	疾 患 名	調査単位 (期間)	時 期
小児科定点 ※	R S ウイルス感染症	週単位 (月曜日から日曜日。以下同じ。)	次の月曜日
	咽頭結膜熱		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		
	感染性胃腸炎		
	水痘		
	手足口病		
	伝染性紅斑		
	突発性発しん		
	ヘルパンギーナ		
	流行性耳下腺炎		
	不明発しん症 (都単独)		
	川崎病 (都単独)		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)		
内科定点※	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	週単位	次の月曜日
眼科定点	急性出血性結膜炎	週単位	次の月曜日
	流行性角結膜炎		
性感染症 定点	性器クラミジア感染症	月単位	翌月初日
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ		
	淋菌感染症		
	膣トリコモナス症 (都単独)		
基幹 定点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	週単位	次の月曜日
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)		
	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)		
	マイコプラズマ肺炎		
	無菌性髄膜炎		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。入院患者のみ。)		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	月単位	翌月初日
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
	薬剤耐性緑膿菌感染症		

※小児科定点と内科定点を合わせてインフルエンザ定点とする。

別表 3

疑似症の調査単位と報告時期

定点種別	届 出 対 象	調査単位 (期間)	時 期
疑似症定点	摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	随時及び週単位 (月曜日から日曜日)	直ちに及び 次の月曜日
	発熱及び発しん又は水疱		

(注)

- 1 感染症法に規定する感染症によるものでないことが明らかである場合には、本届出の対象とはならない。
- 2 感染症法に規定する感染症によるものであることが明らかであり、かつ、いずれの感染症であるかが特定可能な場合には、当該感染症の届出基準に基づき届出を行うこととなるため、本届出の対象とはならない。
- 3 当該疑似症が発生した場合は直ちに報告するとともに、発生が無い場合についても週単位で報告する。

別記様式一覧表

番号	件名等
別記様式1	感染症発生動向調査病原体定点検査票
別記様式2	五類感染症(定点把握対象)小児科患者定点報告票
別記様式3	五類感染症(定点把握対象)インフルエンザ患者定点報告票
別記様式4	五類感染症(定点把握対象)眼科患者定点報告票
別記様式5	五類感染症(定点把握対象)性感染症患者定点報告票
別記様式6-1、6-2	五類感染症(定点把握対象)基幹患者定点報告票(週報告分)
別記様式7	五類感染症(定点把握対象)基幹患者定点報告票(月報告分)
別記様式8	麻しん発生届
別記様式9	疑似症定点報告票
別記様式10	結核発生届
別記様式11	梅毒発生届
別記様式12	風しん発生届

感染症発生動向調査病原体定点検査票

【医療機関記入欄】

医療機関名		医師名		【患者報告】 月 日 ～ 月 日 分で報告
患者報告を行った該当する1種類の診断名にのみ○をつけてください。 (定点把握疾患の病原体の動向把握を目的とした検査ですので、下記の診断名の疾患を対象としています) ※発生動向調査事業の趣旨をご説明いただき、本人等の同意をとったうえで、検体採取をお願いいたします。				
診断名	小児科	・RSウイルス感染症 ・咽頭結膜熱 ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 ・感染性胃腸炎 ・水痘 ・手足口病 ・伝染性紅斑 ・突発性発しん ・ヘルパンギーナ ・流行性耳下腺炎 ・川崎病 ・インフルエンザ ※インフルエンザ様疾患(上気道炎・下気道炎等)含む (迅速診断キット検査結果: A型陽性 B型陽性 陰性) ・不明発しん症		
	内科	・インフルエンザ ※インフルエンザ様疾患(上気道炎・下気道炎等)含む (迅速診断キット検査結果: A型陽性 B型陽性 陰性)		
	眼科	・流行性角結膜炎 ・急性出血性結膜炎		
	性感染症	・性器クラミジア感染症 ・性器ヘルペスウイルス感染症 ・尖圭コンジローマ ・淋菌感染症 ・膣トリコモナス症		
	基幹	・クラミジア肺炎(オウム病を除く) ・感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスに限る) ・マイコプラズマ肺炎 ・細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因とするものを除く) ・無菌性髄膜炎 ・インフルエンザ ※入院患者のみ (迅速診断キット検査結果: A型陽性 B型陽性 陰性) ・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 ・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 ・薬剤耐性緑膿菌感染症		
ID (イニシャル)				居住地 区市町村
発病日	年 月 日	検体採取日	年 月 日	性別 男・女 年齢 歳 月
検体	・便 ・直腸ぬぐい液 ・尿 ・髄液 ・咽頭ぬぐい液、うがい液、鼻汁 ・皮膚病巣(水疱内容、痂皮、創傷) ・吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 ・陰部尿道頸管擦過物/分泌物 ・結膜ぬぐい液(結膜擦過物、眼脂) ・血液(全血、血清、血漿) ・その他 []			
臨床症状・兆候	・発熱(最高 ℃) ・口内・咽頭所見() ・頭痛 ・唾液腺腫脹、リンパ節腫脹(部位) ・発疹(丘疹、紅斑、バラ疹、水疱) ・胃腸炎(下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛) ・上気道/下気道炎(咽頭炎、扁桃炎、肺炎、気管支炎) ・肝機能障害 ・黄疸 ・出血傾向※全身のもの ・筋肉痛、関節痛 ・腎機能障害 ・神経系症状(脳炎、脳症、髄膜炎、意識障害) ・結膜炎、角膜炎、角結膜炎 ・尿路生殖器症状(排尿時痛、かゆみ、膿、下腹部痛、コンジローマ)			
転 帰	経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡(原因)			
基礎疾患				
発生の状況	・散発 ・地域流行 ・家族内発生 ・集団発生(保育所、幼稚園、小学校、中学校、その他 [])			
最近の海外渡航歴	国名	期間	年 月 日 ～ 年 月 日	
ワクチン接種歴 (当該疾患に係るもの)	(無、有、不明)		最近の接種年月日 ワクチン名 年 月 日	
健安研への連絡事項				

センター記入欄につき
ここには記入しないでください。

感染症発生動向調査（小児科定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日(月) ～ 月 日(日)

医療機関名：

年齢		～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20歳 以上	合 計
R S ウ イ ル ス 感 染 症	男															
	女															
咽 頭 結 膜 熱	男															
	女															
A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	男															
	女															
感 染 性 胃 腸 炎	男															
	女															
水 痘	男															
	女															
手 足 口 病	男															
	女															
伝 染 性 紅 斑	男															
	女															
突 発 性 発 し ん	男															
	女															
ヘルパンギーナ	男															
	女															
流 行 性 耳 下 腺 炎	男															
	女															
不 明 発 し ん 症	男															
	女															
川 崎 病	男															
	女															

注 1) 川崎病、不明発しん症は東京都独自の報告対象疾患です。

注 2) 感染性胃腸炎については、原因の如何に関わらず、届出基準に合致する患者を診断し、又は死体を検索した場合に届出を行うこと。

年齢		～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20 ～29
インフルエンザ (鳥インフルエンザ 及び新型インフル エンザ等感染症を のぞく)	男														
	女														
		30 ～39	40 ～49	50 ～59	60 ～69	70 ～79	80歳 以上	合 計							
	男														
	女														

定点医療機関からのコメント

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合 計
※			

※注

1. 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。

2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

週報

感染症発生動向調査（インフルエンザ定点・疑似症定点）

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名:

インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザ等感染症 をのぞく)	0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80歳 以上	合計
	男	女																			

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合計
※			

※注

- 1. 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
- 2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査（眼科定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名：

		0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳 以上	合計
急性出血性 結膜炎	男																				
	女																				
流行性角結膜炎	男																				
	女																				

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査（S T I 定点）

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名:

	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上	合計
性器クラミジア 感染症	男																
	女																
性器ヘルペス ウイルス感染症	男																
	女																
尖圭コンジローマ	男																
	女																
淋菌感染症	男																
	女																
腭トリコモナス症	男																
	女																

定点医療機関からのコメント	
---------------	--

感染症発生動向調査（基幹定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名：

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾 病 名*	病原体名称（検査結果）	病原体検査						
					左記の結果を得た 病原体検査方法**						
1			1 2 3 4 5		1	2	3	4	5	6	7
2			1 2 3 4 5		1	2	3	4	5	6	7
3			1 2 3 4 5		1	2	3	4	5	6	7
4			1 2 3 4 5		1	2	3	4	5	6	7
5			1 2 3 4 5		1	2	3	4	5	6	7
6			1 2 3 4 5		1	2	3	4	5	6	7
7			1 2 3 4 5		1	2	3	4	5	6	7
8			1 2 3 4 5		1	2	3	4	5	6	7
9			1 2 3 4 5		1	2	3	4	5	6	7
10			1 2 3 4 5		1	2	3	4	5	6	7

* 疾病名
1：細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。）
2：無菌性髄膜炎（真菌、結核菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫を含む）
3：マイコプラズマ肺炎
4：クラミジア肺炎（全数届出疾患のオウム病を除く）
5：感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）

** 病原体検査方法
1：分離・同定 2：抗原検出 3：核酸検出（PCR・LAMP等）
4：塗抹検鏡 5：電顕 6：抗体検出
7：その他

<記載上の注意>
・細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎：病原体が判明している場合は、その病原体名（複数検出された場合は、主要なもの二種のみ記載）、その結果を得た病原体検査方法（複数の場合は、最も相違となった方法一つを選択）及びその検体名を記載。病原体が判明していない場合は、病原体名称欄に“検出せず”と記載してください（病原体検査欄の記載は不要）。
・マイコプラズマ肺炎：病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *M. pneumoniae* と記載の上、病原体検査方法（1、2、3、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択）及びその検体名を記載してください。
・クラミジア肺炎：病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *C. pneumoniae*、*C. trachomatis* を記載の上、病原体検査方法（1、2、3、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択）及びその検体名を記載してください。
・感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）：病原体検査診断が必須。病原体名称欄にロタウイルスと記載の上、病原体検査方法（1、2、3、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択）及びその検体名を記載してください。 ※基幹定点として指定されている医療機関が小児科定点として指定されている場合、感染性胃腸炎の届出も行うこと。

感染症発生動向調査（基幹定点）
（インフルエンザによる入院患者の報告）

インフルエンザによる入院患者がいない場合でも、0報告であってください。

調査期間 平成 年 月 日～ 年 月 日

医療機関名

ID番号	性別	年齢 (0歳は月齢)	入院時の対応						備考
			ICU入室	人工呼吸器 の利用	頭部CT検査 (予定含む)	頭部MRI検査 (予定含む)	脳波検査 (予定含む)	いずれにも 該当せず	
1	男・女								
2	男・女								
3	男・女								
4	男・女								
5	男・女								
6	男・女								
7	男・女								
8	男・女								
9	男・女								
10	男・女								
11	男・女								
12	男・女								
13	男・女								
14	男・女								
15	男・女								

<記載上の留意>

- インフルエンザに罹患し、入院した患者(院内感染を含む)を報告してください
- 入院時の患者対応については、該当する項目欄の全てに○を記入してください

感染症発生動向調査（基幹定点）

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名：

- * 疾病名 （番号を○で囲む）
1：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
2：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
3：薬剤耐性緑膿菌感染症
- ** 検体採取部位
複数部位から検出された場合は、最も重要と考えられる1カ所のみを記載。

ID番号	性	年齢		疾 病 名 *	検体採取部位 **
		(0歳は月齢)			
1				1 2 3	
2				1 2 3	
3				1 2 3	
4				1 2 3	
5				1 2 3	
6				1 2 3	
7				1 2 3	
8				1 2 3	
9				1 2 3	
10				1 2 3	

臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施するとともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果について最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に勘案し、麻しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いいたします。

別記様式 5-21

麻 し ん 発 生 届

東京都知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

印

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）（ ） — （※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検案）した者（死体）の種類					
・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体					
2 当該者氏名	3 性別	4 生年月日	5 診断時の年齢(0歳は月齢)	6 当該者職業	
	男・女	年 月 日	歳 (月)		
7 当該者住所					
電話 () —					
8 当該者所在地					
電話 () —					
9 保護者氏名	10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)				
	電話 () —				

病 型		13 感染原因・感染経路・感染地域
1) 麻しん（検査診断例） 2) 麻しん（臨床診断例） 3) 修飾麻しん（検査診断例）		①感染原因・感染経路（確定・推定） 1 飛沫・飛沫核感染（感染源となった麻疹患者・状況：（ ）） 2 接触感染（感染源となった麻疹患者・物の種類・状況：（ ）） 3 その他（ ）
11 症 状	・発熱（月 日出現） ・咳 ・鼻汁 ・結膜充血 ・眼脂 ・コブリック斑 ・発疹（月 日出現） ・肺炎 ・中耳炎 ・腸炎 ・クループ ・脳炎（急性脳炎の届出もお願いします） ・その他（ ）	②感染地域（確定・推定） 1 日本国内（都道府県 市区町村） 2 国外（国 詳細地域 ） 渡航期間（ ） ③麻しん含有ワクチン接種歴 1 回目 有（歳） ・ 無 ・ 不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（S・H 年 月 日・不明） 製造会社/Lot番号（ / ・不明） 2 回目 有（歳） ・ 無 ・ 不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（S・H 年 月 日・不明） 製造会社/Lot番号（ / ・不明）
12 診断方法	陰性結果を含め実施したもの全て記載して下さい。 (ア) 分離・同定による病原体の検出 検体：咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ） 検体採取日（月 日 ） 結果（陽性・陰性） 遺伝子型：（ ） (イ) 検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体：咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ） 検体採取日（月 日 ） 結果（陽性・陰性） 遺伝子型：（ ） (ウ) 血清IgM抗体の検出 検体採取日（月 日 ） 結果（陽性・陰性・判定保留） 抗体価：（ ） (エ) ペア血清での抗体の検出 検体採取日（1回目 月 日 2回目 月 日 ） 抗体価（1回目 2回目 ） 結果：抗体陽転・抗体価の有意上昇 検査方法：EIA・HI・NT・PA・その他（ ） (オ) その他の検査方法（ ） 検体（ ） 検体採取日（月 日 ） 結果（ ） (カ) 臨床決定（ ）	14 初診年月日 平成 年 月 日 15 診断（検案※）年月日 平成 年 月 日 16 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日 17 発病年月日（*） 平成 年 月 日 18 死亡年月日（※） 平成 年 月 日 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

（1, 3, 11 から 13 欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 14 から 18 欄は年齢、年月日を記入すること。（※）欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。）

診断した医師の方へのお願い

感染症法第15条により、積極的疫学調査を実施致します（この場合、医師の守秘義務は解除されます）。しかし、迅速な感染拡大防止のため、保健所の調査前であっても、患者（又は保護者）の同意が得られた場合には、下記及び裏面調査票により情報提供をお願い致します。

- ア. 集団生活：無、有（園児、小・中・高・大・その他の学生、施設入所者、その他（ ））
イ. 集団に接する職業：無、有（保育士、教師、施設職員、医療従事者、その他（ ））
ウ. 集団に接する機会：無、有（施設での実習、ボランティア活動、その他（ ））

保健所への裏面調査票記載の情報提供に関する患者（あるいは保護者）の同意（有・無）

※ 下記の個人情報等については、患者（あるいは保護者）の同意が取れた場合に、情報提供をお願い致します。
質問については、可能な範囲でご記入ください。

保健所における麻しん対応調査票

所属名（保育園、学校、勤務先等）	
連絡先（保育園、学校、勤務先）	（ ） ー
同居している家族の構成	

質問１ 診断前までに以下の症状がありましたか。該当する項目を○で囲んでください。また、症状があった場合には詳しく教えてください。

- 1) 37.5℃以上の発熱：無、不明、有（期間： 月 日～ 月 日）
- 2) 発疹：無、不明、有（頭部、顔、体、手足、その他（ ）、期間 月 日～ 月 日）
- 3) 咳：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）
- 4) 鼻水：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）
- 5) 目の充血：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）

質問２ 患者の周囲の方についてお聞きます。

- 1) 患者家族や周囲の方で、最近、麻しんに罹患した人はいいますか。
無、有（患者との関係： 、年齢： 歳）
- 2) 患者家族などで麻しんに未罹患かつワクチン未接種の人はいいますか。
無、有（患者との関係： 、年齢： 歳）

質問３ 感染の機会に係わる生活状況についてお聞きます。発熱初日の２週間前から解熱３日後までの期間についてお答えください。

- 1) 海外渡航歴 無、有 渡航先（ ）、渡航期間（ 月 日～ 月 日）
- 2) 最終登園・登校・出勤日：（ 月 日）
- 3) 人が多く集まる所（クラブ、習い事、イベント等）の参加：無、有（場所： 時期： ）

感染症発生動向調査（疑似症定点）

報告日 平成 年 月 日

医療機関名: _____

	届出基準	年齢	性別	備考（定点医療機関からのコメント）
1	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
2	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
3	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
4	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
5	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
6	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
7	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
8	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
9	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
10	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	

【届出基準】 1：摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）
 （上欄の数字を○で囲む） 2：発熱及び発しん又は水泡

結 核 発 生 届

東京都知事（保健所）
特別区長（保健所）
保健所政令市長（保健所）

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 印（署名又は記名押印のこと）

従事する病院（科）・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）（ ） —

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検案）した者（死体）の類型					
1）患者（確定例）	2）無症状病原体保有者（潜在性結核感染症）	3）疑似症患者	4）感染症死亡者の死体	5）感染症死亡疑い者の死体	
2 当該者氏名（ふりがな）	3 性別	4 生年月日	5 診断時の年齢（0歳は月齢）	6 当該者職業（具体的に）	
（ ）	男・女	年 月 日	歳（ か月）		
7 当該者住所					
電話（ ） —					
8 当該者所在地					
電話（ ） —					
9 保護者氏名	10 保護者住所（9、10は患者が未成年の場合のみ記入）				
	電話（ ） —				

病 型				18 感染原因・感染経路・感染地域	
1）肺結核 2）その他の結核（ ）				① 感染原因・感染経路（確定・推定）	
11 症状 ・せき ・たん ・発熱 ・胸痛 ・呼吸困難 ・その他（ ） ・なし				1 飛沫核・飛沫感染（感染源の種類・状況）	
12 診断方法 遺病伝子体の検出原				2 その他（ ）	
1）塗抹検査（－ ± 1＋ 2＋ 3＋）又はG 号 検体：喀痰・その他（ ）				② 感染地域（確定・推定）	
2）培養検査 — ＋（ ） 検査中 検体：喀痰・その他（ ）				1 日本国内（ 都道府県 市町村）	
3）核酸増幅法 — ＋ 未実施 検体：喀痰・その他（ ）				2 国外（ 国 詳細地域 ）	
4）病理検査における特異的所見の確認 検体：（ ） 所見：（ ）				19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項	
5）ツベルクリン反応検査 月 日判定 × — × （ × ）（発赤・硬結・水泡・壊死） ×				1）診断時の入院在宅の別 入院（予定）日： 月 日 ・ 在宅 （医療機関名： ）	
6）リンパ球の菌特異蛋白刺激による放出インターフェロンγ試験 月 日実施（陽性・判定保留・陰性）				2）当該者の同居者数 人（うち乳幼児 有・無） ・ 単身	
7）画像検査における所見の確認 学会分類 ※○で囲む。 その他				3）その他	
病側 r l b 該当なし 病型 I II III IV V H Pl Op O 拡がり 1 2 3 該当なし					
8）その他の方法（ ） 検体（ ） 結果（ ）					
9）臨床決定（ ）					
13 初診年月日 平成 年 月 日				(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13	
14 診断（検案（※））年月日 平成 年 月 日				から17欄は年齢、年月日を記入すること。（※）欄は、	
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日				死亡者を検案した場合のみ記入すること。（*）欄は、	
16 発病年月日（*） 平成 年 月 日				患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。	
17 死亡年月日（※） 平成 年 月 日				11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。）	

この届出は診断後直ちに行ってください

梅毒発生届

東京都知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 _____ 印 _____
(署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 _____

上記病院・診療所の所在地(※) _____

電話番号(※) () - _____
(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断（検案）した者（死体）の種類
・患者（確定例） ・無症状病原体保有者 ・感染症死亡者の死体

2 性別	3 診断時の年齢（0歳は月齢）
男 ・ 女	歳（ か月）

病 型		1 1 感染原因・感染経路・感染地域
1) 早期顕症梅毒(7、I期Ⅰ、Ⅱ期) 2) 晩期顕症梅毒、 3) 先天梅毒、4) 無症候（無症状病原体保有者）		①感染原因・感染経路（ 確定・推定 ） 1 針等の鋭利なものの刺入による感染（刺入物の種類・状況： _____） 2 静注薬物常用 3 輸血・血液製剤（輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況： _____） 4 性的接触（A. 性交 B. 経口） （ア. 同性間 イ. 異性間 ウ. 不明） 5 母子感染（ア. 胎内 イ. 出産時 ウ. 母乳） 6 その他（ _____） ②感染地域（ 確定 ・ 推定 ） 1 日本国内（ _____ 都道府県 市区町村） 2 国外（ _____ 国 _____ 詳細地域） この届出は診断から7日以内に行ってください
4 症 状	・初期硬結 ・硬性下疳 ・鼠径部リンパ節腫脹（無痛性） ・梅毒性バラ疹 ・丘疹性梅毒疹 ・扁平コンジローマ ・ゴム腫 ・心血管症状 ・神経症状 ・眼症状 ・骨軟骨炎 ・実質性角膜炎 ・感音性難聴 ・Hutchinson 歯・その他（ _____） ・なし	
5 診断方法	・墨汁法、ギムザ染色などの染色法による発疹からの病原体の検出 ・次の①、②の両方の抗体検査による血清抗体の検出 ①カルジオリピンを抗原とする検査 （無症候梅毒の時には抗体価を記載） 検査法：RPRカードテスト（ _____ 倍） ・凝集法（ _____ 倍） ・ガラス板法（ _____ 倍） ・自動化法（ _____ R.U., U 又は SU/ml） ② <i>T. pallidum</i> を抗原とする検査 検査法：TPHA法 ・ FTA-ABS法 ・その他の検査方法（ _____） 検体（ _____） 結果（ _____）	
6 初診年月日	平成 年 月 日	
7 診断（検案(※)）年月日	平成 年 月 日	
8 感染したと推定される年月日	平成 年 月 日	
9 発病年月日（*）	平成 年 月 日	
10 死亡年月日（※）	平成 年 月 日	

（1, 2, 4, 5, 11 欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10 欄は年齢、年月日を記入すること。（※）欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。4, 5 欄は、該当するものすべてを記載すること。）

以下の項目は、梅毒対策に役立てるため、感染症法第15条に基づく積極的疫学調査の一環として情報提供を求めるものです。本調査により、個人が特定されることはありません。患者の協力が得られた場合には御記入願います（数字を○で囲んでください）。

ア. 国 籍 1 日本 2 その他 3 不明

イ. 居住地 1 日本（ _____ 都道府県 市区町村） 2 国外（国名： _____）

ウ. 過去6カ月以内の性的サービス（性風俗店、又はそれ以外の全ての形態）の提供、利用の有無

 A 提供 : 1 なし 2 あり 3 未確認

 B 利用 : 1 なし 2 あり 3 未確認

エ. HIV罹患歴 1 なし 2 あり 3 不明

別記様式 1 2

臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施するとともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果について最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に勘案し、風しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いいたします。

風 し ん 発 生 届

東京都知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 1 2 条第 1 項（同条第 6 項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

印

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載

1 診断（検査）した者（死体）の類型					
・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体					
2 当該者氏名	3 性別	4 生年月日	5 診断時の年齢（0歳は月齢）	6 当該者職業	
	男・女	年 月 日	歳（ か月）		
7 当該者住所			電話（ ） —		
8 当該者所在地			電話（ ） —		
9 保護者氏名	10 保護者住所 （9、10は患者が未成年の場合のみ記入）				
	電話（ ） —				

病 型		13 感染原因・感染経路・感染地域
1) 風しん（検査診断例）	2) 風しん（臨床診断例）	①感染原因・感染経路（ 確定・推定 ）
11 症 状	・発熱（ 月 日出現） ・咳 ・鼻汁 ・結膜充血 ・発疹（ 月 日出現） ・リンパ節腫脹 ・関節痛・関節炎 ・血小板減少性紫斑病 ・脳炎（急性脳炎の届出もお願いします） ・その他（ ）	1 飛沫感染（感染源となった風しん患者・状況： ） 2 接触感染（感染源となった風しん患者・物の種類・状況： ） 3 その他（ ）
12 診断方法	陰性結果を含め実施したもの全て記載して下さい。 （ア）分離・同定による病原体の検出 検体： 咽拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ） 検体採取日（ 月 日 ） 結果（ 陽性・陰性 ） 遺伝子型：（ ） （イ）検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体： 咽拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ） 検体採取日（ 月 日 ） 結果（ 陽性・陰性 ） 遺伝子型：（ ） （ウ）血清 IgM 抗体の検出 検体採取日（ 月 日 ） 結果（ 陽性・陰性・判定保留 ） 抗体価：（ ） （エ）ベア血清での抗体の検出 検体採取日（ 1回目 月 日 2回目 月 日 ） 抗体価 （ 1回目 2回目 ）（単位 ） 結果：抗体陽転・抗体価の有意上昇 検査方法： HI・EIA・ELFA・LTI・CLEIA・LA その他（ ） （オ）その他の検査方法（ ） 検体（ ） 検体採取日（ 月 日 ） 結果（ ） （カ）臨床決定（ ）	②感染地域（ 確定 ・ 推定 ） 1 日本国内（ 都道府県 市区町村） 2 国外（ 国 詳細地域 渡航期間 ） ③風しん含有ワクチン接種歴 1回目 有（ 歳）・無・不明 ワクチンの種類（風しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（ S・H 年 月 日・不明） 製造会社/Lot 番号（ / ・不明） 2回目 有（ 歳）・無・不明 ワクチンの種類（風しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（ S・H 年 月 日・不明） 製造会社/Lot 番号（ / ・不明） 14 初診年月日 平成 年 月 日 15 診断（検査※）年月日 平成 年 月 日 16 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日 17 発病年月日（*） 平成 年 月 日 18 死亡年月日（※） 平成 年 月 日 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために必要と認める事項 ・妊娠の有無（女性のみ） 有（ 週）・無・不明

この届出は診断後直ちに行ってください

（病型 1、3、11 から 13, 19 欄は該当する番号等を○で囲み、4、5、14 から 18 欄は年齢、年月日を記入すること。

（※）欄は、死亡者を検出した場合のみ記入すること。（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。

診断した医師の方へのお願い

感染症法第 15 条により、積極的疫学調査を実施致します（この場合、医師の守秘義務は解除されます）。しかし、迅速な感染拡大防止のため、保健所の調査前であっても、患者（又は保護者）の同意が得られた場合には、下記及び裏面調査票により情報提供をお願い致します。

- ア. 集団生活：無、有（園児、小・中・高・大・その他の学生、施設入所者、その他（ ））
イ. 集団に接する職業：無、有（保育士、教師、施設職員、医療従事者、その他（ ））
ウ. 集団に接する機会：無、有（施設での実習、ボランティア活動、その他（ ））
エ. 妊婦との接触：無、有

保健所への裏面調査票記載の情報提供に関する患者（あるいは保護者）の同意（有・無）

※ 迅速な感染源探索、二次感染対策に役立てるため、患者（あるいは保護者）の同意がとれた場合に、下記の事項について可能な限りご記入をお願いいたします。

1 患者の情報について記入してください。該当がない場合には「なし」に○をつけてください。

通学先・勤務先等	あり（ ） なし
家族・同室者等	あり（ ） なし

2 感染源に関する情報（発症約3週間前に出かけた場所、会った人）

（1）周囲に風しんと診断された方はいましたか

いた（ どなたですか ）
わからない

（2）出かけた場所はどちらですか

- ・海外：渡航先
- ・職場や学校、保育所等：施設名
- ・人が多く集まる場所（クラブ活動、習い事、イベント、会食等）：名称
- ・その他：名称

3 二次感染に関する情報（発疹が出現する7日前から出現後5日目までに出かけた場所、会った人）

（1）周囲に妊婦の方はいますか

いる（どなたですか）
いない

（2）出かけた場所はどちらですか

- ・職場や学校、保育所等：施設名
- ・人が多く集まる場所（クラブ活動、習い事、イベント、会食等）：名称
- ・医療機関：名称
- ・救急車、タクシーなど：
- ・その他：名称

感染症発生動向調査事業報告書
平成 29 年（2017 年）

平成 30 年 7 月

登録番号 (30) 3

編集・発行 東京都健康安全研究センター
〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-24-1
電 話 (03) 3363-3231
印刷所 有限会社 雄久社
〒154-0017 東京都世田谷区世田谷 1-24-7
電 話 (03) 5451-7030